

まえがき

このたびは、BYD 車をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

BYD 車を正しくご利用いただき、正しくメンテナンスするために、ご利用の前に必ず本マニュアルのすべての内容をよくお読みになり、読み終わった後は大切に保管ください。

特別説明：BYD は純正部品を使用しており、本マニュアルにしたがって正しく利用、メンテナンス、整備することをおすすめしています。非純正部品への交換や改造を行うと、車両の性能、特に安全性や耐久性に影響を与えるおそれがあります。これにより発生した車両破損および性能上の不具合は、品質保証対象外となります。また、車両の改造は、国の法規や地方条例に違反するおそれがあります。

よりよいサービスをお届けするために、皆さまからの貴重なご意見やアドバイスをいただけましたら幸いです。そのためには、必ず正しい連絡先情報をご提供いただく必要があります。また、変更があるときは早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、システム上の情報更新を依頼してください。同時に、国の関係法規および地方条例に常に関心をお寄せいただき、できるだけ早く車両登録をさせていただきますようお願い申し上げます。そうしないと、車両登録ができなくなるおそれがあります。

本マニュアル内で「警告」、「注意」、「アドバイス」が記載されている箇所は、人の怪我や車両の破損を防ぐために記載内容をお守りください。シンボルマークの表示や使い方は、次のとおりです。

アドバイス

メンテナンスなどを容易にするために守らなければならない事項

注意

車両の損傷を避けるために守らなければならない事項

警告

身の安全を守るために守らなければならない事項



左図に示す禁止マークは、「このようなことをしてはいけません」、または「このようなことを起こしてはいけません」を意味します。

本マニュアルに「*」記号が付いている内容は、一部のモデルのみの装備になります。使用しているイラストは代表例です。お買い上げいただいた車両と異なる場合は、実車を参考にしてください。

本マニュアルは、製品を正しくお使いいただくためのものであり、本製品の仕様およびソフトウェアバージョンに関する説明を表すものではありません。

製品仕様やソフトウェアバージョンについては、本製品に関する契約書（もしあれば）を参照していただくか、製品をお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

著作権は、BYD に帰属します。

BYD から書面による許可と授權を得ずに、本マニュアルの一部、または全部の内容を転載、複製、保存または翻訳、そしてデジタルなどのいかなる形式で配布することを禁じます。

本マニュアルを複製する場合は、必ずその責任を追及します。

BYD DOLPHIN 概要

BYD DOLPHIN は、新しいパワートレインを搭載した純電気乗用車で、BYD が総力を結集したエコプロダクツです。ボディーはモノコック構造を採用。床下のブレードバッテリーはボディーと一体化しているため、バッテリーと車両双方の安全性を確保しています。

BYD DOLPHIN はそれぞれのモードにおいて、すべてモーターで駆動するために、環境保全においてゼロエミッションを確実に達成しています。

車が電気によって駆動されるため、車内、車外の音が極めて小さく、ガソリン車とは比べものにならない運転環境、乗り心地のよさをユーザーにお届けします。

車両設計では、高電圧システムの安全性が十分に考慮されているため、衝突事故から乗員の安全を守ります。

バッテリーマネジメントシステムは、常にパワーバッテリーをモニタリングしています。バッテリーのセル毎の電圧や電流などの各性能指標に基づいて、過充電や過放電およびオーバーヒートなどのバッテリー性能に影響をおよぼす一連の問題がないようにバッテリーの出力を調整し、バッテリーが常に正常に機能していることを確保します。

	イラスト目次	イラストで検索します
1	安全	本章の内容を一通りお読みください
2	コンビネーション メーター	メーター、各種警告灯および表示灯などの見方 について
3	コントローラーの 操作	ドアとウィンドウの開閉、運転開始前の調節な どについて
4	使用および運転	運転時の必要操作およびアドバイスについて
5	車内装置	車内装置などの使い方について
6	お手入れと メンテナンス	車のお手入れおよびメンテナンス手順につい て
7	故障が発生したとき	故障が発生したとき、または緊急時の対応策に ついて
8	車両仕様	車両仕様および指示メッセージについて
	さくいん	さくいん

まえがき	1	3-2 シート	78
BYD DOLPHIN 概要	3	シートについて	78
1 安全		フロントシートの調節	80
1-1 シートベルト	16	リアシートの収納	82
シートベルトについて	16	ヘッドレスト	83
シートベルトを着用するとき	18	3-3 ステアリングホイール	84
1-2 エアバッグ	22	ステアリングホイール	
エアバッグについて	22	コンビネーションスイッチ	84
運転席および助手席エアバッグ	24	ステアリングホイールの手動調節	89
シートサイドエアバッグ	25	3-4 スイッチ	90
サイドカーテンエアバッグ	27	ライトスイッチ	90
エアバッグの作動条件および		ワイパースイッチ	95
注意事項	28	助手席側ウィンドウスイッチ	100
1-3 幼児用補助装置	34	走行距離切替スイッチ	100
幼児用補助装置		モードスイッチユニット	101
(チャイルドシート)	34	助手席側エアバッグスイッチ	103
1-4 イモビライザー	41	自動緊急通報システム E-Call	105
イモビライザー *	41	ハザードランプスイッチ	106
1-5 データの収集および処理	43	サンシェードスイッチ *	107
データの収集および処理	43	ルームランプスイッチ	108
2 コンビネーションメーター		4 使用および運転	
2-1 コンビネーションメーター	50	4-1 充電 / 放電について	111
コンビネーションメーター		充電について	111
イメージ	50	充電方法	117
メーター表示灯	51	充電ポート盗難防止ロック機能	128
3 コントローラーの操作		外部給電方法	130
3-1 ドアおよびキー	64	4-2 バッテリー	133
キー	64	パワーバッテリー	133
ドアの施錠 / 解錠	68	起動バッテリー (12V)	137
スマートエントリー &		4-3 ご利用要領	140
スタートシステム	75	慣らし運転期間	140
チャイルドロック	77	トレーラーのけん引	140
		安全運転上のご注意	141
		利用時についてのアドバイス	142
		荷物の積み込み	144

インストルメントパネル	
センターボックス	246
グローブボックス	246
センターコンソールボックス	247
カップホルダー	248
サングラスホルダー*	249
シートバックポケット	249
5-5 その他の装置	250
サンバイザー	250
アシストグリップ	251
USB ポート	252
SD カードスロット*	253
12V アクセサリー電源	254
ワイヤレス充電エリア*	255
リアシェルフ*	257
カーペット	258
フック	258
緊急脱出ハンマー	259

6 お手入れとメンテナンス

6-1 メンテナンス上のご注意	262
メンテナンス周期および メンテナンス内容	262
6-2 定期メンテナンス	269
定期メンテナンス	269
車両の防食について	270
塗装メンテナンスのお願い	271
洗車	272
車内の清掃	274
6-3 セルフメンテナンス	277
セルフメンテナンス	277
サンルーフのメンテナンス*	281
車両の保管	282
ボンネット	283
冷却システム	285
ブレーキシステム	286

ウォッシュャ	287
空調システム	288
ワイパーブレード	289
タイヤ	291
フューズ	296

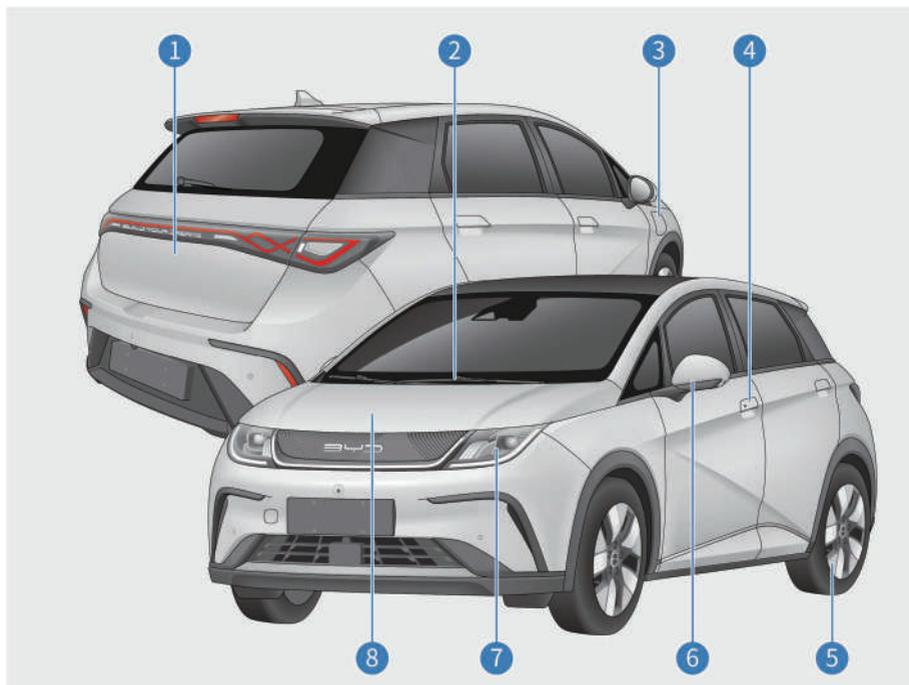
7 故障が発生したとき

7-1 故障が発生したとき	302
非常信号灯	302
反射ベスト	302
リモートキーのバッテリーが 切れたら	303
緊急時シャットダウンシステム	304
車両火災の救助	305
バッテリーの液漏れが 発生したら	306
レッカー移動が必要なとき	308
タイヤの空気漏れが発生したら	311

8 車両仕様

8-1 データ情報	318
車両諸元	318
8-2 指示メッセージ	322
車両の表示	322
警告ラベル	324
マイクロ波通信用ウィンドウ	326
8-3 適合宣言書	327
リモートキー	327
8-4 BYD 先進運転支援システムに ついて	328
BYD 先進運転支援システムを 安全にお使い頂く上での 重要事項確認書	328
さくいん	333
略語一覧	339

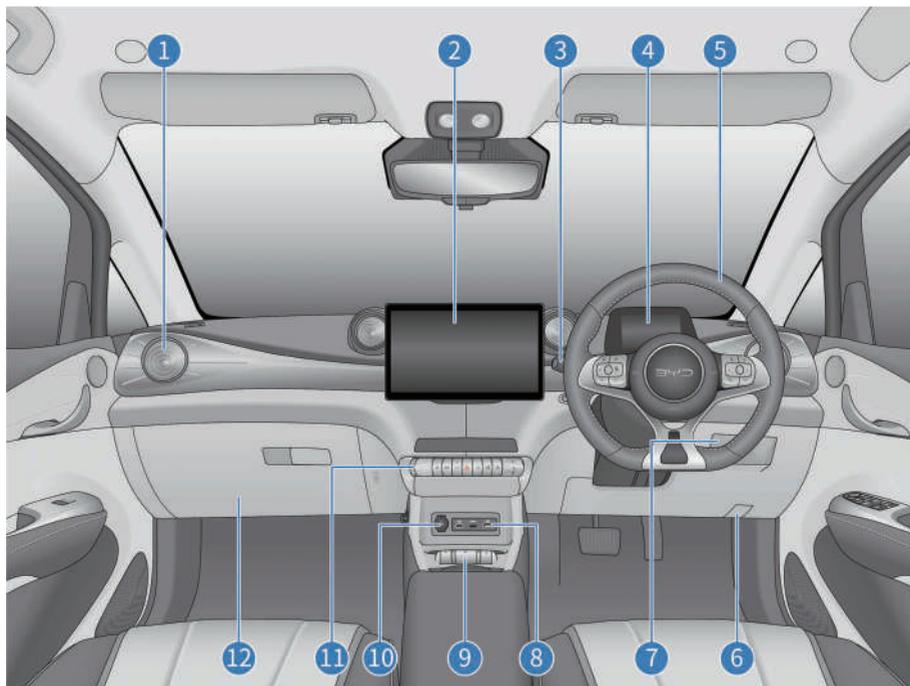
■ 車外



①	テールゲート	P 71
②	ワイパー	P 95
③	充電ポートフラップ	P 111
④	ドア	P 68
⑤	タイヤ	P 291
⑥	電動ドアミラー	P 222
⑦	コンビネーションランプ	P 90

8	ボンネット	P 283
	冷却システム	P 285
	ウォッシュ液	P 287
	ブレーキフルード	P 286
	モータールームフューズボックス	P 297

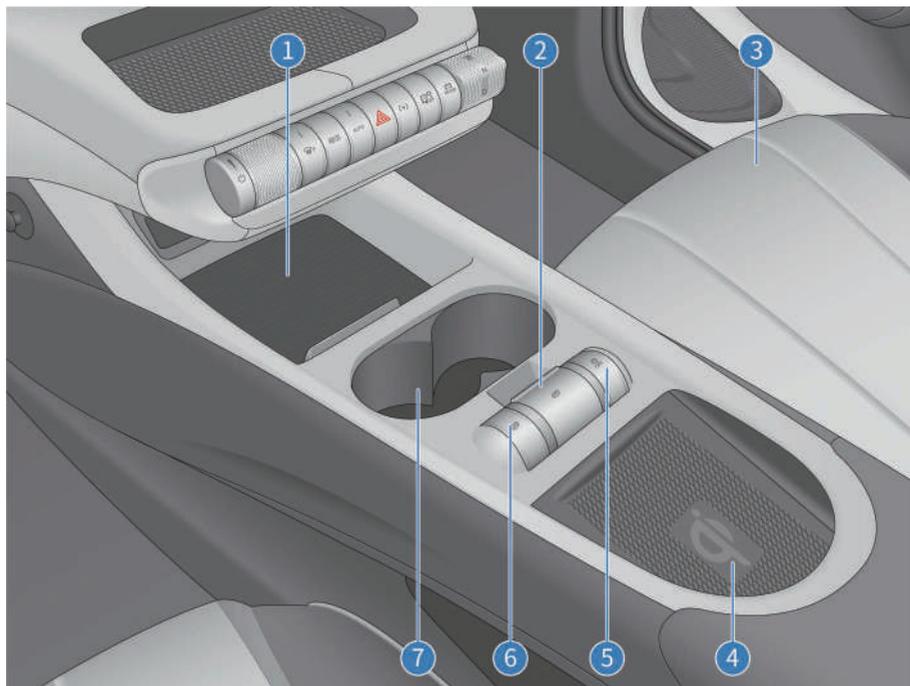
■ インストルメントパネル



①	吹き出し口	P 242
②	マルチメディアタッチスクリーン	P 229
③	ワイパースイッチ	P 95
④	コンビネーションメーター	P 50
⑤	ステアリングホイール	P 89
	ステアリングホイールコンビネーションスイッチ	P 84
⑥	ボンネットリリースレバー	P 283
⑦	駐車券収納ボックス	P 245

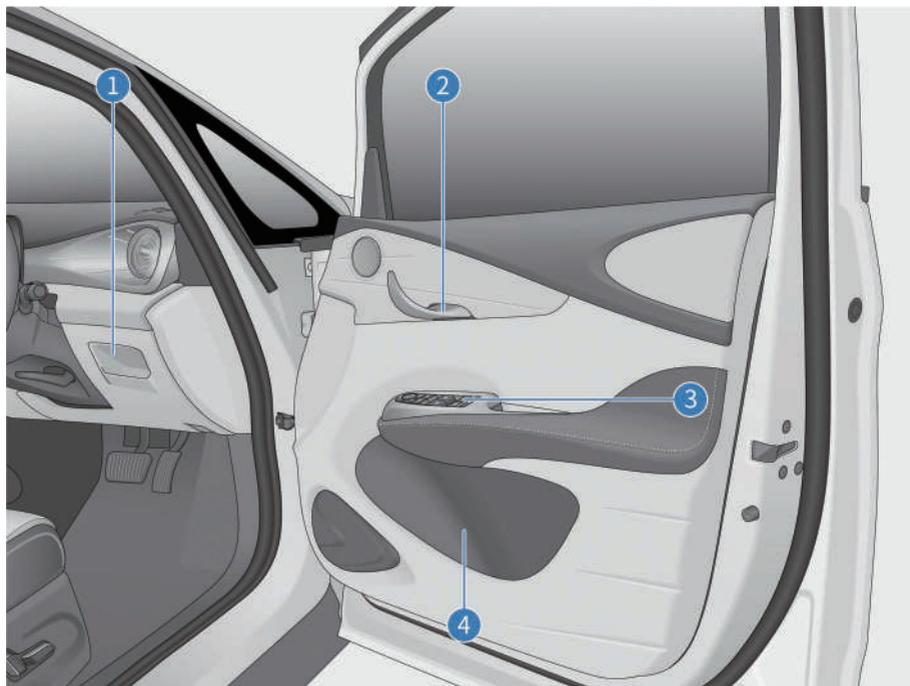
8	充電ポート	P 252
9	電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ	P 158
	オートビークルホールド (AVH) スイッチ	P 163
	ESC ON/OFF スイッチ	P 214
10	12V アクセサリー電源	P 254
11	コンビネーションスイッチ	P 101
	シフト機構	P 156
	エアコン ON/OFF ボタン	P 236
12	グローブボックス	P 246

■ センターコンソール



- ① センターコンソールボックス…………… P 247
- ② 電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチ…………… P 158
- ③ シート…………… P 78
- ④ ワイヤレス充電エリア* …………… P 255
- ⑤ ESC ON/OFF スイッチ…………… P 214
- ⑥ オートビークルホールド (AVH) スイッチ …………… P 163
- ⑦ カップホルダー…………… P 248

■ ドア



- ① 駐車券収納ボックス…………… P 245
- ② ドアノブ…………… P 68
- ③ パワーウィンドウスイッチ…………… P 97
ウィンドウロックキー…………… P 99
集中ドアロック…………… P 100
ドアミラーの調整ボタン…………… P 222
- ④ ドアポケット…………… P 245

1-1 シートベルト	16
シートベルトについて	16
シートベルトを着用するとき	18
1-2 エアバッグ	22
エアバッグについて	22
運転席および	
助手席エアバッグ	24
シートサイドエアバッグ	25
サイドカーテンエアバッグ	27
エアバッグの作動条件および	
注意事項	28
1-3 幼児用補助装置	34
幼児用補助装置	
(チャイルドシート)	34
1-4 イモビライザー	41
イモビライザー*	41
1-5 データの収集および処理	43
データの収集および処理	43

シートベルトについて

急ブレーキ、急ハンドル、衝突の際にシートベルトを正しく使用することで、乗員の死傷者数を大幅に減らすことが研究により明らかになっています。以下をよくお読みになり、厳守してください。

警告

- 事故による傷害または重傷を負わないために、BYDはドライバーと乗員全員のシートベルト着用の徹底をお願いしています。急ブレーキや衝突事故時に、乗員が傷害を負う、または死亡事故になるおそれを避けるためです。
- 車両のシートベルトは大人のサイズに合わせて設計されており、お子様向けではありません。そのため、お子様の年齢や体格にあった適切な幼児用補助装置（チャイルドシート）を選定してください（詳細は[幼児用補助装置（チャイルドシート）](#)を参照してください）。
- シートベルトの破損または異常がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に点検や処置を依頼し、それまでは該当シートを使用しないでください。
- 事故による傷害または重傷を負わないために、ドライバーおよび乗員全員はシートベルトの着用を徹底してください。
- お子様は必ずリアシートに乗車させ、シートベルトや幼児用補助装置（チャイルドシート）を確実に締めてください。緊急ブレーキ時や衝突発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。また、お子様の安全を守るために膝の上に乗せないでください。
- 走行中は常にシートベルトを着用してください。
- 発進前に、乗員全員がシートベルトを確実に締めていることを確認してください。シートベルトを締めていないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- お子様リアシートに立ったり、ひざまずくことがないようにしてください。緊急ブレーキや衝突事故発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。緊急ブレーキや衝突事故発生時にお子様を確実に守るため、お子様を膝の上に乗せないでください。

シートベルトの緊急ロック機能

- 急ハンドル、緊急ブレーキ、衝突事故があった場合や、乗員の身体が勢いよく前へ傾いた場合、シートベルトは自動的にロックし、乗員を効果的に拘束および保護します。
- 走行中は、シートベルトが乗員の動きに合わせて伸縮するため、身体を動かしても支障はありません。
- シートベルトの引き出し方が速く、シートベルトがロックした場合は、シートベルトを少し巻き戻してからゆっくり引っ張り出すと、シートベルトをスムーズに引き出すことができます。

シートベルトのプリテンショナー / ロードリミット機能

重大な正面衝突事故が発生してプリテンショナーの作動条件が揃うと、プリテンショナーがシートベルトの緩みを瞬時に巻き取りロックすることで、乗員の身体を拘束します。ロードリミッターは、乗員にかかるシートベルトの過度な負荷を回避するため、拘束力を一定レベルに保って乗員に掛かる拘束力の強さの衝撃を緩和します。

警告

- プリテンショナーの部品や配線を修理したり、テスターを使用してシステム回路を検査しないでください。誤作動を起こし、正常な作動ができなくなるおそれがあります。

シートベルトを着用するとき

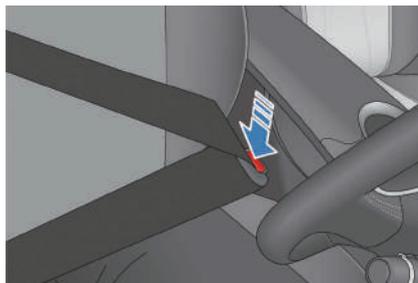
1. シートおよびシートバックを適切な位置や角度に調節します。(詳細は「[フロントシートの調節](#)」を参照してください)。

2. 3点式シートベルトの位置を調節します。

■ 正しい運転姿勢でシートベルトのストラップをゆっくり引っ張り出し、肩部から胸骨を通すように着用します。シートベルトが脇の下や首の後部に当たらないようにしてください。また、腰ベルトは腰部を押さえず、できる限り骨盤部を通るように着用してください。



3. タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで押し込んでから、反対方向にタングプレートを引っ張り、確実にロックできたかを確認します。シートベルトにねじれがないように注意してください。



4. シートベルトのロックを解除します。

■ バックルの赤い解除ボタンを押すと、タングプレートが外れてシートベルトが戻ります。シートベルトがスムーズに戻らないときは、シートベルトを引っ張り出してねじれがないかを確認してください。



警告

- 肩ベルトは、肩の真ん中を通してください。また、シートベルトは首から遠く離し、肩から簡単に外れないようにしてください。そうしないと、急ブレーキや事故時にシートベルトが十分に機能せず、乗員の重大な傷害につながるおそれがあります。
- 事故時に、乗員の腹部にベルトが掛かったことで発生する傷害を避けるため、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- シートベルトの保護機能がより発揮できるように、シートベルトを身体に密着させてください。
- ベルトがねじれたまま着用しないでください。ねじれによりベルトの幅が狭くなり、事故のときに衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けるおそれがあります。
- リアシートのシートベルトが保護機能を確実に発揮できるように、タンクプレートを対応するバックルに確実に挿し込んでください。ドライバーは、乗員にシートベルトを正しく着用させる責任があります。
- 発進前に、乗員全員がシートベルトを締めていることを確認してください。
- シートベルトは1人用です。お子様も含めて、2人以上で1本のシートベルトを使わないでください。
- シートバックを倒しすぎないでください。シートバックを直立にすることで、シートベルトの保護機能が十分に発揮できます。
- シートベルトが破損するおそれがあるため、シートベルトやタンクプレート、およびバックルを、ドアや後部席のシートバックに挟まないでください。
- シートベルトを定期的に点検し、切れ、摩耗、緩みなどの異常がないかを確認してください。異常がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にチェックや処置を依頼し、それまでは該当シートを使用しないでください。
- シートベルトの取り外し、分解、改造を絶対にしないでください。
- 事故発生後は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場シートベルトを点検してください。プリテンショナー機能が作動した場合は、シートベルトを交換してください。*
- シートベルトを交換する場合は、必ず適合するシートベルトに交換してください。

⚠ 警告 (続き)

- 重大な事故が発生した場合は、明らかな損傷がなくても、シート ASSY と一緒にシートベルトを交換し、エアバッグシステムを十分に点検してください。
- 廃車にする場合や、プリテンショナーおよびシートベルトを廃棄する場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場へご相談ください。
- 妊娠中の方も他の乗員と同じようにシートベルトを正しく着用してください。事故発生時にベルトが腹部に掛かることで妊婦や胎児に重大な傷害を起こさないため、腰ベルトは骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- タングプレートとバックルを確実に結合させるために、バックルには、コイン、クリップまたは他の異物を入れないでください。

シートベルトリマインダー

始動後にドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルトを着用するまで音声・視覚警告システムが作動します。

■ シートベルト非着用警告灯

シートベルトを着用していない座席がある場合、該当のシートベルト非着用警告灯が点滅します。

■ 非着用座席の表示

シートベルトを着用していない座席のシートベルト非着用警告灯が点灯します。

■ 前席シートベルトリマインダー

車両の電源ポジション「OK」時に運転席シートベルトを着用していない、または助手席に座っている乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯して該当座席の表示灯が点灯します。走行中もシートベルトを着用していないときは、シートベルト非着用警告灯が点灯すると同時に警告音を鳴らし、ドライバーや乗員に注意喚起をします。

■ 後席シートベルトリマインダー

車両の電源ポジション「OK」時にリアシートに座っている乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯して該当座席の表示灯も点灯します。走行中もシートベルトを着用していないときは、シートベルト非着用表示灯のみが点灯し、警告音は鳴りません。

■ ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用すると、シートベルト非着用警告灯が消灯して該当座席の表示灯もすべて消灯します。

⚠ 警告

- エアバッグ故障警告灯が点灯しているときは走行しないでください。電源ポジションを「ON」にすると点灯し、システムチェック後に消灯するため、必ず消灯してから走行してください。
- 助手席やリアシートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して、警告灯が点灯することがあります。

ℹ アドバイス

- シートベルトリマインダーに異常または故障がある場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場まで連絡し、機能が正常に戻るまでは該当シートを使用しないでください。
- 走行中、乗員はシートに座ってシートベルトを確実に着用してください。着用しないと、急ブレーキや衝突事故時に乗員の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

エアバッグについて

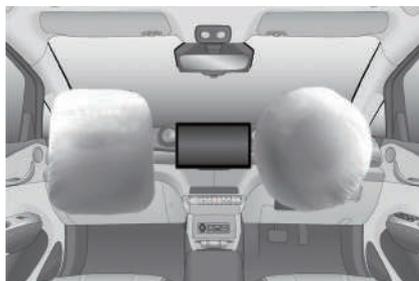
- エアバッグシステムは補助拘束システムの一部であり、シートやシートベルトの働きを補助します。大きな衝突事故が発生してシステムの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬時に膨張します。シートベルトと併用することで、ドライバーや乗員の頭部や胸部などを保護し、負傷や死亡の確率を軽減します。
- エアバッグシステムは、衝突の種類によってフロントエアバッグとサイドエアバッグに大別されます。フロントエアバッグは、運転席エアバッグと助手席エアバッグがあり、サイドエアバッグには、シートサイドエアバッグとサイドカーテンエアバッグ、前席ファーサイドエアバッグ*があります。
- エアバッグシステムはシートベルトに取って代わるものではなく、パッシブセーフティシステムの構成部分です。シートベルトを正しく着用していないと、エアバッグシステムの保護機能を最大限に発揮することができません。

⚠ 警告

- シートベルトとエアバッグシステムの保護機能を最大限発揮できるように、正しい姿勢でシートベルトを着用してください。
- エアバッグ部品を取り外さないでください。
- サイドエアバッグシステムが正常に動作できなくなるおそれがあるため、シートバックを濡らさないでください。
- BYD が装着を認めていないシートカバーは、エアバッグの性能低下や乗員に思わぬ傷害を与えるおそれがあります。
- サイドエアバッグと乗員の間にものを置かないでください。
- サイドエアバッグが搭載されているシート側面には、大きな力を加えないでください。
- 衝突事故発生後にエアバッグモジュールが膨張せず、プリテンショナーシートベルトがロックされなくても、乗員を思わぬ膨張から保護するために、エアバッグコントロールユニットは暗号化されることがあります。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
- 車両が浸水した（例：カーペットが濡れている、車両が水に浸かっているなど）、または浸水によって損傷した場合は、絶対に車両の電源を入れないでください。また、エアバッグが展開して重大な怪我につながり生命を脅かすおそれがあるため、浸水時は起動バッテリーを切断してください。
- エアバッグ故障警告灯で下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障しています。走行をやめて、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

運転席および助手席エアバッグ

運転席エアバッグはステアリングホイール内、助手席エアバッグはダッシュボード内に搭載されており、「AIRBAG」の表示があります。走行中にエアバッグシステムの電子コントロールユニット（ECU）が中程度から重度の正面衝突を感知してエアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬間的に膨らみ上体への衝撃を軽減します。



フロントエアバッグの作動プロセス

- 中程度から重度の正面衝突が発生すると、センサーが車両の急激な減速を検知し、コントロールユニットに信号を発信することで、エアバッグが瞬時に膨張します。
- 正面衝突の場合は、シートベルトが下半身と胴体を固定し、エアバッグがエアクッションの役割を果たすことで、頭部と胸部を安定させて保護します。
- 衝突の強さがエアバッグ作動のしきい値に達しない場合は、シートベルトが主な保護機能を発揮します。エアバッグは最小限の補助保護を提供します。
- フロントエアバッグは、膨張するとすぐに収縮するため、ドライバーの視界やステアリングホイール、またはその他の制御装置の操作を妨げることはありません。
- エアバッグは千分の一秒以内に作動するため、事故発生時にドライバーや乗員をさらに保護することができます。
- エアバッグ作動時は大きな音がありますが、通常は人に傷害を与えることはありません（耳鳴りや一時的な聴力障害を起こすことがありますですがすぐに回復します）。
- 衝突後にエアバッグが展開すると、煙や粉じんが発生することがあります。煙や粉じんは無害ですが、呼吸器疾患のある乗員は一時的に不快感を感じる場合があります。重篤な不快感があるときは速やかに医師の診断を受けてください。
- フロントエアバッグのON/OFFは、助手席エアバッグスイッチで制御できます。詳細は、[助手席側エアバッグスイッチ](#)を参照してください。

⚠ 警告

- スマホホルダー、コップ、灰皿などのアクセサリは、エアバッグカバーの上またはエアバッグの作動範囲に取り付けしないでください。そうしないと、事故発生時にエアバッグが展開することで怪我をする危険性が高まります。

シートサイドエアバッグ

シートサイドエアバッグはシートバックの外側に搭載されており、「AIRBAG」の表示があります。走行中に発生した中程度から重度の側面衝突によりシートサイドエアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグが作動して衝突を受けた側の乗員の胸部を保護し、怪我を軽減します。

**⚠ 警告**

- シートバックは濡らさないでください。シートサイドエアバッグが正常に動作できなくなるおそれがあります。
- シートバックにカバーをかける、自分でシートバックカバーを交換しないでください。不適切なシートバックカバーの交換、または不適切なカバーの使用は、衝突発生時にサイドエアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- システムの作動条件に達する側面衝突が発生した場合、通常は衝突を受けた側のエアバッグのみが作動します。
- シートサイドエアバッグの機能を最大限発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

前席ファーサイドエアバッグ：

- 本車には、前席ファーサイドエアバッグが搭載されています（図のように運転席シートバックの内側に搭載されており、「AIRBAG」表示があります）。



- 走行中に発生した中程度から重度の側面衝突または斜め方向からの衝突を受けてファーサイドエアバッグの作動条件が揃うと、ファーサイドエアバッグが作動して衝突を受けた側の運転席および助手席乗員の頭部や肩部を保護し、怪我を軽減します。
- 助手席側に衝突された場合、乗員が乗っていない場合でも助手席側ファーサイドエアバッグが作動します。
- ファーサイドエアバッグの機能を最大限発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

シートサイドエアバッグが搭載されている車両について

- シートバックを濡らさないでください。雨または水しぶきでシートバックが濡れると、サイドエアバッグシステムが正常に動作できなくなるおそれがあります。
- シートバックにカバーをかける、自分でシートバックカバーを交換しないでください。不適切なシートバックカバーの交換、または不適切なカバーの使用は、衝突発生時にサイドエアバッグの作動を妨げるおそれがあります。

サイドカーテンエアバッグ

- 左右サイドカーテンエアバッグはボディーサイドとヘッドライニングとの結合部に搭載されており、Aピラーパネル、Bピラーパネル、Cピラーパネルのいずれにも「CURTAIN AIRBAG」の表示があります。中程度から重度の側面衝突を検知して作動条件が揃うと、サイドカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、衝突を受けた側の乗員の頭部を保護することで怪我を軽減します。



1

安全

⚠ 警告

- サイドカーテンエアバッグの機能を最大限発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

ℹ アドバイス

- 側面衝突が発生した場合、通常は衝突を受けた側のエアバッグのみ作動します。

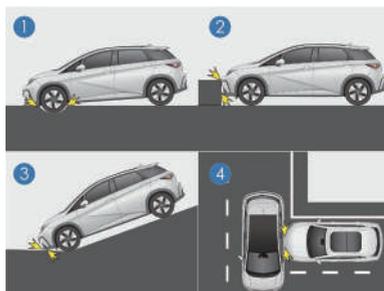
エアバッグの作動条件および注意事項

エアバッグ作動条件

- エアバッグの作動条件：エアバッグが作動する決定的な要素は、衝突発生時の衝撃力の強さ、事故パターン、衝突角度、障害物および速度が関係しています。また、特殊な衝突事故が発生した場合も、エアバッグシステムが作動することがあります。
- エアバッグシステムは、すべての事故で機能するわけではありません。軽度な正面衝突や後面衝突、または横転事故の場合は、エアバッグシステムが作動しません。ドライバーや乗員は、確実に保護を受けられるようにシートベルトを正しく着用してください。
- エアバッグシステムが作動する決定的な要素：衝突時に発生し、ECUから得られる減速度曲線と設定値に対して、全面的にインテリジェントな比較を行ったうえで判断します。衝突時に検知する減速度曲線などの信号が、ECU内部にあらかじめ設定された関係参照値より弱い場合は、衝撃で大きく変形したとしてもエアバッグが作動しません。
- BYDのエアバッグシステムのECUは、設定時によくあるそれぞれの誤作動や道路状況を十分に考慮していますが、衝突事故の発生にはいろいろな原因やパターンがあります。安全のため、本オーナーズマニュアルの記載を遵守し正しくご使用ください。そうしないと、エアバッグが正しく機能しないおそれがあります。

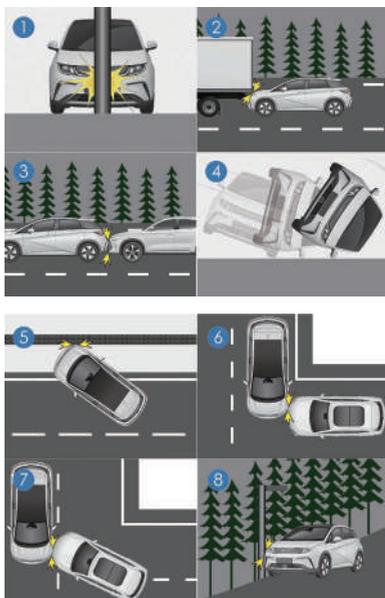
エアバッグが作動するとき

- ① 深い溝を通り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。
- ② 路肩の突起物、縁石などにぶつかったとき。
- ③ 急な下り坂を走り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。
- ④ 車両側面に他の車両がぶつかったとき。



エアバッグが作動しないとき

- 1 コンクリートの柱、樹木または他の細長い物にぶつかったとき。
- 2 トラックの荷台の下に潜り込んだとき。
- 3 後方から追突されたとき。
- 4 車両が横転したとき。
- 5 壁または車両に斜めにぶつかったとき。
- 6 車室以外の部位で側面から衝突を受けたとき。
- 7 側面が斜め方向から衝突されたとき。
- 8 側面が柱のような物に衝突したとき。



⚠ 警告

- エアバッグは指定車種を対象に開発されているため、サスペンション、タイヤ寸法、バンパー、シャーシおよびオリジナルデバイスを変更すると、エアバッグシステムに悪影響を与えます。また、エアバッグシステムのすべての部品を他車種へ流用しないでください。エアバッグシステムが故障し、身体に危害を与えるおそれがあります。
- 当該システム作動時に最も効果的に保護機能を発揮させるため、ドライバーの場合は、胸部からステアリングホイールの間を 25cm 以上離してください。
- エアバッグシステムが展開すると、反応により高温のガスがエアバッグ排気口から排出されます。エアバッグ展開時に火傷するおそれがあるため、手はステアリングの正しい位置に置き、部品には触れないでください。
- 走行中はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ってください。シートベルトを着用せずに前かがみになるなど、正しい姿勢をしていない場合は、事故によりエアバッグが作動した際に怪我をする危険性が高まります。
- ステアリングホイールキャップの表面、インストルメントパネル右側エアバッグ近くの表面、A、B、C ピラーパネルの表面に何かを貼り付ける、覆う、または装飾を施さないでください。汚れは、乾いた布や水で湿らせた布で拭き取り、強く叩かないでください。
- お子様を補助装置なしで座らせる、または大人が抱いてフロントシートに座らないでください。事故の発生によりエアバッグが作動すると、生命にかかわる重大な怪我につながるおそれがあります。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。エアバッグ作動時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグ作動時に衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあるため、助手席エアバッグの格納部に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子様も近づかせないようにしてください。
- スマホホルダー、コップ、灰皿などのアクセサリーは、エアバッグカバーの上またはエアバッグが機能する範囲内に取り付けしないでください。取り付けた場合、事故が発生しエアバッグが展開することで、怪我をする危険性が高まります。
- サイドカーテンエアバッグは展開速度が速く、衝撃力も強いいため、サイドカーテンエアバッグを搭載している車両の走行中は、ドアに寄りかからないでください。寄りかかった状態で事故に遭うと、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

▲ 警告 (続き)

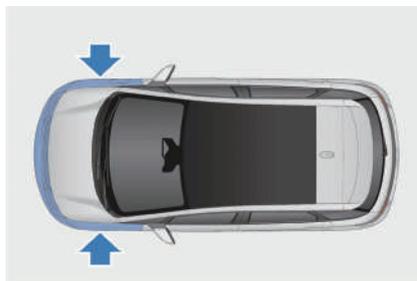
- フロントガラス、ウィンドウガラス、A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネル、アシストグリップなど、サイドカーテンエアバッグが機能する範囲に、アクセサリやものを置かないでください。サイドカーテンエアバッグの展開により、アクセサリなどが強く飛ばされたり、サイドカーテンエアバッグが正常に展開できなくなったりすると、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車両を譲渡する場合は、新しい所有者にエアバッグの状況を把握できるように、購入時に入手したすべての資料を新しい所有者に渡してください。
- シートまたはドア側のエアバッグ付きシートのトリム部品を改造、交換しないでください。改造や交換によりシステムが機能できなくなる、またはサイドエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- サイドカーテンエアバッグが内蔵されている A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルの分解や修理をしないでください。分解や修理により、システムが機能できなくなる、またはサイドカーテンエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグシステムのすべての構成部品は、関連ラベルを含め、いかなる変更もしないでください。エアバッグに対するすべての作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- 展開したエアバッグは部分的に熱くなっており、やけどするおそれがあるため、熱がさめるまで触れないでください。
- エアバッグが作動すると微粉末が放出されます。目や皮膚に付着したときは、水で完全に洗い流してください。
- 展開したエアバッグが破裂して怪我をすることがあるため、エアバッグモジュールの上に身体を乗せないでください。
- エアバッグは 1 回限りの使い捨てです。エアバッグが作動または破損した場合は、当該システムを交換してください。
- 車両またはエアバッグシステムの各部品を廃棄処分する場合は、関係する安全規定および廃却処分手順を守ってください。
- エアバッグシステムは、周囲の電磁環境に対して強い耐干渉性と耐妨害性を有します。事故を防ぐため、国が許可した電磁環境以外で車両を使わないでください。
- 一般的な誤操作や道路状況を考慮しているエアバッグシステムですが、事故を防ぐため、車両の底部をぶつける、または悪路での乱暴な運転はしないでください。

⚠ 警告 (続き)

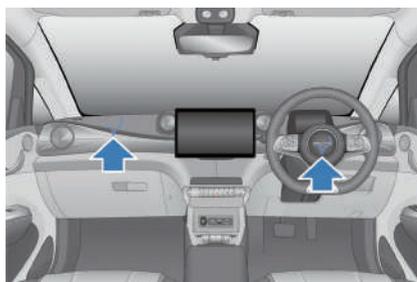
- ドアが壊れるぐらい強く閉めないでください。エアバッグが誤作動するおそれがあります。
- 十分な検証を受け、オリジナルワイヤーハーネスシステムとエアバッグシステムが完全にマッチングしているエアバッグシステムのため、車両全体のワイヤーハーネスを改造や変更すると、エアバッグの誤作動または衝突発生時の不作動につながるおそれがあります。

下記のいずれかの場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- いずれかのエアバッグが展開したとき。
- コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯[⚠]が異常点灯しているとき。
- 車両前方（図の網かけ部）で衝突事故が発生したが、フロントエアバッグが展開していないとき。

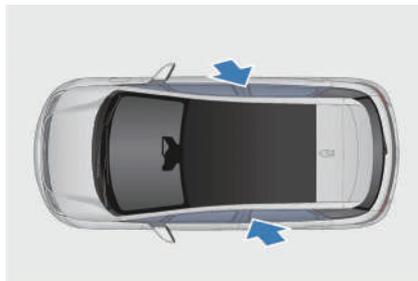


- エアバッグカバー（図の網かけ部）に、破れ、割れまたは他の破損があるとき。



- エアバッグの取り外し、分解、取り付け、修理を行う必要があるとき。

- 車両ドア（図の網かけ部）でエアバッグの展開に至らなかった衝突事故が発生したとき。



- サイドエアバッグが格納されているシートの表面に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- カーテンエアバッグが格納されている A ピラー、ルーフレール、および C ピラーの装飾（パッド）部に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。

幼児用補助装置（チャイルドシート）

幼児用補助装置（チャイルドシート）は、事故発生時にお子様を適切に保護することができます。お子様の安全を確保するため、幼児用補助装置を取り付ける前に幼児用補助装置メーカーからの取扱説明書、および本オーナーズマニュアルをよくお読みください。

⚠ 警告

- 走行中はお子様を抱かないでください。
- お子様に合った幼児用補助装置を選んでください。
- 幼児用補助装置メーカーおよび本オーナーズマニュアルの取扱説明に従い、幼児用補助装置を正しく取り付けてください。そうしないと、事故の際にお子様が生計にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- 幼児用補助装置をシートから取り外した後は、安全な置き方で車内に収納してください。
- 事故や急ブレーキ時にお子様を確実に守るため、お子様の年齢や体格にあったシートベルト、または幼児用補助装置を使用してください。お子様を腕に抱くことは、幼児用補助装置の代わりにはなりません。事故発生時に、お子様がガラスにぶつかったり、保護者と車両の間に挟まれるおそれがあります。
- フロントシートに幼児用補助装置を取り付けしないでください。助手席に後ろ向きで幼児用補助装置を取り付けると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、死亡または重大な傷害につながるおそれがあります。
- 首や顔にシートベルトが当たって正しく着用できないお子様は、幼児用補助装置を使用してください。

お子様が車両に乗る場合は、適切な幼児用補助装置を使用して安全を確保してください。また、幼児用補助装置を正しい方法で取り付けて使用してください。

幼児用補助装置の選定で考慮すべき重要なこと

- 幼児用補助装置のタイプやサイズは、お子様に適するものであること。
- 幼児用補助装置のタイプやサイズは、特定の着座位置に適するものであること。
- 幼児用補助装置は、ECE R44/R129 基準に適合していること。

助手席エアバッグスイッチ

- 助手席側エアバッグスイッチは、助手席側のインストルメントパネルに設置されているため、助手席側ドアを開けて操作してください。
- 詳細は「[助手席側エアバッグスイッチ](#)」を参照してください。

警告

- 助手席側のフロントエアバッグを有効にした場合は、助手席に後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを設置しないでください。

幼児用補助装置アンカー**フロントシート**

- フロントシートには、ISOFIX/i-Size アンカーが装備されています。図のようにアンカー位置を表示するラベルは、シートバックの該当アンカーの上方に付いています。
- フロントシートバックの裏側には、トップテザー用アンカーが装備されています。

**警告**

- トップテザーを利用して幼児用補助装置を取り付ける場合は、ヘッドレスト上の穴にトップテザーを通してから、トップテザーをシート底部のアンカーに固定して引っ張ってください。

リアシート

- 外側のリアシートには、ISOFIX/i-Size アンカーが装備されています。
- 図のようにアンカー位置を表示するラベルは、シートバックの該当アンカーの上方に付いています。



⚠ 注意

- アンカーは、シートとシートバックの間の隙間に設置されています。
- リアシートバックの裏側には、トップテザー用アンカーが装備されています。
- トップテザーアンカレッジによるシートベルト固定式幼児用補助装置は特定の市場でのみ使用できません。



警告

- リアシート外側席に取り付けた幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、リアシェルフを取り外さないと、トップテザーアンカーが見えません。
- リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、リアシェルフには昇らないでください。
- チャイルドシートの固定バーは、正しく取り付けられたチャイルドシートによって加わる荷重にのみ耐えることができます。いかなる場合でも、大人用のシートベルトやハーネスとして使用したり、他のものや設備を車両に固定したりしないでください。
- それぞれの方向に幼児用補助装置を揺らし、確実に取り付けられていることを確認します。
- ロアアンカーを使う場合、アンカーの周りに異物がなく、シートベルトが幼児用補助装置の裏側に引っかかっていないことを確認してください。また、幼児用補助装置が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、緊急ブレーキや事故時に、お子様が生命にかかわる重大な傷害を負わせるおそれがあります。
- 運転席後ろのシートに幼児用補助装置を取り付けている場合、リアシートとの間隔が狭くなると、運転席を動かすときにお子様の足に当たったり、幼児用補助装置を押してしまうおそれがあるため、確認してから動かしてください。
- 1つのアンカーポイントに、2つの幼児用補助装置を取り付けしないでください。事故発生時、1つのアンカーポイントで2つの幼児用補助装置を支えきれないおそれがあります。

幼児用補助装置の取り付けについて

助手席に幼児用補助装置を取り付ける場合は、必ず次の説明に従ってください。

- 助手席のエアバッグを有効にした場合は、助手席に後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを取り付けしないでください。後ろ向き幼児用補助装置を助手席から取り外したときは、必ず助手席のエアバッグを有効にしてください。
- お子様ที่ トリムに触れないよう、必要に応じて助手席を後方に動かしてください。
- 必要に応じて助手席シートバックの角度を調整し、座席に幼児用補助装置をしっかりと押し付けてください。
- 幼児用補助装置のヘッドレストにシートベルトガイドが付いている場合は、ガイドを前向きに設置し、Bピラー上のシートベルトアンカーアッパーに合わせてください。
- 助手席に前向き幼児用補助装置を取り付ける場合は、シートを後方へ最大限動かしてエアバッグから遠く離してください。
- ねじれがなく、ガイドの端部で曲がりがないようにシートベルトをガイドに通してください。

リアシートに幼児用補助装置を取り付ける場合は、必ず次の説明に従ってください。

- リアシートに幼児用補助装置を取り付けている場合は、お子様がフロントシートに触れないようフロントシートを前方へ動かしてください。より広いスペースを確保するため、前席シートバックの角度も調節してください。
- シートバックで幼児用補助装置を安全に支えるため、ヘッドレストの高さを調整または外すことができます。
- 幼児用補助装置にシートバックが付いていない場合は、ヘッドレストを取り外さないでください。また、ヘッドレストをロック位置に合わせてください。
- リアシートでトップテザーを利用する場合は、トップテザーをヘッドレストシャフトの外側に通してください。
- リアシートに取り付けた幼児用補助装置にトップテザーが付いている場合は、リアシェルフを取り外さないと、トップテザーアンカーが見えません。また、取り外したリアシェルフは、安全な置き方で車内に収納してください。
- 取り付け方法の詳細は、幼児用補助装置の取扱説明書をお読みください。

幼児用補助装置の取り付け方：

区分	座席					
	1	2		3 ^{b)}	4 ^{b)}	5 ^{b)}
		助手席フロントエアバッグ ON ^{a)}	助手席フロントエアバッグ OFF ^{a)}			
汎用型シートベルトに適用する座席 (可 / 不可)	×	可 前向きのみ	可	可	可	可
i-Size 座席 (可 / 不可)	×	可 前向きのみ	可	可	不可	可
横向き固定装置に適用する座席 (L1/L2/ 不可)	×	不可	不可	不可	不可	不可
適用の最大後ろ向き固定装置 (R1/R2X/R2/R3/ 不可)	×	不可	R1/R2X/R2/R3	R1/R2X/R2/R3	不可	R1/R2X/R2/R3
適用の最大前向き固定装置 (F2X/F2/F3/ 不可)	×	F2X/F2/F3	F2X/F2/F3	F2X/F2/F3	不可	F2X/F2/F3
適用の最大かさ上げ固定装置 (B2/B3/ 不可)	×	B2/B3	B2/B3	B2/B3	B2/B3	B2/B3
^{a)} 必要に応じて、前後にシートを動かしたりシートバックの角度を調整したりすることができます。 ^{b)} ヘッドレストの高さを調整または外すことができます。お子様がフロントシートに触れないようにするため、必要に応じてフロントシートの位置を調節することができます。						

×：このシート位置には、指定の重量グループのジュニアシートに適合していない。

1-3 幼児用補助装置

- 推奨の幼児用補助装置：
身長によるお子様のグループ分けは、ECE R129 基準による

お子様の身長 (cm)	メーカー	幼児用補助装置 (チャイルドシート)	備考
40 ~ 83	Maxi-Cosi	Pebble 360	シートベルトを締め ます
76 ~ 105	Britax Römer	Trifix 2 i-Size	ISOFIX、シートベル トを締めます
100 ~ 150	Britax Römer	Kidfix i-Size ^{a)}	ISOFIX、シートベル トを締めます

^{a)}：必ず SecureGuard および XP-PAD でシートベルトを固定してください。

体重によるお子様のグループ分けは、ECE R44 基準による

お子様の体重 (kg)	メーカー	幼児用補助装置 (チャイルドシート)	備考
22 ~ 36	Graco	Booster Basic	シートベルトを締め ます

- ① 40 ~ 83cm
- ② 76 ~ 105cm
- ③ 100 ~ 150cm
- ④ 22 ~ 36kg



イモビライザー *

イモビライザーを有効にする

1. 電源ポジションを「OFF」にします。
2. すべての乗員が車両から降ります。
3. すべてのドアを施錠します。このとき、セキュリティ表示灯は点灯し続け、8秒後にイモビライザーが自動的に設定されます。システムの設定が完了すると、セキュリティ表示灯は点滅します。
4. 表示灯が点滅していることを確認し車両から離れます。車内からドアを解錠するとシステムが作動するため、設定中は車内に残らないでください。

警報の作動

- イモビライザーが有効になっている場合、次の状況が発生するとアラーム * が作動し、ターンシグナルランプが点滅します。
 - リモートキーを使わずに機能を ON にし、ドアやテールゲート、ボンネットを解錠したとき。
 - メカニカルキーでドアを解錠したとき。

盗難防止警報の解除

- 下記の操作を行うと警報を解除できます。
 - リモートキーでドアを解錠する。
 - NFC カードキーでドアを解錠する。
 - マイクロスイッチでドアを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作でテールゲートを解錠する。
 - リモートキーの遠隔操作で車両を始動する。
 - リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押す。

⚠ 警告

■ 変更や追加によるイモビライザーの改造をしないでください。このような変更は、システム故障につながるおそれがあります。

セキュリティ表示灯*

イモビライザーの設定中は、セキュリティ表示灯が8秒間点灯します。



データの収集および処理

- 本節では、BYD の車両をご利用いただく際のシステムが、個人データを収集および処理する方法について重要な情報を提供します。
- データ処理、データ保護およびデータ主体の権利についての詳細は、BYD のホームページにアクセスし、最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください (🚗 → システム設定 → 更に表示 → プライバシーポリシー)。
- 本車はイベントデータレコーダー (EDR) を備えています。主に特定の衝突事故またはこれに類する衝突事故 (エアバッグの展開または障害物への衝突時など) が発生した場合、安全関連システムの状態データを記録し、以下の車両システムの稼働状況を把握するために使用します。
 - 車両速度
 - タイヤ空気圧の状態
 - アダプティブクルーズコントロールシステムの状態
 - シートベルトの着用状態
- 衝突またはこれに類する衝突事件がある程度に達した場合のみ、車両が EDR データを記録します。車両が正常に走行している間は、EDR はいかなるデータも記録しません。
 - EDR に記録された関係情報をもとに事故分析ができるように、事故発生時の車両安全に関するシステムの状態を把握します。
 - EDR は、特別な機器で車両にアクセスして読み出す必要があります。BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対し個人データを開示します。車両メーカー以外に、専門機器を所有する第三者機構 (例：政府機構) が車両 EDR にアクセスする権限および機器を持っているときは、EDR の情報を読み出すこともできます (例：エアバッグコントロールユニットのデータを読み出して事故分析を行います)。

車両データの処理

- 車両センサーやコントロールユニットが収集、または送信するデータなど、車両利用時にシステムが収集したデータは、車両の安全運転に必要なものです。
- 収集されたデータは、運転支援（ドライバー補助システム）や特定の快適機能、インフォテインメント機能の作動に利用されます。
- 収集、処理される個人データは、主に車載データ、遠隔サービス関係のデータおよび他のデータを含みます。詳細は次のとおりです。

車載データ

走行データ

- 車両を使用中、システムはそれぞれの車両状態データ（例：速度、バッテリー残量、ブレーキシステム）または周囲のモード（例：距離センサー、温度など）の収集と処理を行います。
- 上記のデータは通常保存されませんが、コントロールユニット、センサーまたは車両に取り付けられたデータを記録する他のユニットは、メンテナンス要求、エラー情報、その他の情報の記録に用いられます。
- 車載データは車載デバイスにのみ保存されますが、法律で義務付けられている OBD（「車載式故障診断装置」）のポートを介して、データを読み取ることができます。たとえば、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくは他の第三者がデータを読み取ることができます。
- 車両の整備中にシステムへアクセスする場合、これらの情報も品質検査保証、製品不具合報告またはユーザークレームの検証を目的として、BYD 技術者に提供されます。

遠隔サービス関係データ

遠隔監視サービス

- 車両は、安全性を確保するための遠隔診断・無線通信（OTA）のアップデートおよびアップグレードなどの遠隔サポートサービスを提供しています（ユーザーの了承が必要です）。
- サポートサービスの目的：サービスの提供（遠隔支援や診断）、製品開発とセキュリティやパブリックセーフティ。
- 使用する国または設定により、車両位置情報、車両状態（例：電費、速度、シフトポジション、電源ポジション、エレクトロニクススピードコントローラーの状態、ステアリングシステムの状態、バッテリーの状態、パワーユニットの状態、車両の性能状態など）を含む各種の車両情報は、上記の目的で BYD のサーバーに送信されることがあります。

その他

インフォテインメントシステム

- 車両の仕様により、ドライバーは自らインフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどをインフォテインメントシステムに追加することができます。
- 車両の仕様により車両の個人設定にアクセスできます。
- 車両に保存されているデータはいつでも削除できます。
- BYD 車載第三者アプリは第三者がデータを収集します（特にオンラインサービスの一部として第三者のコンテンツを使用した場合）。

モバイルデバイスの集積

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムを介してモバイルデバイスの接続や制御を行うことができます。
- デバイスの画面または音声は、インフォテインメントシステムを介して表示や再生、またはインフォテインメントシステムにストリーミングする必要があります。
- 位置情報や車両情報のような付加データは、アプリケーションを介して送信し、ナビゲーションシステムや通信、または他の第三者サービスに用いることができます。
- データ処理の具体的なパターンはそれぞれの機能に依存し、ユーザーまたはデバイスや関係サービスを提供する第三者が制御します。

インターネットアクセスと接続サービス

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムのネットワークデバイスを介してインターネットにアクセスすることで、特定の機能またはBYDのサービスを実現することができます。
- BYDは、いかなる相手が提供するこのようなサービスのすべてについて責任を負いません。
- このような場合は、データ使用に関する情報について関連するオンラインサービスプロバイダーにお問い合わせください。

カメラ映像の記録

- 車両には、複数のカメラやセンサーが搭載されています。
- 一部の機能は、車両の進路を感知して評価する必要があるため、車両周辺のもの（障害物など）を感知するカメラにより行われます。
- オペレーティングシステムで必要なさらなる分析を行うために、映像は関連する制御モジュールに送信されます。
- 一部の映像は、ランダムアクセスメモリ (RAM) でのみ処理され、その他の映像は車両の装備に応じて保存されることがあります。
- 搭載を考えられるカメラの詳細については、本マニュアルにおける **BYD アラウンドビューシステム** のセクションを参照してください。

車の第三者への譲渡、およびオフラインモード

- 車両を譲渡する場合、別の人が使用していた車両を購入、または譲渡を受ける場合は、新しい所有者にインフォテインメントシステムを介して設定したカスタマイズ / ユーザー設定のすべてにアクセスできます（アドレステーブル、ナビゲーションシステムなど）。
- 車両をオフラインモードに設定することにより、車両と BYD データサーバー間の通信および車両の関係データや個人データの処理を制限することができます。
- マルチメディアのショートカットメニューから、 をタッチして Wi-Fi を OFF にします。
- 次の操作でも、Wi-Fi を OFF にできます。 → **システム設定** → **インターネット** → **Wi-Fi** から OFF にします。

当局への個人情報開示

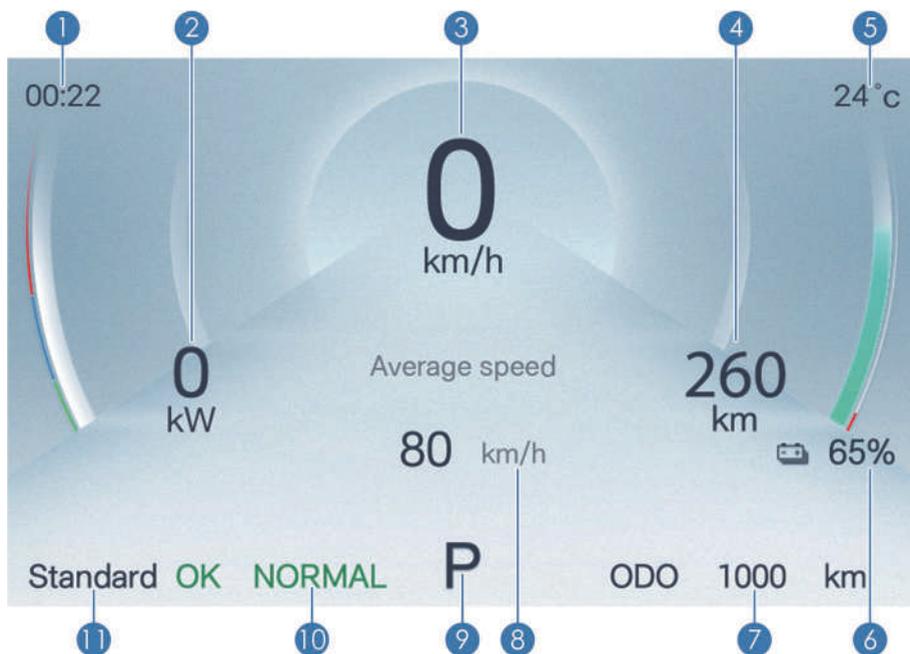
- BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対し個人データを開示します。
- ただし、政府機関には、適用される法律に従って車両からデータを読み出す権限を付与されることがあります（たとえば、事故究明のためにデータをエアバッグコントロールユニットから読み出す）。
- 法律で義務付けられている場合、BYD は犯罪捜査などの要求に従って、お住まいの国 / 地域の政府当局に対してデータを開示する義務を負う場合があります。

ユーザーのデータ保護の権利

- BYD はお客様のプライバシーを尊重し、すべてのデータ保護法、特に一般データ保護規則（GDPR）および適用する現地の法律を厳しく遵守します。
- これらの法律によって個人データが処理される際、オーナーは特定の権利を有します。
- データ主体は、情報の通知を受ける権利、アクセス権、訂正権、削除権（「忘れられる権利」）、および個人データの処理に異議を唱える、または制限する権利（または同意を撤回する権利、およびデータの移植性に対する権利）を有します。
- 場合によっては、これらの権利は制限されることがあります。たとえば、お客様のデータを処理する法的義務があると表明できる場合、または情報の提供により、別の人物に関する個人データが開示される場合、もしくは法律によりそれらの情報の開示が禁止される場合です。
- 場合によっては、同意を撤回されたとしても、当社は関係データを保持できる場合があります。
- データ処理やデータ保護、およびデータ主体の権利についての詳細については、BYD のホームページにアクセスし、最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください（ → システム設定 → 更に表示 → プライバシーポリシー）。

2-1 コンビネーション	
メーター	50
コンビネーションメーター	
イメージ	50
メーター表示灯	51

コンビネーションメーターイメージ



- | | |
|---------------|-------------|
| ① 時間 | ⑦ 総走行距離 |
| ② パワースピードメーター | ⑧ 平均速度 |
| ③ スピードメーター | ⑨ シフトポジション |
| ④ 航続可能距離 | ⑩ 運転モード |
| ⑤ 外気温度 | ⑪ 回生ブレーキモード |
| ⑥ パワーバッテリー残量計 | |

メーター表示灯

	方向指示表示灯		ポジションランプ表示灯
	ハイビーム表示灯	NORMAL	ノーマルモード
OK	OK 表示灯		ACC 状態表示灯 *
	オートビークルホールド表示灯 (待機状態中は白色で点灯)		駆動パワー制限警告灯
	マスターウォーニング表示灯		リモートキーシステム警告灯
	ABS 故障警告灯		ESC OFF 警告灯
	ESC 故障警告灯		タイヤ空気圧警告灯
	ドライバー眠気注意力警告灯 *		幼児置き去り検知表示 / 警告灯 *
	リアフォグランプ表示灯		AVAS (車両接近通報装置) 故障警告灯
	パーキングシステム故障警告灯		エアバッグ故障警告灯
	ステアリングシステム故障警告灯		シートベルト非着用警告灯
	モーター冷却水オーバーヒート警告灯		パワーバッテリー充電接続表示灯
	低電圧給電システム故障警告灯		パワーバッテリー過熱警告灯

	パワーバッテリー故障警告灯		パワートレイン故障警告灯
	電動パーキングブレーキ表示灯		

警告灯 / 表示灯について

リモートキーシステム警告灯

- リモートキーが車内にない状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯が数秒間点灯すると同時にコンビネーションメーターのブザーが1回鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可。車内にキーがあるか確認」と表示されます。
- リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯は点灯せずに車両が始動できます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押した際に警告灯が点滅している場合は、リモートキーのバッテリー残量が低下しています。
- キーが車内にない場合は、コンビネーションメーターに「キーが検知されていません。車内にあるかをご確認ください」と表示されます。

ABS (アンチロックブレーキシステム) 故障警告灯

- 車両の電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯し、ABSが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障などが発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- ABS故障警告灯が点灯（パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、ABSは作動しませんが、ブレーキシステムは正常に作動します。
- ABS故障警告灯が点灯（パーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、ABSが作動しないため、急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキを踏むとホイールがロックします。
- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障しています。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

アドバイス

- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- パーキングシステム故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯した場合は、ブレーキをかけても ABS が機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になるため、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯し、EPB が完全に解除されている場合は、前後タイヤの制動力配分システムも作動しないことを表します。



タイヤ空気圧警告灯

- 車両の電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯し、タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、警告灯が再度点灯します。
- タイヤ空気圧警告灯が点灯または点滅すると同時に、コンビネーションメーターに「チェック TPMS」と表示され、タイヤ空気圧表示画面の数値部に「---」が表示された場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障しています。
- タイヤから「信号異常」が発信された場合は、タイヤ空気圧信号が干渉を受けている、またはタイヤ空気圧モニタリングモジュールが破損しているおそれがあります。
- タイヤ空気圧警告灯が常時点灯すると同時に、コンビネーションメーターのタイヤ空気圧表示画面の一部が黄色になった場合は、該当タイヤの空気圧が少ない状態です。また、1 つまたは複数のタイヤの温度数値が黄色になったときは、タイヤ温度が高すぎる状態です。

上記のいずれかが発生した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。



ESC (横滑り防止装置) 故障警告灯

- 車両の電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯し、ESC機能が正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- 走行中にESC故障警告灯が点滅している場合は、ESCシステムが作動していることを表します。
- ESC故障警告灯が点灯（ABS故障警告灯およびパーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、ESCの車両安定性制御が無効になりますが、ABSおよびブレーキシステムは正常に作動します。
- ESC故障警告灯が点灯（ABS故障警告灯およびパーキングシステム故障警告灯は消灯）している場合は、横滑り防止装置が作動しないため、急ハンドルや前方障害物の緊急回避時に、車両姿勢が極めて不安定な状態になります。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない（セルフテストなし）。
 - 運転中に警告灯が点灯し続ける。

アドバイス

- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- ABS故障警告灯、ブレーキシステム警告灯、ESC故障警告灯が同時に点灯した場合、ただちに安全な場所に停車してBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。このとき、ABSが完全に機能しないため、ブレーキ時の車両姿勢が極めて不安定な状態になります。



ESC OFF 警告灯

- ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が点灯し横滑り防止装置が機能しなくなります。再度 ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が消灯し、横滑り防止装置が機能します。

i アドバイス

- ESC OFF 警告灯が点灯している場合、ドライバーは急ハンドルや突然現れた障害物の緊急回避時に、必ず警戒感を高めながら低速で走行してください。このようなときは、ブレーキをかけても ESC システムが機能せず車両姿勢が不安定になります。
- ドライバーは、 → **ADAS** → **アクティブセーフティ** の設定画面から、ESC OFF を操作することで解除できます。



駆動パワー制限警告灯

- パワーバッテリー残量が低下し、車両のパワーが制限された場合に点灯します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



マスターウォーニング表示灯

- 表示灯が点灯している場合は、要注意であることを表します。また、インフォメーション表示部に故障や警告のメッセージが表示されます。



幼児置き去り検知表示 / 警告灯 *

- 幼児置き去り検知表示灯 *：幼児置き去り検知システムを OFF にすると表示灯が点灯し、「OFF」のメッセージを 5 秒間表示します。「ON」または「遅延」をタッチすると表示灯が消灯し、幼児置き去り検知警告機能が正常に戻ります。
- 幼児置き去り検知警告灯 *：故障している場合は、幼児置き去り検知システムの故障メッセージを 5 秒間表示し、警告灯が点灯します。幼児置き去り検知システムが故障している場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で点検してください。



ドライバー眠気注意力警告灯 *

- ドライバーモニタリングシステムは、ドライバーの操作状態を検知して疲労度合いを評価します。評価結果に応じて、リアルタイムにドライバーへ注意喚起することで運転の安全性を高めます。



AVAS（車両接近通報装置）故障警告灯

- AVAS（車両接近通報装置）が故障した場合に点灯します。早めにBYD指定サービス工場に連絡してください。



シートベルト非着用警告灯

- 車両の電源ポジション「OK」時に前席および後席のシートベルトが未着用の場合に点灯します。シートベルトを着用するまで点灯し続けます。



エアバッグ故障警告灯

- 車両の電源ポジション「OK」時に点灯し、エアバッグシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。エアバッグ ECU、衝突センサー、インフレーター、警告灯、結線および電源をモニタリングしています。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

パーキングシステム故障警告灯

- ブレーキフルード量が低下している、またはブレーキシステムが故障している場合に点灯します。下記状況のいずれかが発生したときは、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
 - 車両の電源ポジションが「OK」の状態、ブレーキフルード量が低下して警告灯が点灯しているとき。

アドバイス

■ ブレーキフルード量が低下している状態での運転は非常に危険なため、運転を止めてください。

- 車両を始動後、ブレーキフルード量に問題がなく、電動パーキングブレーキシステムが正常に作動している（電動パーキングブレーキスイッチをスムーズに操作でき、「電動パーキングブレーキシステムを確認」のメッセージが出ていない）ときは、警告灯が常時点灯します。
- パーキングシステム故障警告灯と ABS 故障警告灯が同時に点灯しているとき。

アドバイス

■ 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。

ステアリングシステム故障警告灯

- ステアリングシステム警告灯が常時点灯している場合は、ステアリングシステムが故障しているため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検してください。

アドバイス

- ステアリングシステムは、モーターによりステアリングホイールを回すための力を軽減するものです。
 - ステアリングホイールを回すとき、モーターの動作音（「ぶんぶん」のような音）が聞こえることがありますが故障ではありません。
 - ステアリングホイールを 5 秒以上全切り（限界位置を保持）のままにしないでください。5 秒を超えると過熱保護機能が作動し、操舵力が重くなる、または損傷します。
- 長時間頻繁に据え切りをした場合、警告灯は点灯していませんがステアリングが重く感じるがありますが、故障ではありません。
 - 長時間頻繁に据え切りをすると、ステアリングシステムの過熱を防ぐためにアシスト力が低下してステアリングが重く感じる場合があります。このようなときは、頻繁なハンドル操作を避ける、または停車して電源ポジションを「OFF」にしてください。システムは、10 分以内に正常な状態に戻ります。

警告

- ステアリングシステム故障警告灯が点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



低電圧給電システム故障警告灯

- 運転中に警告灯が点灯している場合は、低電圧給電システムに不具合があることを表します。そのまま運転を続けると、車両が突然停止するなどの思わぬ事故につながるおそれがあるため、エアコン、ファン、ラジオなどを止めて安全な場所に停車し、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に救援を依頼してください。
- 警告灯が点灯している場合は、充電および放電を停止します。
- 走行中は警告灯が点灯し続けると、速度を制限します。
- 充電または給電しない場合は、DC モジュールおよびバッテリーモジュールの作動状態を知らせます。



パワートレイン故障警告灯

- パワートレインが故障した場合に点灯します。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が点灯する。

⚠ 注意

- 警告灯が点灯している状態では、可能な限り運転しないでください。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検および問題の確認を依頼してください。



パワーバッテリー過熱警告灯

- 警告灯が点灯している場合は、パワーバッテリーの温度が高すぎることを表します。車両を止めてパワーバッテリーの温度を下げてください。パワーバッテリー過熱警告灯が点滅しているときは、ただちに安全な場所に停車し、早めに車両から離れてください。
- 下記の条件で走行した場合、パワーバッテリーが過熱することがあります。
 - 炎天下や長時間・長距離で上り坂を走行するとき。
 - 長時間にわたり頻繁に発進・停止、急加速・急ブレーキ繰り返す交通状況、または長時間連続で走行するとき。



パワーバッテリー故障警告灯

- 車両の電源ポジション「OK」時に点灯し、パワーバッテリーシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムの故障があるときは、警告灯が再度点灯します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
 - 電源ポジション「OK」時に警告灯が点灯し続ける。
 - 運転中に警告灯が常時または時々点灯する。



モーター冷却水オーバーヒート警告灯

- 警告灯が点灯している場合は、モーター冷却水の温度が高すぎることを表します。ただちに安全な場所に停車し、警告灯が消灯するまでお待ちください。

メーターのその他故障について

コンビネーションメーターには次のような故障メッセージが表示されることがあります。各種推奨している対応方法に従って操作してください。

アイコン表示	故障メッセージ	対応方法
	車載充電システムを確認してください	車載充電システムが故障しています。充電設備の接続異常がないか確認したうえで、新たな充電設備に接続してください。解消しなかった場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ネットワーク故障 安全に停車し、BYD サービスに連絡してください	車両のデータネットワークが故障しています。周囲の安全を確認したうえでただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ヘッドライトシステムを確認	ヘッドライトシステムが故障しています。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	自動緊急ブレーキ機能制限中	衝突予測警告システムや自動緊急ブレーキシステムが故障しています。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	ブラインドスポット インフォメーション機能制限中	ブラインドスポットインフォメーションシステムが故障しています。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	車線維持機能制限中	ナビゲーションパイロットが故障しています。車両を停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	インテリジェントカメラ機能 制限あり 利用不可*	インテリジェントカメラが利用できません。車両を停車し、フロントガラスに搭載しているカメラの撮影範囲内に異物や曇りがないかを点検してください。異物や曇りがない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	シフト機構を確認してください*	シフトコントローラーが故障しています。ただちに停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

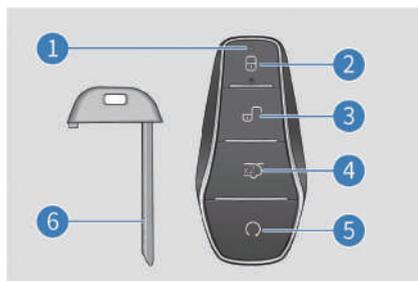
3-1 ドアおよびキー	64
キー.....	64
ドアの施錠 / 解錠.....	68
スマートエントリー& スタートシステム.....	75
チャイルドロック.....	77
3-2 シート	78
シートについて.....	78
フロントシートの調節.....	80
リアシートの収納.....	82
ヘッドレスト.....	83
3-3 ステアリングホイール	84
ステアリングホイール コンビネーションスイッチ.....	84
ステアリングホイールの 手動調節.....	89
3-4 スイッチ	90
ライトスイッチ.....	90
ワイパースイッチ.....	95
助手席側ウィンドウ スイッチ.....	100
走行距離切替スイッチ.....	100
モードスイッチユニット.....	101
助手席側エアバッグ スイッチ.....	103
自動緊急通報システム E-Call.....	105
ハザードランプスイッチ.....	106
サンシェードスイッチ*.....	106
ルームランプスイッチ.....	107

キー

リモートキー

リモートキー——リモートキーを携帯した状態でドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの施錠／解錠ができます。リモートキーのボタン操作でも、ドアの施錠／解錠、テールゲートを開く、リモートスタートなどができます。

- ① 表示灯
- ② 「ロック」 ボタン
- ③ 「アンロック」 ボタン
- ④ 「テールゲートオープン」 ボタン
- ⑤ 「スタート/ストップ」 ボタン
- ⑥ メカニカルキー



キー閉じ込め防止機能

- 施錠している状態でリモートキーを車内やトランクルームに置いたままテールゲートを閉めると、リモートキーの置き忘れを防ぐために自動でドアを解錠してターンシグナルランプを2回点滅させます。

警告

- リモートキーの中に入っているボタン電池は危険なため、電池の種類を問わずお子様の手の届かないところに置いてください。
- ボタン電池を誤って飲み込んだり身体の一部に電池が入ったりした場合は、2時間以内に重傷または致命傷を引き起こすおそれがあります。
- ボタン電池を誤って飲み込んだ、または身体の一部に入ったと疑われる場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 電磁波による電子機器への影響があるため、植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートエントリー&スタートシステムのアンテナから遠く離れてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器、またはそれ以外の医療電子機器を使用されている方は、電磁波が機器に与える影響を製造メーカーに確認してください。電磁波が、医療機器の使用に予測できない悪影響を与えるおそれがあります。

▲ 注意

- リモートキーは電子部品です。リモートキーの破損を防ぐため次の説明に従ってください。
 - リモートキーをインストルメントパネルなどの温度が高いところに置かないでください。
 - リモートキーを勝手に分解しないでください。
 - リモートキーで他のものを強く叩いたり、リモートキーを落としたりしないでください。
 - リモートキーを水に浸けたり、超音波洗浄機で洗浄したりしないでください。
 - リモートキーを携帯電話などの電磁波が発生する装置と一緒に置かないでください。
 - リモートキーに電磁波を遮断するものを付けしないでください（例：金属シールなど）。
 - 同一の車両にエマージェンシーキーを登録することができます。詳細な説明については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- リモートキーの作動範囲内でドア操作ができない、またはキーの表示灯が暗く点灯しない場合：
 - 近くにリモートキーの動作を干渉するラジオ局や航空無線発信機がないかを確認してください。
 - リモートキーのバッテリーが切れているおそれがあります。リモートキーのバッテリーを点検してください。バッテリーの交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- リモートキーを紛失した場合は、車両の盗難や予期せぬ事故を起こさないため、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 送信周波数の変更、送信電力の増加（送信周波数アンプの追加を含む）、アンテナの外付けや他の送信アンテナを流用しないでください。
- 使用時は、さまざまな無線通信業務に干渉がないようにしてください。干渉が見つかった場合はただちに使用を停止し、干渉の解消措置を取ってから使用してください。
- 小電力無線機を使用する場合は、さまざまな無線通信業務の干渉、または産業用、研究用および医療用設備の放射干渉を避けてください。
- 飛行機や空港の近くで使わないでください。
- 車両から離れる場合は必ずリモートキーを携帯し、施錠をしてください。また、絶対にお子様を 1 人で車内に残さないでください。

メカニカルキー

メカニカルキー（リモートキー内）——運転席側ドアハンドルに挿し込んで施錠／解錠をします。使わないときは、メカニカルキーをリモートキーに収納してください。

メカニカルキーの取り出し

図のようにリモートキー上の「PUSH」ボタン②を押し、矢印①方向にメカニカルキーを取り出します。



- メカニカルキーを使用した後は、「PUSH」ボタン②を押しながらメカニカルキーを戻してください。

NFCカードキー*

■ 近距離無線通信(NFC)カードキー:
NFCカードキーを運転席側ドアミラーのマークが付いている部分にかざすと、電源ポジションが「OFF」の状態ですべてのドアの解錠/施錠ができます。



⚠ 注意

- NFCカードは電子機器です。NFCカードキーが機能しない、または破損しないように、次の説明に従ってください。
 - ワイヤレス充電器をONしているときは、NFCカードキーを充電エリアに置かないでください。
 - NFCカードキーを使用するときは、電磁波を遮断するものを付けないでください(例:金属シール、携帯電話の金属製バックカバーなど)。
 - NFCカードキーをインストルメントパネルなどの高温部に置かないでください。
 - NFCカードキーを強く曲げないでください。
 - NFCカードキーを他の固いものと一緒に置かないでください。
- NFCカードキーは近距離無線通信を行っており、通信可能な距離は2cm以内です。NFCカードキーをかざすときは、ドアミラーに近づけて1~2秒キープしてください。
- NFCカードキーはNFC通信規格に基づいたキーであり、車両の安全性を確保するために大切に保管してください。紛失したときは、紛失したカードを解除するため、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で作成してください。

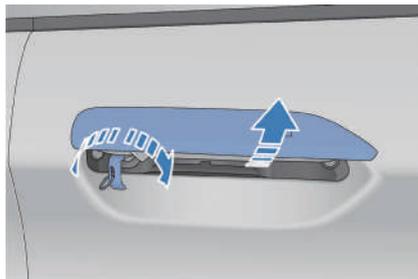
ドアの施錠 / 解錠

メカニカルキーでの施錠 / 解錠

上のほうにフロントドアハンドルを起し、キーを鍵穴に挿し込んでから回します。

■ 解錠：時計回りにキーを回します。

- メカニカルキーで解錠した後は、キーを抜き出してからドアを開けます。



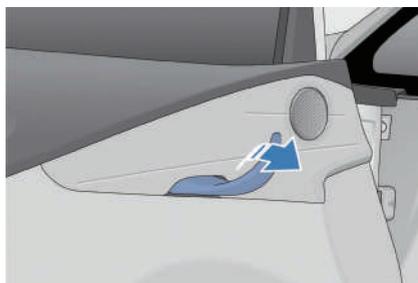
■ 施錠：反時計方向にキーを回します。

- 右側フロントドアが右側リアドアと同じ高さ、または右側リアドアより低いことを確認してから右側フロントドアを閉め、手でドアを押し付けながら反時計回りにキーを回してドアを施錠します。

ノブ操作でドアを開けるとき

■ 解錠している場合は、ノブを1回引き上げると車内からドアが開けられます。

■ 施錠している状態でドアを開ける場合は、2回連続でノブを引き上げます。



⚠ 警告

- お子様が悪くドアを開けてしまうと予期せぬ事故を起こすおそれがあるため、お子様にノブを触らせないでください。
- お子様を乗せている場合は、必ずチャイルドロックをONにしてください。

⚠ 注意

- チャイルドロックを解除していない場合は、リアドアのノブを引き上げても開けることができません。

リモートキー操作での施錠 / 解錠

ワイヤレスリモートコントロール機能は、作動範囲内であればすべてのドアの解錠や施錠、付加機能が操作できます。

登録済みのリモートキーを携帯し、作動範囲内でリモートキーのボタンを押すと、すべてのドアの施錠 / 解錠ができます。

施錠

- 車両の電源ポジション「OFF」の場合、すべてのドアおよびボンネットが閉まっている状態で「ロック」ボタンを押すと、すべてのドアを同時に施錠し、ターンシグナルランプが1回点滅します。施錠後、すべてのドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- ドアのいずれかが開いている場合は、ターンシグナルランプが点滅せずにホーンが1回鳴ります。
- 電源ポジションを「OFF」にしていない場合は、ターンシグナルランプが点滅せずにホーンが1回鳴ります。



3

コントローラーの操作

解錠

- 「アンロック」ボタンを押すと、すべてのドアを同時に解錠し、ターンシグナルランプが2回点滅します。
- リモートキーの操作で同時にすべてのドアを解錠する場合は、ドアが開いていなくてもルームランプが15秒間点灯してから消灯します。
- 盗難防止機能が作動している状態でリモートキーの操作によりドアを解錠した場合は、30秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動で再度施錠されます。
- 「ロック」または「アンロック」ボタンを押し続けても、施錠または解錠することはできません。ボタンから指を離し、再度「ロック」または「アンロック」ボタンを押してください。

自動下降

- リモートキーの「アンロック」ボタンを長押しすると、すべてのウィンドウガラスを自動で開けることができます。

リモートキーのリモコン操作でテールゲートの開 / 閉

- 2回連続でリモートキーの「テールゲートオープン」ボタンを押すと、ターンシグナルランプが2回点滅しテールゲートが開きます。

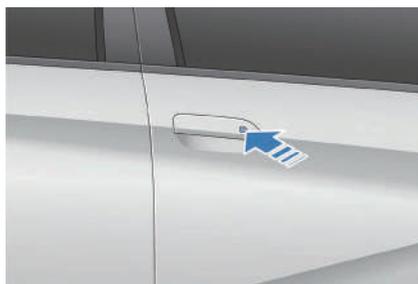


- キー閉じ込め防止機能
 - 施錠した状態でリモートキーを車内やトランクルームに置いたままテールゲートを閉めると、閉じ込め防止機能が作動し、自動的にドアを解錠してターンシグナルランプを2回点滅させます。

マイクロスイッチ操作での施錠 / 解錠

施錠

- 車両の電源ポジション「OFF」時にドアを閉めた状態で施錠していない場合は、リモートキーを携帯しながらフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアを同時に施錠し、ターンシグナルランプが1回点滅します。
- 電源ポジションを「OFF」にしていない場合は、ターンシグナルランプが点滅せずにホーンが1回鳴ります。
- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている場合は、マイクロスイッチ操作で閉まっているドアを施錠することができますが、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが1回鳴ります。



解錠

- 施錠している状態でリモートキーを携帯し、作動範囲内でフロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアを同時に解錠し、ターンシグナルランプが2回点滅します。
- 盗難防止機能が作動している状態で解錠した場合は、30秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動で再度施錠されます。
- 以下の場合は、マイクロスイッチを押しても施錠 / 解錠ができません。
 - ドア開閉時にマイクロスイッチを押したとき。
 - リモートキーが車内に置いてあるとき。

自動下降

- フロントドアハンドルのマイクロスイッチを長押しすると、ドアを解錠してウィンドウガラスを下げることができます。
- マイクロスイッチを長押ししてウィンドウガラスを開閉する機能は、 → **車両設定** → **ドアと窓** の設定画面から、マイクロスイッチの長押しによるウィンドウガラス開閉機能の ON/OFF を設定できます（詳細は、実際の車両仕様によります）。

アドバイス

- リモートキーがドアハンドル、またはウィンドウに近すぎる場合は、機能が有効にならず操作ができないことがあります。

マイクロスイッチ操作でのテールゲート解錠

- 車両を施錠している状態でリモートキーを携帯し「テールゲートマイクロスイッチ」を押すと、テールゲートを解錠することができます。
- 車両を解錠している状態で「テールゲートマイクロスイッチ」を押すと、テールゲートを開けることができます。

NFCカードでの施錠/解錠

- NFCカードを運転席側ドアミラーにあるNFCマークの感知エリアに近づけます。

ドアの施錠：

- 車両の電源ポジションを「OFF」にし、ドアを閉じた状態で NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に施錠し、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。

ドアの解錠：

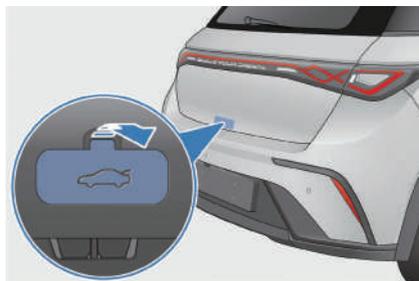
- イモビライザーが作動している状態で、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に解錠し、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- イモビライザーが作動している状態で NFC カードを使って解錠した場合は、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動で再度施錠します。
- 以下の場合、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしても、施錠 / 解錠ができません。
 - ドアの開閉操作と同時に、NFC カードを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしたとき。
 - 車両の電源ポジションが「OFF」以外のポジションに入っているとき。

注意

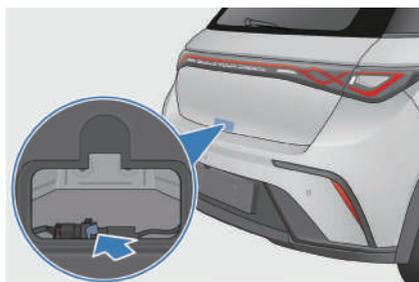
- キーレス操作権限の有効時間は最大 4 分間です。

車内からのテールゲートの緊急時解錠

1. テールゲートプロテクターからテールゲートロック用ハンドホールカバーを外します。



2. レバーを動かすと、テールゲートを解錠できます。



3

コントローラーの操作

⚠ 注意

- 車両が停電した場合は、車内からテールゲートの緊急時解錠を行ってください。
- 身体の一部で、挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。

集中ドアロックの施錠 / 解錠

集中ドアロックスイッチによる車両の施錠 / 解錠

詳細は「集中ドアロック」を参照してください。

ドアの自動施錠 / 解錠

- 速度が約 8km/h を超えると、すべてのドアを自動で施錠します。
- 「スタート / ストップ」 ボタンを押して車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると、すべてのドアが自動で解錠します。

すべてのドアを同時に施錠 / 解錠する

- イモビライザーが作動していない状態で施錠すると、集中ドアロックの施錠ボタンのバックライトが点灯します。車両を解錠すると、バックライトが消灯します。
- 集中ドアロックの施錠ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠され車外からの解錠操作ができなくなります。ドアを開ける場合は、車内のドアノブを1回引いてロックが解錠されてから、もう一度車内のドアノブを引いてドアを開けてください。

i アドバイス

- 車両が強い衝突を受けた場合は、すべてのドアを自動で解錠します。自動で解錠する判定は、衝撃の強さや事故などのパターンにより決定します。

メカニカルキーでの全ドア緊急施錠

- 集中ドアロックが機能しない場合は、ロック状態になるまでキー操作で運転席側以外のドアの緊急ロック用ツマミを回します（時計回りに左側ドアのツマミを回し、反時計方向に右側ドアのツマミを回します）。その後、ドアを閉じてメカニカルキーで運転席側ドアを施錠します。このとき、車両が施錠されている状態でアウトドアハンドルを操作しても、ドアを開けることができません。



- 解錠する場合は、メカニカルキーで運転席側ドアを解錠します。解除後、車両に乗り込んでから他のドアのインナードアノブを操作してドアを解錠し、その後アウトドアハンドルを引くとドアを開けることができます。または、インナードアノブを1回引き上げてドアを解錠するか、もう1回インナードアノブを引き上げるとドアを開けることができます。

i アドバイス

- 緊急施錠時は、メカニカルキーの変形や折れがないように力を控えてください。

スマートエントリー&スタートシステム

機能を ON にする場合

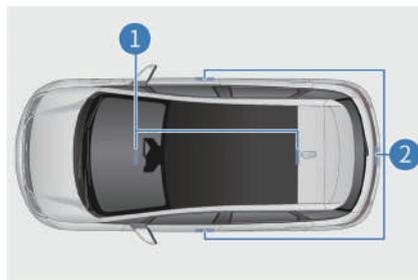
リモートキーの「ロック / アンロック」ボタンを押すと、ドアの施錠 / 解錠ができます（詳細は「[リモートキー操作での施錠 / 解錠](#)」または「[マイクロスイッチ操作での施錠 / 解錠](#)」をお読みください）。

車を始動する場合

リモートキーを携帯した状態でブレーキペダルを踏みながら「スタート / ストップ」ボタンを押すと、車両を始動できます（詳細は「[車の始動](#)」を参照してください）。

アンテナの搭載位置

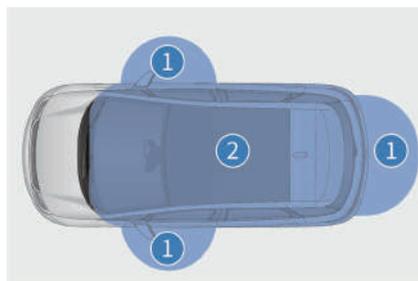
- ① 室内アンテナ
- ② 室外アンテナ



作動範囲

登録済みのリモートキーが作動範囲内にはない場合は、スマートエントリー&スタートシステム機能を使用できません。

- ① 機能が ON になる作動範囲——
フロントドアハンドルおよびテールゲートオープンスイッチから約 1m の範囲内。
- ② 機能が ON になる作動範囲——
室内。



他車のリモートキーが本車のリモートキーの近くにある場合は、ドアの解錠時間が通常より長くなりますが異常ではありません。

i アドバイス

次の場合は、スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しない場合があります。

- 近くにテレビ塔、発電所、ラジオ放送局などの強い電磁波を発生する施設があるとき。
- リモートキーを、双方向無線電話や携帯電話などの通信装置と一緒に携帯しているとき。
- リモートキーが金属に接触したり、覆われたりしているとき。
- ドアハンドルを素早く操作したとき。
- リモートキーがドアハンドルに近づいたとき。
- 近くにある別の車両の中で、ワイヤレスリモートコントロール機能を操作しているとき。
- リモートキーのバッテリーが切れているとき。
- リモートキーが、高電圧設備またはノイズが発生する設備の近くにあるとき。
- リモートキーを他車のスマートエントリー&スタートシステムのキーや、無線電波を発する他の装置と一緒に携帯しているとき。
- 作動範囲内であっても、一部の場所（インストールメントパネルの上、グローブボックスの中、床）では、リモートキーが正常に作動しないことがあります。

- スマートエントリーシステムが正常に作動せず車両に乗り込めない場合は、リモートキーに内蔵されているメカニカルキーで運転席側ドアの施錠/解錠を操作する、またはワイヤレスリモートコントロール機能ですべてのドアの施錠/解錠を操作できます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押してもスタート機能が正常に作動しない場合は、下記の要因が考えられます。
 - リモートキーが作動せずにコンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点灯し、コンビネーションメーターに「キーのバッテリー残量が少なくなっています。できるだけ早くバッテリーを交換してください」のメッセージが表示されているときは、リモートキーのバッテリーが切れていることが考えられます。
- スマートエントリー&スタートシステムが故障で正常に作動しない場合は、すべてのリモートキーをお持ちいただき、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での修理をしてください。

節電

- 運転していない場合でも、リモートキーと車両は常に通信を行っています。そのため、リモートキーを車内または車両から 2m 以内に置かないでください。
- リモートキーは、長時間強い電磁波を受信するとバッテリーを急速に消耗するため、以下のような機材から 1m 以上離してください。
 - テレビ
 - パソコン
 - ワイヤレス充電器
 - 電気スタンド
 - 電気蛍光灯スタンド

チャイルドロック

チャイルドロックは、リアシートに座っている子供が不注意でリアドアを開けるのを防ぐための機能です。チャイルドロック装置は、左リアドアおよび右リアドアの側面にあります。

- 1 チャイルドロック OFF
- 2 チャイルドロック ON

チャイルドロックを ON にすると、車内からリアドアを開けることができません。リアドアを開けるには、車外のドアハンドルを使用してください。



⚠ 注意

- 特にお子様を乗せている場合は、運転前にドアが閉まり、かつチャイルドロック機能が作動していることを確認してください。
- シートベルトを正しく着用しチャイルドロックを作動させることで、交通事故によるドライバーや乗客の車外放出を防止すると同時に、ドアが不意に開くことも防止します。

シートについて

- 運転席のシートポジションは、アクセルおよびブレーキペダル、ステアリングホイール、インストルメントパネル上の操作スイッチなどが、ドライバーの手が届く範囲になるように調節してください。
- 走行中は、シートバックを垂直に立てることが最も有効な保護対策です。シートバックにもたれるように座り、シートベルトを適切な位置に調節してください。
- 走行中に荷物が動かないよう適切に固定してください。また、荷物の積み込み高さはシートバックを超えないようにしてください。

⚠ 警告

- 倒したシートバックの上やトランクルームの中、荷物の上には座らないでください。シートに正しく座っていない場合やシートベルトを正しく着用していない場合、緊急ブレーキや衝突発生時に重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 走行中に乗員を立たせたり、シート間を移動しないでください。そうしないと、急ブレーキや衝突発生時に重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シート下にものを置かないでください。シートロック機構の機能に影響を与えたり、不意にシート調節レバーが持ち上がることでシートが急に動き出し、車両を制御できなくなるおそれがあります。
- 手や指が挟まれるおそれがあるため、シート調節時は手をシートの下に入れたり動作中の部品に近づけたりしないでください。
- シートバックを調節後は、後ろへ身体を倒してシートバックがロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、緊急ブレーキや事故の原因となり傷害を受けるおそれがあります。
- 運転中または走行中にシートバックを倒さないでください。シートベルトの肩ベルト部分が正しく着用できていない場合、事故発生時にドライバーや乗員が肩ベルト部分にぶつかって頸部などに重大な傷害を受けたり、腰ベルトから滑り出して重大な傷害を受けたりするおそれがあります。
- シートバックと背中の中にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が安定せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 折りたたんだシートバックの上に乗らないでください。シートの損傷や転倒によって思わぬ怪我をするおそれがあります。
- シートの思わぬ移動によって車両が制御不能にならないように、走行中は運転席シートの調節をしないでください。
- 乗員が正しく着座するまで、車両を発進させないでください。

⚠ 注意

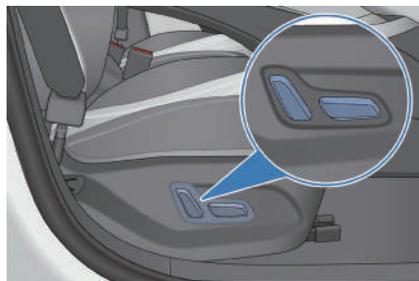
- ペダル、ステアリングホイールおよびインストルメントパネル上のコントローラーなどが、ドライバーの操作しやすい範囲にあるように運転席シートを調節してください。
- シートを適切な位置や角度に調節してから、シートベルトを着用してください。
- シートを調節する場合は、シートが乗員または荷物に当たらないように注意してください。

フロントシートの調節

フロントパワーシート位置の調節は、シートの前後位置、シートクッションの高さ*、シートバック角度調節を含みます。車両に装備されている機能に応じて、次の方法で調節してください。

シートポジション調節スイッチ

- 前後方向にシートポジション調節スイッチを操作すると、シートポジションを前後方向に調節することができます。
- スイッチの後部を上下方向に操作すると、シートクッションの高さを調節することができます。



シートバック角度調節スイッチ

- 前後方向にシートバック角度調節スイッチを操作すると、シートバックの角度を調節することができます。

i アドバイス

- スイッチから手を離すとシートは現在の位置に止まります。また、シートの動作を妨げるおそれがあるため、シートの下にはものを置かないでください。

ヒーターシステム

- ヒーターシステムは、 → A/C → 座席暖房 から ON/OFF を設定します。
- マルチメディアトップページの **プルダウンメニュー** から、シートヒーター設定アイコンを呼び出すことができます。

ヒーターシステムの調節

- ドライバーは、マルチメディアのシートヒーターアイコンを操作することで、動作を制御できます。ヒーター機能は、低温 (1) と高温 (2) の 2 段切替となっています。
- 電源ポジションを「ON」にするたびに、シートヒーターはデフォルトの OFF 状態となります。

リアガラスおよびドアミラーのヒーター

- ドライバーは、リアガラスおよびドアミラーのヒータースイッチを操作することで、リアガラスおよびドアミラーのヒーター機能を ON/OFF できます。

3

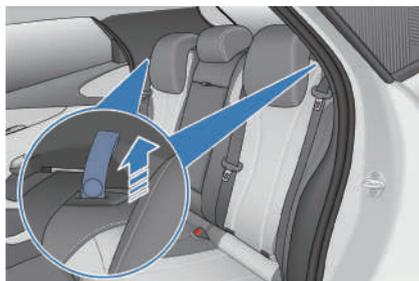
コントローラーの操作

警告

- 低温やけどの原因になるため、長時間連続して使わないでください。特に、乳幼児や高齢者、身体の不自由な方、薬を服用された方、糖尿病などの症状が原因で、痛みを感じる機能が低下している方は注意してください。
- 突起があるものをシートに載せたり、ピンなどのとがったもので突き刺したりしないでください。

リアシートの収納

リアシート上のストラップを引っ張ると、リアシートのシートバックを倒すことができます。



⚠ 警告

- シートバックを起こすときは、ゆっくりと手で戻してください。急に戻すと身体に当たり、思わぬ怪我をするおそれがあります。
- シートバックを起こすときは、シートベルトを挟み込まないでください。挟み込まれているとシートベルトを正しく着用できません。

ℹ アドバイス

- シートバックの倒し方や起こし方が速すぎると、リアシートおよびシートバック上のシートベルトの破損や機能の異常が起きるおそれがあります。そのため、リアシートを倒すまたは起こすときは、ゆっくりと操作してください。
- リアシートを展開する場合は、シートバックを勢いよく後方へ押し付けないようにしてください。シートバックに力が掛かり解錠できないおそれがあります。
- シートバックを起こす場合は、バックルがシート上の正しい開口部から露出しているかを確認してください。
- シートベルトのタングプレートをバックルに差し込む場合は、シートを反転させないでください。

ヘッドレスト

ヘッドレストの調節

ヘッドレストを高くする

ヘッドレストを適切な位置まで引き上げ、ロック音が聞こえたら手を離します。

ヘッドレストを低くする

ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを適切な位置まで下げ、ロック音が聞こえたら手を離します。

ヘッドレストの取り外し

ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを抜き出してからノブを離します。

ヘッドレストの取り付け

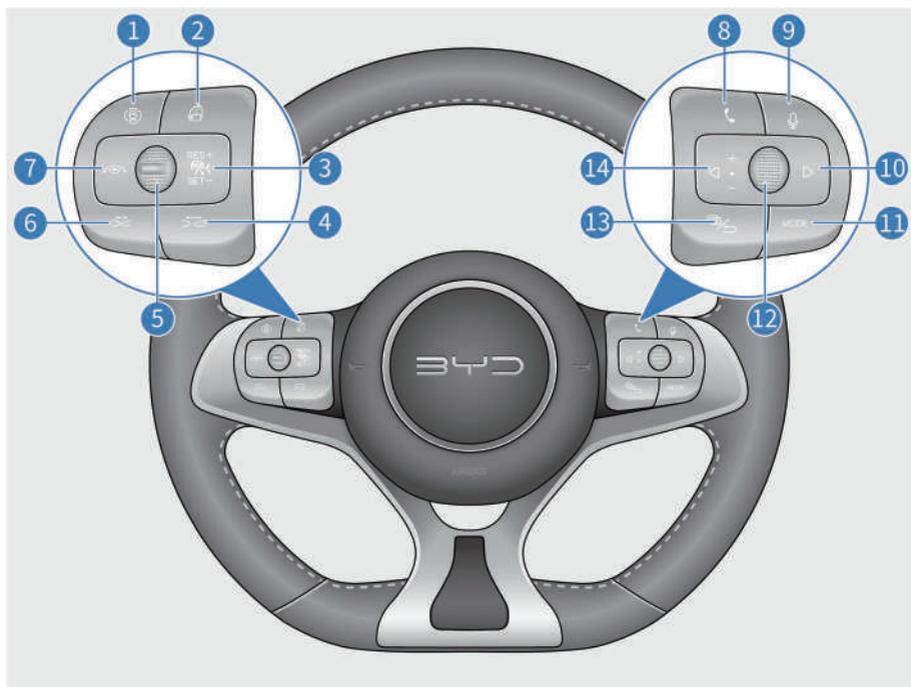
ヘッドレストの足を元の位置に差し込み、切り欠きが前に向くように保ちます。ヘッドレスト高さ調節ノブを押したまま、ヘッドレストを適切な位置まで下げてから手を離します。



警告

- ヘッドレストは、首や頭部の傷害を避けることができます。後頭部がヘッドレストの中心となるように調節していないと、ヘッドレストの効果を最大限に発揮できないため、乗員の身長に合わせてヘッドレストを適切な位置に調節してください。
- ヘッドレストの中心が耳の上部になるように位置を調節してください。
- ヘッドレスト調節後、調整した位置で確実にロックされていることを確認してください。
- ヘッドレストが装着されていない状態で運転しないでください。
- ヘッドレストのステーにものを掛けしないでください。

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ



- | | |
|-----------------------------|----------------|
| ① BYD アラウンドビューシステム | ⑧ 電話ボタン |
| ② スクリーン回転ボタン | ⑨ 音声制御ボタン |
| ③ クルーズスイッチ +/リセットまたは-/設定ボタン | ⑩ 右矢印ボタン |
| ④ 車間距離+ボタン | ⑪ モードボタン |
| ⑤ レバー | ⑫ ホイールボタン |
| ⑥ 車間距離-ボタン | ⑬ メーター/リターンボタン |
| ⑦ ナビゲーションパイロットボタン | ⑭ 左矢印ボタン |

車両の電源ポジションを「OK」にすると、オーディオコントロールスイッチが使えるようになります。

左側ボタン

BYD アラウンドビューシステム

- ボタンを押すと、BYD アラウンドビューシステムの ON/OFF を設定できます。

スクリーン回転ボタン

- ボタンを押すと、マルチメディアタッチスクリーンが回転します。

+ / リセットボタン

- ACC を有効にして、前回のシステム設定値を呼び出します。

クルーズスイッチボタン

- アダプティブクルーズコントロール (ACC) システムの ON/OFF を操作できます。

- / 設定ボタン

- 現在の速度を ACC の設定速度として設定します。

車間距離 + ボタン

- アダプティブクルーズコントロール (ACC) 追従走行機能の作動中に、前の車との車間距離を 4 段階で調整でき、1 回押すと 1 段上がります。

車間距離 - ボタン

- アダプティブクルーズコントロール (ACC) 追従走行機能作動中に、前の車との車間距離を 4 段階で調整でき、1 回押すと 1 段下がります。

ナビゲーションパイロットボタン

- ボタンを押すと、ナビゲーションパイロットシステムの ON/OFF を設定できます。

アドバイス

- アダプティブクルーズコントロール機能の詳しい使い方については、[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)および[ナビゲーションパイロット \(ICC\)](#)を参照してください。

右側ボタン

ホイールボタン

- メーターメニューモード以外でのマルチメディア音量調節：
 - 上方向にホイールを回す：最大音量になるまで音量を1段ずつ上げます。
 - 下方向にホイールを回す：最小音量になるまで音量を1段ずつ下げます。
 - ホイールを押す：ミュートモードになります。
- メーターメニューモードでの調節：
 - 上方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールアップで第2階層 / 第3階層メニューを選びます。
 - 下方向にホイールを回す：メーターメニューモードでは、スクロールダウンで第2階層 / 第3階層メニューを選びます。
 - ホイールを押す：メーターメニューモードでは、現在のオプションの詳細メニューに入るか、現在の設定を確定します。

⚠ 注意

- メーターメニューモードをONにすると、マルチメディアシステムはミュートモードになります。マルチメディアの音量を調節する場合は、メーターメニューモードをOFFにしてください。

左矢印 / 右矢印ボタン

- マルチメディアラジオモードの場合：
 - ◀ボタンを押すと、前の放送局を選局します。
 - ▶ボタンを押すと、次の放送局を選局します。
- USB/Bluetooth® 音楽 / サードパーティ APP モードなどの場合：
 - ◀ボタンを押すと、前の曲を再生します（曲番号 - 1）。
 - ◀ボタンを押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示され、スクロールアップで希望の項目を選びます。
 - ▶ボタンを押すと、次の曲を再生します（曲番号 + 1）。
 - ▶ボタンを押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示され、スクロールダウンで希望の項目を選びます。

- メーターメニューモードの場合：
 - ◀ボタンを押すと、左へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。
 - ▶ボタンを押すと、右へメインメニューおよびそのサブメニューを切り替えます。

電話ボタン

- ボタンを押すと、電話をかけるまたは電話に出れます（オーディオシステムがミュートモードに入ります）。
- システムが Bluetooth と関係のない画面を表示し、Bluetooth を接続していない状態で短く押すと、システムが電話機選択メイン画面に切り替わります。Bluetooth に接続されている場合は、システムがダイヤル画面に切り替わります。
- ダイヤル画面に電話番号を入力するか、通話記録や電話帳画面から電話番号を選んでボタンを短く押すと、ダイヤル機能が作動します。
- Bluetooth に接続した状態でダイヤル画面に番号が入力されていない場合は、ボタンを短く押すとシステムが通話記録画面における発信履歴画面に直接切り替わります。再度押すと、システムが発信履歴画面の一番上の電話番号を自動的にダイヤルします。

音声制御ボタン

- ボタンを押すと、マルチメディアが音声制御画面に切り替わり、BYD インテリジェント音声制御機能を操作できます。
- 再度ボタンを押すと、新たに音声コマンドが入力できます。

メーター / リターンボタン

- コンビネーションメーターがメニューモード以外の場合、メーター / リターンボタンを押すと、メーターメニューが表示されます。
- コンビネーションメーターがメニューモードの場合、メーター / リターンボタンを押すと、前の画面に戻ります。前の画面がないときは、メニュー画面が閉じます。
- Bluetooth 通話画面の場合は、短く押すことで通話を終了できます。

モードボタン

- モード選択：モードボタンを押すと、メディア APP、周辺機器、プリインストール APP を切り替えることができます。

ホーンボタン

- ホーンのパッド面を押すとホーンが鳴り、手を離すとホーンが止まります。

▲ 注意

- ホーンの破損につながるおそれがあるため、長時間ホーンのパッド面を押さないでください。

ⓘ アドバイス

- 交通ルールを守り、ホーンを適切に使ってください。

ステアリングホイールの手動調節

ステアリングホイールの角度を調節する場合は、ステアリングホイールを握りながら次の操作を行います。

- ステアリングホイールの調節レバーを下に押し、ステアリングホイールを希望の位置に調節してから、レバーをロック位置に戻します。



3

コントロールローラーの操作

⚠ 警告

- 走行中にステアリングホイールの調節をしないでください。操縦を誤り、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
- ステアリングホイールを調節した後、上下方向に動かして確実に固定されていることを確認してください。

パワーステアリングモードの設定

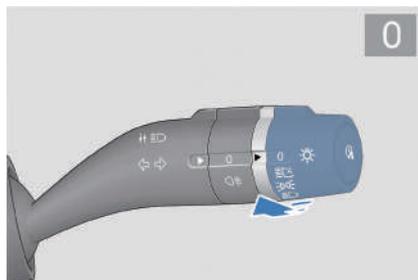
- パワーステアリングの感触は人によって違うため、ドライバーによりパワーステアリングの感触の評価やニーズも異なります。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から、**ステアリングアシスト** で **コンフォート/スポーツ** の操舵モードを選択できます。

ℹ アドバイス

- 高速走行時にステアリングの操作力が軽く感じる場合は、ステアリングアシストの設定を **スポーツモード** に設定することをおすすめします。

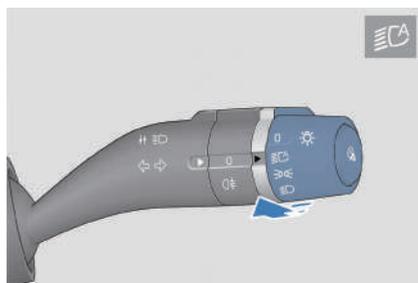
ライトスイッチ

ライトスイッチを 0 に回すと、デイトタイムランニングライト以外のすべてのライトが消灯します。



オートライト

ライトスイッチを  に回すと、BCM (Body Control Module) が照度センサーで周囲の明るさを取得し、自動でポジションランプやロービームの ON/OFF を制御します。

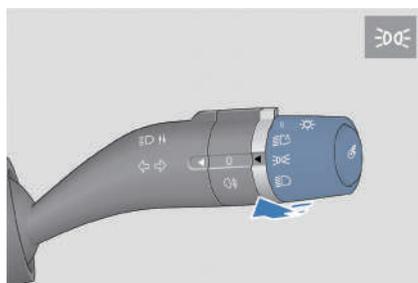


▲ 注意

- 照度センサーはインストルメントパネルの上端部にあります。センサーを遮ったり液体を掛けたりしないでください。

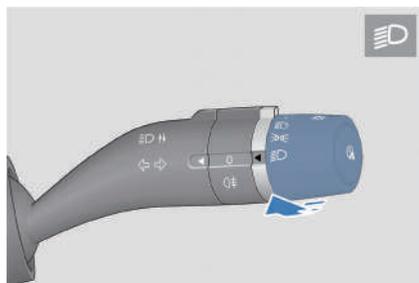
ポジションランプ

ライトスイッチを  に回すと、フロントポジションランプ、リアポジションランプおよびライセンスプレートランプが点灯します。



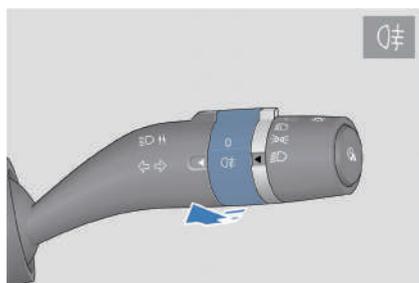
ロービーム

ライトスイッチをに回すと、ロービームが点灯します。



リアフォグランプ

ライトスイッチをに回し、リアフォグランプスイッチをに回すと、リアフォグランプが点灯します。



3

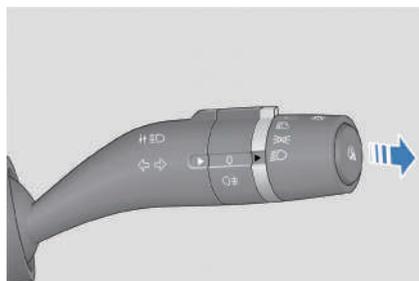
コントローラーの操作

⚠ 警告

- 晴天時には使用しないでください。後方車の視界を悪化させるおそれがあります。
- リアフォグランプは、霧や雨、雪などの悪天候で視界が悪いときに使用してください。

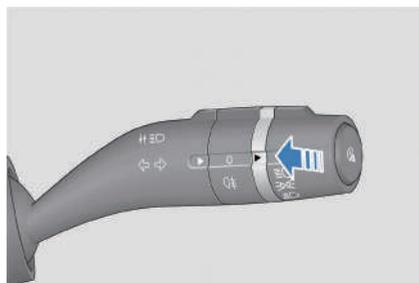
ハイビーム

ライトスイッチをに回し、ライトスイッチのレバーを前方（ステアリングホイールから離れる方向）に押し、ハイビームが点灯します。ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づける方向）に引くと、ハイビームが消灯します。「前または後ろ」方向にライトスイッチを操作する、ロービームをOFFにする、または電源ポジションを「OK」にすると、ハイビームが消灯します。



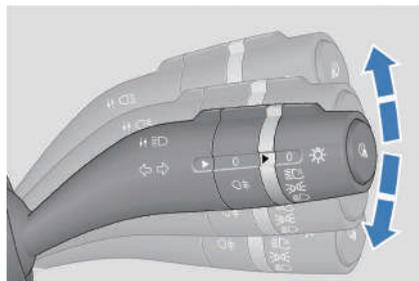
パッシングライト

ライトスイッチのレバーを手前（ステアリングホイールに近づける方向）に引くと、パッシングライトが点灯します。手を離すとライトスイッチが自動で戻り、パッシングライトが消灯します。



ターンシグナルランプ

- コンビネーションスイッチのレバーを上方向に上げると、左ターンシグナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- コンビネーションスイッチのレバーを下方向に下げると、右ターンシグナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- ターンシグナルランプを点けた後に手を放しても、ターンシグナルランプは点滅し続け、曲がり切ると自動で消灯します。ドライバーの運転の違いにより、特別なケースでは、ステアリングホイールを1回転させないとリセットしない場合があります。



オート OFF 機能

- オート OFF 機能の作動条件：ライトスイッチをまたはに回し、電源を「スタート」から「ストップ」に切り替えると ON になります。
- 機能が ON の状態で運転席側ドアが閉まっている場合は、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが 10 秒後に消灯します。
- 機能が ON の状態で運転席側ドアが開いている場合は、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが 10 分後に消灯します。
- 自動で消灯した後にライトスイッチのポジションを切り替えた場合は、切り替えたポジションに応じてライトが点灯します。このとき、作動条件が揃うと、再度オート OFF 機能が作動します。
- オート OFF 機能の解除：車両の電源を入れると機能が OFF になり、ライトスイッチは通常通り操作できます。
- オート OFF 機能によりランプが消灯し、イモビライザー作動後に再度イモビライザーを OFF にした場合は、消灯したランプが自動で再度点灯します。運転席側ドアを開けていないときは、オート OFF 機能によりランプが 10 秒後に再度消灯し、ドアを開けているときは、ランプが 10 分後に消灯します。

ヘッドライト残照機能

- 降車後のヘッドライト点灯機能：
 - ドライバーは、マルチメディアから降車後のヘッドライト点灯機能の点灯時間を設定できます。点灯時間の初期値は 10 秒です。ライトスイッチを、、またはに回し、電源ポジション「OFF」ですべてのドアを施錠し車両から離れようとするとき、該当ライトが 10 秒（または設定された時間）点灯します。
- 乗車前のヘッドライト点灯機能：
 - ドライバーは、マルチメディアから乗車前のヘッドライト点灯機能の点灯時間を設定できます。点灯時間の初期値は 10 秒です。ライトスイッチを、、またはに回し、車両を解錠した状態で接近すると、該当ライトが 10 秒（または設定された時間）点灯します。
- ライトの点灯時間および消灯時間は、 → 車両設定 → 照明&アンビエント の画面で設定値を変更することができます。

ヘッドライトの高さ調節

ドライバーは、ロービームを ON にした状態で  → 車両設定 → 照明&アンビエント の設定画面から **ヘッドライト高さ調整** で、ヘッドライトの照射角を調整できます。



車の負荷状況	ライトの推奨レンジ
ドライバーのみ	0 ~ 2
ドライバーおよび助手席の乗員	
満員	0 ~ 2
満員、トランクルーム満載（均一分布で、技術上許容される最大負荷で計算します）	1 ~ 3
ドライバーのみ、トランクルーム満載（均一分布で技術上許容される最大負荷で計算します）	1 ~ 3

■ 車両により負荷状況が異なる場合があるため、実際の状況に応じて調整してください。

ワイパースイッチ

フロントワイパーとウォッシャー

- ワイパースイッチを動かしてワイパーとウォッシャーを操作します。ワイパースイッチは5段切り替えとなっています。
 - ▲：高速モード
 - △：低速モード
 - ☒：間欠モード
 - 0：停止
 - ▽：ミストモード
- モードを切り替える場合は、上または下にワイパースイッチを操作します。
- 低速および高速モードの場合、ワイパーは連続的に作動します。
- ミストモード▽でワイパーを作動する場合は、0位置からワイパースイッチを下方向に下げます。ワイパースイッチを離すまでワイパーが低速で作動します。
- 間欠モード☒の場合は、ワイパースイッチの間欠時間設定つまみを回すと間欠時間を調整します。間欠時間は、雨量マークの幅が狭くなるほど長くなります。



フロントウォッシャー

- フロントガラスを洗浄する場合は、ワイパースイッチを手前（ステアリングホイールに近づく方向）に引くと、ウォッシャー液が噴射すると同時にワイパーが作動します。
- ワイパースイッチの操作時間が1秒以下のときはワイパーが1回作動します。1秒以上のときはワイパーが2回作動します。

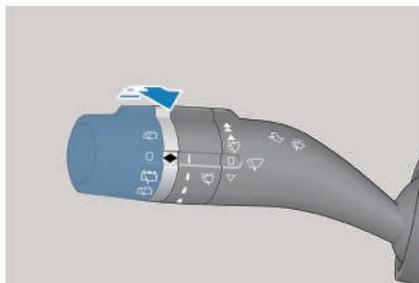
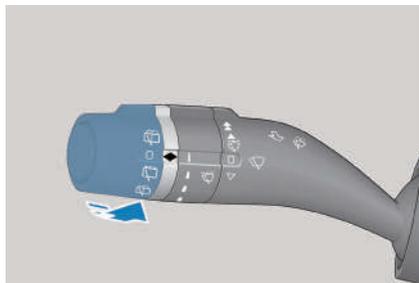


⚠ 警告

- 寒冷時は、ガラスに噴射したウォッシャー液が凍結することで視界が妨げられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、ガラスをヒーターで温めてください。
- 寒冷地では不凍剤の含まれたウォッシャー液を使用してください。不凍剤が入っていないウォッシャー液を使用すると、ガラスの視界が妨げられることがあります。

リアワイパーおよびウォッシャー*

- ワイパースイッチのツマミを  位置に回すとリアワイパーが作動します。ツマミを 0 に回すとワイパーが止まります。
- ワイパースイッチのツマミをリアワイパー  位置に回すと、リアワイパーとウォッシャーが同時に作動します。
- ワイパースイッチのツマミをリアワイパー  位置に回して手を離すと、ウォッシャー液が噴射した後にワイパーが2回作動します。



▲ 注意

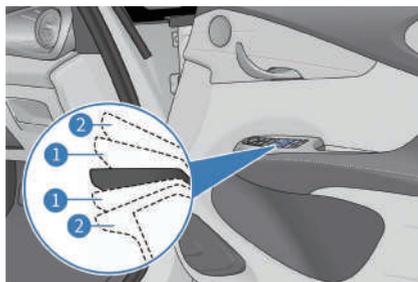
- オーバーヒートによりモーターが破損するおそれがあるため、ウォッシャを 10 秒以上連続で作動させる、またはウォッシャ液が切れている状態で作動しないでください。
- ワイパー機能は車両仕様により異なるため、詳細は実際の車両を参照してください。

① アドバイス

- 定期的にブレードを点検し、ブレードの汚れを除去してください。
- 雨が降り出した直後にワイパーを作動すると土砂やホコリが混ざり、フロントガラスをきれいに拭き取れないことがあります。また、視界もぼやけてしまうため、運転に影響を与えるおそれがあります。
- ガラス洗淨液を使ってください。水や他の洗淨液を使うと、ワイパーモーターの破損につながるおそれがあります。
- テールゲートが開いている、または確実に閉まっていない場合は、リアワイパーの制御機能が作動しません。テールゲートを確実に閉めるとリアワイパーの制御機能が復帰します。

パワーウィンドウスイッチ *

- 車両の電源ポジションを「OK」にすると、ドアにあるコントロールスイッチでウィンドウガラスの開閉を制御できます。
 - ウィンドウガラスを下げる——パワーウィンドウスイッチを押します。
 - ウィンドウガラスを上げる——パワーウィンドウスイッチを引上げます。

**手動操作**

- パワーウィンドウスイッチをポジション①の位置で押し続けるとウィンドウガラスが下がり続け、手を離すと止まります。パワーウィンドウスイッチをポジション①の位置で引き上げ続けるとウィンドウガラスが上がり続け、手を離すと止まります。

自動開閉

- パワーウィンドウスイッチをポジション②まで押してから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で下がります。パワーウィンドウスイッチをポジション②まで引き上げてから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で上がります。ガラスが上がるまたは下がる途中でパワーウィンドウスイッチを任意の方向に操作すると、ウィンドウガラスの動作がキャンセルされます。

挟み込み防止機能*

ウィンドウガラス上昇中に人やものが挟まれるとウィンドウガラスの上昇が止まり、自動で下がります。

ウィンドウガラスの自動上昇機能または挟み込み防止機能が故障している場合

- ウィンドウガラスの自動上昇の際に挟み込み防止機能が効かなくなったときは、次の方法で復帰させることができます。
 - ガラスを全閉にしてから約 2 秒間パワーウィンドウスイッチを引き上げ続け、ウィンドウガラスを全開にしてから約 2 秒間パワーウィンドウスイッチを押し続けると、自動上昇および挟み込み防止機能が自動的に復帰します。

電源ポジション OFF 後の作動機能

- 車両の電源ポジション「OFF」後にフロントドアを開けない場合、10 分以内まではウィンドウガラスの開閉機能でウィンドウガラスの開閉操作ができます。フロントドアを開けると、ウィンドウガラスの開閉操作ができなくなります。

警告

- パワーウィンドウを閉じる場合は、ウィンドウガラスで手や指を挟まないようにしてください。
- 走行中は顔や身体を車外に出さないでください。車外のもの当たり、重大な傷害につながるおそれがあります。
- ウィンドウガラスを開閉するときはお子様に声をかけ、手や指などを挟まないことを確認してから操作してください。
- リアシートにお子様に乗っている場合は、リアウィンドウスイッチをロックすることをおすすめします。

⚠ 警告 (続き)

- 挟み込み防止機能を身体の一部で故意に作動させないでください。
- 生命にかかわる重大な傷害を防止するために、ウィンドウガラスを閉める場合は下記の注意事項を守ってください。
 - ウィンドウガラスを操作するときは、ドライバーや乗員の身体が挟まれないようにきちんと確認してから操作してください。
 - 絶対に、お子様にパワーウィンドウを操作させないでください。

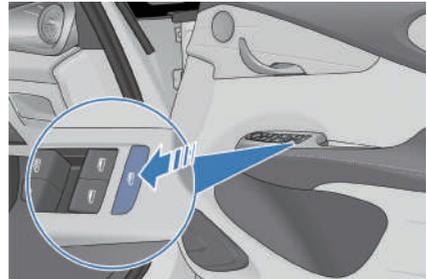
⚠ 注意

- ウィンドウガラスが閉まり切る直前に挟まれた場合、ものによっては、挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。
- ウィンドウガラスの自動上昇機能と挟み込み防止機能が作動しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼してください。

ウィンドウロックキー

ウィンドウロックキーを押してウィンドウロック表示灯が赤色に点灯した場合、ドライバー側のスイッチでのみ、4ドアのウィンドウガラスの開閉操作ができます。リアウィンドウスイッチはウィンドウガラスの開閉ができません。

再度ウィンドウロックキーを押すとウィンドウロック表示灯が消灯し、リアウィンドウスイッチが操作できます。



集中ドアロック

運転席側ドアには電動ドアロックを搭載しており、2つのボタンですべてのドアの施錠や解錠ができます。

施錠

「集中ドアロック施錠」ボタンを押すと、すべてのドアロックが同時に施錠され、施錠の表示灯が赤く点灯します。

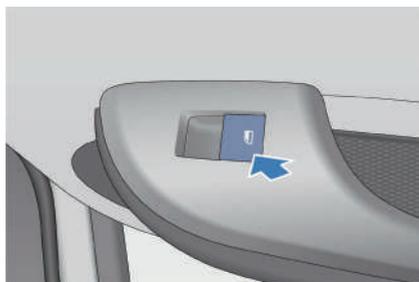


解錠

「集中ドアロック解錠」ボタンを押すと、すべてのドアロックが同時に解錠され、施錠の赤の表示灯が消灯します。

助手席側ウィンドウスイッチ

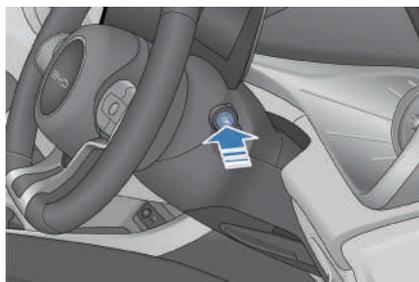
車両の電源ポジションが「OK」または「OFF」（電源ポジション OFF 後の作動機能中）の状態ですべての助手席側ウィンドウスイッチを操作すると、助手席側のウィンドウガラスを上昇または下降することができます。



走行距離切替スイッチ

「走行距離切替」スイッチを押すと、「odo メーター」——「TRIP A」——「TRIP B」の切り替えができます。同時に、コンビネーションメーターには切替状態が表示されます。

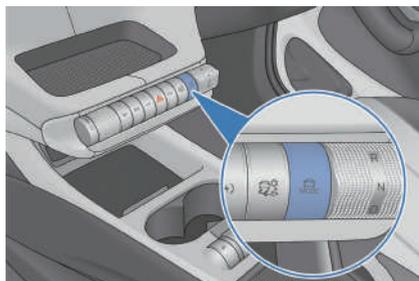
「TRIP A」、「TRIP B」を長押しすると、走行距離をリセットできます。



モードスイッチユニット

「MODE」 モードスイッチ

上方向または下方向へホイールスイッチを回すと、NORMAL/ECO/SPORTモードに切り替えることができます。

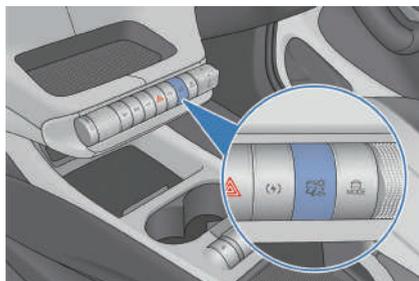


- ECO (エコ) モード：モーター出力を抑制することで電費を向上し、快適なドライブ体験が得られるモードです。
- NORMAL (ノーマル) モード：標準設定モードで、システムのデフォルトとして設定されている走行モードです。
- SPORT (スポーツ) モード：良好なモーター出力が得られますが、バッテリーの残量が少ない場合や車両が高温または低温などの環境にある場合は、加速性能がやや低下します。

スノーモードスイッチ

- 上方向にホイールスイッチを回すと、車両がスノーモードになります。下方向へホイールスイッチを回すと、スノーモードがOFFになります。

- 表面が固いものや滑りやすいもの（草、雪、氷や砂利など）で覆われている路面で使用します。
- スノーモードは、滑りやすい道路でのトラクション、乗り心地、ハンドリング特性を最適化しますが、スノーモードでも、滑りやすい道路を走行するときはアクセルペダルをゆっくり踏んで速度を抑えてください。



▲ 注意

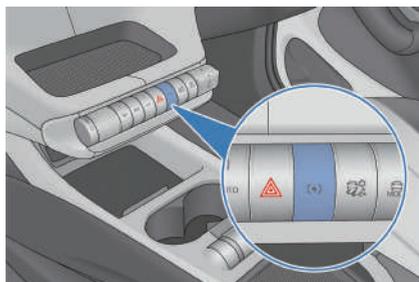
- ESC を有効にしている場合は、車両の出力トルクを制限することがあります。車両が積雪でスタックしたときは、一時的に ESC を OFF にすることで脱出できることがあります。また、スタックから脱出した後は、再度 ESC を ON にしてください（詳細は、[インテリジェントパワーステアリングシステム](#)を参照してください）。

i アドバイス

- ドライバーが「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモード」に切り替えてアクセルペダルを完全に離すと、モーターの出力特性がドライバーのニーズに応じて変わるため、注意してください。
- 「ECO モード」、「NORMAL モード」、「SPORT モード」、「スノーモード」では、電源 OFF 時の記憶機能を備えており、電源を切ってから再始動した場合、前回電源 OFF 時のモードを維持します。

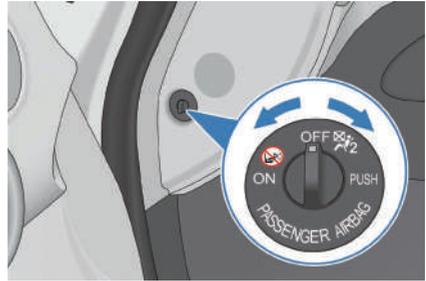
「回生ブレーキ」モードスイッチ

上方向または下方向へホイールスイッチを回すと、標準/強回生ブレーキモードに切り替えることができます。



助手席側エアバッグスイッチ

- 助手席側エアバッグスイッチが装備されている場合は、スイッチ操作で助手席側フロントエアバッグを OFF にすることができます。
- 助手席側エアバッグスイッチは、助手席側インストルメントパネルにあります。操作する場合は、助手席側ドアを開けて操作してください。
- 助手席側フロントエアバッグ状態表示灯は、車両上側のヘッドライニング部にあります。
- 運転前に、助手席エアバックスイッチの位置を必ず確認してください。
- 助手席の使用状況により、助手席側エアバッグの ON または OFF を操作してください。
 - スイッチが「ON」の位置にある場合は、助手席側エアバッグが ON になります。助手席側エアバッグ状態表示灯「PASSENGER AIRBAG」および「ON」とアイコンが点灯し、「OFF」とアイコンが消灯します。中程度から重度の衝突事故が発生し作動条件が揃うと、助手席側エアバッグが展開します。
 - スイッチが「OFF」の位置に入っている場合は、助手席側フロントエアバッグが OFF になります。助手席側フロントエアバッグ状態表示灯「PASSENGER AIRBAG」が常時点灯し、「ON」とアイコンが消灯して「OFF」とアイコンが点灯します。中程度から重度の衝突事故が発生し作動条件が揃っていても、助手席側フロントエアバッグは展開しません。



⚠ 警告

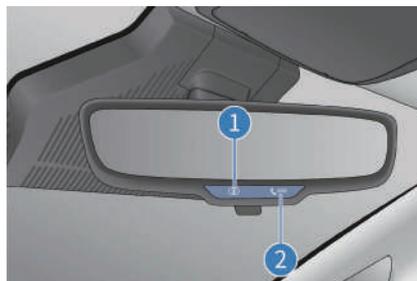
- 生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、助手席側エアバッグを「ON」にした場合は、助手席に後ろ向き装着タイプのチャイルドシートを取り付けないでください。
- 大人が助手席に座る場合は、必ず助手席側エアバッグスイッチを「ON」にしてください。
- スイッチを「OFF」にしているのに、助手席側エアバッグスイッチが「ON」の状態になっている場合は、ただちにBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 注意

- エアバッグシステムの破損を防ぐため、車両の電源ポジションを「OFF」にしてからスイッチを操作してください。
- ドライバーは、助手席側の乗員のためにスイッチが正しい位置にあることを確認してください。

自動緊急通報システム E-Call

- 1 E-Call 状態表示灯
- 2 SOS ボタン



- E-Callとは、緊急通報システム (Emergency Call) のことです。E-Callは、ルームミラーにある SOS ボタンを 1 秒～ 10 秒間押すと作動します。SOS ボタンを 10 秒～ 20 秒押し続けても、E-Call は作動しません。
- ドライバーが誤って SOS ボタンを押した場合、5 秒以内に再度 SOS ボタンを押すと、呼び出しをキャンセルできます。
- エアバッグの展開または激しい衝突を検知すると、E-Call は自動で作動します。
- E-Call システムが作動すると自動で緊急通報を行い、位置情報などを第三者のサービスプロバイダーに発信します。

3

コントロールローラーの操作

⚠ 警告

- SOS の呼び出しボタンを押すときは、安全なところに停車してから行ってください。走行中に押そうとすると注意が散漫になり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

⚠ 注意

- SOS ボタンを 20 秒以上押し続けると、SOS ボタンがショートしている (ボタンが引っかかっている) 状態と判断されるため、SOS ボタンを押しても E-Call は作動しません。
- E-Call を発信すると、手動操作でキャンセルすることができなくなります。サードパーティのサービスプロバイダーが緊急通報を切る、または 10 回以上連続発信しても繋がらない場合は、システムが 60 分間コールバック待ち状態に入ります。

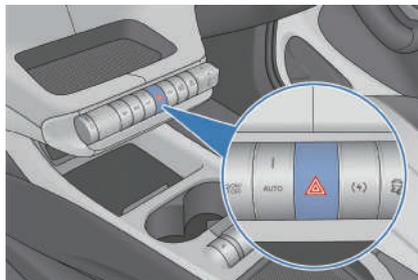
i アドバイス

- E-Call とは、事故や急病などの緊急時に、消防や警察、医療機関への連絡を補助するサービスです。
- エアバッグが展開する自動緊急通報後は、自動通報機能が使用できなくなりますので、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

作動状態	LED 表示灯	ブザー
車両の電源が入っていない、 または E-Call システムに 重大な故障が発生している	消灯	/
車両始動時のセルフテスト中	速い点滅 -2Hz	/
車両の電源が入っており、 E-Call システムの セルフテストで異常がない	セルフテストで異常がない 場合は常時点灯	/
E-Call 発信中	点滅 -1Hz	ブザーが 1 回鳴る
E-Call 音声通話接続中	点滅 -1Hz	ブザーが 1 回鳴る
E-Call 音声通話が終了	常時点灯	音声通話が切れると、 ブザーが 2 回鳴る
コールバック中 (デフォルト値 60 分間)	遅い点滅 -0.2Hz	/

ハザードランプスイッチ

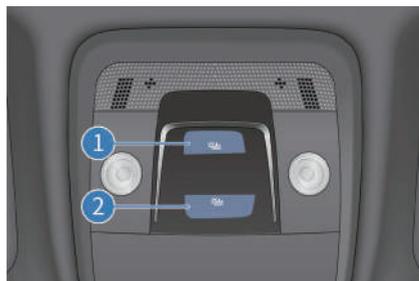
上方向または下方向へホイールスイッチ  を回すとすべてのターンシグナルランプが点滅し、コンビネーションメーター内の方向指示表示灯も同時に点滅します。上方向または下方向へホイールスイッチ  を再度回すと、点滅が止まります。



サンシェードスイッチ *

サンシェードを開ける

- サンシェードオープンボタン①を押し続けると、サンシェードが開きます。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードオープンボタン①を押し続けた直後に離すと、サンシェードは自動で開きます。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。



サンシェードを閉める

- サンシェードクローズボタン②を押し続けると、サンシェードが閉まります。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードの初期化をしている場合、サンシェードクローズボタン②を押し続けた直後に離すと、サンシェードが自動で閉まります。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

警告

- サンルーフに挟まれると重大な傷害につながるおそれがあるため、サンシェードを開閉する場合は手や頭部を挟まないように注意してください。
- サンシェードの破損を避けるため、サンシェードの開閉中はサンシェードに強い外力を与えないでください。

初期化方法

- 挟み込み防止機能の正常な動作を確保するため、サンシェードの操作システムに障害が発生した場合は、ワンタッチでサンシェードを開閉できなくなることがあります。このようなときは、以下の操作で初期化を行い復旧してください。
- サンシェードが全閉位置になるまでサンシェードクローズボタン②押し続けます。「カチッ」という音が聞こえてから手を離すと、サンシェードの初期化が完了します。

⚠ 注意

- 初期化ができない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に修理を依頼してください。

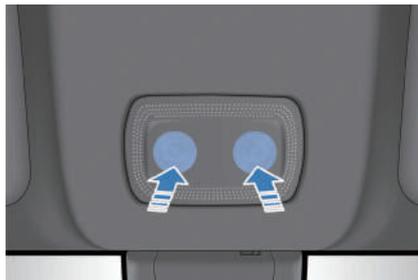
ルームランプスイッチ

電源ポジションを問わず、フロントルームランプのレンズに触るとランプが点灯します。

仕様 1



仕様 2

**i アドバイス**

- いずれかの電源ポジションで DOOR スイッチを ON にしている場合、ドアが開いている状態でスイッチに触ると、ルームランプの高照度・低照度を切り替えることができます。
- 電源ポジションを「OFF」にして DOOR スイッチを ON にしている場合、ドアが開いている状態でルームランプがしばらく点灯し、その後消灯します。

4-1 充電 / 放電について	111		
充電について	111		
充電方法	117		
充電ポート盗難防止			
ロック機能	128		
外部給電方法	130		
4-2 バッテリー	133		
パワーバッテリー	133		
起動バッテリー (12V)	137		
4-3 ご利用要領	140		
慣らし運転期間	140		
トレーラーのけん引	140		
安全運転上のご注意	141		
利用時についてのアドバイス	142		
荷物の積み込み	144		
冠水路の走行	146		
火災の予防	148		
電気の省エネで車を			
長持ちさせる方法について	150		
4-4 始動および運転	152		
車の始動	152		
車の運転	154		
シフト機構	156		
電動パーキングブレーキ			
(EPB)	158		
オートビークルホールド			
(AVH)	163		
運転要領	166		
4-5 運転支援機能	168		
アダプティブクルーズコント			
ロール (ACC) システム	168		
		ナビゲーションパイロット	
		(ICC)	175
		衝突予測警告 (PCW) および	
		自動緊急ブレーキ (AEB)	179
		フロントクロスストラフィック	
		アラート (FCTA) および	
		フロントクロスストラフィック	
		オートブレーキ (FCTB)	184
		交通標識認識システム	
		(TSR)	186
		インテリジェントスピード	
		リミットコントロール	
		(ISLC)	188
		インテリジェントハイビーム	
		(IHBC)	190
		レーンサポートシステム	
		(LDA)	192
		緊急時車線維持支援	
		(ELKA)	196
		ブラインドスポットアシスト	
		システム (BSA)	198
		ドライバー眠気注意力警告	
		(DAW)	201
		幼児置き去り検知 (CPD)	202
		タイヤ空気圧モニタリング	204
		車両接近通報装置 (AVAS)	206
		BYD アラウンドビュー	
		システム	207
		駐車支援システム	209
		安全運転支援システム	214

4-6 他の主要機能について…	221
ルームミラー……………	221
電動ドアミラー……………	222
ワイパー……………	223
タイヤチェーン……………	225

充電について

- 車両の破損を防ぐため、充電時は下記の内容に注意して充電してください。
 - 車両側の充電ポートを破損するおそれがあるため、充電コネクタを揺らさないでください。
 - 雷雨時はバッテリーを充電しないでください。落雷による車両の破損につながるおそれがあります。
 - 充放電設備は落下させないように注意し、移動時は直接ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電故障や火災を防ぐため、充電設備および関係ポートの改造や分解したり、許可なく修理したりしないでください。故障したときはBYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

警告

- 充電設備は高電圧が掛かっているため、お子様だけで充電を行ったり充電設備を使用したりしないでください。また、充電中はお子様を充電設備に近づけないでください。
- 充電が医療電子機器や植え込み型電子機器に与える影響については、電子機器メーカーへ確認してから充電作業を行ってください。
- 安全な場所で充電してください（液体、火元、熱源などがある環境を避けるなど）。
 - 雨の中で充電するときは水が掛からないように充電設備を保護してください。
 - 雷が鳴っているときは落雷で感電するおそれがあるため、車両、充電器、充電ケーブルに触れないでください。

▲ 警告 (続き)

- 充電前の設備点検および操作について
 - 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗やポートの錆び、ケースの割れ、またはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
 - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートの金属端子が錆びや腐食で破損している、または緩みがあるときは充電しないでください。
 - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートが明らかに汚れている、または濡れているときは、乾燥している清潔な布で拭いてください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、プラグやコード、ケーブルを動かすと充電が停止する場合は、使用を中止してください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、コードやケーブルを引く、ねじる、曲げる、踏む行為はしないでください。
 - コードやケーブルが断線して発熱し、発火するおそれがあるため、コードやケーブルをコネクタやコントロールボックスなどに巻き付けしないでください。
 - 給電プラグは本体部分を持ち、コンセントに対して真っすぐ奥まで押し込んでください。確実に押し込めていないと、発熱して発火するおそれがあります。
- 規格に適合する充電設備で充電してください。
 - 誤って使用すると感電のおそれがあるため、充電用コンセントは電気工事の資格を有する専門業者が施工したものを使用してください。
 - 誤って使用すると感電のおそれがあるため、アースがつながっている充電用コンセントを使用してください。
 - 故障や火災を防ぐため、充電設備および関係ポートの改造や取り外し、または修理をしないでください。
 - 安全基準を満たさない、または潜在的危険性がある充電設備で充電しないでください。また、充電中はお子様やペットを充電設備に近づけないでください。
- 充電中に車両や充電設備に異常が見つかった場合は、ただちに充電を停止し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 充電中は、モータールームを開ける必要がある修理をしないでください。
- 感電による傷害につながるおそれがあるため、充電完了後は、濡れた手や水の中などに入った状態で充電設備を切り離さないでください。
 - 発進する前に、充電設備が充電ポートから切り離されていることを確認してください。

充電上のご注意

- コンビネーションメーター内のパワーバッテリー残量 (SOC) 表示が赤いエリアにある場合は、パワーバッテリーの残量が低下しています。残量が赤いエリアまで低下しているときは、パワーバッテリーの寿命に影響を与えるおそれがあるため、早めに充電してください。
- 家庭用 AC 普通充電とは、車両に装備されている車載 AC 充電ケーブルで充電することで、規格に適合する専用交流回路と電源ソケットを使用して充電してください。また、専用回路は、回路の破損またはパワーバッテリーへの高出力充電による回路トリップから安全を守るためのものであり、専用回路を使わないと回路上の他の機器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 充電設備の破損を防ぐために（充電設備利用上の注意事項）：
 - 充電設備に衝撃を与えないでください。落下や外部からの衝撃などによる機械的破損がないように注意してください。
 - 充電設備をヒーターや他の熱源の近くに置かないでください。
- 充電前に充電コネクタを挿し込む：
 - 充電前に、充電コネクタと充電ポートに異物が付着していない、充電コネクタ端子の絶縁キャップに緩みや変形がないことを確認します。
 - 充電コネクタを持ち、充電コネクタを充電ポートに合わせてから押し込み、充電コネクタを充電ポートに確実に取り付けます。
- 充電完了後に充電コネクタを抜き出す：
 - 充電を停止し、充電ポートが解錠されていることを確認します。
 - 充電コネクタを持ち、充電コネクタ上のボタンを押しながら充電コネクタを抜き出します。
 - 充電ポートを破損させるおそれがあるため、充電ポートがロックされたまま充電コネクタを抜き出さないでください。
- 充電上の注意事項：
 - 充電中でもエアコンは使用できますが、充電電力確保のために充電中のエアコンはおすすめしません。
 - 充電時は車両から降りることをおすすめします。
 - 充電時は換気の良いところに車両を止めることをおすすめします。

- パワーバッテリーがフル充電になると、システムが自動で充電を停止します。充電ポートには盗難防止ロックが装備されているため、ロックを解錠してから充電コネクタを抜き出してください。
- DC 充電を停止する場合は、充電器を OFF にしてから充電コネクタを切り離してください。家庭用 AC 普通充電で充電するときは、車両側の充電コネクタを切り離してから電源側のプラグを抜き出してください。
- 充電が完了し充電コネクタを抜き出した後、充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを確実に閉じてください。水や異物が充電ポートに入ると正常に使用できなくなるおそれがあります。
- 車両を始動する前に、充電設備が切り離されていることを確認してください。充電コネクタを最後まで挿し込まないと充電設備のロック機構が機能せず、充電コネクタをつないだまま車両を動かすと、充電設備および車両の破損につながるおそれがあります。
- バッテリー温度が低すぎる、または高すぎる場合、バッテリーの充電性能に影響を与えるおそれがあります。
- 低温の環境で充電する場合、温度コントロールシステムがバッテリー低温時の充電能力を改善します。充電スタンド出力の制限により充電時間や加熱時間が延び、加熱による電気消費が増えますが異常ではありません。
- DC 充電時、低温の環境で残量が多い場合は、バッテリーの低温特性により充電電流が小さくなります。残量が少ない状態でバッテリーを充電すると、充電速度を上げることができます。
- 車両の使用直後はバッテリー温度が相対的に高く充電性能に優れているため、使用直後の充電をおすすめします。
- 低温の環境で充電中にエアコンを使用する場合、バッテリー温度コントロールシステムの性能および充電性能に影響を与えるおそれがあります。
- 充電中にバッテリー温度コントロールシステムが作動した場合、コンビネーションメーターやマルチメディアに表示される充電電力が一時的に変動することがありますが、異常ではありません。
- パワーバッテリーを長持ちさせるため、充電完了前にバッテリー補正機能が作動することがあります。バッテリー補正機能が作動すると、充電時間が長くなる場合があります。
- DC による高出力充電時に高温の環境でエアコンを使用すると、バッテリー温度コントロールシステムの充電性能が低下し充電時間が長くなる場合があります。充電効率を確保するため、充電中はエアコンを使用しないことをおすすめします。
- 充電中に加熱や冷却を行う場合、充電時間が延びて充電中の電気消費も増えますが、異常ではありません。

- 充電中にバッテリー冷却システムが作動すると、コンプレッサーやファンなどの部品が作動してモータールームから作動音が聞こえますが、異常ではありません。
- 充電時、コンビネーションメーターにフル充電の所要時間が表示されます。温度や残量、充電施設などにより所要時間は多少増減しますが、異常ではありません。
- 充電ポートフラップが天候などにより凍り付いた場合は無理に開けないでください。
- パワーバッテリーが長期間フル充電されていない場合、コンビネーションメーターに「パワーバッテリーのバランスが自動的に取れるよう、車両をフル充電してください」というメッセージが表示されることがあります。このようなときは、バッテリー寿命を延ばすために可能な限りフル充電してください。

アドバイス

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを無理に開けないでください。
- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに充電コネクタを強制的に挿し込まないでください。
- 充電ポートキャップを全開にしている状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。
- 充電中、放熱ファンとエアコンのコンプレッサーがパワーバッテリーの加熱や冷却の必要性により、自動的に作動することがありますが異常ではありません。

一般充電故障の診断

症状	考えられる原因	対処方法
充電できない、 充電装置に接続 しているが充電 が開始されてい ない	パワーバッテリーがフル 充電になっている	パワーバッテリーがフル充電になっ ている場合は、自動で充電を停止し ます。
	パワーバッテリー温度が 高すぎる / 低すぎる	温度が適切な場所に車両を停車さ せ、温度が正常になるまで待つて から充電してください。
	起動バッテリーが過放電 になっている	起動バッテリーを交換してください。
	充電設備が故障している	充電設備の電源表示灯が正常に点 灯していない、またはその他の異 常表示がないかを確認し、別の充 電設備で充電を行うかスタッフに 連絡してください。
充電が途中で止 まった	車両表示故障	コンビネーションメーターに充電シ ステム故障メッセージが表示され ている場合は、充電を停止して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に 連絡してください。
	交流回路が停電している	電源が復旧すると、自動で充電を 再開します。
	充電コネクタがきちんと 接続されていない	充電コネクタが確実に接続され ていることを確認してください。
	充電コネクタスイッチが 押し込まれている	充電コネクタスイッチが押し込ま れると充電が停止するため、充 電コネクタを新たに接続して充 電を開始してください。
	パワーバッテリーの温度 が高すぎる	コンビネーションメーターのパー ワーバッテリー過熱警告灯が点 灯すると、充電が自動で止まり ます。バッテリーを冷却して から充電を再開してください。
車両や充電スタンドが故 障している	充電スタンドや故障メッセージが 表示されていないかを確認し、 BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に 連絡してください。	

充電方法

■ 充電前の点検：

- 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗、ポートの錆、ケースの割れ、ポート内の異物付着などの異常がないことを点検してください。
- プラグやソケット、充電コネクタや充電ポートの金属端子に、錆びや腐食による破損、緩みがないことを点検してください。
- プラグやソケット、充電コネクタや充電ポートに、汚れや濡れがないことを点検してください（あるときは乾燥している清潔な布で拭いてください）。

■ 上記のようなことがある場合は、ショートや感電などにより身体に危害を与えるおそれがあるため、充電しないでください。

家庭用 AC 普通充電

4

1. 充電器について

- 車両と規格に適合するコンセントを接続し、バッテリーを充電します。仕様は、AC200V です。
- 高出力充電による回路焼損や自動保護ブレーカーが誤作動し、他の設備へ影響を与えることを避けるため、ソケットは規格に適合する家庭用コンセントを選択してください。
- 車載された装置は AC200V 用で、規格に適合する給電プラグ、充電コネクタ、コントロールボックス、充電ケーブルで構成された、Mode2 タイプです。給電プラグを家庭用コンセントに挿し込み、充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込みます。
- 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

使用
およ
び
運
転

⚠ 警告

- 充電に関する警告の詳細は、「[充電について](#)」における充電関係の警告を参照してください。
- 周囲温度：最大 50℃までとし、充電設備を使わないときは乾燥した冷暗所に保管してください。
- 充電中、充電装置をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれたり地面に落としたりする、または人に踏まれることがないようにしてください。
- 充電装置を移動するために直接ケーブルを引っ張る、または落下させることは禁止されています。
- 充電装置を移動させるときは取り扱いに注意してください。また、充電設備や関係ポートに対する改造や取り外し、修理は禁止されています。
- 後付けの電線やアダプター / コンバーターを使わないでください。変換のために後付け部品が必要な場合は、適切な線径（ $\geq 1.5\text{mm}^2$ の電線）を選定し、要求仕様に合ったアダプター / コンバーターを使用してください。
- 家庭用給電コンセントのコードが柔らかくなった場合や、充電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電コネクタ、給電プラグ、家庭用コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電ポートフラップの故障を防ぐため、必要以上に充電ポートフラップを開閉しないでください。充電ポートフラップの開閉操作 2 回の時間間隔は 1 秒以上をおすすめします。

⚠ 注意

- 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルは巻いたまま使用しないでください。
- 充電に関する注意の詳細については、[充電について](#)を参照してください。

i アドバイス

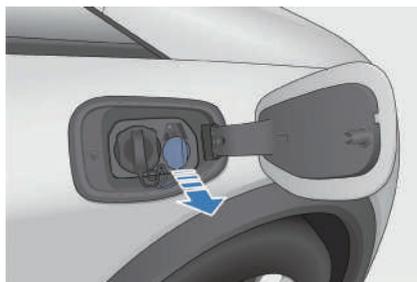
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場や認定技術者に連絡し、充電設備の要求事項に従い適切な電源を選択してください。
- 充電設備のアースについて：設備のアース工事を確実にしてください。充電設備に故障や破損が起きた場合、アース線は最小抵抗の回路を介して電流を逃し、感電の危険性を下げます。
- 給電プラグは、安全基準に適合し正しく設置されており、アースを確実に取っている家庭用コンセントと合っているものを使用してください。

2. 充電をする場合

- 車両の電源ポジションを「OFF」にしてからドアロックを解錠して充電ポートフラップを押し込むと、充電ポートフラップが自動で開きます。



- 充電ポートキャップと充電コネクタのカバーを開け、充電コネクタのプラグと車両側コンセントの部分に障害物がないことを確認してください。



4

使用および運転

i アドバイス

- 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを無理に開けないでください。
 - 天候などにより充電ポートフラップが凍り付いた場合は、無理に開けようとせず、温水で溶かしてから開けてください。
- 給電ポート側の接続：
 - Mode 2 タイプの給電プラグを家庭用コンセントに挿し込みます。
 - 車両側の接続：
 - 充電コネクタを車両側充電ポートに挿し込みます。
 - 充電コネクタを適切に挿し込むと、コンビネーションメーターの充電接続表示灯 **SC** が点灯します。

▲ 注意

- 充電ポート盗難防止ロックを解錠せずに充電コネクタを強制的に挿し込まないでください。
- 充電中は、コンビネーションメーターに関係充電パラメーターと充電画面が表示されます。
 - このとき、マルチメディアから充電を予約することができます。設定手順の詳細は[充電予約](#)を参照してください。
- 予約充電が設定されている場合は、普通充電ができません。
- 充電中は、コンビネーションメーターにフル充電までの目安時間が表示されます。目安時間は、温度や残量、充電施設などにより多少増減をしますが異常ではありません。
- バッテリー残量が少ない場合、予約充電は使用できません。

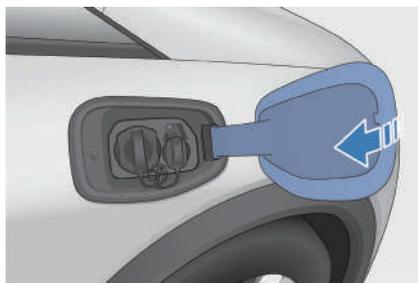
3. 充電を停止する場合

- 充電が完了する：
 - フル充電になると、自動的に充電が完了します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - 盗難防止機能が OFF のときは、実際の状況に応じて充電コネクタ上のメカニカルボタンを押してから充電コネクタを抜き出すか、そのまま充電コネクタを抜き出してください（実際の状況に応じて選択してください）。
 - 盗難防止機能が ON のときは、リモートキーのアンロックボタンまたはドアハンドルのマイクロスイッチを押して、充電コネクタを外します。

i アドバイス

- 車両を解錠した状態でリモートキーの「アンロック」ボタンを押す（電源ポジション「OFF」で充電する場合）、または運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押します（リモートキーが近くにある場合）。
- 充電ポート盗難防止ロック機能が作動している場合は、充電コネクタを抜き出す前に車両を解錠し、充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30秒以内に充電コネクタを抜き出してください。抜き出さないと、充電ポート盗難防止ロック機能が作動して再度施錠します。
- 充電ポート盗難防止ロックの作動モードは、マルチメディアから設定できます。設定手順の詳細は、[充電ポート盗難防止ロック機能](#)を参照してください。
- ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠を操作してください。操作手順は[充電ポート盗難防止ロック機能](#)を参照してください。
- 充電ポート盗難防止ロック機能をOFFにしても充電コネクタを抜き出せない場合は、車両を解錠してから再度操作してください。

- 給電プラグを外します。
- 車両の充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- 使用した充電設備を元に戻します。



! 警告

- Mode 2 タイプを移動する際、直接ケーブルを引っ張ったり落下させたりしないでください。設備を移動させる場合は取り扱いに注意し、使用後は充電設備を冷暗所に保管してください。

i アドバイス

- 充電ポートキャップを全開にしている状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

AC 充電スタンドでの充電

AC 充電スタンドの充電前に

- 重大な人身傷害を避けるため、本章の充電についての関係する警告をよく読んで遵守してください。
- 充電設備および車両の破損を防ぐため、本章の充電についての充電設備利用上の注意事項をよく読んで遵守してください。

充電器について

- 単相 (AC) 壁掛け式充電ボックス *
 - 基準に適合する家庭用充電ボックスで車両のバッテリーを充電します。充電設備の使い方は、使用する充電設備のマニュアルを参照する、または本マニュアルに従って操作してください。
 - 単相 (AC) 壁掛け式充電ボックス：この設備は、充電ボックス、充電コネクタ、およびケーブルで構成されています。断路器、非常停止スイッチなどについては、充電ボックスの取扱説明書を参照してください。
 - 単相 AC 充電スタンド
 - 公共の場に設置されている AC 充電スタンドで、車両のパワーバッテリーを充電します。
 - 充電時間：コンビネーションメーターまたはマルチメディアに表示される充電時間についての注意を参照してください。
1. 充電ポートフラップを開ける
 - **家庭用 AC 普通充電**の充電を参照しながら、充電ポートフラップを解錠して開けます。
 2. 車両側の接続
 - 充電装置の充電コネクタを車両の充電ポートに挿し込み、確実に施錠します。
 3. 充電の設定
 - 認証を必要とする AC 充電スタンド / ボックスについては、カードをかざすか、QR コードをスキャンしてください。詳しい取扱方法は、充電スタンド / ボックスの取扱説明書を参照してください。
 4. コンビネーションメーターに充電接続表示灯  が点灯します。

アドバイス

- 充電時、コンビネーションメーターには関係充電パラメーターが表示され、同時に充電画面も表示されます。

充電を停止する

1. 充電完了

- 充電設備に対して事前に終了設定をしている、または充電が完了すると、充電器は自動で充電を終了します。

2. 充電ポートの接続を切る。

- **家庭用 AC 普通充電**の充電を参照しながら、充電ポートの接続を切り離します。

3. AC 充電ポートフラップを閉めます（**家庭用 AC 普通充電**についての説明を参照してください）。

4. 充電装置を整理し、適切に保管してください。

- AC 充電スタンド / ボックスの場合は、充電コネクタを充電スタンド / ボックスの指定位置に戻します。

DC 急速充電

1. 充電器について

- 公共の DC 急速充電器で車両のバッテリーを充電します。DC 急速充電器は、特定の充電スポットに設置されています。
- 充電時間：コンビネーションメーターに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。
- 設備規格：CHAdeMO 対応。充電器関連の説明を読んでください。

2. 充電する場合

CHAdeMO の充電コネクタを使用して車両と DC 充電スタンドを接続し、DC 急速充電をします。

- 充電ポートフラップを解錠し、充電ポートフラップおよび充電ポートキャップを開けます。
- 車両側の接続：
 - CHAdeMO の充電コネクタを車両の充電ポートに確実に挿し込みます。
- 充電設備の操作手順で操作し、充電を開始します。



- コンビネーションメーター充電接続表示灯  が点灯します。
- 充電中、コンビネーションメーターには関係充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。

3. 充電を停止する場合

- 充電が完了する：
 - 予定の時間になる、または充電が完了すると、充電器は自動的に充電を終了します。
- 充電ポートの接続を切る：
 - DC 充電コネクタ上のメカニカルロックボタンを押して、充電コネクタを抜き出します。
- 充電器で DC 急速充電が完了したら、充電設備を整理して充電コネクタを指定の位置に戻します。
- DC 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。

警告

- 充電に関する警告の詳細は、「[充電について](#)」を参照してください。

注意

- 充電完了後、ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、数回ほど解錠操作を繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠を操作してください。操作手順は「[充電ポート盗難防止ロック機能](#)」を参照してください。
- DC 充電時のロック解錠は、3 秒以内に 2 回連続でリモートキーの「アンロック」ボタンを押さないと解錠できません。
- 充電に関する注意の詳細については、[充電について](#)を参照してください。

アドバイス

- 充電ポートキャップを全開にしている状態で、充電ポートフラップを閉じないでください。

スマート充電機能

- 本車はスマート充電機能を搭載しているため、長時間車両をしないときでも起動バッテリーの負極（-）端子を取り外す必要はありません。
- 左ボディードメインコントローラーが起動バッテリーの電圧低下を検知すると、パワーバッテリーを使用して起動バッテリーを充電することができます。

アドバイス

- 長時間車両を放置すると、制御プログラムにより自動でスマート充電機能が作動することがありますが、故障ではありません。
- スマート充電に必要な電気エネルギーはパワーバッテリーから取り出しているため、スマート充電機能が作動するとパワーバッテリーの残量が低下することがありますが、故障ではありません。
- スマート充電機能によるパワーバッテリーの過放電を避けるため、パワーバッテリー残量が少ないとスマート充電機能は利用できません。そのため、パワーバッテリー残量が少ない状態で長時間駐車することは避け、早めに充電してください。

充電予約

- マルチメディアで充電モードを設定することができます。設定は次の操作で行います。
 -  → **エネルギー** → **充電設定** の設定画面から、**スマート充電** の設定に入ります。
- リターンボタン  または home  をタッチすることで、スマート充電画面を閉じることができます。

設定画面

- ① 充電時間
- ② 繰り返しサイクル
- ③ 充電予約
- ④ 設定



- 初期設定では車両がすぐに充電できるように、充電予約は OFF になっています。
- 充電予約を行う必要がある場合は、充電予約③をタッチし、充電時間①および繰り返しサイクル②を設定します。設定後、確定をタッチして設定を保存します。
- 充電予約設定後、充電待ち時間内に充電コネクタを接続する、または車両の電源ポジションを「OFF」にすると、マルチメディアが充電予約していることを知らせます。このとき、必要に応じて変更することができます。
- ドライバーは、充電予約の設定④をタッチして充電予約通知画面に入り、充電コネクタ接続通知およびパワー OFF 通知機能を OFF にすることができます。

⚠ 注意

- 予約充電は、BYD の AC 普通充電設備を対象に開発したものです。BYD 純正部品以外の AC 普通充電設備を利用する場合は、予約充電を OFF にしてください。充電設備が非対応のため予約ができない、またはすぐに充電することで、車両のバッテリー残量の低下や電圧不足につながるおそれがあります。

i アドバイス

- 充電予約で充電を待つ間は、車両の電気消費が増えます。長時間充電を待つと、車両のパワーバッテリー残量が低下して航続距離が短くなりますが、異常ではありません。
- 通知画面の **即充電に変更** は、今回の予約に限るものです。すべての予約をキャンセルする場合は、設定画面で充電予約を OFF にしてください。
- パワーバッテリー残量が低下している場合は、充電予約に入る前に最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行います。最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行うときは、マルチメディアからパワー OFF 通知および充電コネクタ接続通知を発信し、コンビネーションメーター下側にメッセージが表示されます。
- DC 充電コネクタ* に接続すると、充電予約の設定が無効になり即座に充電を開始します。

充電ポート盗難防止ロック機能

充電コネクタの盗難を防ぐため、充電ポートには車両に対する充電・給電中の盗難防止機能が備わっています。初期設定は OFF のため、ON にするときは、 → エネルギー → 充電設定 の設定画面から、**充電ポート盗難防止ロック機能** を ON にしてください。

■ ON で充電する場合、ドライバーは次の方法で盗難防止ロック機能を解除し、充電コネクタを抜き出すことができます。

- リモートキーのアンロックボタンを押して解錠します。
- 運転席側ドアハンドルにあるマイクロスイッチを押して解錠します。
- 車内の運転席下にある集中ドアロックを押して解錠します。



■ 下記表のとおり、車両が番号 2、3、4 の状態にある場合は、ドライバーが上記解錠操作以外に充電コネクタボタンを操作して解錠することで、充電コネクタを抜き出すことができます。ただし、この操作は充電ポートや充電コネクタの使用寿命を縮めるおそれがあるため、緊急時以外にこの操作を頻繁に行うことは避けてください。

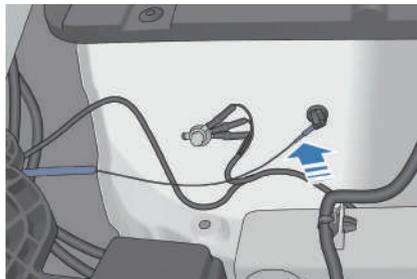
番号	「充電ポート盗難防止ロック作動モード」設定状態	4 ドア盗難防止ロック状態	充電コネクタ抜き出しの可否
1	ON	施錠	不可
2	ON	ON	可能
3	OFF	施錠	可能
4	OFF	ON	可能

▲ 注意

- 充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。30 秒経過すると、充電ポート盗難防止ロック機能が再度作動して施錠するため、新たに解錠してから充電コネクタを抜き出してください。
- 充電ポート盗難防止ロック機能を OFF にした場合は、充電が停止すると自動で解錠します。充電ポート盗難防止ロック機能を ON にした場合は、車両を解錠する必要があります。

交流充電ポートの非常解錠

- 充電ポート盗難防止ロックが故障しており充電コネクタが抜き出せない場合は、手動で非常解錠操作を行い、充電コネクタを抜き出します。
- ボンネットを開け、モータールーム内の充電ポート盗難防止ロックを解錠するワイヤーを引くと、充電コネクタを解錠できます。

**▲ 注意**

- 緊急時解錠を使用できるのは、交流充電コネクタのみです。
- 上記機能の異常または故障がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

外部給電方法

■ 本車には外部給電機能 (V2L) を備えています。外部給電とは、車両に蓄えた電気を家電機器などに供給するです。

⚠ 警告

- 外部給電中に、外部給電用ソケットや車両側ポートの金属端子を触らないでください。
- 外部給電中に異臭や煙立ちなどの異常がある場合は、ただちに外部給電を停止してください。
- 外部給電についての警告は、充電警告と同じです（詳細は[充電について](#)を参照してください）。
- 使わないときは、本製品を乾燥した冷暗所に保管してください。
- 放電中の設備をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれる場所や人に踏まれる場所、地面に落ちてしまうような場所に置かないでください。
- 落下禁止。この充電装置を移動するために、直接ケーブルを引っ張ることは禁止されています。
- コンセントのコードが柔らかくなった場合や、給電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。
- 給電コネクタ、給電コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、外部給電設備を使用しないでください。

⚠ 注意

- 外部給電器 * 使用時の注意事項については、「[充電上のご注意](#)」を参照してください。
- 外部給電前にパワーバッテリーの残量を確認し、外部給電後の航続可能距離を予測してください。
- V2L 外部給電前に、負荷が OFF になっていることを確認してください。
- V2L 外部給電装置は、規格 EVPS-004:2014 に適合している必要があります。また、V2H 外部給電装置は、規格 EVPS-002:2014、または EVPS-002:2018 に適合している必要があります。
- 外部給電中に給電コネクタを抜き出さないでください。外部給電完了後は、外部給電装置の作動が止まっていることを確認してから、給電コネクタを外してください。

i アドバイス

- 外部給電は、可能な限りパワーバッテリー残量（SOC）が多い状態で使用してください。
- パワーバッテリー残量が少ないときは、外部給電の使用が制限されます。
- 電源ポジション「OFF」で、車両を長時間外部給電器に接続した状態で電気エネルギーを出力しない場合、車両の漏洩電力が多くなるため、給電コネクタを外すようおすすめします。

外部給電方法

外部給電の開始について

- 給電前に、イモビライザーを OFF にしているか確認します。
- 充電ポートフラップのロックを解錠し、車両の充電ポートフラップと DC 充電ポートフラップを開けます。
- 外部給電前の点検：
 - 車両のパワーバッテリー残量が 15% 以上あることを確認します。
 - V2L 接続装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆および異物付着などの異常がないかを確認します。
 - 充電ポートに水分または異物がない、金属端子に錆や腐食による破損などの異常がないことを確認します。
 - 上記 2 つ目、3 つ目の異常がある場合は、ショートや感電などにより身体に危害を与えるおそれがあるため、外部給電を中止してください。
- 外部給電器の接続：
 - V2L 外部給電器を充電ポートに接続してコンセント上の表示灯が常時点灯すれば、正常に使用できます。
- 外部給電を開始する：
 - 外部給電器を接続し、外部給電器のスタートボタンを押すと外部給電を開始します。コンビネーションメーターには、外部給電に関するデータや給電画面が表示されます。

外部給電を停止する

- 外部給電を終了する：
 - 負荷を切り離します。
- 外部給電器を切り離す：
 - 外部給電器を抜き出します。
 - 充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを閉めます（「[家庭用 AC 普通充電](#)」についての説明を参照してください）。
- 給電装置を片づける：
 - 外部給電完了後、外部給電器を収納します。

パワーバッテリー

- パワーバッテリーは車両の動力源で、充放電を繰り返すことができます。また、制動時や惰性走行時には、回生ブレーキによりパワーバッテリーの充電ができます。
- パワーバッテリーはボディの底部にあるため、悪路や冠水した道路を走行する場合は、バッテリーが破損しないよう慎重に運転してください。
- 一定期間使用した車両は、バッテリー自体の化学的特性によりバッテリー容量の自然劣化があるため、電気での走行距離が短くなることがあります。走行距離の減少に気づいた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で点検を受けることができ、正常かどうかを店頭で確認できます。

バッテリー特性

- バッテリー本体の電気化学特性の影響、およびパワーバッテリーを保護する目的から、以下の条件では、性能に一定のばらつきがありますが異常ではありません。
 - パワーバッテリーの残量が多い場合は、回生ブレーキ性能が低下することがあります。
 - フル充電に近づくまでパワーバッテリーを充電すると、トリクル充電モードに切り替わるため、コンビネーションメーターに表示されるフル充電までの予測時間が変化します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、加速性能が低下します。
 - パワーバッテリーの残量が少ない場合は、V2L* が正常に使えないため、早めに充電してください。
 - 高温や低温の環境では、パワーバッテリーの充放電能力が弱くなるため、充電時間が伸びますが異常ではありません。このようなときは、高出力充電設備で充電することをおすすめします。また、気温が極端に低い状態で走行するときは、動力性能が低下することがあります。
 - バッテリー温度制御機能により、低温の環境でパワーバッテリーを充電する際の充電能力を大幅に改善しています。低温時の充電については、[充電上のご注意](#)を参照してください。
 - バッテリー温度制御機能は、低温の環境で運転する際に適切なタイミングで自動的に加熱を開始し、低温走行時の動力性能や放電性能を確保することで走行性能を向上させます。走行距離が短いときは、加熱が十分にできないため、電気消費が増えてしまい航続可能距離が短くなることがあります。

- パワーバッテリーが通常通りに使用されている場合、車両の航続可能距離は以下の要因により影響を受けます。
 - 運転習慣：一定速度で走行する場合に比べ、加速や減速を頻繁に繰り返すと、航続可能距離が短くなります。また、低速時よりも高速時の方が、航続距離は短くなります。
 - 道路状況：平坦で乾燥している路面を走行する場合に比べ、悪路が続く道路や長い上り坂を走行する方が、航続可能距離は短くなります。
 - 気温：通常環境で走行する場合に比べ、低温環境で走行する場合の方が、航続可能距離は短くなります。
 - 電気機器の使用状況：運転中にエアコンを使わない場合に比べ、エアコンを付けた場合の方が航続可能距離は短くなります。
 - 低温環境では、温度が下がると同時にパワーバッテリーの利用可能残量も低下します。低温環境に停車しているバッテリー残量が多い車両に対して充電すると、バッテリー残量が急に 100% になることがあります。

バッテリーの使い方について

- 周辺温度が -10 ~ 40℃ の環境で使用することをおすすめします。パワーバッテリー残量が少ない場合は、十分な航続可能距離や良好な加速性能を確保するために早めに充電してください。
- 長期間性能を維持するため、高温や極端な低温の環境に 24 時間以上駐車することは避けてください。
- 周辺温度が低い環境で長時間駐車する場合は、バッテリーの熱放散を低減させて使用性能を確保するため、地下駐車場や暖房付き駐車場などの温度が高い場所に駐車してください。
- 頻繁な急加速や急減速を避ける、平坦で乾燥している道路を走行する、または必要に応じてエアコンなどの消費電力の大きい電装部品を消したり、エアコンの温度を上げたりして航続可能距離を伸ばすことをおすすめします。
- 普通充電は、パワーバッテリーを長持ちさせる方法です。
- 車両を初めて使用する、または長時間放置した後に使用する場合は、コンビネーションメーターに表示されるバッテリー残量がばらつくことがあります。そのため、運転前にパワーバッテリーをフル充電することをおすすめします。

- 日常的に使用する場合は、定期的に車両のパワーバッテリーをフル充電してください（推奨：充電は週に1回以上）。また、3ヶ月～半年毎に、バッテリー残量が少ない状態（10%以下）からフル充電することをすすめます。
- 極端な走行（急加速や急減速の繰り返しなど）によりパワーバッテリーの温度が高くなった場合は、パワーバッテリーの放電能力が少しずつ低下しますが異常ではありません。また、パワーバッテリーの温度が高すぎてコンビネーションメーターのパワーバッテリー加熱警告灯が点灯したときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- パワーバッテリーの残量が異常に上がる、または下がる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検してください。

警告

非常時や事故発生時、次の警告に注意してください。

- 怪我などを避けるため、パワーバッテリーは直接触らないでください。早急に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- パワーバッテリーが破損し液体が漏れ出した場合は、漏れ出した液体を絶対に触らないでください。不注意で皮膚や目に付着したときは、すぐに多量の水で洗い流し、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 車両火災が起きたときは専用消火器で消化し、水系の消火器は使わないでください。
- パワーバッテリーは専門の技術者のみしか整備できないため、ご自身でバッテリーの蓋を開けたり改造しないでください。

▲ 注意

- パワーバッテリーの安全を確保するため、引火性や爆発性があるものは火元および各種の危険化学品から遠く離れた場所に駐車してください。
- 利用可能なバッテリー残量は、車両の使用時間の増加につれて低下します。
- パワーバッテリーの寿命を縮めるおそれがあるため、駐車時は熱源から遠く離れ、日光が長時間当たる場所を避けてください。
- 長期間（7日以上）車両を使用しない場合は、パワーバッテリーを長持ちさせるために、バッテリーの充電を40%～60%に保つことをおすすめします。3ヶ月以上使用しないときは、パワーバッテリーを3ヶ月毎にフル充電し、その後40%～60%まで放電してください。そうしないと、パワーバッテリーの過放電によるバッテリー性能の低下、または破損を引き起こすおそれがあります。また、このような車両故障は、品質保証の対象外となります。
- パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、悪路を走る場合は慎重に運転してください。
- パワーバッテリーが何かにぶつかった場合は、ただちにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。

パワーバッテリーの回収

廃車やパワーバッテリーの処分については、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。

1. 車両をBYDの回収サービスセンターに持ち込み、パワーバッテリーの残価を評価します。
2. 評価済みの車両を回収・解体業者に渡し、パワーバッテリーを取り外してもらいます。
3. 回収・解体業者が取り外した古いパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡し、回収サービスセンターはパワーバッテリーを買い戻します。

▲ 警告

- 電気自動車の所有者は、不用となったパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡す責任と義務があります。不要となったパワーバッテリーを他の業者や個人に勝手に引き渡す、パワーバッテリーを取り外す、分解を勝手に行うことで発生した環境汚染や事故については、相応の責任を負う必要があります。

起動バッテリー（12V）

起動バッテリーはリアシートの下部に格納されています。バッテリーの点検カバーは、リアシート中央席の乗員のくるぶし部あたりに設置されています。点検カバーを開けると、バッテリーの負極（-）端子および負極（-）側アースハーネスが見えます。

- 起動バッテリーの電圧不足を避けるため、条件（車両の電源ポジションが「OFF」でパワーバッテリーから給電ができ、起動バッテリーの電圧が設計値以下）を満たしている場合は、自動的に「スマート充電」機能が作動します。
- 起動バッテリーの電圧が低すぎると、車両の低圧電源が使用できないため、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。
- 車両を使用してから3～5年後にサービス工場での通常のメンテナンスを行う場合は、サービス工場のスタッフにバッテリー端子部の腐食状況、バッテリーおよび端子が確実に固定されているかなどの点検をご依頼することをおすすめします。

4

使用および運転

警告

- 起動バッテリーには、腐食性のある溶液が入っています。起動バッテリーの破損や人身事故を防止するため、起動バッテリーの分解や修理はしないでください。
- 起動バッテリーの取り外し、分解はしないでください。環境汚染や事故を起こした場合、相応の責任を負う必要があります。
- 起動バッテリーは可燃性、爆発性のある水素ガスが発生します。工具を使う場合は、起動バッテリーからの火花の発生を避けてください。また、起動バッテリーの近くでタバコを吸ったり、火を付けないでください。
- 電解液が皮膚や目、服に付着しないように注意してください。電解液が皮膚や目に付着したときは重曹水で皮膚を洗い、多量の水で目を洗い流してただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤って電解液を飲み込まないでください。
- お子様を起動バッテリーに近づけないでください。

▲ 注意

- 起動バッテリーを点検する場合は、始めにマイナス端子（「-」表示）に付いているアース線を外し、取り付け時は最後に取り付けてください。
- 起動バッテリーを洗浄するときは、液体が起動バッテリーの中に入らないように注意してください。

i アドバイス

- 車両の電源ポジションを「OFF」にしてスマート充電をする場合、電源ポジション「OK」時に音が聞こえることがありますが異常ではありません。
- スマート充電中は修理作業をしないでください。
- 車両から離れる場合は、きちんとドアを閉めすべての電気機器をOFFにしてください。
- 長期間車両を放置する場合は、起動バッテリーのマイナス端子を外してください。

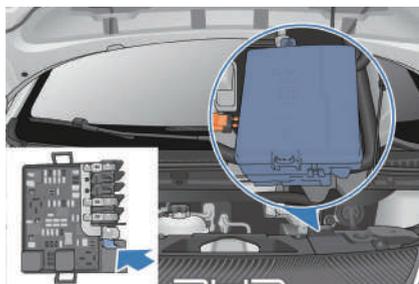
起動バッテリーの電圧不足時のスリープ解除機能

- 本車は、起動バッテリーのスリープ解除機能を搭載しています。長期間車両を放置して起動バッテリーがスリープ状態になった場合は、リモートキー操作では解錠することができません。このようなときは、リモートキーを運転席側ドアに近づけ、2回連続で運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、起動バッテリーのスリープ状態を解除することができ、解錠後は正常に利用できます。上記操作で起動バッテリーのスリープ状態が解除できないときは、起動バッテリーの残量が少ない可能性があります。

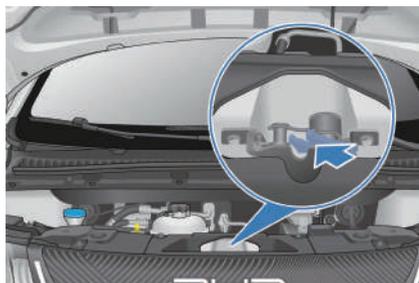
ジャンピングスタートによるスリープ解除*：

運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押してもバッテリーのスリープ状態が解除できず、車両の電源が入らない場合は、他車の12V仕様の起動バッテリーによるジャンピングスタートで始動させることができます。

- ジャンピングスターター用の正極 (+) 端子: モータールームのフューズボックスの中にあります。



- ジャンピングスターター用の負極 (-) 端子: ボンネットストライカーのところにあります。



⚠ 警告

- 起動バッテリーの破損を引き起こすおそれがあるため、他車の救援を目的としたジャンピングスタートは行わないでください。
- ジャンピングスタートをする場合は、起動バッテリーの電源が切れたり正常に利用できなくなったりするおそれがあるため、本オーナーズマニュアルの該当内容をよく読み、必ず記載に従ってブースターケーブルを接続し、関連操作を行ってください。
- 起動バッテリーの内部にはインテリジェントコントロールモジュールが内蔵されています。起動バッテリーの破損を防ぐため、緊急時を除き、無断で取り外しや破壊をしないでください。
- 部品交換や車両整備の前には、起動バッテリーの負極 (-) 端子を外してください。
- 起動バッテリーは乾燥したウエスなどで拭き、水洗いはしないでください。

⚠ 注意

- モータールームのフューズボックスでは、ジャンピングスターターのためのスペースが狭く感電などの危険があるため、専門家の指導によりジャンピングスタート作業を行うことをおすすめします。

慣らし運転期間

- パワーユニットが起動しにくい、または回転がよく止まってしまう場合は、ただちに車両を点検してください。
- パワーユニットから異音が発生している場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- パワーユニットから冷却水や潤滑油が漏れている場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- 最初の約 2000km は高速走行を避け、できるだけ一定速度で走行して慣らし運転を行うことをおすすめします。下記の操作を避けることで車両を長持ちさせることができます。
 - 始動や運転時、アクセルペダルを強く踏み込まないでください。
 - スピードを出し過ぎないでください。
 - 長時間、一定速度での高速走行や低速走行をしないでください。

トレーラーのけん引

- 本車は乗用車として設計されています。自分や他人の安全を守るため、乗車人数を超えた状態で走行したり、トレーラーをけん引したりしないでください。
- トレーラーのけん引は、車両の操縦、性能、制動、耐久性、エコ運転および電気消費などに悪影響を与えます。
- リアバンパークロスメンバー（リンフォースメント）を無断で取り外し・取り付け、およびトウバーマウント型サイクルキャリアの後付けをしないでください。リアバンパークロスメンバーを無断で取り外し・取り付けしたことによる不具合は、品質保証対象外となります。
- 運転の安全や快適性は、正しい設備の使い方や慎重な運転習慣により決まります。
- トレーラーのけん引による破損や故障を保証しません。

安全運転上のご注意

飲酒運転厳禁

少量の飲酒でも、交通条件の変化に対する反応が遅くなります。飲酒量が多いほど反応が鈍くなるため、飲酒運転は絶対にしないでください。

速度の抑制

スピードの出し過ぎは、衝突事故や死傷事故を引き起こす主な原因です。通常は速度が速いほど危険性が高まります。道路状況に応じて安全な速度で走行してください。

車両を安全運転可能な状態に保つ

タイヤのバーストや機械の故障は非常に危険です。故障の確率を下げるため、常に車両の状況を点検し、定められた点検を実施してください。

▲ 注意

- 運転免許がない人は運転しないでください。
- 疲れているときは運転しないでください。
- 運転時は、必ず交通ルールを守ってください。
- 運転中は必ず運転に集中し、運転とは無関係な操作（携帯電話の使用やボタンの調整など）をしないでください。

利用時についてのアドバイス

パワーバッテリーを長持ちさせるため、以下のことをおすすめしています。

- 車両を長期間（7日以上）使用しない場合は、パワーバッテリーの充電を40%～60%に維持します。そうしないと、パワーバッテリーの寿命が短くなります。
- 車両を長期間（3ヶ月以上）使用しない場合は、パワーバッテリーをフル充電してから、充電率が40%～60%になるまで放電してください。パワーバッテリーの過放電により発生するパワーバッテリー性能の低下や、破損による車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- コンビネーションメーターに表示される航続可能距離が0の場合は、パワーバッテリー残量が不足しています。早めに充電し、長時間パワーバッテリー残量が少ない状態で使用することは避けてください。
- パワーバッテリーを最適な状態に維持するため、定期的にAC車載充電装置でパワーバッテリーをフル充電してください。毎週1回はフル充電することをおすすめします。
- 長期間にわたり性能を確保するため、温度が60℃より高い、または-30℃より低い環境に駐車するときは、24時間以内にしてください。
- トレイがへこんだ、またはパワーバッテリーパック底部のトレイ表面が傷ついた場合は、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。
- 運転中、急加速や急減速を繰り返すことは避けてください。
- パワーバッテリー温度が上がると車両性能に影響を与えるおそれがあるため、可能な限り長時間の車両の使用は避けてください。
- コンビネーションメーターに故障メッセージが表示された場合は、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場で点検してください。
- パワーバッテリー温度が高いと車両性能が一部制限されます。車両を安全な場所に駐車し、パワーバッテリー温度が下がってから使用してください。

i アドバイス

- コンビネーションメーターに表示されているパワーバッテリー残量が0の場合、7日以内に充電しないと、復旧不可能なパワーバッテリーの破損を引き起こすため必ず充電してください。これによるパワーバッテリーパックの破損については、BYDは品質保証条項に定められる保証責任を負いません。
- 航続可能距離は、利用可能なパワーバッテリー残量、車齢（現在のパワーバッテリー寿命）、天気、気温、道路状況、運転習慣などで決まります。高温や低温の環境で走行する場合の航続可能距離は、常温の場合より多少短くなり動力性能も影響を受けます。

荷物の積み込み

- 本車には、便利な格納スペースを複数用意しています。積み込む荷物が
多い、または積み込み方が不安定な場合は、車両の操縦性や安定性が悪
くなり安全性が低下することがあります。
- 荷物を積み込む場合は、車両本体、乗車人数および荷物の総重量が車両
総重量を超えないようにしてください。

⚠ 警告

- 積載オーバーや不適切な荷物の積み込みは車両の操縦性や安定性に影
響を与え、衝突事故を招くおそれがあります。
- 本オーナーズマニュアルに記載されている車両総重量や他の積載ルー
ルを守ってください。
- 正常な運転への干渉を避けるため、強い磁気を持つものを車両に搭載
しないでください。

客室に荷物を積み込む場合

⚠ 警告

- 衝突時に車内へ投げ出されて乗員に怪我を負わせるおそれがあるもの
は、確実に収納または固定してください。
- 車両後方の安全確認を妨げたり、衝突時に車内へ投げ出されるおそれ
があるため、リアシェルフにものを置かないでください。
- フロントシート後部の床に荷物を置いている場合は、ペダル操作やシー
ト調整の妨げにならないように、シートの下で転がらないようにして
ください。また、荷物を積み込むときはフロントシートバックを超え
ないでください。
- 運転時はグローブボックスをきちんと閉めてください。グローブボッ
クスが開いていると、衝突時や急ブレーキ時に乗員のお膝などに怪我を
負わせるおそれがあります。

📌 アドバイス

- お子様のおもちゃを車内に積み込まないでください。急ブレーキや衝
突事故などが発生した場合、おもちゃが安全走行を妨げるだけでなく、
お子様に怪我を負わせるおそれがあります。

トランクルームに荷物を積み込む場合

- トランクルームには均一に荷物を積み込み、最も重い荷物は一番下で前側の方に置いてください。

警告

- 走行中に荷物が移動しないように紐やチェーンでしっかりと固定し、荷物はフロントシートバックの高さ以上積み込まないでください。
- トランクルーム内で荷物を縛るための用品や固定装置などについては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

冠水路の走行

- 冠水路に進入する前に水の深さをきちんと確認し、水の深さはボディ下部の縁部を超えないようにしてください。
- 冠水路を通り抜ける場合は、発進前にエアコンを消して低速で走行し、アクセルペダルを軽く踏み続けながら、ゆっくり走り抜けてください。
- 絶対に、水の中で停車する、後退する、モーターをOFFにしないでください。
- 無事に冠水路を走り抜けた後は、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキローターに付着した水を落とし、できるだけ早く通常の制動性能に戻してください。
- 深い冠水路を通り抜けるとブレーキが濡れることがあるため、慎重に運転してください。



警告

- ブレーキシステムに水や泥などが侵入すると、ブレーキの利きが悪くなり制動距離が長くなるため、事故につながるおそれがあります。
- 冠水路を走り抜けた後は、可能な限り急ブレーキは避けてください。
- モーターの重大な破損につながるおそれがあるため、車両がくぼんでいる冠水路を走る場合は、モーターに水が侵入しないように注意してください。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 冠水路を走り抜けた後は、ドライブトレインシステム、走行システム、電気システムなどの部品も大きな被害を受けているおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 水位がウィンドウガラスよりも高くなり緊急脱出ハンマーを使用した場合は、割れたガラスが室内に入って怪我をするおそれがあります。フロントガラスと前席のウィンドウガラスは合わせガラスで割れないため、後席のウィンドウガラスかテールゲートのガラスを割って脱出してください。

高電圧部品の内部に水が侵入した場合：

- 高電圧部品は電子部品のため、車両が浸水した場合は、高電圧部品を乾かしても十分に水切りできる保証はありません。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、部品自体の絶縁性に大きな影響を与えます。また、水分に多く含まれる導電性物質により高電圧部品の内部ショートや高電圧システムのショートが引き起こすおそれがあります。このようなときは、車両の安全性能や使用性能に重大な影響を与えます。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、製品の IP 保護等級、耐電圧などの性能はいずれも大きな影響を受けるため、大きな危険性があります。
- 台風などの荒れた天候では、可能な限り雨が降らない場所で充電するように注意してください。サイドシルの高さ以上に車両が浸水する、冠水路を走行中に浸水すると、高電圧部品の内部に水が侵入するおそれがあるため、侵入したときは、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検や処置をしてください。また、タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路での走行はしないでください。

火災の予防

車両火災を有効に防止するため、車両を使用する場合は下記の事項に注意してください。

- 車内に引火性・爆発性のあるものを格納しないでください。
 - 炎天下や日が当たる場所に駐車すると、車内の温度が60～70℃以上に達することがあります。そのため、車内にライター、洗浄剤、香水などの引火性、爆発性のあるものを置くと、火災や爆発が発生するおそれがあります。
- 喫煙後、吸い殻は火が完全に消えていることを確認してください。
 - 喫煙は身体の健康を害するだけでなく、火が完全に消えていない吸い殻は、火災を引き起こすおそれがあります。
- BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場にて定期点検を依頼してください。
 - コネクタとワイヤーハーネスとの接続、絶縁、固定位置などに異常がないかを確認するため、車両全体の配線の定期点検を行ってください。不具合が見つかった場合は、早めに処置してください。
- 車両の配線の改造、電装品の後付けを禁止します。
 - 電装品（ハイパワーオーディオ、照明器具など）の後付けは、回路に過大な負荷が掛かり、ワイヤーハーネスの発熱による火災の原因になります。
 - 基準外の電器・配線の改造により抵抗が大きくなり、異常に発熱することで火災を引き起こすおそれがあります。電装品の定格から外れたフューズや金属ワイヤーをフューズの代わりに使用することは絶対にしないでください。
- 正しい駐車場所を選びます。
 - 停車時、日にさらされる場所は可能な限り避けてください。
- 車載用の消火器を車両に搭載することをおすすめします。
 - 消火器を車両に搭載する場合は、安全を確保するため定期的に点検や交換を行ってください。また、消火器の使い方を熟知し、非常時は迅速に対応できるようにしてください。
- 車両の修理やメンテナンスを行う場合は、モータールームにある起動バッテリーの負極（-）端子を外します。

- 車両火災が発生した場合は、迅速、冷静に効果的な方法で対処し、被害を最小限にしてください。
 - 火災の発生は、ボディーからの異音や異臭がするなどの前兆があります。異常を感じたら、できるだけ風が当たらない場所に停車し、車載用の消火器で初期消火を行います。
 - 早めに 119 番に通報すると同時に、該当の保険会社にも通報し現場対応を要請します。
 - 火元を特定します。モータールームから煙があがった場合は、ボンネットをすぐには開けないでください（ボンネットを開けると、大量の空気が入り火の勢いが強くなります。ボンネット閉めることで、火の勢いを抑えて消火を助けることができます）。車載用の消火器を使用し、ボンネットの隙間から火元に向けて消火剤を噴射する、または外部に助けを求めて複数の消火器を借りることができれば、外部から火が見えない状態でボンネットを開けて消火剤を噴射し続けることができます。
 - 消防隊が消火した後、出動証明書を請求して発火原因の報告書の発行を依頼します。
 - 事故発生後、早めに保険会社に対応などを依頼します。

アドバイス

- 思わぬ被害が発生することを防ぐため、車両保険に加入することをおすすめします。

電気の省エネで車を長持ちさせる方法について

- 節電はシンプルであり、車両の寿命を延ばすことにもつながります。
- 電気エネルギーや修理代を節約する要領を次に示します。

1. 回生ブレーキ設定：

- 本車は、回生ブレーキ機能および回生ブレーキ強さの設定機能を搭載しており、 → エネルギー → エネルギー管理 の設定画面から、回生ブレーキモードを選択できます。回生ブレーキ強度が **強** の場合は、制動・惰行中に回収するエネルギーを増やすことができるため、運転習慣に合わせて設定してください。

2. 速度維持：

- 一定速度での運転は、電気の省エネに役立ちます。急アクセル、急ハンドルや急ブレーキは、より多くの電気エネルギーを消費します。
- 交通状況に応じて一定速度で走行し、アクセルペダルを頻繁に踏まないようにすることで、余分な電気エネルギー消費を減らします。
- アクセルペダルをゆっくり踏み、急発進、急アクセル、急ブレーキを避けます。
- 一定速度を維持しながら運転し、信号がない道路では先行車との車間距離を適切に保って急ブレーキを避けて走行することで、ブレーキの摩耗軽減につながります。
- 渋滞している道路はなるべく避けてください。
- 高速道路走行時は適切な速度を維持してください。速度が速いほど電気エネルギーの消費が多くなるため、エコ走行になる範囲内に速度を保つことで省エネにつながります。

3. 負荷の軽減：

- エアコンを作動するとモーターに余分な負荷が掛かるため、より多くの電気エネルギーを消費します。エアコンを消すと電気エネルギーの消費を減らすことができ、外気温度が快適なときは、外気導入モードで外気を取り入れるようにします。
- 車両に不要な荷物を積まないようにします。荷物が多いと、車両の負荷が増えてより多くのエネルギーを消費します。

4. その他：

- タイヤの空気圧は適切に保ちます。タイヤの空気圧が不足していると、タイヤの摩耗や電気エネルギーの消費につながります。
- フロントタイヤの正しいアライメント（取り付け角度）を保ってください。道路の縁石へ乗り上げる操作を避け、悪路はゆっくり走行してください。フロントタイヤのアライメントが良くないと、タイヤの早期摩耗につながり、電動パワートレインへの負荷も大きくなるため、電気エネルギーをより多く消費します。
- シャーシは清潔な状態に保ち、泥などの付着がないようにしてください。これにより、ボディー重量を軽減するだけでなく、腐食を防ぐこともできます。

アドバイス

- 走行中のニュートラルギアでの惰性走行は、絶対に止めてください。

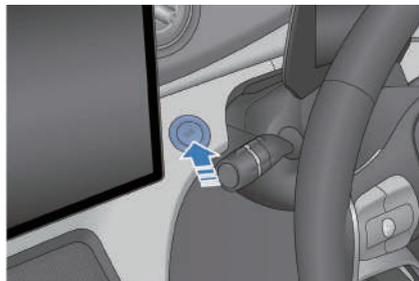
車の始動

通常の始動方法：

- 必要のないランプやアクセサリをOFFにします。
- リモートキーを携帯します。



- ブレーキペダルを踏み込んだ状態で「スタート/ストップ」ボタンを押します。
- コンビネーションメーターの「OK」表示灯が点灯すれば、走行可能な状態となります。



- 次の場合は始動ができません。
 - 「スタート/ストップ」ボタンを押すとリモートキーシステム警告灯が点灯してスピーカーから警告音が鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可」と表示されたとき（リモートキーが車内にない、または干渉によりキーが検知できない）。
 - リモートキーが車内にあるが、正しい位置に置かれていないとき（例：床面、カップホルダー内、トランクルーム内、収納箱内など）。

⚠ 注意

- 車両が始動できない場合、ドライバーが車両に乗り込み1分が経過しても始動できないときは、リモートキーを移動して再試行することをおすすめします。

緊急時の始動方法

- パーキングブレーキを確実にかけます。
- 必要のないランプやアクセサリを OFF にします。
- シフトレバーを「P」または「N」レンジにします。
- 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
- リモートキーを車内に置きます。
- 「スタート/ストップ」 ボタンを 15 秒以上長押しすると、始動します。

警告

- 運転中は「スタート/ストップ」 ボタンを触らないでください。
- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながるため、始動する前にペダルの位置を確認し、位置を確実に覚えてください。
- 始動するときは、必ず運転席に座ってください。運転席以外から始動を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リモートスタート機能*

始動前

1. 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
2. シフトポジションを「P」レンジに入れます。
3. 速度を 5km/h 以下にします。

リモートキーの「リモートスタート機能」

1. リモートキーの「スタート/ストップ」 ボタンを約 2 秒間長押しすると、車両を遠隔で始動することができます。始動後、ターンシグナルランプが 3 回点滅します。
2. リモートスタート後、10 分以内に有効な操作を行わない場合は、電源ポジションが「OFF」になり、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
3. 始動後、リモートキーの「リモートスタート/ストップ」 ボタンを 2 秒ほど長押しすると、電源ポジションが「OFF」になり、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。



車の運転

運転前の点検

車両外部

- **タイヤ**：タイヤの空気圧、タイヤトレッドに割れ、破損、異物の噛み込みがないか、タイヤに異常、過度な摩耗がないかを点検します。過度な摩耗や偏摩耗がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールのアライメント調整および関係する点検をしてください。
- **ホイールナット**：ナットの緩みや外れがないかを点検します。
- **水漏れ**：車両を止めてからしばらく待ち、車両下にオイルや冷却水、その他の液体が漏れていないかを点検します（エアコンの作動により発生する水は異常ではありません）。
- **照明**：ヘッドライト、ポジションランプ、ターンシグナルランプおよび他のライトの作動、ヘッドライトの明るさを点検します。

車両内部

- **シートベルト**：バックルがしっかりロックでき、シートベルトに摩耗や擦り傷がないことを点検します。
- **コンビネーションメーター**：メンテナンス表示灯、コンビネーションメーター照明とデフロスターの作動に異常がないことを点検します。
- **ブレーキペダル**：ブレーキペダルの操作に必要なスペースがあることを点検します。
- **起動バッテリーとケーブル**：つなぎ目に腐食や緩み、外れがなく、モータールームのバッテリーケースに割れ目がないことを点検します。

モータールーム内部

- **バックアップ用フューズ**：それぞれのフューズのバックアップがあることを点検します。フューズボックスには、各種の定格電荷量に対応する仕様が記載されている必要があります。
- **冷却水の量**：冷却水の量が正しい範囲であることを点検します。
- **ブレーキフルードの量**：ブレーキフルード量が正しい範囲にあることを点検します。

始動後の点検

- コンビネーションメーター：故障を示す警告灯およびスピードメーターの作動に異常がないことを点検します。
- ブレーキ：安全な場所で車両を直進走行し、ステアリングホイールをしっかりと維持した状態でブレーキを掛けたとき、偏りがなく真っすぐ走ることを点検します。
- その他の異常な現象：緩んだ部分や漏れ、異常な騒音がないかを点検します。

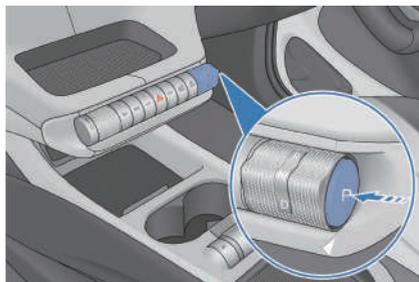
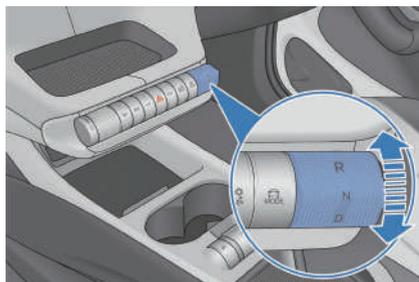
運転前の準備について

- 車両に乗り込む前に、車両周辺の状況を確認してください。
- シートポジション、シートバック角度、シートクッションおよびヘッドレストの高さ、ステアリングホイールの角度を調節します。
- ルームミラーとドアミラーを調節します。
- すべてのドアを閉めます。
- シートベルトを確実に締めます。

シフト機構

ギアアクチュエーターのレンジマークは、インストルメントパネル内のコンビネーションメーターに表示されます。

- 「R」レンジ：リバースレンジで、車両が完全に止まってから使用してください。
- 「N」レンジ：ニュートラルレンジで、一時的に停止する場合に使用します。車両から降りる場合は、必ず「P」レンジに切り替えてください。
- 「D」レンジ：ドライブレンジで、走行時に使用します。
- 「P」レンジ：パーキングレンジでボタンを押すと駐車できます。車両をスタートまたはストップする場合は、シフトレバーを「P」レンジに入れてください。ブレーキペダルを踏み込むと、「P」レンジからその他のレンジに切り替えることができます。



⚠ 注意

- トランスミッションの破損を防ぐため、「P」レンジは車両が完全に止まってから押してください。
- 車両が停止している場合は、以下の状況によりシフトが「P」レンジに切り替わります。
 - シフトが「R」または「D」レンジの状態、運転席側ドアを開けたとき。
 - シフトが「P」レンジ以外の状態で、車両の電源ポジションを「OFF」にしたとき。
 - シフトが「P」レンジ以外の状態で、充電コネクタを挿し込んだとき。

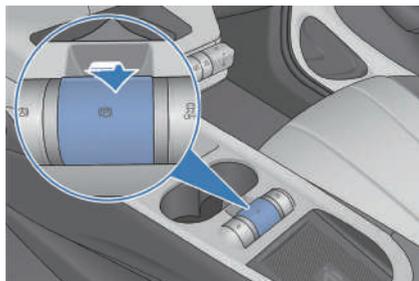
⚠ 警告

- 制動力不足による事故を避けるため、モーターを OFF にしている場合は、絶対にシフトを「N」レンジに切り替えた状態で車両を移動させないでください。
- 車両の電源ポジションが「OK」で、シフトを「R」または「D」レンジにする場合は、必ずブレーキペダルを踏み込んで車両を停止させてください。ニュートラル状態でもトランスミッションが動力を伝達しているため、車両がゆっくり動きます。
- 事故を防ぐため、前進時にシフトポジションを切り替える場合は、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 事故を防ぐため、走行中はシフトを「R」または「P」レンジにしないでください。
- 事故を防ぐため、発進するときはアクセルペダルを踏んだままシフトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。
- 車両が始動していない状態でも、「N」または「P」レンジのまま坂を下りないでください。
- 自然発車を防ぐため、車両がしっかり止まってからパーキングブレーキを引き上げ、「P」レンジにしてください。
- 思わぬシフトチェンジが起き、車両が突然発進するなど事故の原因になるおそれがあるため、シフトレバーにものをかけないでください。
- ドライバーは、車両から降りる前にシフトを「P」レンジに切り替えるように義務付けられています。この機能は、すべての状況で機能するわけではありません（充電ポートへの充電ケーブルの接続が検知されていないときなど）。
- 怪我を防ぐため、「P」レンジは車両が完全に止まってから押してください。

電動パーキングブレーキ (EPB)

電動パーキングブレーキスイッチ

駐車時や車両から離れる場合は、必ず電動パーキングブレーキスイッチ (EPB) を引き上げてください。



手動で EPB を掛ける

電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き上げると、EPB は適切な制動力を掛けます。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) は、最初に点滅してから点灯状態になり、EPB が掛かると「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されます。

⚠ 注意

- 電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点滅している場合は、EPB 作動中を表します。坂道では自然発車を防ぐため、電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯してからブレーキペダルを離してください。

自動で EPB が掛かる

この機能は、車両の自主安全性を上げるためのものであり、機能の過信や頻繁に使用しないでください。安全を確保するため、降車時は必ずシフトレバーを「P」レンジにし、EPB が掛かっていることを確認してください。

- 車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると EPB が自動で作動し、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯します。
- ブレーキペダルで停車させてから「P」レンジに入れると EPB が自動で作動し、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点滅から点灯状態になります。「EPB ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離してください。

- ブレーキペダルで停車させてからもブレーキを踏み続け、シフトレバーを「D」または「R」レンジに入れてから運転席ドアを開けると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が点滅から点灯状態になります。「EPB ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離してください。

⚠ 注意

- EPB スイッチと「スタート/ストップ」ボタンを同時に押した場合、EPB は自動で作動しません。
- 車両のレッカー移動、立ち往生でレッカー移動やブレーキペダルの修理交換が必要な場合は、 → **車両状況** → **リペアー** → **点検** から **EPB トレーラーモード** を ON にします。
- 坂道で停止している場合は、ブレーキペダルを少し離しただけでも車両が自然に動くおそれがあるため、ブレーキペダルを早めに離さないでください。
- 電源ポジションを「OK」にしてからの数秒間は、EPB システムが電源投入時のセルフテストをしている状態のため、すべての機能に応答していません。

手動で EPB を解除する

- 車両の電源ポジションが「OK」またはスタート状態にあり、かつ「P」レンジ以外のレンジに入っている場合は、ブレーキペダルを踏み続けた状態でコンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が消灯するまで EPB スイッチを押すと、パーキングブレーキが解除することができ、コンビネーションメーターに「電動パーキングブレーキ OFF」と表示されます。

⚠ 注意

- 「P」レンジは駐車するためのレンジであり、「P」マークは安定な駐車状態にあることを表しています。これに対して、EPB は車両の主なパーキング装置です。安全な駐車を確保するため、EPB スイッチでパーキングブレーキを解除する操作は、「P」レンジ以外のレンジにした前提に限られます。

発車時に自動的に EPB を解除する

- 「P」レンジで車両を始動し、ブレーキペダルを踏んだ状態で「P」または「N」レンジから、「D」または「R」などのレンジに切り替えると EPB が自動で解除され、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が消灯して「EPB が解除されました」と表示されます。

⚠ 注意

- 正しいシフトチェンジをしてください。シフトチェンジ中は最後までブレーキペダルを踏み続け、コンビネーションメーターに目的のレンジが表示されてから、ブレーキペダルを離してください。
- 電源ポジションを「OK」にしてからの数秒間は、EPB システムが電源投入時のセルフテストをしている状態のため、すべての機能に応答していません。

- 車両を始動し、シフトレバーが「D」または「R」などのレンジに入っている場合は、マルチメディアから電動パーキングブレーキ (EPB) を ON にした後、アクセルペダルをある程度までゆっくり踏み込むと EPB が自動で解除され、電動パーキングブレーキ表示灯(Ⓟ)が消灯して「EPB が解除されました」と表示されます。

⚠ 警告

- EPB によるブレーキの利用は、可能な限り避けてください。緊急ブレーキ機能の使用は、フットブレーキが利かない、または利きづらいなどの緊急時に限られます。
- EPB は、路面の摩擦力の物理限界を超えることはできないため、カーブや危険な道路、渋滞、悪天候などの走行時に緊急ブレーキ機能を作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあるため、事故につながらないように注意してください。

EPB 解除に失敗したとき

- 手動で EPB を解除できない場合は、EPB スイッチを 2 秒以上押し続けてください。EPB が解除されたときは、最寄りの BYD 正規ディーラーでブレーキランプスイッチ信号、および関係部品、回路などを点検してください。解除できないときは、ただちに BYD 指定サービス工場までご連絡ください。
- 走行中にブレーキが利きにくい、または掛からない場合は、「P」ボタンを 2 秒以上押し続けると、緊急ブレーキを作動させることができます。

⚠ 警告

- 走行中の安全を確保するため、正常時は緊急ブレーキを可能な限り避けてください。
- インテリジェントパワーステアリングシステムの故障やフットブレーキが利きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら、正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。

フットブレーキが利かない場合の緊急ブレーキ機能

- 走行中にブレーキが利きにくい、または掛からない場合は、「P」ボタンを 2 秒以上押し続けると、緊急ブレーキを作動させることができます。

⚠ 警告

- 緊急ブレーキを可能な限り避けてください。緊急ブレーキの使用は、フットブレーキが利かない、または利きづらいなどの緊急時に限られます。
- インテリジェントパワーステアリングシステムの故障やフットブレーキが利きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら、正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。
- EPB は、路面の摩擦力の物理限界を超えることはできないため、カーブや危険な道路、渋滞、悪天候などの走行時に緊急ブレーキを作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあるため、事故につながらないように注意してください。

EPB システム表示灯

- EPB スイッチを引き上げている状態で車両の電源ポジションを「ON」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯します。
- EPB スイッチを引き上げている状態で車両の電源ポジションを「OFF」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯してから約 3 秒後に消灯します。
- 電源を入れると EPB システムがセルフテストを実施し、コンビネーションメーターのパーキングシステム故障警告灯 (P) が点灯してから約 3 秒後に消灯します。消灯しない場合は、EPB システムまたはブレーキシステムに不具合が発生しているおそれがあります。すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場までご連絡ください。

EPB 作動音

- EPB スイッチを引き上げる、または EPB を解除すると、EPB モーターの作動音が聞こえます。
- 緊急ブレーキ機能を有効にしてから、焦げた臭いがする、または異常な音がする場合は、すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

警告

- 車両が坂道で下がるのを防ぐため、車両から離れる場合は「P」レンジのみで駐車しないでください。駐車するときは、EPB を引き上げてシフトレバーを「P」レンジに入れてください。
- 重大事故の発生を避けるため、走行中は EPB スイッチを操作しないでください。
- EPB の制動力不足による自然発車や、シフトの引っ掛かりなどの異常を防ぐため、EPB スイッチを引き上げる、または解除する場合は、できるだけブレーキペダルを踏まないでください。
- 急斜面や積雪、凍結した場所などでの駐車は避けてください。

オートブレークホールド (AVH)

オートブレークホールド (AVH) : 渋滞や信号待ちなどの長い間停車する必要がある場合、自動的にブレーキを掛けることで長時間の停車を維持します。

オートブレークホールド待機状態

- 車両の電源ポジション「OK」時にオートブレークホールドスイッチを押してシステムをONにすると、コンビネーションメーターのオートブレークホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯します。
- 再度オートブレークホールドスイッチを押すと、システムがOFFになります。



オートブレークホールド機能の有効化

- コンビネーションメーターのオートブレークホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯している状態でブレーキペダルを踏み停車すると、オートブレークホールドが作動します。このとき、車両は自動で停車してオートブレークホールド表示灯(A)が点灯します。

⚠ 注意

- オートブレークホールドの作動に必要な条件（同時に満たす必要があります）：
 - ドライバーがシートベルトをきちんと締め、かつドアが閉まっていること。
 - インテリジェントパワーステアリングシステムおよび電動パーキングブレーキ (EPB) システムに故障がないこと。
- アクセルペダルを踏む、「P」レンジに切り替える、またはEPBスイッチを引き上げると、オートブレークホールドが解除されて待機状態になります。
- 工場出荷時、オートブレークホールドはOFFに設定されています。
- 次回起動時の設定は、前回の最後のON/OFF状態が記録されます。

オートブレークホールドの作動

- オートブレークホールドが作動した場合、ブレーキランプとハイマウントストップランプが点灯し、コンビネーションメーターのオートブレークホールド表示灯(A)が常時点灯します。このようなときは、オートブレークホールドが正常に作動しています。

- 車両が 10 分以上停車している場合、システムが自動でオートビークルホールドを解除して待機状態になります。このとき、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯し、自動で「P」レンジに切り替わります。
 - オートビークルホールドを有効にするときは、「D」レンジに切り替えて走行した後、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

オートビークルホールドのキャンセル

- オートビークルホールド作動中に以下の操作を行うと、自動で「D」から「P」レンジに切り替わります：
 - 運転席ドアを開ける。
 - 運転席シートベルトを外す。
 - 「D」レンジで停車中に、電動パーキングブレーキ (EPB) を ON にする。
 - ブレーキペダルを離れたときにオートビークルホールドスイッチを押して、オートビークルホールドを OFF にする。

オートビークルホールドの抑制

- 「R」レンジに切り替えて低速移動モードになると、オートビークルホールドが移動モードになります。「R」レンジ時に低速で後退する、「R」から「D」レンジに切り替え低速で走行すると、オートビークルホールドの作動が抑制されるため移動しやすくなります。
- 低速移動モードは、速度が 10km/h を超える、または解除してからもう一度オートビークルホールドを有効化にすると、自動で解除されます。

警告

- 人が乗降したり、荷物の積み下ろしを行ったり、洗車機を使用したりするときなどは、AVH 機能を OFF してください。不意に動き始めて、事故につながるおそれがあります。
- ブレーキペダルを離す前に、オートビークルホールド表示灯(A)が点灯していることを確認してください。
- AVH 機能によりブレーキが保持されているときに OFF する場合は、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。ブレーキが解除された途端に車両が動き始め、事故につながるおそれがあります。

オートビークルホールド (AVH) 機能の待機に必要な条件 (同時に満たす必要があります)

AVH 機能を ON にしている状態：

- ドライバーがシートベルトを着用。
- 運転席側ドアが閉まっている。
- 車が始動している。
- ESC システムの故障がない。

⚠ 注意

- 電源ポジションを「OK」にしたときの AVH 機能は、デフォルトで OFF に設定されています。待機状態に入ると、メーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯(A)が点灯します。

オートビークルホールド (AVH) 機能の作動に必要な条件

- AVH が待機状態に入っていること。
- ドライブレンジの状態で車がブレーキペダル操作で完全に停止していること。
- ドライバーがブレーキペダルを踏み込み、AVH 機能が ON になり動作表示灯が緑で点灯していること。
- AVH 機能が作動してから 10 分以上経過すると EPB が自動的にかかります。EPB がかかると AVH 機能は待機状態に戻ります。

⚠ 注意

- AVH 機能の有効化に必要な条件を同時に満たさなければ、AVH を有効にすることができません。
- シフトレバーが「R」レンジに入っている場合、AVH は機能しません。
- レンジを「D」から「R」に切り替えると、システムが移動モードに入ります。このとき、AVH 機能は有効になりません。AVH スイッチを押す、または速度が 10km/h を超えた場合、移動モードが解除になります。

運転要領

- 敷石が設置されている道路を走行する場合は、ゆっくりと走行しながら正しい角度を保ってください。タイヤを大きく破損させるおそれがあるため、とがっているものや障害物の上を走るとは避けてください。
- 悪路を走行するときはスピードを落としてください。衝撃でホイールを大きく破損させるおそれがあります。
- 濡れた路面を走行する場合は、深い水たまりを避けてください。
- 逆風では、車両をコントロールできるようにゆっくりと走行してください。
- 洗車後や深い水たまりを通り抜けてブレーキが濡れている場合は、慎重に運転しながらブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを乾かしてください。
- 氷雪、砂石、水濡れのタイル、エポキシ樹脂系塗床などの路面の摩擦係数が低い場合は、自然発車しないように坂道での駐車は可能な限り避けてください。

⚠ 警告

- お子様などの乗員の誤操作を防ぐため、ドライバーは車両の各機能の使い方を乗員に伝え、安全確保を心掛けてください。

ℹ アドバイス

- バッテリーは車両底部にあるため、ぶつけないように注意しながら運転してください。
- 電動パーキングブレーキが解除されており、電動パーキングブレーキ表示灯(P)が消灯していることを運転前に確認してください。
- 車両の電源ポジションが「OK」の場合は、車両から離れないでください。
- 危険な過熱現象や摩耗、電気エネルギーの消費につながるため、走行中はブレーキペダルとアクセルペダルに足を長時間同時に乗せないでください。
- 車両から離れる場合は、リモートキーを携帯してください。
- 長い距離の下り坂を走行する場合は、スピードを落としてください。また、ブレーキを頻繁に踏むと、ディスクローターが高温になり正常に機能しないおそれがあります。
- 滑りやすい路面で加速やブレーキを踏む際は十分に注意してください。車両がスリップや横滑りを引き起こすおそれがあります。
- 生命にかかわる事故を避けるため、走行中は窓から頭や手を出さないでください。特に、お子様を乗せているときは十分に注意してください。
- モータールームに大量の水が侵入すると、パワートレインや電気部品の破損につながります。

冬期の運転について

- 冷却水が凍結防止の保護機能を発揮していることを点検します。
 - 本車に使われているオリジナル冷却水の型番と同じのものを使用します。冷却システムに冷却水を補充する場合は、周辺温度に応じて適切な冷却水の型番を選択してください。
 - 不適切な冷却水を使うと、冷却システムの破損につながります。
- バッテリーやケーブルの状況を点検します。
 - 寒い気候では起動バッテリーの電圧が低下します。そのため、起動バッテリーには十分な電圧を持たせて、始動できるようにしてください。
- 氷雪によるドアロックの凍結を避けてください。
 - 凍結を防ぐため、ドアロックの鍵穴の中に除氷剤やグリセリンを吹き付けます。
- 不凍液を含んだウォッシュ液を使用します。
 - このような製品は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場やすべての自動車部品販売店で販売されています。
 - 水と不凍液の混合比は、メーカーの指示に従ってください。

▲ 注意

- 塗装の損傷を防ぐため、専用のウォッシュ液を使用してください。
- マッドガード下側への氷雪の付着を避けてください。
 - マッドガード下側に氷雪が付着すると、ハンドル操作が難しくなります。厳冬期の走行時はこまめに停車し、マッドガードの下に氷雪が付いていないかを点検してください。
- 走行道路によっては、必要な非常用装備やアイテムを用意しておくことをおすすめします。
 - タイヤチェーン、ウィンドウ用ヘラ、砂 1 袋分、塩、誘導灯、車載用スコップ、ジャンピングケーブルなどはできるだけ搭載してください。

アダプティブクルーズコントロール (ACC) システム

- アダプティブクルーズコントロール (ACC) システムは、従来のクルーズコントロールをベースに、レーダーとマルチファンクションビデオコントローラーで先行車と本車の相対距離および相対速度を計測し、本車の走行速度を自動で調整することで、先行車との車間距離を一定に保ちながら追従走行を可能にしています。先行車の有無により、クルーズコントロールと追従型クルーズコントロールの自動切替をシステムが行います。
- クルーズコントロールボタンで本車の巡航速度および先行車との車間距離を設定できます。30～150km/hの範囲内で巡航速度を設定することができ、本車と先行車の車間距離を設定し、0～150km/hの範囲内で車間距離を一定に保ちながら追従走行することができます。

作動状況説明

- アダプティブクルーズコントロール待機の場合：
 - システムをONにした後はデフォルトで待機状態となり、ドライバーの操作によってシステムを有効にできます。有効にするための条件が揃っていないときは、ドライバーが車両を点検し、システムを有効にする条件を揃えてください。このとき、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます (巡航速度は変数)。
- アダプティブクルーズコントロールが有効になっている場合：
 - システムは作動状態であり、車両が設定速度で走行する、または先行車との車間距離を自動で調節しながら追従走行します。このとき、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます (巡航速度は変数)。
- 追い越し時の加速の場合：
 - ドライバーがアダプティブクルーズコントロールを有効にした状態でアクセルペダルを踏むと、操作に反応して車両が速度を上げます。このとき、アダプティブクルーズコントロールが一時的に停止します。ドライバーがアクセルペダルを離すと、自動でアダプティブクルーズコントロールが作動します。
- アダプティブクルーズコントロールが故障している場合：
 - 故障すると、コンビネーションメーターにアダプティブクルーズコントロールシステム警告灯が表示され、すべての操作ができなくなります。

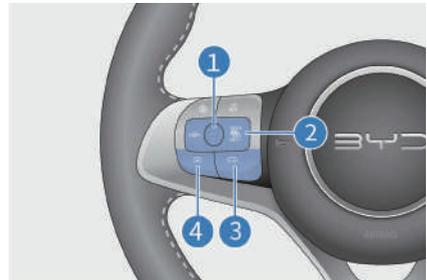
アダプティブクルーズコントロールシステムの作動条件

- 電動パーキングブレーキ（EPB）は解除されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- 速度が $\leq 150\text{km/h}$ のとき。
- 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能が ON となっていない状態。

使い方

ACC ON/OFF ボタン

- ボタン②を押すと（作動条件を満たしてシステムがスタンバイ状態の場合）、アダプティブクルーズコントロールの ON/OFF ができます。（ボタン②を押して ON にすると、デフォルトで現在の速度を巡航速度に設定します。速度が 30km/h 未満の場合は、 30km/h に設定します）。



ACC リセット / RES

- 走行中、システムがスタンバイ状態の場合は、最後に設定した巡航速度を記憶します。このとき、上方向にレバー①を操作すると、前回システム OFF 時に記憶した速度に戻すことができます。

設定速度の+ / -

- アダプティブクルーズコントロールを ON にしてからレバー①を操作すると、 $30 \sim 150\text{km/h}$ の範囲内で巡航速度を設定できます。上下方向にレバー①を短く操作すると、設定速度を 5km/h ずつ加速または減速でき、レバー①を長く操作すると、設定速度を 1km/h ずつ加速または減速できます。

⚠ 警告

- 走行中は道路の速度制限を遵守し、速度超過にならないように速度を抑えて安全に運転してください。

アダプティブクルーズコントロールの解除

- アダプティブクルーズコントロール作動中に再びボタン②を押す、またはブレーキペダルを踏むと、システムが作動状態からスタンバイ状態に入ります。

車間距離の設定

- ドライバーは、安全な車間距離を選択する責任があります。
- システムは、同一車線を走行する先行車と適切な距離を保つため、速度を調整することができます。ドライバーは、ステアリングホイールの③または④を操作して、車間距離を4段階で調整します。車間距離は速度に比例して変化し、速度が速いほど車間距離が広くなります。

アダプティブクルーズコントロール使用時の自動加速 / 減速

- システム作動時にドライバーがアクセルペダルを踏んだ場合、アクセルペダルを踏んでいる間はアシスト運転状態でブレーキを掛けることはできません。
- 目標の巡航速度設定が80km/h未満の場合は、アクセルペダルを踏むことで目標の巡航速度に上げることができます。
 - アクセルペダルを踏み込み、車速が目標の巡航速度設定以上、かつ80km/h未満のときは、アクセルペダルを離すと、目標の巡航速度設定がアクセルペダルを離した際の車速に等しくなります。
 - アクセルペダルを踏み込み、車速が目標の巡航速度設定以上、かつ80km/h以上のときは、アクセルペダルを離すと、巡航速度設定が80km/hになります。
 - 巡航速度設定が80km/h以上のときは、アクセルペダル踏むと車速を一時的に上げることができますが、アクセルペダルを離しても目標の巡航速度設定は変更されません。
- アクセルペダルを踏むと同時にボタンを短く押すと5km/h加速でき、ボタンを長く押すと連続して1km/h加速できます。速度が135km/h以上出ている、またはアクセルペダルを5分以上踏み続けると、アダプティブクルーズコントロールはOFFになります。

先行車に追従しての停止 / 発進

- システムは、通常の走行モードで先行車に追従して車両を停車させることができます。30秒以内の停車時は、自動で先行車に追従して発進します。
- 30秒～3分以内の停車の場合は、ドライバーがアクセルペダルを踏み込むか、レバー①を上方向へ操作してシステムを作動させる必要があります。

システムの限界

- 車両前部に設置されているフロントミリ波レーダーは、汚れにより視界が遮られると本来の機能を発揮できなくなります。特に、積雪でセンサーが覆われるとシステムがOFFになります。システムは、HMI（ヒューマンマシンインターフェース）を通じてドライバーにシステムOFFのメッセージを伝えます。このような場合は、汚れをきれいに取り除いて車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダー検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このようなときは、車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- カーブに進入またはカーブから抜けた瞬間は、先行車の選定が遅れたり干渉を受けたりすることがあります。このような場合は、システムが期待通りに作動しない、または作動が遅れることがあります。
- 曲がりくねった道などの急カーブでは、センサーが感知する前方の車両が数秒間消えることがあるため、アダプティブクルーズコントロールの走行速度が上がるおそれがあります。
- ドライバーは、先行車の流れ、雨や霧などの現在の状況に合わせて追従走行時の車間距離を調整し、アダプティブクルーズコントロールを適切に設定してください。設定後は、いつでも車両の速度を減速して停止できるようにしてください。
- アダプティブクルーズコントロールは、静止またはゆっくり移動している物体（たとえば、車両や渋滞の後方、料金所、自転車、歩行者）を認識できずに衝突事故を引き起こすおそれがあるため、ドライバーは常に周辺の状況を確認してください。
- アダプティブクルーズコントロールは、歩行者や対向車を認識することはできません。
- アダプティブクルーズコントロールは制動力が限られているため、急ブレーキに対応できません。

- フロントミリ波レーダーは、レールや道路工事に用金属板などの金属物が中距離レーダーと干渉すると、正常に作動しないことがあります。
- フロントミリ波レーダーが振動や衝突の影響を受けると、性能が低下することがあります。このような場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

警告

- アダプティブクルーズコントロールは、セーフティシステム、障害物検知システムまたは衝突警告システムではなく、快適な運転を支援するためのシステムです。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- アダプティブクルーズコントロールはドライバーを支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- アダプティブクルーズコントロールは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、アダプティブクルーズコントロールを使うかどうかを判断してください。

ご注意

- アダプティブクルーズコントロールはドライバーを支援するためのシステムであり、ドライバーの代わりに運転するものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 安全上の理由から、ESC を ON にしていない状態では、アダプティブクルーズコントロールを有効にすることはできません。
- アダプティブクルーズコントロールは、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。
- 先行車との車間距離を保つことはドライバーの責任です。アダプティブクルーズコントロールの車間距離は、現地の運転環境に要求される最小車間距離に適合しています。
- システム作動時、ドライバーがアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、車両のコントロールはドライバーに引き継がれます。このとき、アダプティブクルーズコントロールの車間距離制御機能は作動しません。
- 先行車が急ブレーキを掛けた場合（緊急停車）、システムが反応できない、または反応が遅れてブレーキが遅れるおそれがあります。このとき、ドライバーに車両制御への介入を要請するメッセージは届きません。

- 状況（本車の速度に対して先行車が遅い、車線変更速度が速い、安全距離が短いなど）によっては、システムが相対速度を落とすのに必要な時間がない場合があります。このようなときは、ドライバーが適切な操作してください。システムはどのような状況でも音声や映像で警告を出すことができるわけではありません。
- 車両が停止している状態でアダプティブクルーズコントロールを有効にすると、システムは前方にある静止物を対象車両として認識し、停止状態に維持します。これは、発進時の安全を確保して予期せぬ発進による衝突を避けるためです。ただし、このシステムはすべての障害物に対応できるわけではないため、ドライバーは正面方向に障害物や他車がないことを確認してください。
- アダプティブクルーズコントロール付き車両が、隣接車線を走行する他車との車間距離が狭い（隣接車線を走行する他車アダプティブクルーズコントロール付き車両に近すぎた）場合、アダプティブクルーズコントロールが作動することがあります。
- 本車アダプティブクルーズコントロール付き車両の進路に車線変更し、フロントミリ波レーダーの検知範囲内に入っている場合は、アダプティブクルーズコントロール付き車両を対象車両として認識します。システムは対象車両に応じた反応をするため、強力な制動力がかかったり、ブレーキが遅れたりすることがあります。
- 環境によっては、検知が影響を受けたり遅れたりすることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、4輪馬車、歩行者など）場合、システムは前車との距離を判断できないおそれがあります。このような車両に対して反応が遅れる、または反応できなくなります。このようなときは、ドライバーが速度をコントロールしてください。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、検知の遅延や干渉が発生することがあります。
- 本車が先行車とほぼ一直線上に走行していない場合、システムは先行車を対象車両として認識できません。このようなときは、ドライバーが常に車両をコントロールしてください。
- 先行車に追従して停止する場合、まれに先行車の後端を検知できずに下端（車高の高いトラックの後軸や車のバンパーなど）を検知することがあります。システムは適切な停止距離を確保することができなくなるため、ドライバーは常に注意を払い、いつでもブレーキを掛けられるようにしてください。
- 車高を下げる、ナンバープレート取り付けブラケットを変更するなど、車両の構造的な改造はシステムに影響を与えるおそれがあります。
- 視界が悪い場所、坂道やカーブが続く道路、滑りやすい路面（雪道、濡れた道路や水浸しの道路など）を走行する場合は、絶対にシステムを使わないでください。

- 車両のけん引 / 雪道 / ぬかるみ / 砂道 / 山地などの特別な運転モード* を ON にしている場合は、アダプティブクルーズコントロールを作動させることができません。
- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場
でフロントミリ波レーダー、マルチファンクションビデオコントローラー
の校正、点検をしてください。
 - フロントミリ波レーダー、フロントバンパー、フロントガラスを取り外すとき。
 - 車輪の振れによりホイールアライメント調整を行ったとき。
 - 衝突したとき。
 - アダプティブクルーズコントロールの性能低下、またはコンビネーションメーターからシステム異常のメッセージに気づいたとき。

ナビゲーションパイロット (ICC)

- ナビゲーションパイロット (ICC) は、アダプティブクルーズコントロール (ACC) システムとレーンキープアシストシステム (LKS) を組み合わせたシステムです。速度 0 ~ 120km/h 以内において前後左右方向への制御を支援し、ドライバーの運転負荷を軽減することで、安全で快適な運転環境を提供します。
- システム作動中、ドライバーは常にステアリングホイールを手に取り、必要なときに車両のコントロールしてください。
- 前後方向制御支援はアダプティブクルーズコントロールによって行われ、速度および先行車との車間距離を一定に保ちながら走行することができます。

作動状況説明

- ナビゲーションパイロット待機の場合：
 - システムは初期設定の待機状態となり、ドライバーの操作でシステムを有効にすることができます。作動条件が揃っていないときは、ドライバーが車両状態を確認してシステムの有効条件を揃えてください。このとき、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- ナビゲーションパイロットが有効になっている場合：
 - システムを有効にすると作動し、車両が設定速度で定速走行または先行車との車間距離を自動で調節して追従走行します。このとき、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- ナビゲーションパイロット故障の場合：
 - ICC が故障すると、コンビネーションメーターに ICC システム警告灯  が表示され、機能が使用できなくなります。

ナビゲーションパイロットの作動条件

- 電動パーキングブレーキ（EPB）が解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- 速度が $\leq 150\text{km/h}$ のとき。
- 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。
速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能が ON となっていない状態。
- 双方向車線が明瞭に表示され、かつ本車が車線の中央部を走行している状態。

使い方

- ステアリングホイールの  ボタンを押すと、ナビゲーションパイロットの ON/OFF を操作できます（ON になると初期設定としてクルーズ速度が設定され、現在の車速がデフォルトのクルーズ速度となります。速度が 30km/h 未満のときは 30km/h に設定されます）。
- クルーズ速度および車間距離の設定は、アダプティブクルーズコントロールの使い方を参照してください（詳細は [アダプティブクルーズコントロール（ACC）システム](#) を参照）。
- ドライバーは、 → **ADAS** → **インテリジェントドライブ** の設定画面から **ナビゲーションパイロット** の ON/OFF を行うことができます。（ソフトスイッチが ON になっていると、シフトレバーが「P」レンジに入っている状態に限り、OFF にすることができます）。車両始動時の設定は、前回の状態を維持します。

ご注意

- ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロールシステム (ACC) とレーンキープアシストシステム (LCC) の機能を組み合わせたシステムのため、ご利用の際は、ACC 機能の注意を必ず守ってください (詳細は「[アダプティブクルーズコントロール \(ACC\) システム](#)」を参照)。
- システムを ON にして後、本車の速度が 0 ~ 120km/h の範囲内の場合：
 - 前方に車線境界線がないときは、ナビゲーションパイロットの横方向制御が抑制されてアダプティブクルーズコントロールのみ機能します。このとき、コンビネーションメーターの ICC システム作動状態表示灯が灰色で点灯します。
 - 前方の車線境界線が明瞭に認識できるときは、ナビゲーションパイロットの横方向制御が自動で機能します。このとき、コンビネーションメーターに ICC システム作動状態表示灯が有効状態であることを表示します。
- ナビゲーションパイロットは運転を支援するためのシステムであり、自動運転ではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、長時間ステアリングホイールから両手を離さないでください。そうしないと、警告メッセージが表示された後にシステムが OFF になります。
- ナビゲーションパイロットは、天気や照明の明るさ、車線境界線の明瞭さの影響を受けるため、日陰、夕日、路面の積雪および著しい摩耗がある路面では、性能が著しく低下します。
- 急カーブが連続する道や凍結して滑りやすいカーブ、または悪天候 (濃霧、大雨、大雪など) により、フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーの視野が遮られている場合は、ナビゲーションパイロットの利用を避けてください。
- 機能が使えない場面：
 - センサーが遮られているとき。
 - 悪天候のとき。
 - 能動的安全システムが機能しているとき。
 - 走行速度の範囲を超えているとき。
 - けん引 / 雪道 / むかるみ / 砂道 / 山地などの特別な運転モード* では、システムは作動できません。

⚠ 警告

- ナビゲーションパイロットは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- ナビゲーションパイロットは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、ナビゲーションパイロットを使うかどうかを判断してください。

衝突予測警告 (PCW) および自動緊急ブレーキ (AEB)

衝突予測警告システム (PCW) および自動緊急ブレーキシステム (AEB) は、レーダーとマルチファンクションビデオコントローラーにより先行車と歩行者を検知します。システムは、本車が前方の車両または歩行者と衝突するおそれがあると判断した場合、音声・視覚警報を出してドライバーに回避処置を取るよう促すと同時に、潜在的な制動力を強くし、ドライバーに十分に対応できるための反応時間を確保することができます。システムは、衝突のおそれが高くなりつつあると判断したときには、自動的にブレーキを作動してドライバーが衝突を回避できるようにアシストし、衝突の被害を軽減させるようにします。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面から、**衝突予測警告 (PCW)** および **自動緊急ブレーキ** を設定することができます。
- 衝突予測警告の警告方法は、音声による警告、文字による警告、ポンピングブレーキ警告があります。
- 衝突予測警告が作動した場合は、緊急度合いによりコンビネーションメーターの警告灯が緑  または赤  で点滅してメッセージが表示されます。
- 自動緊急ブレーキが作動した場合は、コンビネーションメーターの警告灯が赤  で点灯してメッセージが表示されます。
- 機能が故障した場合は、コンビネーションメーターに  が表示されません。
- ドライバーが自動緊急ブレーキを OFF にした場合は、コンビネーションメーターに  が表示されます。

衝突予測警告の作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、16km/h ~ 150km/h の範囲。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。

自動緊急ブレーキの作動条件

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、4km/h ~ 150km/h の範囲。
- 電動パーキングブレーキ (EPB) は解除されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、トランクリッドは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。

システムの限界

- 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる (自転車、3 輪車、4 輪馬車、電動自転車やオートバイなど) 場合、状況によっては感知に影響が出たり遅れたりすることがあるため、システムが前方の対象物との距離を検知できないおそれがあります。そのため、反応が遅れる、または反応できなくなります。
- 次の場合は、システムが影響を受けるまたは機能しないことがあります。
 - 雨、雪、霧、または大きな水しぶき、反射光、直射日光、照明の明るさの急激な変化。
 - センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断。
 - レーダーが他のレーダー源の干渉により故障する。たとえば、立体駐車場での強いレーダー反射。
- 交通状況が複雑な場合、システムは下記の場面に正しく対応できないことがあります。
 - ハイスピードでセンサーの検知範囲に現れた歩行者や車両。
 - 他のものに遮られている歩行者。
 - 背景と見極めができない歩行者の輪郭。
 - 特殊な衣服、または他のものに覆われているなどで検知されない歩行者。
 - 半径が小さいカーブ。
- 対向車がいる場合：
 - 対向車と衝突するリスクを検知すると、システムが緊急ブレーキを自動で作動させます。事故の発生が回避できないときは、システムの作動によって衝突速度が下がります。

ご注意

- 自動緊急ブレーキの作動は、走行速度が一定速度より速い場合に限られます。システムはいかなるモードでも正しく作動できるわけではないため、慎重に運転してください。
- ESC システムが OFF または警告灯が点灯している場合は、自動緊急ブレーキが正常に作動しません
- 衝突予測警告が警告を出している場合、ドライバーは交通状況に応じてブレーキを掛けて速度を落とす、またはハンドルを操作して障害物を回避してください。
- 車間距離が近い状態で長時間走行すると、安全距離警告が車間距離取るように警告を出します。先行車が急ブレーキを掛けると衝突は避けられません。
- 緊急警告時にドライバーが気づいている場合（ドライバーがハンドルを切ったりアクセルペダルやブレーキペダルを踏むなど）は、自動緊急ブレーキは作動しません。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合、フロントミリ波レーダーの検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このようなときは、車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーが、表面の汚れや異物付着を誤って認識するエラーの場合は、コンビネーションメーターに関係メッセージが表示されるため（表面の汚れや異物の付着によりセンサーが感知できなくなった）、メッセージに従ってセンサー表面の異物を取り除いてください。エラーの間は、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが OFF になり、エラーが解消されると、衝突予測警告と自動緊急ブレーキシステムが正常に作動できるようになります。
- 歩行者保護は克服できない物理的な条件の制限があるため、ドライバーは危険モードに対して車両制御に素早く介入してください。
- 歩行者保護をシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に避けることができません。
- 歩行者保護システムは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不必要な警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- システムに故障がある場合は、間違った警告発信やブレーキ操作を行うことがあります（たとえば、フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーの角度ずれ）。

- 自動緊急ブレーキが作動すると、ブレーキペダルの操作フィーリングが重くなります。また、短時間でブレーキキャリパーを動かすのに大きな油圧が必要となるため、「ズズ」という音が聞こえることがあります。
- 予測緊急ブレーキは、ドアを閉めてシートベルトを着用している場合に限り作動します。次の場合は、予測緊急ブレーキシステムが機能しないことがあります。
 - ドアが閉まっていない、または走行中にドアが開いたとき。
 - シートベルトを着用していない、または走行中にシートベルトを外したとき。
 - ドライバーが急アクセルまたは急ブレーキ操作をしたとき。
 - 半径が小さいカーブ。
- 次の場合は、システムが常に最適な性能を発揮することができないおそれがあります。
 - 事故や他の原因により、フロントバンパーに強い衝撃を受けたとき。
 - タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。
 - 規定に合わないタイヤを装着したとき。
 - タイヤチェーンを装着したとき。
 - 小型スペアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使ったとき。
- 次の場合は、必ずBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場ですべてのセンサーの校正を行ってください。
 - フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーを取り外したとき。
 - ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節したとき。
 - 衝突事故発生後に、フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーの位置が変わったとき。
- 紙箱、鉄板、ダミー人形などで予測緊急ブレーキシステムの作動試験を勝手に行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。

警告

- 自動緊急ブレーキは、いかなる状況でも衝突の回避ができるわけではありません。交通状況が複雑な場合は、システムが車両と歩行者の認識をきちんと対応できないことがあります。また、マンホールカバーや鉄板、道路標識に反応し、誤って警告を発したりブレーキをかけたりするおそれがあります。
- 必ず安全運転を心がけ、周辺の交通状況に注意してください。いかなる場合も、通常のブレーキ操作の代わりに自動緊急ブレーキを使用しないでください。
- 事故が起こり、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、自動緊急ブレーキを過信しないでください。システムは運転を支援するためのものであり、ドライバーは自己責任で前車との車間距離を適切に保ち、スピードを制御してください。また、必要に応じてブレーキやハンドル操作ができるよう常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 歩行者保護をシステムそのものに頼っていると、事故や重大な傷害を完全に避けることができません。
- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキは運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、衝突予測警告および自動緊急ブレーキを使うかどうかを判断してください。

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) および フロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB)

フロントクロストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロストラフィックオートブレーキ (FCTB) は、フロントバンパーの左右両側に搭載されているミリ波レーダーにより本車の先方を横切る車両を検知するとドライバーに知らせ、必要に応じて自動でブレーキを掛けます。本車が低速走行中に先方を横切る車両と衝突する危険を検知すると、視覚・音声警告でドライバーに知らせます。衝突事故が発生しそうなときは、自動でブレーキを掛けて衝突事故の発生を避けようとしています。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面から フロントクロストラフィックアラート および フロントクロストラフィックブレーキ の ON/OFF を設定することができます。
- フロントクロストラフィックアラートを有効にしたときは、ドアミラー警告灯が点滅して音声警告を出します。
- フロントクロストラフィックオートブレーキが作動したときは、コンビネーションメーターの警告灯が赤で点灯し、音声警告を出すと同時に自動で緊急ブレーキを作動させます。
- フロントクロストラフィックアラート / オートブレーキに故障があったときは、コンビネーションメーターにが表示されます。

ご注意

- システムは前方の監視を支援しますが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールし自己責任で運転してください。
- 対象車両が側面からハイスピードで本車に接近してきた場合、システムは警告機能を発揮できないことがあります。
- ドライバーは、システムが正常に作動するように泥や雪などの付着物を早めに取り除き、フロントバンパー左右両側のフロントミリ波レーダーの設置部位を良好な状態に維持してください。
- ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、システムの検知が遅れたり干渉を受けたりすることがあります。

- 感知システムが影響を受けたり遅れることがあった場合、状況によっては、システムが運転を支援できないことがあります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限られません。
 - 側面から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えるとき。
 - 対象車両が遮られたとき。
 - 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、歩行者など）とき。
 - 雨、雪などの悪天候のとき。
 - フロントミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- 次の場合は、システムが機能しなくなります。
 - 対象物がミリ波レーダーの検知範囲外にあるとき。
 - フロントクロストラフィックアラート/オートブレーキスイッチがOFFになっているとき。
 - シフトポジションが「D」以外のレンジに入っているとき。
 - 4つのドアが閉まっていないとき。
 - システムの初期化が完了していないとき。
 - フロントミリ波レーダーに故障があるとき。
 - 急カーブや坂道などで先方の横から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
- ミリ波レーダーセンサーの校正が振動や衝突の影響を受けた場合、システム性能が低下するおそれがあります。このようなときは、BYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

- フロントクロストラフィックアラートおよびオートブレーキは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- フロントクロストラフィックアラートおよびオートブレーキは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、フロントクロストラフィックアラートおよびオートブレーキを使うかどうかを判断してください。

交通標識認識システム (TSR)

交通標識認識システム (TSR) は、マルチファンクションビデオコントローラーおよび地図*により道路の速度制限標識を認識します。また、コンビネーションメーターに認識した速度制限標識を表示し、速度が制限速度を超えている場合は、ドライバーへ警告情報を発信します。

使い方

- ドライバーは、 → **ADAS** → **ドライビングアシスト** の設定画面から **交通標識認識システム** を設定することができます。
- 交通標識認識システムが交通標識を認識すると、コンビネーションメーターに赤  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムにより、認識した制限速度が現在の道路に適用しているかを判断できない場合は、コンビネーションメーターに赤  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムの性能が低下した場合は、コンビネーションメーターに黄色  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムの性能が低下し、認識した制限速度が現在の道路環境に適用するか判断できない場合は、コンビネーションメーターに黄色  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムが故障している場合は、コンビネーションメーターに黄色  のアイコンが表示されます。
- 交通標識認識システムを OFF にした場合は、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- 上記の数字は、実際の交通標識に合わせて表示されます。

ご注意

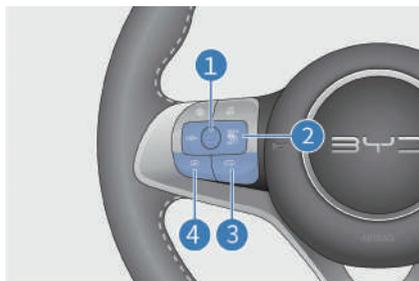
- 交通標識認識システムは制限速度標識のみを認識するため、車両のアクティブ制御には関与しません。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールできる適切な速度で運転してください。
- 定められたサイズに一致していない重量制限標識の場合は、誤って制限速度標識として認識されることがあります。
- 標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮断などがある場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの認識能力が低下したり認識できなくなります。
- 交通標識認識システムの性能は、天気や照明の明るさ、道路標識の明瞭さなどに影響を受けるため、夜、日陰、夕日、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより認識能力が低下すると、標識を認識できない場合があります。
- 衝突事故が発生した、またはマルチファンクションビデオコントローラーセンサーの脱着をした後は、システム性能への支障がないようにBYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

警告

- 交通標識認識システムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- 交通標識認識システムは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、交通標識認識システムを使うかどうかを判断してください。

インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC)

■ インテリジェントスピードリミットコントロール (ISLC) は、アダプティブクルーズコントロール (ACC) システムと速度制限標識認識システム (TSR) を組み合わせたシステムです。システムを ON にすると速度制限標識を認識し、速度制限値が現在のアダプティブクルーズコントロールの設定巡航速度に一致していない場合は、認識した制限速度に巡航速度を調節するかを知らせます。ドライバーが操作（下方向へレバー①を操作）すると、システムは巡航速度を認識した制限速度に自動で設定します。



■ ドライバーは、速度 30 ~ 150km/h の範囲内でシステムを ON にすることができます。

使い方

■ ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → 交通標識認識システム の設定画面から、スピードリミットコントロール (ISLC) の設定を ON/OFF することができます。

■ 交通標識認識システムを OFF にした場合、インテリジェントスピードリミットコントロールのアイコンが灰色になり、ドライバーは操作することができなくなります。このとき、インテリジェントスピードリミットコントロールが OFF になります。交通標識認識システムを ON にすると、インテリジェントスピードリミットコントロールを操作することができます。

■ インテリジェントスピードリミットコントロールの作動条件は、アダプティブクルーズコントロールが ON になっていることです。

ご注意

- インテリジェントスピードリミットコントロールは、アダプティブクルーズコントロールと交通標識認識システムを組み合わせたシステムです。利用する場合は、アダプティブクルーズコントロールおよび交通標識認識システムの注意事項を守ってください（詳細は[インテリジェントスピードリミットコントロール \(ISLC\)](#) および[交通標識認識システム \(TSR\)](#) を参照）。
- インテリジェントスピードリミットコントロールは、運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールしてください。
- インテリジェントスピードリミットコントロールの性能は、天気や照明の明るさ、道路標識の明瞭さなどに影響を受けるため、夜、日陰、夕日、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより認識能力が低下すると、制限速度標識を認識できない場合があります。

警告

- インテリジェントスピードリミットコントロールは運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- インテリジェントスピードリミットコントロールは天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、インテリジェントスピードリミットコントロールを使うかどうかを判断してください。

インテリジェントハイビーム (IHBC)

インテリジェントハイビーム (IHBC) は、マルチファンクションビデオコントローラーセンサーにより現在の運転環境を判断し、速度が 35km/h 以上になるとハイビームを自動で ON/OFF します。

作動状況説明

- インテリジェントハイビーム待機の場合：
 - システムは ON ですが作動しません。このとき、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- インテリジェントハイビームが有効になっている場合：
 - システムを ON にしてライトスイッチが AUTO の位置にある場合、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たすと自動で作動します。このとき、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- インテリジェントハイビーム故障の場合：
 - 故障が発生した場合は、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト の設定画面から **インテリジェントハイビーム** の設定を ON/OFF することができます。また、車両を再始動時の設定は前回の設定になります。
- システムを ON にしてライトスイッチが AUTO の位置にある場合は、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たすと、実際の走行状況に応じてロービーム / ハイビームを自動で切り替えます。

ご注意

- インテリジェントハイビーム (IHBC) はライトを制御するための支援システムであり、高速走行時は利用することをおすすめします。ただし、このシステムはドライバーに完全に取って代わるものではないため、常に道路交通規則を遵守し、道路環境の変化に合わせてハイビームとロービームを適切に切り替えてください。
- ABS や ESC の作動など、車両がハイダイナミックレンジな状態にある場合は、ライトの切り替えを制限します。
- ドライバーがフォグランプ、ターンシグナルランプを点ける、ワイパーを高速作動モードに切り替える、後退する、ライトスイッチを AUTO 以外に切り替える、周囲の光が強すぎる場合は、システムが OFF になります。
- 衝突事故が発生した、またはカメラセンサーの脱着をした後は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

警告

- システムが ON で作動している場合でも、環境や条件により誤作動や作動しないことがあります。このようなときは、ドライバーが対応してください。代表的な状況は次のとおりです。
 - ドライバーがハイビームにしたとき。
 - 濃霧、大雨または大雪など、運転に極めて不利な天候条件のとき。
 - 照明が弱い交通参加者（歩行者や自転車など）や、鉄道や水路に近隣する道路または野生動物が出没する道路を走行するとき。
 - 光を強く反射するものがあるとき（高速道路上の交通標識、路上の水たまり、先行車のトレーラーの反射する後端など）。
 - フロントガラスに霧や汚れが付いている、ラベルやアクセサリなどで遮られているとき。
- インテリジェントハイビームシステムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- インテリジェントハイビームシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じてインテリジェントハイビームシステムを使うかどうかを判断してください。

レーンサポートシステム (LDA)

レーンサポートシステム (LDA) は車線逸脱警告 (LDW) と車線逸脱防止 (LDP) を備えています。

車線逸脱警告 (LDW)

車線逸脱警告 (LDW) は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、システムがステアリングホイールの振動、音声、コンビネーションメーターへの表示などにより、車線の逸脱をドライバーに知らせます。

車線逸脱防止 (LDP)

■ 車線逸脱防止 (LDP) システムは、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、電動パワーステアリングシステム (EPS) 制御により、反対方向にステアリングホイールを軽く回して車線のはみ出しを防ぎます。

■ 車線逸脱防止 (LDP) システムの作動時間が 5 秒を超えた場合は、5 秒後に警告を出します。警告は、システムが作動状態を終了するまで続きます。警告の種類は、音声警告と視覚警告があります。180 秒の間に 2 回以上連続してシステムが作動したときは、ただちに警告を出します。また、3 回目の作動以降は警告時間が前の警告より 12 秒長くなります。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → レーンサポートシステム の設定画面から ON/OFF を操作できます。
- レーンサポートシステムの警告パターンは、音声警告のみ、ステアリングホイール振動のみ、音声警告 + ステアリングホイール振動の3つがあります。
- 車線逸脱警告や車線逸脱防止を ON にすると、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。
- 車線逸脱警告が作動すると警告（ステアリングホイール振動、音声、コンビネーションメーターへの表示による警告）を出して、コンビネーションメーターの車線境界線が赤色になります。
- 車線逸脱防止が作動すると警告（音声、コンビネーションメーターへの表示による警告）を出して、コンビネーションメーターのアイコンが2回点滅し、車線境界線を踏んでいる側が緑色になります。
- システムに故障があった場合は、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。

システムの限界

複雑な交通環境では、レーンサポートシステムが誤って検知したり、車線を検知できなかったりすることがあります。次の場面では、システムが機能しないまたは性能が著しく低下するおそれがあります。

- 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
- フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方に異物が付着したとき。
- 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光があるとき。
- トンネルの出入口など周辺環境の明るさが急激に変化したとき。
- 直射日光が路面に当たり、木陰が車線に干渉したとき。
- 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。
- システムが頻繁に作動して操作を妨げないように、狭い車線を走るときは当該機能が抑えることがあります。

ご注意

- ドライバーがターンシグナルランプを点灯させて指示した方向に車線を切り替える場合、システムは無効になります。
- 車線境界線上を走行中、車線境界線が目立たない、細すぎる、摩耗、不明瞭、汚れや氷雪が付着している場合、システムは無効になることがあります。
- 車線が広いまたは狭い、車線の数が多くなる、少なくなる、誘導路や高速道路の出口などの短時間で境界線が切り替わる、または複雑な車線を切り替える場合、システムは無効になることがあります。
- 坂道や曲がった道路を走行中、先行車との距離が近すぎる、または車線境界線が先行車に遮られた場合、システムは無効になることがあります。
- 道路事情により激しい凹凸路がある場合や、急アクセルや急ブレーキ、または急ハンドル操作をした場合、システムは無効になることがあります。
- マルチファンクションビデオコントローラーの視界範囲内のガラス割れ、フロントガラスの着色、規則に適合しない塗装、インストルメントパネルの上にある光を反射する物体、マルチファンクションビデオコントローラーの視界を妨げる後付け部品は、システムの正常な作動に影響を与えるおそれがあります。
- 安全運転のために、自らレーンサポートシステムの作動試験を行わないでください。また、マルチファンクションビデオコントローラーの視界が遮られたり、強い光と干渉したりしないようにしてください。視界が一時的に遮られたり強い光と干渉したりすると、システムが一時的にOFFになり、視界が正常に戻ると自動で復帰します。自動で復帰しないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 下記の場合は、レーンサポートシステムを OFF にすることをおすすめします。
 - スポーティーな走りのとき。
 - 悪天候のとき。
 - 悪路を通り抜けるとき。
- 次のような車線は、認識できる保証がありません。次のシーンを含みませんがそれらに限りません。
 - 不明瞭な車線。
 - 部分的に消えている車線。

- 以下の場合、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。

⚠ 警告

- レーンサポートシステムは、前方不注意または視界不良による危険を回避するものではなく、運転を支援するためのシステムです。システムには限界があるため、過信せず安全運転を心がけてください。
- レーンサポートシステムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- レーンサポートシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、レーンサポートシステムを使うかどうかを判断してください。

緊急時車線維持支援 (ELKA)

緊急時車線維持支援 (ELKA) システムは、マルチファンクションビデオコントローラーで先方の車線を検知し、リアコーナー部のミリ波レーダーで隣接車線を走行する後続車を検知します。速度が 50km/h ~ 150km/h の範囲内で、本車が実線の車線境界線から逸脱して道路をはみ出す、または対向車や隣接車線を走行する車両と衝突するおそれがあると判断すると、システムが電動パワーステアリング (EPS) を操作して反対方向にステアリングホイールを軽く回し、現在の車線を維持しようとします。

使い方

- ドライバーは、 → ADAS → ドライビングアシスト → レーンサポートシステム の設定画面から、緊急時レーンキープアシスト の設定を ON/OFF することができます。
- 緊急時車線維持支援を ON にすると、コンビネーションメーターの  アイコンが点滅します。
- 緊急時車線維持支援が故障すると、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。
- 緊急時車線維持支援を OFF にすると、コンビネーションメーターに  アイコンが表示されます。

システムの限界

- 複雑な道路環境では、緊急時車線維持支援が誤って検知する、または車線を検知できないことがあります。また、次の場合は、システムが機能しなかったり性能が著しく低下したりするおそれがあります。
 - 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
 - フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方への異物付着。
 - 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
 - トンネルの出入口など周囲環境の明るさの急激な変化。
 - 直射日光が路面に当たり、木陰が車線に干渉したとき。
 - 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。
- システムが頻繁に作動して操作を妨げないように、狭い車線を走るときは当該機能が抑えることがあります。

ご注意

- 次の場合は認識される保証がありません。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - 歩行者、動物、特殊車両、または異形車。
 - 不明瞭で、部分的に消えている車線。
- 以下の場合、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。
- 以下の場合、ミリ波レーダーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限りません。
 - ミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。

警告

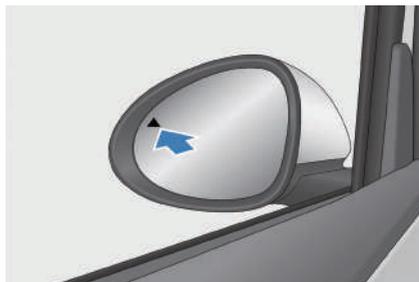
- 緊急時車線維持支援は運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- 緊急時車線維持支援は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、緊急時車線維持支援を使うかどうかを判断してください。

ブラインドスポットアシストシステム (BSA)

■ ブラインドスポットアシストシステム (BSA) は、ブラインドスポットインフォメーション (BSD)、リアクロストラフィックアラート (RCTA)、リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)、後方衝突予測警告 (RCW)、ドアオープンワーニング (DOW) の機能を備えています。主にリアバンパーの左右両側に搭載されているミリ波レーダーで本車の後方の交通状況を判断し、ドライバーに安全運転を心がけるように早めに知らせます。

ブラインドスポットインフォメーション (BSD) *

速度が 15 ~ 150km/h の場合、リアコーナー部のミリ波レーダーにより隣接車線の死角領域内に車両が入る、または隣接車線で急接近する車両を検知すると、該当のドアミラーのインジケーターを点灯させます。このとき、検知した側のターンシグナルランプを ON にすると、車線変更が危険なことを知らせるため、ドアミラー警告灯の点滅で安全に注意するように知らせます。



リアクロストラフィックアラート (RCTA) *

リアクロストラフィックアラートシステムは、車両が速度 15km/h 未満で後退中に、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する車両を検知します。後方から接近している車両が本車と衝突するおそれがあると判断した場合は、両サイドのドアミラー内のインジケーターを点灯させると同時に音声警告も出し、ドライバーに注意喚起し衝突のおそれを低減します。

リアクロストラフィックブレーキ (RCTB) *

リアクロストラフィックブレーキシステムは、車両が速度 9km/h 未満で後退中に、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する車両を検知します。後方から接近している車両が本車と衝突するおそれがあると判断した場合は、自動で緊急ブレーキを作動します。

後方衝突予測警告 (RCW) *

本車が速度 5km/h ~ 146km/h で走行中に、リアコーナー部のミリ波レーダーで後方車両車が急接近し衝突するおそれがあることを検知すると、ハザードランプが点滅して安全運転に注意するようにドライバーに知らせます。

ドアオープンワーニング (DOW) *

ドアオープンワーニングシステムは、リアバンパーの左右コーナー部に搭載されているミリ波レーダーにより作動します。本車を停止させ、ドアを解錠している状態で自転車や自動車などの移動体が後方の隣接車線から本車に接近した場合、ドアミラー警告灯が常時点灯して後方車両の存在をドライバーに知らせ、コンビネーションメーターにアイコンを表示します。ドライバーがドアを開けようとする、ドアミラーの警告灯が点滅すると同時に音声警告を発します。

機能ボタンの操作

- ドライバーは、 → ADAS → アクティブセーフティ → ブラインドスポットアシスト の設定画面から、ブラインドスポットインフォメーション、リアクロストラフィックアラート (RCTA)、リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)、後方衝突予測警告システム (RCW)、ドアオープンワーニング (DOW) の ON/OFF を設定することができます。
- ブラインドスポットアシストシステム OFF：コンビネーションメーターの関係機能の表示灯が消えます。
- ブラインドスポットアシストシステム待機：速度、シフトポジションなどの作動条件を満たしていないと、コンビネーションメーターの表示灯  が灰色になり機能しません。
- ブラインドスポットアシストシステム故障：コンビネーションメーターに黄色  のアイコンが表示されます。
- ブラインドスポットアシストシステム ON：コンビネーションメーターの表示灯が緑色  に点灯して機能が有効となり、いつでも作動できる状態になります。

警告

- ブラインドスポットインフォメーションは、左右ドアミラーの死角領域の監視を支援するものであり、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- ブラインドスポットアシストシステムは運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- ブラインドスポットアシストシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望や交通状況、道路環境に応じて、ブラインドスポットアシストシステムを使うかどうかを判断してください。

▲ 注意

- 対象車両が後方から高速で本車に接近してくる場合は、ブラインドスポットインフォメーションの警告機能が十分に発揮できないことがあります。
- ブラインドスポットインフォメーションが正常に作動するように、ドライバーは泥や雪などの付着物を早めに取り除き、リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーの設置部位を良好な状態に維持してください。
- 道路工事中の道路脇の大型防護柵、大型看板、トンネル内の反射板、反射断面積が大きい物体など、後側方や後方にある無関係の対象物を誤って対象車両として認識し、ブラインドスポットインフォメーションが警告を出すことがあります。
- 状況によっては、検知に影響を受けたり遅れたりすることがあります。対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、電動車、歩行者など）場合は、システムが対象物を認識できずに誤って警告を出すことがあります。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響で、検知が遅れたり干渉を受けることがあります。

システムの限界**▲ 注意**

- 状況によっては、感知システムに影響を受けたり遅れることで、システムが運転を支援できない場合があります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限りません。
 - 後方から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えたとき。
 - 急カーブや坂道などで後方から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
 - 対象車両が遮られたとき。
 - 後方から接近してきた車両の相対速度が80km/hを超えたとき。
 - カーブの半径が小さすぎる、またはカーブを出入りするとき。
 - 雨、雪などの悪天候のとき。
 - リアコーナー部のミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
 - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
 - 次の対象物に反応しないおそれがあります。歩行者、動物を含みますが、それらに限りません。
 - 周りに電磁波による干渉など影響が存在している。
- リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーセンサーの校正は、振動や衝突による影響でシステム性能が低下することがあります。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたはBYD 指定サービス工場に連絡してください。

ドライバー眠気注意力警告 (DAW)

ドライバーモニタリングシステムは、ステアリングホイールの角度、ブレーキ、シフトチェンジおよび車線変更など、車両に対するドライバーの操作状態からドライバーの疲労度合いを評価します。評価結果に合わせてコンビネーションメーターおよび音声でドライバーに注意を喚起し、運転の安全を高めます。

車両起動時のドライバー眠気注意力警告 (DAW) は、デフォルトとして ON に設定されています。

使い方

車両の電源ポジションが「ON」の状態、ドライバーは、 → **車両制御** → **ドライビングアシスト** の設定画面から、**ドライバー眠気注意力警告 (DAW)** を設定することができます。設定は今回のみ有効で、次回始動時には乗員の安全を確保するためデフォルトである ON に戻ります。

警告

■ 運転で疲れている場合は、早めに車両を止めて休憩を取ってください。

注意

■ ドライバーモニタリングは補助的なシステムであり、いかなる場合でも危険を認識して警告を出すことができるわけではありません。また、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではないため、ドライバーは常に車両をコントロールしながら、すべての道路法を遵守して自己責任で運転してください。

幼児置き去り検知 (CPD)

車両の電源ポジションを「OFF」にした状態でドアを閉める、または施錠すると、お子様が車内に置き去りにされていないかをシステムが点検します。お子様が車内に置き去りにされていることを検知すると、ランプの点滅およびホーンを鳴らして警告を出し、エアコンを自動で作動させます。警告中にドアを解錠する、またはいずれかのドアを開けると、警告を消すことができます。

使い方

ドライバーは、 → **車両制御** → **ドライビングアシスト** の設定画面から、**幼児置き去り検知** の設定ができます。設定は「OFF」、「ON」、「遅延」の3つがあります。

- 車両の電源ポジションを「ON」にすると、設定が「ON」になります。
- 「OFF」にすると、警告機能は今回の運転のみ作動しません。
- 「遅延」にすると、警告機能は今回の運転のみ遅延して作動します（約5分）。
- 詳細は、文字の先にある「！」マークを押してください。

システムの応答方法

- お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、90秒以内に初期警告を約6秒間出し続けます（ランプの点滅およびホーンを鳴らす）。
- 警告が解除されていない場合は、170秒以内に警告レベルを上げて（ランプの点滅およびホーンを鳴らす）、警告を約25分間出し続けます。
- それでも警告が解除されないときは、警告レベルを上げてから約3分後に、エアコンを約30分間作動させます。

⚠ 警告

- 幼児置き去り検知は、ランプの点滅やホーンを鳴らす、APPによるプッシュ通知やエアコンの作動などで、車内に置き去りにされたお子様の傷害を軽減させることができますが、傷害を完全に避けることはできません。
- 傷害の悪化を避けるため、幼児置き去り検知が警告を出したときは早めにお子様を車内に閉じ込められていないかを確認してください。
- パワーバッテリー残量 (SOC) が少ない (15%以下) と、幼児置き去り検知は警告が出せずエアコンも作動できません。そのため、十分なパワーバッテリー残量を確保してください。

⚠ 注意

- 幼児置き去り検知は、誤作動や誤警告を起こすことがあります。
- 幼児置き去り検知は、大人 / 子供 / ペットなどの生命体を検知し、警告を出すことができます。
- 幼児置き去り検知は、携帯用 APP による解錠で警告を消すことはできません。

タイヤ空気圧モニタリング

直接式タイヤ空気圧モニタリング

- 直接式タイヤ空気圧モニタリングシステムは、リアルタイムでタイヤの空気圧をモニタリングして走行の安全性や快適性を向上し、空気圧不足によるタイヤの早期摩耗や車両のエネルギー消費量の増加を低減する支援システムです。
- ドライバーは、ステアリングホイール上  ボタンを操作し、メーターメニューに入り、ホイール操作でタイヤ空気圧の表示画面を選択することができます。

タイヤ空気圧モニタリングシステムの警告

- いずれかのタイヤ空気圧が適正空気圧の 80% 以下になった場合は、タイヤ空気圧警告灯が点灯してタイヤ空気圧の値が黄色になります。このようなときは、停車してから該当のタイヤの空気漏れを点検し、空気圧が適正範囲になるように空気圧を補充してください。
- いずれかのタイヤの温度が 3 分間連続で 85℃ を超えた場合は、タイヤ空気圧警告灯が点灯してタイヤの温度の値が黄色になります。このようなときは、該当のタイヤ温度が下げるために停車し、温度が下がってから運転を再開してください。
- システム作動中に故障が起きた場合は、タイヤ空気圧警告灯が点滅してから常時点灯し、コンビネーションメーターに「信号異常」または「タイヤ空気圧モニタリングシステムを点検してください」と表示されます。このようなときは、関係するタイヤ空気圧モニタリングモジュールが正常であるか、長い時間強い電界範囲に囲まれていないかを点検し、警告灯が長時間点灯し続けているときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に対応を依頼してください。

⚠ 警告

- タイヤ空気圧に異常がある状況でも走行を停止しないように、ドライバーは電源ポジションを「ON」にした状態でタイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧になっていることを運転前に点検してください。メーカー推奨の適正空気圧になっていないと、車両の破損、自身や他人に怪我を負わせるおそれがあるため、必ず空気圧を調整してから運転してください。
- 運転中にタイヤ空気圧の異常が見つかった場合は、ただちに空気圧を点検してください。タイヤ空気圧警告灯が点灯しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避けながら速度を落とし、安全な場所に停車してください。空気圧不足のまま走行し続けるとタイヤの破損や交換につながり、タイヤを大きく破損すると死傷者が出るほどの交通事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

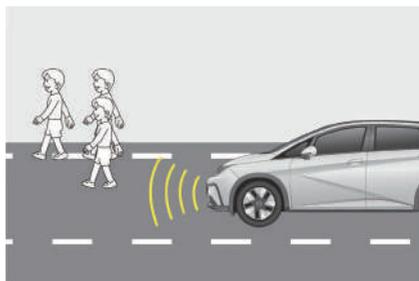
- モニタリングモジュールの使用時間は、毎日の走行距離などの要素に関係します。
- モニタリングモジュールはタイヤ空気圧などの情報を定期的にコンビネーションメーターに送信しています。そのため、走行中の急激なタイヤ空気圧の低下やバーストなどは、次にシステムが立ち上がるまでデータをコンビネーションメーターに送信することができないため、運転が制御不能になることがあります。また、タイヤ破損と共にモニタリングモジュールも破損して情報が発信できない、またはタイヤが破損している疑いがある場合は、コンビネーションメーターに警告が表示される前に安全な場所に停車してください。
- モニタリングモジュールの取り付けを誤るとタイヤの気密性に影響を与えるため、モニタリングモジュールの取り付けや交換は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- タイヤ空気圧は外気温度により変化するため、コンビネーションメーターに表示されている空気圧および適正空気圧に合わせて、空気圧を調整してください。
- BYD 純正部品以外の電気部品を後付けしている場合は、システムが干渉を受けるおそれがありますが故障ではありません。
- アルミホイール、スペアタイヤの交換*、または4輪のタイヤローテーションを行った場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムに対するキャリブレーションを行ってください。この作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

車両接近通報装置 (AVAS)

車両接近通報装置 (AVAS) は、低速走行時に車両の接近を歩行者に知らせるものです。

■ 前進時：

- 速度が $0\text{km/h} < V \leq 20\text{km/h}$ の場合、速度があがるにつれて警告音が強くなります。



- 速度が $20\text{km/h} < V \leq 30\text{km/h}$ の場合、速度があがるにつれて警告音が弱くなります。

- 速度が $V > 30\text{km/h}$ の場合、警告音は自動で止まります。

■ 後退中は、車両から一定間隔で警告音を出し続けます。

使い方

システムのデフォルトはONです。ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートリマインダー** の設定画面から、**車両接近通報装置** の設定をすることができます。

警告

- 低速走行中に車両接近通報装置の通報音が聞こえない場合は、車両を安全で静かな場所に駐車し、ウィンドウガラスを開けてから「R」レンジに切り替え、車両の先端から通報音が聞こえるか確認してください。通報音が聞こえないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

BYD アラウンドビューシステム

車両の電源ポジション「OK」時にステアリングホイールの  ボタンを押す、またはマルチメディアから **車両イメージ** をタッチすると、アラウンドビューシステムに切り替わります。



■ 横画面表示の場合：

- マルチメディア下のフロント側、リア側、レフト側、ライト側を表示するアイコンをタッチすると、左側画面にフロントビュー、リアビュー、ライトビュー、レフトビューのシングルビューを表示します。
- フロントビュー、リアビューのシングルビューで映像領域をダブルタップすると、180° 視角の全画面表示に切り替わります。
- BYD アラウンドビューシステムのレーダーアイコンを  タッチすると、レーダー表示が ON になり、再度タッチすると OFF になります。レーダー表示が ON のときに障害物に接近すると、映像に障害物が映り警告音が鳴ります。



■ 縦画面表示の場合：

- マルチメディア下のフロント、リア、レフト、ライトのいずれか 2 つの領域に表示されているアイコンをタッチすると、上側と右下の映像領域に選択した 2 つのシングルビューを表示します。
- 右側のボディービューをタッチすると、透明ボディーと現物ボディーの切り替えができます。
- 始動後、透明の全景画面には前回電源ポジション「OFF」時の画像が表示されます。このとき、車両の底部や周辺の死角領域にある物体は、実際のものと異なることがあります。発進すると画像がリアルタイムに更新され、ボディー長さ相当の距離以上を走行すれば更新が完了します。新規または更新は、車間距離を超えた後にのみ完了できます。

警告

- BYD アラウンドビューシステムは、車両底部の映像が見える透明全景機能を備えており、駐車や走行時に車両底部の確認を支援します。人や車両の安全を確保するため、車両底部の異物や危険を確認する場合は、必ず別の方法で確認を行ってください。
- 低速走行中、透明全景機能は速度の変化やブレーキ操作の繰り返しによる影響を受けるため、車両底部の画像位置が車外の画像と一致しないことがあります。
- BYD アラウンドビューシステムは駐車や走行を補助するためのものであり、車両前後には死角領域が存在するため、システムだけに頼るのは危険です。駐車または走行中の事故を避けるため、必ず別の方法で車両周辺の状況を確認してください。
- システムは広角魚眼カメラが搭載しているため、表示画面に映っているものには若干の歪みが発生することがあります。
- ドアミラーが最後まで展開されていない場合は、システムを使用しないでください。システムを通じて車両を操作するときは、すべてのドアが閉まっていることを確認してください。
- BYD アラウンドビューシステムの画面に映されている距離は、目視で確認した距離とは異なることがあります。特に障害物が車両近くにある場合は、複数の手段で車両と障害物の距離を判断してください。
- カメラは、フロントバンパー、左右ドアミラーの下側およびリアライセンスプレートの上側に搭載されているため、必ずカメラの視界が異物などで遮られないようにしてください。
- カメラ性能への影響を避けるため、高圧洗浄機でボディーを洗浄する場合は、可能な限りカメラに直接噴射しないでください。また、カメラに水分やほこりが付着しているときは、早めに拭き取ってください。
- カメラの故障や破損につながるおそれがあるため、カメラを叩かないでください。
- 始動直後のマルチメディアシステムが完全に立ち上がっていない状態では、スイッチ操作やシフトレバーを「R」レンジに入れても、BYD アラウンドビューシステム画面の表示が遅れたり画面がちらついたりすることがあります。これは、カメラ起動時の電源投入プロセスで正常な現象です。
- システムの特定のカメラまたは複数のカメラが壊れている場合は、画面がブラックになります。
- 動作可能なカメラがない場合は、画面がブラックになり「ビデオ信号が検知されていません」と表示されます。

駐車支援システム

- 駐車支援システムは、駐車時にマルチメディア*に表示した映像やスピーカーの警告音で、車両と障害物の距離をドライバーに伝えます。このシステムは、センサーで障害物を検知しています。
- 駐車支援システムは、バック駐車をアシストするシステムです。駐車する際は、車両後部や周辺の状況をよく確認してください。

⚠ 警告

- 駐車支援システムはドライバーの駐車操作を支援するものであり、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは車両周辺を確認したうえで操作してください。
- 「D」レンジで速度が10km/hを超えると、駐車支援システムは作動を停止します。速度が10km/hに下がると、駐車支援システムは作動を再開します。
- センサーの作動範囲内に他のものを取り付けしないでください。
- センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。

後方レーダーの電源スイッチ

- ドライバーは、 → **ADAS** → **パーキングアシスト** の設定画面から、**後方レーダー** のON/OFFを設定することができます。
- 電源ポジションを「OK」にすると、EPBが解除されて駐車支援システムが自動で立ち上がります。
- システムON時に車両周辺に障害物がある場合は、警告メッセージが表示されます。OFFにすると警告メッセージは表示されません。

センサータイプ

- センサーが障害物を検知すると、障害物の方位や車両と障害物の距離により、画像がマルチメディア*に表示されます。
- 縦列駐車や車庫入れをする場合、センサーが車両と障害物の距離を検知して、マルチメディアおよびスピーカーで知らせます。当該システムを利用するときは、必ず周辺の環境に注意してください。

- ① 右前側面センサー
- ② 左前中央センサーと
右前中央センサー
- ③ 左前側面センサー
- ④ 右後側面センサー
- ⑤ 左後中央センサーと
右後中央センサー
- ⑥ 左後側面センサー



距離表示ブザー

センサーが障害物を検知すると、マルチメディアに障害物の向きおよび車両と障害物の距離が表示されてブザーが鳴ります。

中央部センサーの作動例

おおよその距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 700 ~ 1200		低速
約 400 ~ 700		高速
約 200 ~ 400		鳴り続ける

角度センサーの作動例

おおよその距離 (mm)	マルチメディア表示例	警告音
約 400 ~ 600		高速
約 200 ~ 400		鳴り続ける

⚠ 注意

- 0 ~ 200mm の範囲はシステムの死角領域であり検知精度が悪く、警告メッセージの表示があまり正確ではないため、距離上の警告メッセージは参考としてください。

作動するセンサーおよびその検知範囲

車両が後退すると、すべてのセンサーが作動します。

図はセンサーの検知範囲を示しています。検知範囲は限られているため、車両周辺の状況を確認して慎重に後退してください。

故障メッセージ

バックソナーシステム故障時は、コンビネーションメーターにメッセージが表示されてブザーが 1 回鳴ります。



⚠ 警告

- 障害物が車両に近すぎると、センサーが検知できないおそれがあります。
- 駐車支援システムはドライバーの駐車操作を支援するものであり、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは車両周辺を確認したうえで操作してください。
- システムの正常な作動に影響を与えるため、センサーが障害物を検知する場所にアクセサリーやその他のものを置かないでください。
- 状況によっては、システムが正常に作動せず障害物に接近しても検知しないことがあります。常に車両周辺の状況を確認し、システムだけに頼らないでください。
- 後方レーダー故障時、コンビネーションメーターに「後方レーダー故障 BYD サービスに点検」のメッセージが表示されてブザーが 1 回鳴ります。このようなときは、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して点検を依頼してください。

センサーからの検知情報

- 車両状況や周辺の環境によっては、障害物を正しく検知するセンサー性能に影響を与える場合があります。影響を与えるおそれがある特定の状況を以下に示します。
 - センサーに汚れ、水分や曇りがあるとき。
 - センサー上に雪や氷が付着しているとき。
 - センサーが何かに覆われているとき。
 - 車両が明らかに傾いたり、最大積載量を超えているとき。
 - デコボコが激しい道路、坂道、砂利道や草原を走っているとき。
 - センサーを新たに塗装したとき。
 - ホーンの音、バイクのエンジン音、大型車両のエアブレーキの作動音や超音波が発生するその他の騒音、車両付近が非常に騒がしいとき。
 - 近くに駐車支援システムを搭載した車両があるとき。
 - 車両にけん引フックを取り付けたとき。
 - バンパーやセンサーが強い衝撃を受けたとき。
 - 車両が高い縁石または曲がりくねった縁石に接近したとき。
 - 炎天下や厳しい寒さのとき。
 - 純正品でない、車高の低いサスペンションキットを取り付けるとき。
- 上記の他に、障害物自身の形状により、センサーが実際の距離を感知できないことがあります。

- 障害物の形状や材料はセンサーの検知を妨げることがあり、下記に示す障害物には特に注意してください。
 - 電線、柵、ロープなど。
 - 綿、雪、その他の電波を吸収する材料。
 - 角がとがっているもの。
 - 低い障害もの。
 - 上部が外側に向き、車両の方に伸びている高い障害物。
 - バンパー下にあるもの。
 - 車両に近づいているもの。
 - 車両近くの人（服装のパターンによる）。
- マルチメディアディスプレイ* に画像が表示される場合や、スピーカーが鳴っている場合は、センサーが障害物を検知している、またはセンサーが外部からの干渉を受けているおそれがあります。このような現象が続くときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での点検してください。

⚠ 注意

- センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部分を洗淨しないでください。

ペダル踏み間違い時加速抑制装置

ペダル踏み間違い時加速抑制装置は、自動車の安全なスタート/ストップを促すための補助装置です。

- ペダル踏み間違いの防止：始動または低速走行時、走行方向の先に障害物がある場合は、ドライバーがアクセルペダルをブレーキペダルと間違えたときに、アクセルペダルの踏み込み量を抑えます。
- ペダル踏み間違い時加速抑制装置が ON の状態で走行方向の先に障害物がある場合は、アクセルペダルを強く踏み込んでも応答せず、「走行方向に障害物を検知しているので、加速が抑制されています。そのまま走行するなら、アクセルペダルを軽く踏んでください」の文字メッセージが表示されます。
- 始動または低速走行時（速度 ≤ 10km/h）、走行方向 3メートル以内に障害物がある場合は、急アクセル時の加速機能が抑制されます。

安全運転支援システム

走行安全性を向上するため、以下の安全運転支援システムがさまざまな走行条件に合わせて、自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものであり、システムには限界があるため過信せず安全運転を心がけてください。

インテリジェントパワーブレーキシステム

インテリジェントパワーブレーキシステムは、先端的な分離型電気油圧式ブレーキシステムで、マスターバック、電子真空ポンプおよび ABS、ESC などの機能を集積しています。システムは、ドライバーの制動操作上の必要性に応じて車両の制動を支援し、ABS、EBD、TCS、VDC、CST、HHC、HBA、CDP などの高度な制御機能で運転の安定性や快適性、制動エネルギーの回生効率を上げることができます。

ビークルダイナミクスコントロールシステム (VDC)

走行中に突然方向を切り替えた場合、VDC がステアリングホイールの角度や走行速度などの情報をもとにドライバーの意図を判断し、車両の実際の状況と比較します。車両がドライバーの目的の車線から外れると VDC がサイドスリップの制御を支援し、方向安定性を保つために関係するタイヤに制動力を加えることで修正を行います。

トラクションコントロールシステム (TCS)

TCS は、モーターのパワーを弱めることで加速走行時の駆動輪のスリップを防止します。また、必要な場合は制動力を加えることで駆動輪の空転を防止します。走行条件が悪い際は TCS が作動することで、車両の発進や加速、上り坂の走行が容易になります。

警告

- トラクションコントロールシステムは走行安定性を向上させるものであり、急転回することで引き起こされる衝突事故を防止するものではありません。作動には限界があるため、滑りやすい路面では速度を落とし安全運転を心掛けてください。
- 下記の場合は、トラクションコントロールシステムの機能が効果的に発揮できないことがあります。
 - 滑りやすい路面ではトラクションコントロールシステムは正常に作動しますが、方向が制御できない、または必要な駆動力が出ないことがあります。
 - 安定性や動力が維持できなくなる状況では、車両を運転しないでください。

ヒルスタートホールドコントロール (HHC) システム

ブレーキペダルを離した後、約 1 秒間ブレーキ油圧を保持して車両の後退を防止します。

⚠ 警告

- 滑りやすい路面の坂道ではスリップして後退することがあるため、機能を過信せず安全運転を心がけてください。
- 駐停車時にヒルスタートホールドコントロールを使用しないでください。停車時はブレーキペダルを踏み続け、駐車時は電動パーキングブレーキのスイッチを引き上げてパーキングブレーキを掛けてください。

ハイドロリックブレーキアシスト (HBA) システム

ドライバーが素早くブレーキペダルを踏んだ場合、HBA が緊急ブレーキと認識して最大値になるまでブレーキ油圧を急速に高めます。これにより、ABS を素早く介入させて制動距離を効果的に短くすることができます。

減速度制御 (CDP) システム

電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると CDP が作動します。車両が停止するまで一定の減速度（ブレーキを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを引き上げる場合の減速度が 0.4G、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げると同時にブレーキペダルを踏む場合の減速度が 0.8G）で制動します。ドライバーが電動パーキングブレーキスイッチを解除すると、CDP が停止します。

横滑り防止装置システム (ESC) システムについて

インテリジェントパワーブレーキシステムは、従来の ESC に対して、次の機能を追加しています。

■ ブレーキペダル制御モード

- ブレーキペダル制御モードは、ブレーキペダルフィーリングを調整する際に使用します。ブレーキペダルの深さと車両減速度の関係曲線がモードによって異なるため、ドライバーはお気に入りのブレーキペダルフィーリングを選択できます。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から、**ブレーキアシストモード** の設定をすることができます。

■ コンフォートブレーキ (CST)

- コンフォートブレーキは、緊急時以外の減速や停止時にインテリジェントパワーブレーキシステムが4つのブレーキの油圧を制御することにより、停車時のサスペンションの揺れや衝撃を軽減し、ドライバーにスムーズなコンフォートブレーキを提供します。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **スマートシャーシ** の設定画面から、**コンフォートブレーキ** のON/OFFを設定することができます。
- コンフォートブレーキが作動すると、制動距離が約2～5cm長くなることがあるため、停車前に先行車や前方障害物との距離を適切に空けてください。

■ ブレーキディスクワイピング

- ディスクローターに水分が付着するとブレーキの反応時間が長くなるため、湿気が多い環境を走行するときに水分を切ることがブレーキディスクワイピングの目的です。低圧アクチュエーターの作動でブレーキパッドをブレーキディスクに当てることで、ディスクローターから湿気を拭き取ります。システムが雨滴や濡れている道路を検知すると、一定間隔でブレーキディスクの拭き取りを繰り返します。

■ ESC 作動時

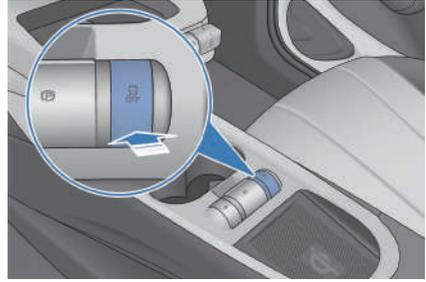
- 坂道発進時に車両が滑るまたは後退する、いずれかの駆動輪が空転するおそれがある場合は、ESCが作動してESC表示灯が点滅します。

■ ESC の使用禁止

- 車両が積雪やぬかるみでスタックすると、ESCはモーターからホイールへの出力を下げる場合があります。スタックなどを脱出するときはESCをOFFにしてください。

■ ESC を OFF にする場合

- ESC を OFF にする場合は、 → **ADAS** → **アクティブセーフティ** の設定画面から、**ESC** を OFF にします。また、ESC はリアルタイムで作動状態を確認しており、ESC 作動中に ESC を OFF にすると能動的に制御に介入し、制御介入が完了するまでは ESC は OFF しません。



- ESC を OFF にした後、ESC を ON にする、または速度がしきい値 (80km/h) を超えると、ESC が再度 ON になります。ESC が車両走行の制御に介入していないときのみ、再度 ESC を ON にすることができます。

■ ESC OFF スイッチの誤操作

- ESC OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると、システムは誤操作と判断してすべての内部機能の正常作動を保ちます。

■ 電源ポジション「OFF」後の ESC 再開

- ESC を OFF にしてから再度電源ポジションを「ON」にすると、ESC 作動が自動で ON になります。

■ 速度連動による ESC の作動

- ESC が OFF の状態で速度がしきい値 (80km/h) を超えると、車両の姿勢が極めて不安定になるため、ESC が自動で ON になります。

■ ESC 起動時

- ESC 故障警告灯が点滅しているときは、事故につながるおそれがあるため慎重に運転してください。

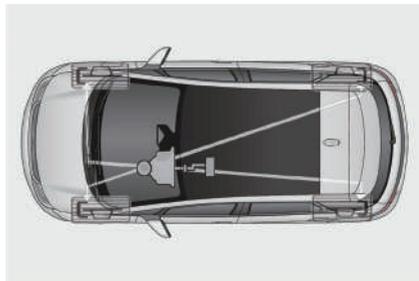
- ESC を OFF にした場合
 - 細心の注意を払いながら、道路状況に応じた速度で運転してください。ESC は、車両安定性と駆動力を確保してくれるため、必要がない状況を除き OFF にはしないでください。
- タイヤの交換
 - すべてのタイヤは、寸法、ブランド、トレッドパターン、輪荷重を同一にしてください。また、推奨空気圧になるまでタイヤに空気を入れてください。
 - 異なる種類のタイヤを装着すると、ABS と ESC が正常に作動できなくなります。
 - タイヤやホイールの交換については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。
- タイヤおよびサスペンションの処置
 - 不具合があるタイヤの使用やサスペンションの改造は、安全運転支援システムに影響を与えてシステムの故障を引き起こすおそれがあります。

多重衝突ブレーキ機能 *

- 事故でエアバッグが展開すると、自動でブレーキを作動させます。
- CDP、ESC、ABS などの運転支援システムが共同で役割を果たし、車両の安定性を維持して現在の車線を走り続けるようにします。
- 緊急警告灯およびブレーキランプが点灯し、対向車に警告して衝突の再発を防ぎます。
- 救援やロードサービスに対応するため、事故後にブレーキを解除してブレーキランプを消灯します。
- ドライバーは、加速やブレーキ操作でいつでも多重衝突ブレーキ機能を一時的に解除することができます*。

アンチロックブレーキシステム (ABS)

■ アンチロックブレーキシステム (ABS) の油圧システムは、それぞれ独立した2つの回路があります。それぞれの回路は対角線上になっており (右側フロントタイヤブレーキと左側リアタイヤブレーキとの接続など)、片方の回路が故障しても、もう片方の回路でブレーキをすることができます。



■ このシステムは、急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキ時に車輪のロックやスリップを防止することで、ステアリング制御の維持に役立ちます。

■ フロントタイヤがスリップするとステアリングを制御できないため、ステアリングホイールを回しても車両が直進します。システムによるポンピングブレーキにより車輪のロックを防止することで、ステアリング制御の維持に役立ちます。

■ ABS が効かないおそれがあるため、ポンピングブレーキをしないでください。危険回避のためにハンドルを操作する場合は、ABS が作動するようにブレーキペダルを強く踏み続けてください。

■ ABS が作動すると、ブレーキペダルが振動して作動音が聞こえることがあります。これは、ABS のポンピングブレーキによるものであり、異常ではありません。

電子制御制動力配分システム (EBD)

■ 電子制御制動力配分システムは、ABS を支援する機能です。ABS が機能する前に後輪のスリップ率が高くなると、ABS が後輪の制動力を調節することで安定した理想的な制動力配分を実現します。

⚠ 警告

- ABS は、車両を停止させるのに必要な時間および距離を短縮することはできません。ABS はブレーキ時のステアリング制御を支援するものであり、ドライバーは常に安全な車間距離を保ってください。
- 軟弱な路面やデコボコ路（砂利道や積雪路面）を走行する場合、ABS 搭載車は ABS 非搭載車に比べると制動距離が長くなります。このようなときは、速度を落として他の車両との車間距離をさらに確保してください。
- 下記の場合は、ABS を効果的に発揮できません。
 - グリップ力が弱いタイヤを使っているとき（雪が積もっている路面で過度な摩耗があるタイヤを使うなど）。
 - 高速で滑りやすい路面を走行する、または車両がスリップしたとき。
- ABS は、制動距離の短縮を目的として設計されたものではありません。次のような場合は、必ず先行車との車間距離を確保してください。
 - むかみ、砂利道や積雪路面を走行するとき。
 - へこみが多い道路、または平坦でない道路を走行するとき。
 - デコボコ路を走行するとき。

⚠ 注意

- ABS 故障警告灯とブレーキシステム警告灯が同時に点灯した場合は、ABS が機能しないだけでなく車両姿勢も極端に不安定な状態になります。ただちに安全な場所に停車して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- ABS は、急旋回や急な車線変更などのハンドル操作によるスリップを防ぐことはできません。路面状況および天候を問わず、常に安全な速度で慎重に運転してください。
- ABS は、安定性の低下を防ぐことはできないため、急ブレーキ時は適切なハンドル操作を行ってください。また、大きなカーブや急カーブでは、対向車線に飛び出したり道路からはみ出したりするおそれがあります。

ルームミラー

手動防眩機能

ルームミラーは、昼間および夜間走行に対応する2つのモードを搭載しています。夜間走行モードに合わせると、後続車のヘッドライトの光を軽減することができます。

- 昼間走行：レバーを①の位置に合わせると、ルームミラーの映りがきれいになります。
- 夜間走行：レバーを②の位置に合わせると、夜間走行時に後続車のヘッドライトの光を軽減することができます。眩しさは軽減されますが、後方の視界や視認性が落ちるため注意してください。



ルームミラーの手動調節

上下、左右にルームミラーを回して適切な位置に調整します。



4

使用および運転

警告

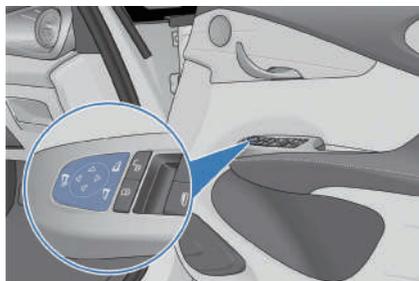
- 発進前にルームミラーを調節してください。また、運転に集中できず死亡や怪我につながる事故を引き起こすおそれがあるため、走行中はルームミラーを調節しないでください。
- ルームミラーに重量物を掛ける、力強く揺らす、引っ張ることはしないでください。
- 手でルームミラーを調節する際に引っかかりがある場合は、ルームミラーが脱落するおそれがあるため、乱暴に調整しないでください。

電動ドアミラー

ドアミラー調整

電動ドアミラースイッチを操作して、ドアミラーに車両両側が映るように調節します。

- セレクトスイッチ：調節するドアミラーを選択します。
 - ：左側ドアミラー調整ボタン
 - ：右側ドアミラー調整ボタン
- ドアミラー調整ボタン ：ドアミラーのレンズを調整します。希望の方向に合わせてからスイッチを押します。



可倒式ドアミラー

手動可倒式ドアミラー

- ドアミラー本体がロック位置に移動するまで、ドアミラー外側の端を強く押します。

電動可倒式ドアミラー*

- 格納スイッチ ：スイッチを押すと左右ドアミラーが同時に格納し、再度押すとドアミラーが展開します。
- イモビライザーが作動すると、ドアミラーは自動で格納します。イモビライザーを解除すると、ドアミラーは自動で展開します。
- ドライバーは、 → **車両設定** → **ドアミラー** の設定画面から、自動格納機能の ON/OFF を設定できます。

警告

- ドアミラーの調節は出発前に行い、走行中はドアミラーを調節しないでください。車両の操縦を誤り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

アドバイス

- ドアミラーが凍り付いた場合は、コントローラーを操作したり、ドアミラーの表面を削ったりしないでください。解氷スプレーでドアミラー表面の氷を落としてください。

ワイパー

6ヶ月または10000km毎にフロントおよびリアワイパーブレードを点検し、ゴム部に割れや部分的な硬化がないかを点検してください。割れや硬化がある場合は、ただちにブレードを交換してください。そのまま使用すると、スジ状の線または拭きムラが残ります。

仕様 1

1. 始めに運転席側のワイパーアームを立て、次に助手席側のワイパーアームを立てます。
2. ブレードロックボタンを押します。
3. ブレード留め具を持ち、図に示す方向にブレードを取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



仕様 2

1. 始めにワイパーアームを立てます。
2. 図に示す位置に来るまでリアワイパーブレードを反転します。
3. ロックボタンを押しながらアームから外れるように矢印方向にブレードを押し付け、ブレードを回しながら取り出します。
4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



▲ 注意

- ワイパーブレードは優しく取り扱い、ワイパーブレードが直接フロントガラスにぶつかるようにワイパーアームを押し倒さないでください。
- ワイパー作動時、ワイパーブレードを折り曲げる、手などでワイパーブレードの動きを阻止しないでください。
- ボンネットおよびワイパーアームが破損するおそれがあるため、ワイパーアームを立てている状態でボンネットを開けないでください。
- ワイパーブレードを交換する場合は、ワイパーアームを立てた後に手でしっかり支え、ブレード交換後はゆっくりと倒してください。ブレードを取り付けていない状態でワイパーアームがガラスに当たると、ガラスを破損させるおそれがあります。

タイヤチェーン

- タイヤチェーンは、緊急時対応または法律で明示的に定められている特定地域を走る場合にのみ使用するものです。
- タイヤチェーンはフロントタイヤに装着してください。また、凍結路面や雪道でタイヤチェーンを装着して運転する場合は、細心の注意を払って運転してください。一部のタイヤチェーンは、タイヤ、ホイールおよびボディーを破損させるおそれがあるため、タイヤとホイールハウスの他の部品の間には十分なスペースを確保してください。また、細タイプのタイヤチェーンかつタイヤチェーン本体の厚さまたは直径が6mmを超えないものを選んでください。
- 部品組立図およびタイヤチェーンメーカーの他の取扱説明書をよく読んでください。
- タイヤチェーンの購入やタイヤへ装着前には、お買い上げのBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。
- タイヤとタイヤチェーンとの摩耗を軽減するため、タイヤチェーンを装着したまま積雪路や凍結路以外の道路を走行しないでください。

アドバイス

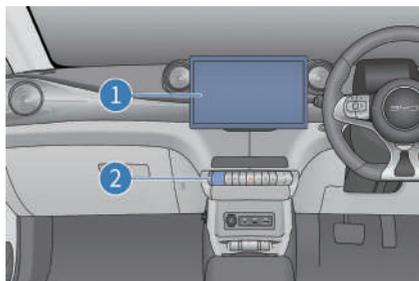
- タイヤチェーンを装着時の走行速度は、タイヤチェーンメーカーが推奨する制限速度を超えないでください。
- 突起物や穴、急カーブに注意しながら慎重に運転してください。乗り上げたときはジャンプするおそれがあります。
- タイヤチェーンは左右対称に装着し、積雪路を抜けたらすぐに取り外してください。
- 制御不能による事故を避けるため、タイヤチェーン装着時は急ハンドルや急ブレーキを避け、カーブに進入する前にスピードを落としてください。
- タイヤチェーンから異音が聞こえる場合は、タイヤチェーンがサスペンションやボディー、ブレーキチューブなどに干渉しているため、ただちに車両を止めて点検してください。
- タイヤの空気圧が不足している場合は、タイヤチェーンを装着しないでください。

5-1 マルチメディア	
システム	229
マルチメディアコントロール	
パネル PAD	229
ナビゲーションバー	231
ジェスチャーおよび応答	231
OTA アップグレード	232
BYD インテリジェント	
音声制御機能	233
Bluetooth 電話	234
ファイル管理	235
5-2 空調システム	236
エアコンパネル	236
エアコン操作画面	237
機能定義	238
ご利用要領	241
吹き出し口	242
5-3 BYD APP について	243
BYD APP について	243
アカウント登録	243
車両状態および車両制御	
システム	244
個別センターおよび	
車両管理	244

5-4 小物入れ	245
ドアポケット.....	245
駐車券収納ボックス.....	245
インストルメントパネル	
センターボックス.....	246
グローブボックス.....	246
センターコンソール	
ボックス.....	247
カップホルダー.....	248
サングラスホルダー*.....	249
シートバックポケット.....	249
5-5 その他の装置	250
サンバイザー.....	250
アシストグリップ.....	251
USB ポート.....	252
SD カードスロット*.....	253
12V アクセサリー電源.....	254
ワイヤレス充電エリア*.....	255
リアシェルフ*.....	257
カーペット.....	258
フック.....	258
緊急脱出ハンマー.....	259

マルチメディアコントロールパネル PAD

車両の電源ポジションを「OK」にすると、初期画面を数秒表示してからシステムが作動します。マルチメディア関連の機能（たとえば、APP やインターネット通話など）を活用するときは、インターネットに接続してから使用してください。



① マルチメディアタッチスクリーン

② ホイールボタン

- マルチメディアが作動している状態で上方向（フロント方向）にホイールボタン②を回すと、音量が上がります。下方向（リア方向）にホイールボタン②を回すと、音量が下がります。音量は 0 ～ 39 の範囲内で変化し、音量が 0 のときは、ステータスバーにミュートマークが表示されます。
- スクロールボタンを押すと音声ミュートになり、スクリーンセーバー画面、または画面が OFF になります（ → システム設定 → 表示画面）の設定画面から、マルチメディアのスクリーンセーバーを変更できます。再度スクロールボタンを押すと、ミュートが解除されてスクリーンが点灯します。
- ホイールボタンを 3 秒以上長押しすると、マルチメディアを再起動します。

工場出荷時設定に戻す場合

- 工場出荷時設定に戻すをタッチすると、マルチメディア機器に設定されているすべてのデータが工場出荷時の状態に戻ります。
 - 工場出荷時の状態に戻している間は、車両の電源は切らないでください。また、エラーの発生を防ぐためマルチメディア機器のアイコンに触れないでください。
 - 工場出荷時の状態に戻す作業は、2 ～ 5 分掛かるためしばらくお待ちください。

⚠ 警告

- マルチメディアシステムの異常につながるおそれがあるため、車内でハイパワーインバーターを使わないでください。
- マルチメディアシステムや車両の異常につながるおそれがあるため、オペレーティングシステム入れ替えや Root 化をしないでください。
- 安全運転のために、運転中はマルチメディアタッチスクリーンを横向きにして使ってください。
- 前方不注意になるおそれがあるため、運転中は絶対にオーディオなどをマルチメディアタッチスクリーンで操作しないでください。
- オーディオの音量を大きくしすぎると、車外の状況が分からないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンターテイメント機能の使用は、駐車中だけにしてください。運転中の使用は交通事故につながるおそれがあります。
- 運転中のテキスト送信の禁止やハンズフリーの使用義務など、電話の使用に関する法規に従ってください。Bluetooth を ON にした状態でも、運転中の携帯電話の使用やプログラミングは交通事故につながるおそれがあります。
- アップグレードプロセス中は車両は走行できず、施錠 / 解錠、室内ランプ、ウィンカーおよび窓の開閉機能を除いた車両機能は一時的に無効となります。

⚠ 注意

- タッチスクリーンの破損を防ぐために
 - 指でタッチスクリーンを軽くタッチしても反応がないときは、タッチスクリーンから指を離し、再度タッチしてください。
 - タッチスクリーンを拭くときは柔らかい布を使用し、洗剤は使わないでください。
- タッチスクリーンを使う場合
 - タッチスクリーンの温度が低いと、表示された画像が暗く見えたり、システムの作動がいつもより遅いときがあります。
 - サングラスをかけてタッチスクリーンを見ると、暗く見える、またはきれいに見えないときがあります。
 - 灰色のアイコンは操作できません。
- タッチスクリーンの表示は参考表示であり、具体的には現物に準じます。

ナビゲーションバー

-  : 前の画面に戻る、またはプログラムを終了します。
-  : メイン画面に戻ります。
-  : 車両設定画面になります。
-  : 画面分割に対応する APP が画面分割状態になります。
-  : スクリーンセーバー状態になります。
-  : 最近利用していた APP を調べることができます。
-  : マルチメディアタッチスクリーンが横向き、または縦向きに回転します。

ジェスチャーおよび応答

ジェスチャー操作および応答は次の通りです。

- **タッチ**: APP を立ち上げる、機能を選択する、タッチスクリーン上のキーを押す、タッチスクリーン上で文字を入力する場合は、タッチスクリーンをタッチしてください。
- **ドラッグ**: アイコン、サムネイル、またはプレビューを新規位置へ移動する場合は、押しながら目的の位置にドラッグして離してください。
- **スワイプ**: メイン画面、または APP の画面でこの操作を行うことができます。
- **ダブルタップ**: ダブルタップすると写真を拡大表示することができます。再度ダブルタップすると戻ります。
- **ピンチアウト / ピンチイン**: 指 2 本で画面をタッチして間隔を広げると、画像の一部を拡大表示できます。間隔を縮めると縮小表示できます。

OTA アップグレード

- 本車にはソフトウェアアップデート機能を搭載しています。設定  → システム設定 → バージョン管理 → 車両バージョン → アップグレード をタッチして車両システムをアップデートすることで、車両の機能を最新の状態に保つことができます。
- 車両のソフトウェアアップデートが必要な場合は、ソフトウェアアップデートを促すメッセージが表示されます。車両の利用状況に合わせて、即時アップデートまたはアップデートの予約を選択することで、ソフトウェアアップデートを開始することができます。

注意

- OTA のアップデートプロセス中は、車両を移動させないでください。
- OTA のアップデートするには、車両を安全な場所に駐車してから [P] レンジに入れ、モバイル通信ネットワークが正常に接続できる状態でのみ実行できます。
- OTA のアップデート前に、十分なバッテリー残量があることを確認してください。
- OTA のアップデート前およびアップデートプロセス中は、車両の OBD ポートにサードパーティ製デバイスを取り付けしないでください。
- アップデート中は車両を充放電できません。そのため、アップデートを実行する前に車両が完全に充電されていることを確認してください。
- OTA のアップデートプロセス中は、リモートキーおよびマイクロスイッチによる施錠 / 解錠、ルームランプスイッチ、緊急警告灯、パワーウィンドウスイッチ以外のすべての機能が操作できなくなります。
- OTA のアップデートが失敗した場合は、アップデートを再試行してください。再試行でも失敗したときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

BYD インテリジェント音声制御機能

BYD インテリジェント音声制御機能は、ナビゲーション起動、音楽再生、ラジオ放送、電話発信、エアコンなどの車内装置の制御を音声指示で実現できます。

■ 音声制御による起動方法：

- ステアリングホイール上の  を短く押します。
- マルチメディア上の  アイコンをタッチします。
- 音声起動ワード：「ハイ、BYD」。

■ BYD インテリジェント音声制御機能が起動したら、音声指示を受信して認識を開始します。

■ このとき、ドライバーは音声で任意の指示を出すことができます。

- 例：「目的地を家にする（家の場所を事前登録する必要があります）」、「歌を聞きたい」、「〇〇に電話して（アドレス帳を登録し携帯電話のBluetooth に接続する必要があります）」、「エアコンの温度を 23 度に調整して」、「運転席のシートヒーター機能を ON にして」などを指示できます。BYD インテリジェント音声制御機能が音声指示を識別した後に該当の操作を行います。

Bluetooth 電話

Bluetooth 接続

1. Bluetooth 電話画面に入り **Bluetooth 接続** アイコンをタッチすると、ジャンプ接続します。
2. **デバイスを検索** をタッチして、利用可能なデバイスを検索します。
3. 接続可能な機器を選択しペアリングをします。携帯電話とマルチメディアタッチのペアリングコードが合っていることを確認します。
4. 接続完了後、Bluetooth に対してさまざまな設定を行うことができます。

Bluetooth 電話

Bluetooth に接続した後、ダイヤル画面に入ります。

- 連絡先、最近の通話記録および不在着信記録をタッチして発信することができます。または、テンキーパッドで電話番号を入力して電話をすることもできます。
-  をタッチするとダイヤル画面が縮小表示されます。再度タッチするとフルスクリーンのダイヤル画面に戻ります。
-  をタッチするとダイヤルキーボードを表示します。再度タッチするとキーボードを隠します。
- 映像画面が表示されている状態で着信がある場合は、受信画面が最小化ウィンドウで開きドライバーに伝えます。

ファイル管理

新規作成

- ファイル管理ページに入るとフォルダを新規作成できます。カーソルの位置に、新規フォルダの名称を入力して **確定** をタッチします。 **キャンセル** をタッチすると、フォルダの新規作成を終了することができます。
- メイン画面の上側をタッチすると、ファイルソースを切り替えることができます。

検索

- メイン画面の左上の **検索** をタッチすると検索画面に入ります。また、検索ボックスにファイル名を入力した場合もファイルを検索できます。

移動またはコピー

- メイン画面のファイルアイコンを長押しして該当のファイルを選択します。対象の操作（ **コピー**、 **移動**、 **削除** ）を選択して **確定** をタッチすると、該当コマンドの編集状態に入ります。

名前変更

メイン画面のファイルアイコンを長押しし、表示されたダイアログボックスから **名前変更** を選択します。名前を変更する対象フォルダを選択し、表示されたダイアログボックスにフォルダ名を入力して **確定** をタッチすると完了します。

削除

メイン画面のファイルアイコンを長く押し、削除するファイルを選択すると削除ができます。

並び替え

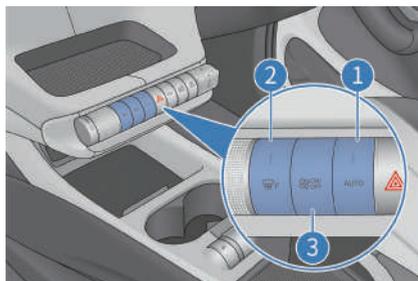
ファイルは名前順で並んでいます。名前、サイズ、タイプ、時間の4つからファイルを並び替えできます。

プロパティ

メイン画面のいずれかのファイルアイコンを長押しし、ファイルを選択して **詳細** をタッチすると、ファイルのそれぞれのプロパティを確認できます。

エアコンパネル

- 1 オートボタン
- 2 フロントガラスデフロスターボタン
- 3 エアコン ON/OFF ボタン



i アドバイス

■ エアコンリモートスタート機能：

- ユーザーは、車両のリモートキーまたは「BYD クラウドサービス」APP でエアコンを付けることができ、乗車時に快適な室内環境を提供することができます。

エアコン操作画面



- | | |
|-----------------------|----------------|
| ① エアコン設定アイコン | ⑨ エアコン ON/OFF |
| ② シートヒーティングアイコン | ⑩ オートモード |
| ③ エアコン操作画面アイコン | ⑪ ファン ON/OFF |
| ④ 換気 | ⑫ 助手席側エアコン温度調節 |
| ⑤ 外気導入 / 内気循環切替 | ⑬ 運転席側エアコン温度調節 |
| ⑥ リアガラスおよびドアミラーデフロスター | ⑭ 吹き出しモード選択 |
| ⑦ フロントガラスデフロスター | ⑮ 風量調節 |
| ⑧ 最大エアコン | |

機能定義

オートモード

- オートモードが作動すると、シフト機構パネル上のオートモード表示灯が点灯し、コンプレッサーの状態、風量の強さ、吹き出しモードを自動で調節します。
- 風量の強さや吹き出しモード、コンプレッサーの状態を手動で操作すると、オートモードがOFFになります。操作した機能を除き、その他の機能はオートモードのままです。

ファン ON/OFF

- エアコンがONの状態ではファンON/OFFをタッチすると、エアコンをOFFにすることができます。
- エアコンがOFFの状態ではファンON/OFFをタッチすると、エアコンをONにすることができます。

風量調節

- 任意の風量調節を押します。数が多いほど風量が強くなります。

フロントガラスデフロスター

- フロントガラスデフロスターをタッチすると、エアコンがフロントガラスデフロスター制御に入り、吹き出しモードがフロントガラスデフロスターモードに切り替わります。再度タッチすると、エアコンのフロントガラスデフロスター制御がOFFになります。
- このアイコンをタッチすると、フロントガラスデフロスター制御がONになると同時にエアコンが作動します。

温度調整

- エアコン操作画面内の上側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら下へスライドすると、温度が高くなります。下側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら上へスライドすると、温度が低くなります。
- 温度を最小にする場合は「Lo」、温度を最高にする場合は「Hi」にします。

最大エアコン

- 最大エアコンをタッチすると、エアコンがフル冷房モードで稼働します。自動で温度をLo、風量を最大風量、内気循環モードで吹き出し口が上半身送風になります。
- 再度タッチすると、エアコンの最大エアコンがOFFになります。

エアコン ON/OFF

- エアコン ON/OFF でエアコンを ON にすることができます。アイコンが点灯してコンプレッサーが作動し、冷房または暖房を行います。再度タッチすると、コンプレッサーが停止してアイコンが消灯します。

外気導入 / 内気循環切替

- 外気導入にしている場合、外気導入 / 内気循環タッチすると、外気導入から内気循環に切り替わります。再度タッチすると、内気循環から外気導入に切り替わります。

⚠ 警告

- 内気循環を長時間使用すると、ガラスが曇りやすくなり視界が損なわれて危険なため、一時的な使用にしてください。
- 吹き出し風が長時間当たらないように注意してください。低温やけどや思わぬ傷害を受けるおそれがあります。
- フロントガラスデフロスターを ON にしているときに、エアコンの設定温度を低くしないでください。フロントガラスの外側に露が付き、視界を妨げるおそれがあります。
- 湿気が多いときは、フロントガラスに冷風を吹き付けないでください。フロントガラスの車内外での温度差により、フロントガラスが曇ることがあります。
- お子様や介護を必要とされる方、ペットを車内に置き去りにしないでください。エアコンの設定をしても、自動停止などにより車内が高温または低温になることがあり、死亡につながるおそれがあります。

i アドバイス

- 駐車時オートリサキュレーションの設定が ON になっている場合は、車内の空気の質を確保するため、排気ガスが車内に入らないように駐車時循環モードが内気循環に切り替わります。

リアガラスおよびドアミラーデフロスター

- リアガラスおよびドアミラーデフロスターをタッチすると、リアガラスおよびドアミラーデフロスターを ON にすることができます。また、再度操作しない場合は、15分作動するとシステムが自動で OFF になります。再度タッチすると、リアガラスおよびドアミラーデフロスターを OFF にすることができます。
- この機能は、雨滴を乾燥させたり、雪を溶かしたりするものではありません。

⚠ 警告

- ドアミラーの表面が熱くなるため、リアガラスおよびドアミラーデフロスター ON 後は鏡面を触らないでください。
- 長時間ドアミラー内蔵のヒーターで除霜機能を使う場合は、ガラスの早期劣化につながるおそれがあるため、不要なときは早めにリアガラスおよびドアミラーデフロスターを OFF にしてください。

⚠ 注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。
- 起動バッテリーの放電を防ぐため、モーター稼働時はリアガラスおよびドアミラーデフロスターを OFF にしてください。

換気

- 換気をタッチすると、エアコンの換気制御が ON になり外気が送り込まれます。
- 再度タッチすると、エアコンの換気制御が OFF になりオートモードに入ります。

吹き出しモード選択

- エアコン操作画面内の該当箇所をタッチすると、吹き出しモードを選択できます。吹き出しモードは自由に組み合わせることができ、希望に応じて吹き出しモードを3つまで同時に ON することができます。

- ➡ —主に上半身へ送風します。
- ↓ —主に足元へ送風します。
- 🌀 —主にフロントガラスおよびドアガラスに送風します。



ご利用要領

- 車内の温度が高い場合は、車内の温度を素早く下げるために窓を開けて数分間運転してください。熱気を車外へ出すことで、素早く車内を冷やすことができます。
- 車内の温度を素早く下げるには、温度を「Lo」に調節して内気循環モードで数分間エアコンを ON にします。
- フロントガラス前のエアインレットグリルが（落ち葉や雪などで）詰まっていないことを確認してください。
- 湿気が多い日にフロントガラスに冷風を吹き付けると、車内外の温度差によりフロントガラスが曇ることがあります。
- 車内の空気が十分に循環できるように、フロントシートの下にものを置かないでください。
- ウィンドウガラスの曇りを低減するため、寒いときはエアコンの風量を強の方に設定して 1 分間稼働し、吸気経路にある雪や湿気を取り除いてください。
- 車内の温度を素早く上げるため、寒いときは内気循環モードで数分間エアコンを ON にします。ガラスが曇らないように、車内が暖まった後は外気導入モードにします。
- ほこりが多い道路で前方車両に追従して走行する、または風とほこりがある状況で走行する場合は、すべてのドアガラスを閉めてエアコンを内気循環に設定し、エアコンのファンを ON にすることをおすすめします。
- 暖房運転時、エアコン ON/OFF をタッチしてアイコンが点灯（エアコンを ON）すると、空気中の湿気を減らすことができます。
- 換気モードでは、車外の自然な空気を車内に導入するため、春や秋の運転に適しています。

i アドバイス

■ エアコンの異臭について：

- エアコン作動時に吹き出した風からカビの臭いがすることがありますが、エアコンからの異臭発生は異常ではありません。エアコン使用中は、エバポレーターに結露が付着しやすく、フィルターにキャッチされなかった人の汗やタバコの煙などが湿ったエバポレーターに吸着します。暗く湿ったエバポレーター表面にはカビが発生しやすいため、カビが長期間にわたって発酵することにより、異臭が発生しやすくなります。

■ 異臭の防止について：

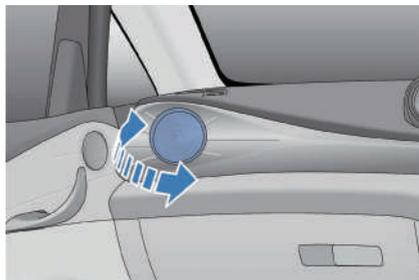
- 停車前に、エアコンを消して外気導入で換気することにより、比較的乾燥した状態を保つことができます。
- エアフィルターを定期的に点検、清掃、交換します。
- できるだけ車内を清潔にし、車内の空気をきれいに保ちます。

■ 異臭対策を行っても異臭が発生するときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場 で修理してください。

■ エアコンからの異臭を改善するため、エアコン作動状態で電源ポジションを「OFF」にして施錠すると、エアコンのブロワーがしばらく作動を続けることがあります。ブロワーが作動する目的は、エバポレーター表面の結露を乾かしてエバポレーター表面のカビによる異臭を避けるためです。車両施錠後に、エアコンのブロワーが自動で作動していても異常ではありません。

吹き出し口

調節レバーの操作で、風量や吹き出し口の開度を調節することができます。調節レバーを最後まで操作すると吹き出し口を閉じることができます。



BYD APP について

- BYD APP は、BYD が自ら開発した車両のインターネット関連モバイル APP で、遠隔制御や車両状況チェックなどの機能を手軽に確認でき、お客様を車のインターネットクラウド時代に導きます。
- Google Play または App Store でキーワード「BYD」を検索し、BYD APP をダウンロード・インストールしてください。

アカウント登録

BYD APP をダウンロードしてインストールした後、携帯電話の案内または次の手順に従って、登録およびアカウントへのサインインを行います。

1. APP を立ち上げて 登録 をタッチし、登録画面に入ります。
2. ご購入時にディーラーで登録したメールアドレスを入力して メール送信 をタッチし、キャプチャ認証文字を取得します。その後、APP に戻りキャプチャ認証文字を入力します。
3. サインインパスワードの設定画面に入ってパスワードを設定した後、登録完了 をタッチするとメイン画面に入ります。

⚠ 注意

- 必ずディーラーで登録したメールアドレスを入力してください。そうしないと、登録を完了することができません。
- APP 右上で地域を選択できます。初期設定は、お客様の携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域となっています。ご購入先の地域が携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域と一致していない場合は、ご購入先の地域を選択してください。そうしないと、お客様のデータを取得できません。

車両状態および車両制御システム

APP トップページに入ると、車両に関連する情報や該当の制御項目を調べることができます。

1. トップページでは、車両の航続可能距離、バッテリー残量、異常情報、走行状態、充電状態、エアコン作動情報、ドア・ウィンドウガラスの状態、シートヒーターの状態、タイヤ空気圧の異常有無などを調べることができます。
2. 施錠、解錠、パッシング・ホーン鳴らし、パッシングのアイコン 4 つのいずれかをタッチすると、該当の機能を直接制御することができます。
3. エアコンは、トップページで ON/OFF することができ、カードをタッチすることでエアコン制御画面に入り、温度などを設定することもできます。[エアコン操作画面](#)を参照してください。
4. シート、ドアとウィンドウ、タイヤ空気圧 は、トップページ下側の各制御項目をタッチして該当の画面に入り、状態を調べることができます。
5. お客様の同一アカウントに複数台車両が登録されている場合は、車両名称をタッチすることで車両を切り替えることができます。

⚠ 注意

- APP の制御機能は、主に遠隔制御シーンに対応するものです。当該機能を利用する場合は、携帯電話と車両をインターネットに接続している状態にしてください。

個別センターおよび車両管理

トップページの マーク をタッチすると、個別センター画面を表示することができます。

- 車両カードの右上のアイコンをタッチして車両管理にアクセスすると、車名とナンバーを設定できます。
- **アカウントとセキュリティ** に入ると、パスワードのリセットまたは変更ができます。
- **設定** に入ると、プッシュ通知の対象項目の選択や自動ログインなどの機能を ON/OFF できます。
- **当社について** に入って、プライバシーポリシーをご閲覧いただき、ご意見をフィードバックするようにお願いします。

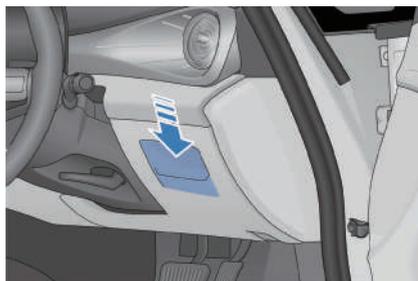
ドアポケット

- それぞれのドアには、ペットボトルや小物などを格納するためのドアポケットが付いています。



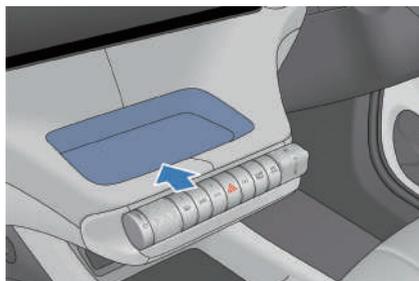
駐車券収納ボックス

- 運転席側インストルメントパネルにあり、領収書、名刺などを入れることができます。



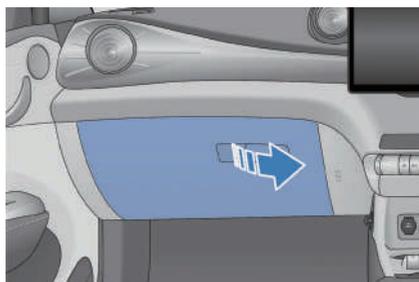
インストルメントパネルセンターボックス

- インストルメントパネルの中央部にあります。



グローブボックス

- ノブを引くと、グローブボックスを開けることができます。
- グローブボックスを押し上げると、閉めることができます。



⚠ 警告

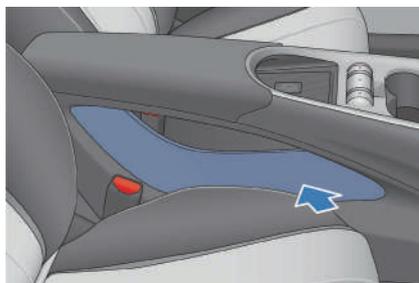
- 思わぬ事故や急ブレーキ時に怪我をする可能性を減らすため、運転時はグローブボックスを閉めてください。
- グローブボックスはゆっくり開けてください。開いたときに身体に当たると、怪我につながるおそれがあります。
- 可燃性ガスの入ったスプレー缶やガスライターを、グローブボックスなどの小物入れに入れたままにしたり、床やシートの際間に落とすままにしないでください。引火して爆発や火災につながるおそれがあります。

センターコンソールボックス

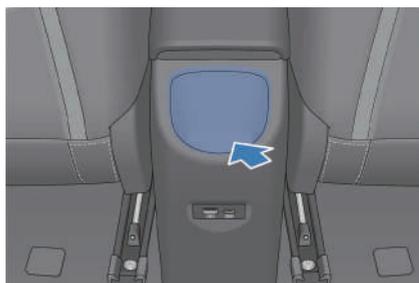
- インストルメントパネルセンターボックスの下側、センターコンソールの前方にあるボックスの蓋を開けて使用します。



- センターコンソールの下側にあります。



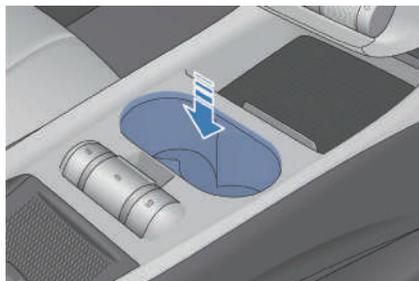
- センターコンソールの後部にあります。



カップホルダー

フロントカップホルダー

フロントシートのカップホルダーは、センターコンソールの中央部にあります。



リアカップホルダー

リアシートセンターアームレストを反転するとリアカップホルダーがあります。



⚠ 警告

- 運転中は、カップホルダーから飲み物を出し入れしないでください。前方不注意により、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかりと蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れしないでください。スイッチや配線などの電気部品にかかると故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 熱い飲み物は、カップホルダーに置かないでください。急発進や急ブレーキでこぼれて飛び散ると、乗員がやけどをするおそれがあります。

⚠ 警告 (続き)

- ビンなどの硬いものは入れないでください。側面衝突のときに、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車内のスイッチや、マルチメディアコントロールパネル PAD などに飲み物をこぼさないでください。故障や火災の原因となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

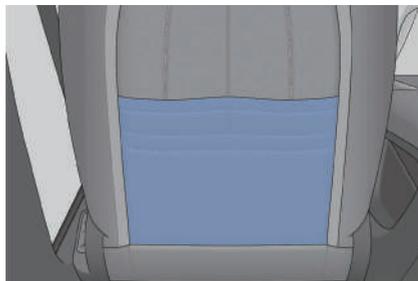
- 液体がこぼれて火傷するおそれがあるため、カップホルダーを使う場合は、急発進や急ブレーキをしないでください。
- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかり蓋をしていないボトルをカップホルダーに入れしないでください。
- 安全運転のため、運転中はカップホルダーからコップの出し入れをしないでください。

サングラスホルダー *

- サングラスホルダーを引き下げると、サングラスを入れることができます。

**シートバックポケット**

- フロントシートバックには、雑誌や新聞などを入れるためのシートバックポケットがあります。



サンバイザー

① サンバイザー

- 前方からの光を遮るには、サンバイザーを下方向に操作してください。
- 側方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下げた状態でフックから外し、横へ回します。



② バニティーミラー

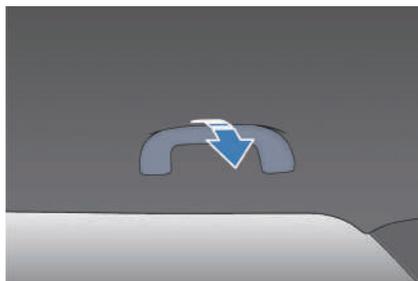
- バニティーミラーは運転席側および助手席側サンバイザーにあります。
- サンバイザーを下方向に操作し、バニティーミラーの蓋をスライドすると使うことができ、同時にバニティーミラーランプが点灯します。バニティーミラーの蓋を閉じる、またはサンバイザーを上方向に操作すると、バニティーミラーランプは消灯します。

i アドバイス

- 正しく適切にサンバイザーを使うと、運転時の快適性や安全性を向上させることができます。

アシストグリップ

- アシストグリップを使うときは下に引き、使わないときは手を離すと自動で戻ります。



⚠ 注意

- 怪我やアシストグリップの破損を避けるため、アシストグリップに重量物をかけないでください。

USB ポート

フロント側充電ポート：

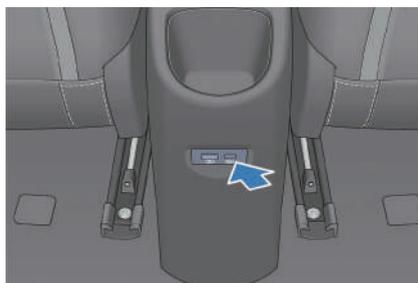
- ① USB 充電ポート
- ② USB データ伝送インターフェース



⚠ 注意

- フォーマット形式 FAT32、メモリ容量が 8 ~ 128G の USB デバイスの使用してください。
- 本マルチメディアシステムまたはユーザーの USB デバイスに入っているデータの破損を避けるため、許可なく特別な USB デバイスを使用しないでください。

リア側充電ポート



SD カードスロット *

センターコンソールボックスの上側にSD カードスロットがあります。



- 車両のマルチメディアシステムは、容量が 8 ~ 128G、カード速度がクラス 10 以上の TF (Micro-SD) メモリカードを使用できます。

⚠ 注意

- SD カードは水平に挿入してください。
- 非 FAT32 パーティション形式の TF メモリカードの場合は、初めて使用する前にフォーマットを行い、FAT32 形式に変換してください。そうしないと、システムが認識できないおそれがあります。
- カードを取り外す前に、マルチメディアの電源を OFF にしてください。そうしないと、ビデオファイルが破損するおそれがあります。

12V アクセサリー電源

- 作動電圧 DC12V、かつ作動電流が 10A までのアクセサリに対応します。
- 12V アクセサリー電源を使うときは、蓋を開けて車両の電源ポジションを「OK」にしてください。



⚠ 警告

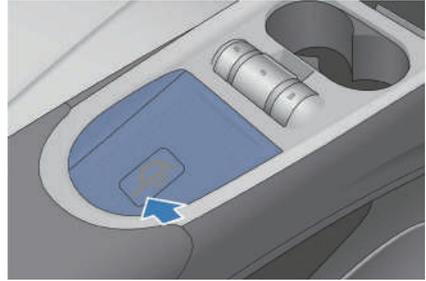
- 電源ソケットを使う場合は、下記の事項を守ってください。不適切な使用によりフューズが切れるだけでなく、車両火災や乗員がやけどするおそれがあります。
 - 消費電力 120W 以下の電気器具を使用する
 - アクセサリのプラグは電源ソケットの奥まで挿入する
 - 電源ソケットに水をかけない
 - 電源ソケットに異物を入れない
- 電源ソケットやアクセサリのプラグは熱くなることがあります。

⚠ 注意

- フューズ切れを防ぐため、電気使用量が車の総負荷 12V/120W を超えないでください。
- 起動バッテリーが切れることを防ぐため、駆動モーターが稼働していない場合は、長時間 12V アクセサリー電源を使わないでください。
- 12V アクセサリー電源を使わない場合はカバーを閉じてください。また、電気のトラブルを引き起こすおそれがあるため、適切なプラグ以外を 12V アクセサリー電源に差し込んだり、液体が侵入したりすることがないようにしてください。

ワイヤレス充電エリア *

- ワイヤレス充電器は、電源ケーブルを使わずに電磁誘導で携帯電話を充電するものです。
- マルチメディアタッチパネル PAD の **ショートカットメニュー** から、**ワイヤレス充電機能設定**  をタッチすると、アイコンが点灯してワイヤレス充電機能が ON になります。
- 車両始動後に、携帯電話の画面を上向きにしてワイヤレス充電エリアに置くと、携帯電話が自動的にワイヤレス充電モードになります。
- ワイヤレス充電機能を OFF にする場合は、マルチメディアタッチパネル PAD の **ショートカットメニュー** から、**ワイヤレス充電機能設定**  をタッチすると、アイコンが消灯してワイヤレス充電機能が OFF になります。
- ワイヤレス充電機能は、すべての携帯電話ではなく、Qi 認証取得済みの携帯電話のみに対応しています。
- カードの焼損を防ぐため、充電中はキャッシュカードなどのチップ付きカードを携帯電話ケースと携帯電話の間に入れしないでください。



警告

- 交通事故につながるおそれがあるため、運転中は携帯電話の充電状況を長時間確認しないでください。
- やけどをするおそれがあるため、ワイヤレス充電中は携帯電話とゴムパッドの間に詰まった金属製の異物を、素手で取り除かないでください。

▲ 注意

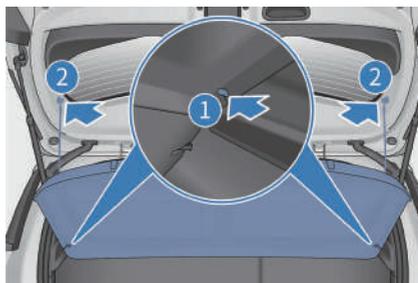
- ワイヤレス充電機能が作動しているときは、リモートキーをワイヤレス充電エリアから 25cm 以内に置かないでください。
- 事故にかかわるワイヤレス充電機能の異常を避けるため、コインや金属キー、金属リング、金属成分を含んでいる他のものは、携帯電話と一緒にワイヤレス充電エリアに置かないでください。
- 充電エリアの破損を避けるため、充電エリアには重量物を置かないでください。また、ワイヤレス充電機能が故障して正常に使えないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 誤った使い方による問題について、当社はいかなる責任も負いません。製品の解体や改造があった場合、無償保証サービスが受けられなくなります。
- 火災などにつながるおそれがあるため、ドライバーが車内にいない状態で携帯電話を充電しないでください。
- より良い充電効果を得るためには、携帯電話のコイルの中心をワイヤレス充電器の中心（充電エリアの印字部）に合わせてください。合わせないと充電できないことがあります。
- 充電エリアに水がかからないようにしてください。水がゴムパッドの隙間からワイヤレス充電器に侵入し、充電器が故障するおそれがあります。
- 温度が高すぎると携帯電話の充電が止まることがあります。温度が下がると充電が再開します。
- 外付けのワイヤレス充電コイルによる不具合について当社は一切保証できませんので、注意してご使用ください。

① アドバイス

- 一度に1台の携帯電話しか充電できません。
- 携帯電話ケースが厚すぎる場合は、充電できないことがあります。
- 悪路を走行中は、ワイヤレス充電機能が充電停止と充電再開を繰り返すことがあります。
- 可能な限り、携帯電話の裏側を充電モジュールと密着するように置いてください。携帯電話がワイヤレス充電エリアからずれて充電が止まったときは、携帯電話をワイヤレス充電エリアに戻してください。
- 携帯電話が正常に充電できない場合は、始めにワイヤレス充電エリアに異物がないか確認し、ワイヤレス充電エリアが冷えてから充電を再開してください。それでも充電できないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 車両の電源ポジション「OFF」後、携帯電話がワイヤレス充電エリアにある状態で運転席側ドアを開けると、コンビネーションメーター内のブザーが1回鳴り、「携帯電話置き忘れ注意」のメッセージが5秒ほど表示されます。
- 充電するしないにかかわらず、携帯電話は横置きでご使用ください。携帯電話を縦置きにすると、ワイヤレス充電エリアからはみ出し、「R」レンジへのシフトチェンジを妨げることがあります。

リアシェルフ*

- プライバシーを守り、直射日光を避けるために、リアシェルフで荷物を覆うことができます。
- リアシェルフのフック部①を両側のCピラーパネル下部の突起にはめ込んでから、リアシェルフの紐②を掛けます。
- リアシェルフの取り外し方は取り付けと逆の手順です。



⚠ 警告

- リアシェルフを取り付ける場合は、リアシェルフが確実に取り付けられていることを確認してください。
- リアシェルフにものを置かないでください。
- リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、お子様をリアシェルフに乗せないでください。

カーペット

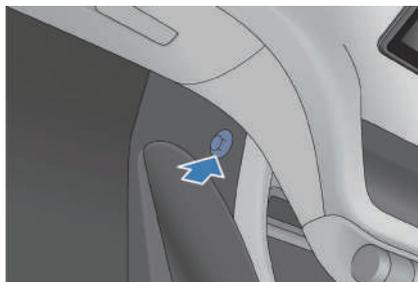
- 専用のカーペットが設定されていますので、正しく固定してご使用ください。

⚠ 警告

- 運転前に、カーペットが正しく固定されていることを定期的を確認してください。車内のクリーニング後は必ず確認してください。
- 運転席にカーペットを敷く場合は、カーペットでペダルを覆ったり、重ねて敷いたり、前後逆さまや裏返して使用しないでください。
- タバコの火種をカーペットに落とさないでください。火災につながるおそれがあります。

フック

- 180度回転することができます。
- 3kg以下の荷物まで掛けることができます。

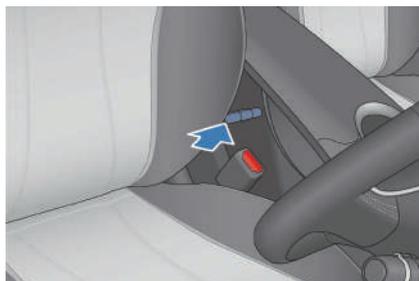


⚠ 注意

- フックの破損を避けるため、耐荷重以上の荷物を掛けないでください。

緊急脱出ハンマー

緊急脱出ハンマーは、非常時に緊急脱出するためのツールで、センターコンソールボックスの近くに格納しています。車両火災や水没などで車内に閉じ込められた場合は、緊急脱出ハンマーを使用してウィンドウガラスを割り、車外へ脱出してください。

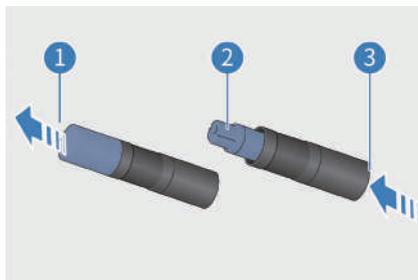


ガラスを割る方法について

1. ウィンドウガラスを割る位置を決めます
 - 簡単に割ることができるウィンドウガラスを選択してください。フロント/リアガラスの表面には、振動を防ぐため特殊な塗料をコーティングしています。
 - ウィンドウガラスを素早く破壊できるため、ウィンドウガラスの角部分を狙ってください。
2. ウィンドウガラスを割ります
 - 緊急脱出ハンマーをウィンドウガラスの角部分に当て、力強く底部を押してウィンドウガラスを破壊します。ガラスが割れない場合は、割る位置は変えずに割れるまで緊急脱出ハンマーの底部を力強く叩いてください。
3. ガラスを取り除きます
 - ガラスがすべて割れず残ることがあります。このようなときは、緊急脱出ハンマーでガラスを落とすように叩いてください。
 - ウィンドウガラスにフィルムが貼り付いているときは、足でガラスを蹴って開けてください。
4. 車外へ脱出します
 - 脱出できる隙間ができたなら、ただちに車内から脱出して安全な場所に移動してください。

緊急脱出ハンマーの使い方について

1. 緊急脱出ハンマーのキャップ①を外します。
2. 緊急脱出ハンマーの先端②をウィンドウガラスの隅部分に当てます。
3. 緊急脱出ハンマーの底部③を力強く押します。



i アドバイス

- 緊急脱出ハンマーは、緊急時に車外へ脱出するためのツールです。紛失を避けるため、使わないときは取り外さないでください。
- ガラスを割る際に、ガラスで怪我をしないように注意してください。

6-1	メンテナンス上の	
	ご注意	262
	メンテナンス周期および	
	メンテナンス内容	262
6-2	定期メンテナンス	269
	定期メンテナンス	269
	車両の防食について	270
	塗装メンテナンスのお願い	271
	洗車	272
	車内の清掃	274
6-3	セルフメンテナンス	277
	セルフメンテナンス	277
	サンルーフのメンテナンス *	281
	車両の保管	282
	ボンネット	283
	冷却システム	285
	ブレーキシステム	286
	ウォッシャー	287
	空調システム	288
	ワイパーブレード	289
	タイヤ	291
	フューズ	296

メンテナンス周期およびメンテナンス内容

車両メンテナンス計画

- メンテナンス計画は、安定した走行、故障の低減、安全運転およびエコ運転を実現するために設計されています。
- メンテナンス周期表には、車両を常に最適な状態に保つために必要なすべてのメンテナンス項目を記載しています。
- これらは特に重要なメンテナンス項目であるため、それぞれのメンテナンス間隔がメンテナンス周期表に記載されています。
- メンテナンス項目に記載されているホースに劣化や破損などが起きた場合は、ただちに交換してください。
- ホース（冷暖房システム、ブレーキシステムなどに使われるホース）は、メンテナンス周期表に従い、専門の技術者に点検を依頼してください。

注意

- BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的実施してください。

メンテナンス計画について

通常のメンテナンス周期表に従って、車両のメンテナンスを実施してください。

下記の状況が1つ以上当てはまる場合は過酷な使用条件となり、一部項目のメンテナンス周期が異なります。

- 路面状況
 - 悪路、ぬかるんだ路面、融雪路を走行するとき。
 - ほこりの多い路面を走行するとき。
- 運転状況
 - キャンピングトレーラーやルーフラックを含むトレーラーの使用。
 - 外気温が0度以下で、8km 以内で短距離走行を繰り返す。
 - パトカー、タクシーまたは貨物運搬車などで、長時間アイドリングや低速で長距離走行する。

メンテナンス周期表

メンテナンス時の走行距離と使用時間のうち、いずれか早い方に準じます。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
シャーシ各部固定ネジの確認および締付*	12ヶ月、または20000km毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキペダルと電動パーキングブレーキスイッチの点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は24ヶ月、または40000kmで点検する。その以後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その以後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。
ブレーキパッドとディスクの点検	12ヶ月、または20000km毎に点検する。
ブレーキシステムのラインおよびホースを点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は24ヶ月、または40000kmで点検する。その以後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その以後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。
ブレーキキャリパーASSYのガイドピンを確認	初回は12ヶ月、または20000kmで点検する。その後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。
ステアリング、タイロッドの点検	初回は12ヶ月、または20000kmで点検する。その後は24ヶ月、または40000km毎に点検する。
ドライブシャフトグストブーツの点検	24ヶ月、または40000km毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その以後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
ボールジョイントダストブーツの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
前後サスペンションの確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤと空気圧の確認 (TPMS を含む)	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
前後輪アライメントの点検	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。
タイヤローテーション	毎月 1 回以上空気圧とタイヤを点検し、10000km 毎に位置を交換する。
ドアストッパーの確認	湿らせた柔らかい布でチェックロッドのほこりを取り除き、チェックロッド、リベットジョイント、回転軸に 0.3 ~ 0.8g のグリスを塗布する。12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ホイールベアリングの遊びを確認	24 ヶ月、または 40000km 毎に点検する。 過酷な使用条件の場合、初回は 3 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。その以後は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
サブタンクのクーラントレベルを確認	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーモーター冷却水の交換	4年、または100000km毎にロングライフ有機酸系クーラントを入れ替える。いずれかの早い方に準ずる。
ブレーキフルードの点検	初回は6ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000km毎に点検する。その後は12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ブレーキフルードの交換	2年、または40000km毎に入れ替える。
車両モジュールの故障コードを確認（記録後にクリア）	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリートレイ、ガード、クラッシュバー、取付部のトルクを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
パワーバッテリーセルフキャリブレーション	72000km、または6ヶ月毎に実施する（ アドバイス を参照）
トランスミッションギアオイルの点検および交換	ギアオイル入れ替えの初回は24ヶ月、または40000kmで、その後は24ヶ月、または40000km毎にギアオイルを入れ替える
パワートレインに液漏れや衝突などがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
高電圧ワイヤーハーネスまたはコネクタの緩みがないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
高電圧モジュールの外観 部品の変形、油の付着の 有無を確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。
各充電コネクタのイン ターフェースに異物、焼 損などがいないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。
HEC フィルター（ク リーンエアフィルター） の確認*（HEC：High- Efficiency-Carbon）	12 ヶ月、または 20000km 毎に定期点検を行う。いづ れかの早い方に準ずる。 必要に応じて交換する。環境が極端に悪い地域では、6 ヶ 月毎に点検し、必要に応じて交換する。
電球と LED が正常に点 灯しているかを確認	初回は 6 ヶ月、または 5000km で点検し、二回目は 12 ヶ月、または 20000km 毎に点検する。その後は 12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。
ハイビームアシストが正 常かを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。
ロービームの高さ調整が 正常かを確認	10000km 毎に校正する
EPS グラウンドに異物や 焼損がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。
EPS コネクタの緩みがな いか、コネクタのピンが 焼損していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。
EPS ECU が腐食してい ないかを確認	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。
EPS ECU とモーターの 接続に異物や腐食がない かを確認*	12 ヶ月、または 20000km で点検する。異常や破損が ある場合は早めに交換する。

メンテナンス項目	メンテナンス周期
車両モジュールのソフトウェア更新をチェックし、あれば更新する	初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。破損がある場合は、早めに交換する。
高電圧部品に浸水の痕跡がないかを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ワイパーアームロックナットのトルクを確認	12ヶ月、または20000kmで点検する。異常や破損がある場合は早めに交換する。
ボンネットヒンジのストッパボルトに付いているゴムブッシュが、破れていないかを点検	初回は3ヶ月、または5000kmで点検し、二回目は12ヶ月、または20000kmで点検する。その後は12ヶ月、または20000km毎に点検する。破損がある場合は、早めに交換する
ボンネットロックおよびストライカーを確認	12ヶ月毎に点検する
※ シャーシ各部固定ネジの確認および締付の点検をするとき、シャーシ部品に異常や破損が見つかった場合は、早めに交換してください。	

i アドバイス

- パワーバッテリーセルフキャリブレーションとは、パワーバッテリーを最適な状態に保つため、定期的（最小6ヶ月または72000kmでいずれか早い方に準ずる）にフル放電とフル充電を行い、バッテリーの自己校正による活性化を目的とするものです。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にバッテリー容量のテストおよび校正を依頼してください。

過酷な使用条件とは：

- ほこりの多い地域を走行する、または塩分を含む空気にさらされる場合。
- デコボコ路、浸水路や山道を走行する場合。
- 寒冷地を走行する場合。
- 頻繁にブレーキをかける、または急ブレーキをかける場合。
- トレーラーをけん引する場合。
- タクシーとして使用する場合。
- 32℃以上の気温で交通量の多い市街地を走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 30℃以上の気温、120km/h以上の速度で走行する時間が、総走行時間の50%を超える場合。
- 過積載で走行する場合。

定期メンテナンス

■ 車両性能や音の変化、および点検を指示するための直観的な兆候に注意してください。次の状況がある場合は、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で調整や修理を実施してください。

- モーター始動時の異音。
- 冷却水の高温状態が続いている、冷却水が流れない、水漏れがある。
- モーターの引っかかりおよび異音。
- モーター回転時の振動が激しい。
- モーターが始動できない。
- 電動パワートレインからオイルが漏れている。
- 電動パワートレインから異臭がする。
- 動力が明らかに弱まっている。
- 車両の下部から水漏れがある（エアコンからの水は異常ではない）。
- タイヤの空気漏れ、曲がるときの過度なタイヤ騒音。不均一なタイヤ摩耗。
- 平坦な道で直進すると車両が片側に流れる。
- サスペンションにかかわる異音。
- ブレーキが利かない、ブレーキペダルが軽い、ペダルが床に接触する、ブレーキ時に車両が片側に流れる。
- モーター冷却水がやや熱い状態が続いている。
- バッテリー容量が明らかに下がっている。
- バッテリーの高温状態が続いている、過熱保護、出力が出ない。

⚠ 注意

- 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり身体に危害を与えたりするおそれがあります。
- BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的実施してください。

車両の防食について

車両腐食のよくある原因：

- 車両下にアルカリ性土壌やほこり、湿気が付着している。
- 湿度が高い環境、または車両のある部位が長期間高湿高温にさらされている。
- 軽微な衝突、または小石や砂利で塗装や下地が傷付いている。

車両腐食を防ぐために、下記のルールを守ってください。

- こまめに洗車する。
 - 冬場に塩分のある路上を走行する、または海沿いに住んでいる場合は、毎月1回以上、土や泥がよく付着する箇所を洗浄してください。高圧洗浄機や蒸気でシャーシとホイールハウスを洗浄することで腐食を軽減します。また、冬が終わったらシャーシ部分を徹底的に洗浄してください。
- ボディーの塗装とアクセサリーを点検する。
 - 塗装の破片や塗装割れがある場合は、腐食を防ぐためにただちに補修してください。塗装剥がれがあるときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で補修してください。
- 車内を点検する。
 - 水分やほこりがカーペット下に堆積すると腐食につながるため、これらの部位の乾燥状態を保てるようにカーペット下を点検してください。
 - 化学品、洗浄剤、化学肥料、塩などを運ぶ際は特に注意してください。適切な容器で運び、あふれたり漏れたりしたときは、すぐに洗浄して乾かしてください。
- マッドガードを使用する。
 - アルカリ分が多い地域または砂利舗装路を走る場合は、マッドガードで車両を保護してください。マッドガードは、寸法が大きく地面に近いほど効果があります。
- 十分に換気された乾燥した場所に駐車してください。

塗装メンテナンスのお願い

- 色違いや配合不良を防ぐため、塗装に明らかな擦り傷がない場合は、安易に再塗装しないでください。
- 長期間車両を放置する場合は、車庫や風通しの良いところに駐車してください。また、冬場は専用のボディーカバーで覆ってください。一時的に駐車するときは、直射日光が当たらない涼しい場所を選んでください。
- ボディーの塗装への強い衝撃を避け、当たり傷や擦り傷などを防いでください。塗装に傷、へこみ、剥がれがあるときは早めに補修するため、可能な限り専門のカーケアショップで補修してください。
- 化学反応を避けるため、油で汚れた手でボディー塗装の表面を触る、油で汚れた布で塗装の表面を拭く、また、油汚れが付いている工具や有機溶剤を含んだ布をボディーの上に置かないでください。
- 毎月 1 回またはボディー表面の撥水性が落ちた場合は、車用ワックスを塗布して定期的に（四半期毎に 1 回）手入れを行い、早めにボディー塗装の輝きを取り戻してください。
- なお、ボディーコーティングなどの BYD 商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

注意

- 高温でバンパーを破損させるおそれがあるため、再度塗装を行った後に高温の塗装ブースに置く間は、樹脂製バンパーを取り外してください。

洗車

- 下記の場合は、塗装剥がれやボディーまたは部品の錆びを引き起こすおそれがあるため、早めに車両を洗浄してください。
 - 沿海部で走るとき。
 - 凍結防止剤をまいている道路を走るとき。
 - コールタールが付いている道路を走るとき。
 - 樹脂、鳥の糞や虫の死骸が付いたとき。
 - 煙塵、石炭灰、ほこり、鉄くずや化学物質を大量に含んでいる地域を走るとき。
 - ほこりや泥で車両が明らかに汚れているとき。
 - 雨が降った後。

手洗い洗車をするとき

日が当たらない涼しい場所に車両を止め、車両が十分に冷えてから洗車を行います。

1. ホースで表面の汚れを洗い落とし、下回りやホイール奥にある泥や塩分汚れをきれいに洗い落とします。
2. 中性洗剤で洗浄する場合は、洗剤の取扱説明書に従って洗剤を混ぜ合わせてください。柔らかい布に洗剤を浸け、水流方向に上から下へ拭きます。円を描くように拭いたり、横方向に拭いたりしないでください。
3. 洗剤が乾くと痕が残るため、水で十分に洗い流します。また、暑い時期に洗車する場合は、水で各部分を素早くきれいに洗い流してください。
4. 水痕が残らないように、清潔な柔らかいタオルでボディーの水分を拭き取ってください。また、塗装が傷付くおそれがあるため、強く拭いたり押し付けて拭いたりしないでください。

警告

- 下回りを洗うときは、手を怪我しないように注意してください。
- 電気部品が故障するおそれがあるため、モータールーム内に水をかけないでください。
- 故障や感電につながるおそれがあるため、高圧洗浄機で精密機器のセンサーやカメラ部に衝撃を与えないでください。

① アドバイス

- 強アルカリ性の粉石鹼、石鹼水、洗剤、脱脂洗剤、有機物質（ガソリン、灯油、揮発油、または強溶剤）を使わないでください。
- コンビネーションランプのレンズ割れにつながるおそれがあるため、コンビネーションランプを洗浄する場合は、ガソリン、アルコール、シンナー、希釈剤、四塩化炭素などの化学溶剤で、コンビネーションランプの表面を拭かないでください。
- 沿海部や汚染が深刻な地域で走る車両の場合は、毎日1回の洗車をおすすめします。
- 洗車中は、高圧洗浄機と車両の間に十分な距離を確保し、高圧洗浄機でウェザーストリップに水を直接吹き付けしないでください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーストリップの変形や破損につながるだけでなく、車内への水漏れも起きやすくなります。
- ボディーの汚れをカッターで削ったり、ガソリンで洗ったりしないでください。有機物質により、プラスチック製ホイールトリムが損傷します。有機物質がホイールトリムに付いた場合は、必ず水で洗い流してから部品に傷みがないかを点検してください。著しい破損があるプラスチック製ホイールトリムは、移動中にホイールトリムが外れて事故を起こすおそれがあるため、早めに交換してください。
- 研磨剤を含んだ洗剤でバンパーを拭かないでください。
- メッキ処理の金属部品の洗浄は、専用の洗剤を使って定期的に専用ワックスを塗布することをおすすめします。
- 床下やシャーシを掃除する場合は、手を切らないように注意してください。

自動洗車をするとき

塗装面が傷付くおそれがあるため、自動洗車機で洗車する場合は、ブラシのタイプ、ろ過されていない洗浄水、または洗車機に設定された洗浄プログラムに注意してください。特に色が濃い車両は、塗装表面の擦り傷により塗膜の耐久性や光沢度が低下します。可能な限り、洗車前に洗車専門店のスタッフに問い合わせて、塗装面に最も安全な洗車プログラムを確認してください。

車内の清掃

アドバイス

- 内外装を洗浄する場合は、インストルメントパネルや床、近くの電気部品に水が直接流れ込まないようにしてください。水の侵入により、機能の異常につながるおそれがあります。
- ボディーの腐食を避けるため、水で車両の床を洗浄しないでください。

カーペット

- 高品質の泡タイプの洗剤でカーペットを洗浄してください。
- まずは、できるだけ掃除機でほこりをきれいに掃除します。使える泡タイプ洗剤が数種類あり、スプレーや粉末、液体で水と混合して泡を発生させるものもあります。泡立てたスポンジやブラシでカーペットを洗浄し、円を描くように拭きながら洗浄します。
- 水を使わず、できるだけカーペットを乾燥状態に保ってください。

警告

- カーペットがペダルに干渉しないように、運転席のカーペットが正しく固定されていることを確認してください。また、カーペットの上に別のカーペットやその他のカバーを重ねないでください。

シートベルトの清掃

- シートベルトは、中性石鹼水やぬるま湯でクリーニングすることができます。
- スポンジや柔らかい布でシートベルトを拭きます。洗浄中に、シートベルトに過度な摩耗、破れや切れがないかを点検してください。

注意

- シートベルトの強度が落ちるおそれがあるため、染色剤や漂白剤でシートベルトを洗浄しないでください。
- シートベルトは、乾燥するまで使わないでください。

ドアおよびウィンドウガラス

- ドアおよびウィンドウガラスは、一般家庭用の洗剤で洗浄できます。
- 定期的にドアチェッカーを点検し、ドアチェッカーのロッドにほこりが付着している場合は、水で濡らした布でドアチェッカーのロッドを拭いて表面のほこりを落としてください。

▲ 注意

- リアガラス内側のクリーニングを行う場合は、熱線および接続部を傷付けたり破損させたりしないように注意してください。

エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチ

- エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチは、水で濡らした柔らかい布でクリーニングします。
- 水や温水で濡らしたきれいな布でほこりを軽く拭き取ります。

▲ 注意

- 表面の変色、シミや剥がれにつながるおそれがあるため、有機物質（溶剤、灯油、アルコール、ガソリンなど）、酸性やアルカリ性溶液を使わないでください。
- 洗剤や艶出し剤を使う場合は、その組成に上記の物質を含んでいないことを確認してください。
- 新規の液体洗剤を使う場合は、液体を車内の表面にこぼさないでください。液体に上記の成分を含んでいる可能性があるため、液体をこぼしたときは素早くきれいに拭き取ってください。

車内の人工皮革部分

- 人工皮革部分は、毛織物に使える中性洗剤で洗浄することができます。
- 中性洗剤の溶液を浸けた柔らかい布でほこりを拭き取ってから、水で濡らしたきれいな布で残りの洗剤を完全に拭き取ります。
- 洗浄後または人工皮革が濡れている場合は、清潔な柔らかい布で水分を拭き取り、風通しが良い涼しいところで人工皮革を乾かします。
- 車両の洗浄についてご質問がある場合は、現地のBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に問い合わせてください。

⚠ 注意

- 中性洗剤で汚れが取れない場合は、有機溶剤を含まない洗剤で洗浄することができます。
- 揮発油、アルコール、ガソリン、酸性やアルカリ性溶液などの有機物質で、人工皮革を洗浄しないでください。人工皮革の色落ちにつながるおそれがあります。
- ナイロンブラシや人造繊維製の布などを使うと、人工皮革表面の模様が傷付きます。
- 汚れている人工皮革部分はカビが生えることがあります。特に油汚れに注意し、人工皮革部分を常に清潔に保ってください。
- 長時間日光に当たると、人工皮革の表面が固くなったり縮むことがあります。特に夏場は、日が当たらない涼しい場所に駐車してください。
- 夏の暑い時期は車内の温度が上昇しやすいため、ポリエチレン製やワックスを含む材料で作られたものを人工皮革の上に置かないでください。高温になると、人工皮革に固着してしまうおそれがあります。
- 人工皮革部分の洗浄を誤ると、色が落ちたりまだらになったりします。

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス上のご注意

- 自らがメンテナンスを行う場合は、本章に記載されている手順で正しくメンテナンスをしてください。
- 不適切で不完全なメンテナンスは、車両の正常な使用に影響を与えることをご了承ください。
- 本章には、ユーザーが実施できるメンテナンスのみを記載しています。そのため、資格のある技術者が専用工具を使って作業する必要があるメンテナンス項目は、数多くあります。
- メンテナンスを実施する場合は、思わぬ怪我を防ぐために下記の注意事項を必ず守り、細心の注意を払ってください。

警告

- 高電圧システムで感電するおそれがあるため、パワーバッテリー充電接続表示灯が点灯・点滅しているときは、整備作業を行わないでください。
- メンテナンスを行うときは、車両から充電コネクタを取り外してください。
- モータールーム内の作業時は、電源ポジションを「OFF」にしてください。EVシステム作動中に、手や工具などを入れると思わぬ怪我をするおそれがあります。
- ルーフに積もった雪は落としてください。フロントガラスに滑り落ちる雪が視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車両を長期間駐車していると、小動物が巣を作り、思わぬ火災につながるおそれがあるため注意してください。

▲ 警告 (続き)

- 電装システムの破損や火災につながるおそれがあるため、規定の容量以外のフューズや、フューズの代わりに針金などを絶対に使用しないでください。
- 自動車で使用される液体（バッテリー酸、バッテリー冷却水、ブレーキフルード、フロントガラス用ウォッシュ液など）の中には有毒なものがあるため、これらの液体を吸入または飲み込んだり、傷口に触れさせないでください。安全のため、液体容器に表示されている説明を必ず読み、指示に従ってください。

▲ 注意

- 車両の一部回路や部品には高電流や高電圧が掛かっているため、ショートさせないように細心の注意を払ってください。
- 部品や塗膜の破損を防ぐため、冷却水があふれた場合は乾燥した布や紙できれいに拭き取ってください。
- 部品や塗膜の破損を防ぐため、ブレーキフルードがあふれた場合は水できれいに洗い流してください。
- ワイパーブレードを交換する場合は、ワイパーでガラス表面を傷付けないようにしてください。
- ボンネットを閉める前に、工具や布などがモータールーム内に残っていないかを点検してください。
- 異物や液体が目に入らないように、車内外を問わず作業時は保護メガネを装着してください。
- ブレーキフルードは皮膚や目を傷めるため、ブレーキフルードを注入する場合は注意してください。ブレーキフルードが皮膚や目に付着したときは、ただちに水で付着部位を洗い流してください。まだ、手や目に痛みなどがあるときは、ただちに医師の手当てを受けてください。

点検

使用状況や推奨の走行距離に従い、下記の項目を点検してください。

- 冷却水レベル——充電のたびにラジエーターの冷却水レベルを点検してください。
- ウォッシュ液——毎月1回リザーブタンクのウォッシュ液の残量を点検してください。悪天候で頻繁にウォッシュ液を使った場合は、充電のたびにウォッシュ液の残量を点検してください。
- フロント・リアワイパー——毎月1回ワイパーを点検してください。ワイパーがフロントおよびリアガラスをきれいに拭き取れない場合は、摩擦、亀裂やその他の損傷がないかを点検してください。
- ブレーキフルードレベル——毎月1回ブレーキフルードレベルを点検してください。
- ブレーキペダル——ブレーキペダルがスムーズに操作できるかを点検してください。
- 電動パーキングブレーキスイッチ——スイッチが正常に機能していることを点検してください。
- 起動バッテリー——毎月1回バッテリーの状況および端子の腐食状況を点検してください。
- 空調システム——毎週エアコン装置の稼働状況を点検してください。
- タイヤ——毎月1回タイヤ空気圧を点検してください。また、タイヤトレッドの摩耗状況および異物の挟み込みがないかも点検してください。
- ガラスデフロスター——毎月、暖房装置やエアコンを使う前に、デフロスター装置の吹き出し口を点検してください。
- ライト——毎月1回ヘッドライト、ポジションランプ、テールライト、ハイマウントストップランプ、ターンシグナルランプ、リアフォグランプ、ブレーキランプおよびリアライセンスプレートランプの状況を点検してください。
- ドア——テールゲートおよび他のドア（リアドアを含む）のスイッチがスムーズに施錠できるかを点検してください。
- ホーン——ホーンに異常がないかを点検してください。

アドバイス

- 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせたりするおそれがあります。

コンビネーションランプ

フロントコンビネーションランプの光軸調整

- 工場出荷時にはフロントコンビネーションランプの光軸調整を行っています。重い荷物を運ぶことが多い場合は、新たにフロントコンビネーションランプの光軸調整を行ってください。フロントコンビネーションランプの光軸調整については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。

ライトの曇り

- 大雨や洗車の後、コンビネーションランプ、テールライト、またはドアミラーのターンシグナルランプには曇りが発生することがあります。これは、雨天時に車内側のフロントガラスが結露することと似ていますが、故障ではありません。

⚠ 警告

- ヘッドライトの電球は点灯により非常に熱くなるため、電球表面の油や汗、または擦り傷により電球が過熱して割れることがあります。
- 事故などで破損したライトのまま走行しないでください。内部に水が入ることにより、火災につながるおそれがあります。

ℹ アドバイス

- コンビネーションランプの内側、ドアミラー内のターンシグナルランプ内側に曇りが発生する場合は、空気の湿度が高い、または車両と周辺環境の温度差が大きいことが考えられます。コンビネーションランプやターンシグナルランプを点けてしばらく走行することで、ライト内の水蒸気が消えます。
- ライト内に明らかに水が入っている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

サンルーフのメンテナンス *

- 濡れた布でサンルーフ外側のウェザーストリップに付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、拭き取り時はウェザーストリップが傷付けないように注意してください。
- 濡れた布でフロントルーフガラスの成型部に付いているほこりや砂を拭き取ります。サンルーフの気密性が落ちるおそれがあるため、拭き取り時はウェザーストリップが傷付けないように注意してください。
- ほこり、砂、落ち葉などが排水口に詰まるとサンルーフの排水不具合が起きるため、リアルーフガラスの先端部を掃除し、不具合を予防してください。
- 洗車中は、高圧洗浄機と車両の間に十分な距離を確保し、高圧洗浄機でウェザーストリップに水を直接吹き付けしないでください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーストリップの変形や破損につながるだけでなく、車内への水漏れも起きやすくなります。

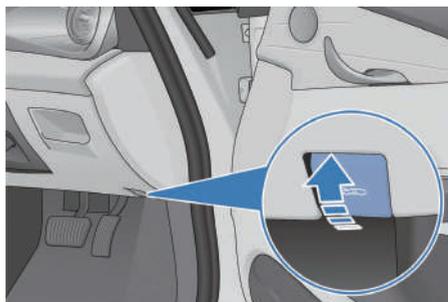
車両の保管

- 長期間（1 ヶ月以上）車両を放置する場合は、下記に示す準備を実施することで、車両性能などの劣化を効果的に防止できます。また、可能な限り屋内に駐車してください。
- 推奨の時間通り充電します。
- ボディーの外部を徹底的に洗浄し、乾かします。
- 車内を掃除し、カーペット、床などを完全に乾かします。
- パーキングブレーキを解除し、シフトレバーを「P」レンジに切り替えます。
- ウィンドウガラスを 1 枚少し下げます（屋内駐車の場合）。
- 起動バッテリーの負極（-）端子を取り外します。
- フロントワイパーアームがフロントガラスと接触しないように、ワイパーアームの下に折りたたんだタオルや布を入れます。
- 固着を軽減するため、すべてのドアのシール部にシリコン潤滑剤を塗り付け、ドアウェザーストリップ接触部の塗膜表面にボディーワックスを吹き付けます。
- 布のような「多孔質材料」で作られた通気性カバーでボディーを覆います。ビニールシートのような無孔質材料では湿気が溜まるため、ボディー表面の塗膜を破損させるおそれがあります。
- 可能な限り、定期的に車両を始動させます（毎月 1 回を推奨）。1 年間、またはそれ以上に放置した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で全体のメンテナンスを行ってください。

ボンネット

ボンネットの開け方

1. インストルメントパネル下部本体の右側にあるボンネットリリースレバーを2回連続で引き上げると、ボンネットが解錠されて少し隙間ができるようになります。



2. ボンネットを開ける：ボンネットを持ち上げ、ボンネットステーでボンネットを支えます。



ボンネットの閉め方

1. ボンネットを閉める：ボンネットステーを外し、フロントグリルから約30cm位置から両手を離し自由落下させてロックします。
2. ボンネットを閉めた後、確実にロックしているか確認します。

⚠ 警告

- ボンネットが閉まっており、確実にロックしていることを確認してください。ロックされていないと、運転中にボンネットが突然開き、事故につながるおそれがあります。
- 強風時は、ボンネットをしっかり持ちゆっくり開けてください。
- 開けたボンネットに頭などをぶつけないよう注意してください。
- ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。

i アドバイス

- ボンネットを施錠する際に勢いよくボンネットを落としたり、大きく開けた状態からボンネットを落としたりしないでください。
- ボンネットが完全に閉まっていない場合は、ボンネットを押さずに、再度ロックを解除してボンネットを閉めてください。

冷却システム

- 液面がリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば正常です。
- 冷却水は、添加剤を入れずに BYD 指定の冷却水と同じ仕様のもので使ってください。また、異なるブランドや型番の冷却水を混ぜ合わせて使用してはなりません。



- 最小値 (MIN) の目盛りを下回る場合は、最大値 (MAX) の目盛りには達するまで冷却水を補充し、冷却システムの漏れがないかを点検します。

⚠ 警告

- ラジエーターなどの高温部に触れると、やけどをするおそれがあります。
- モーターが完全に冷えていない状態でリザーバタンクの蓋を開けると、冷却水の噴出により重度のやけどを負うおそれがあります。

⚠ 注意

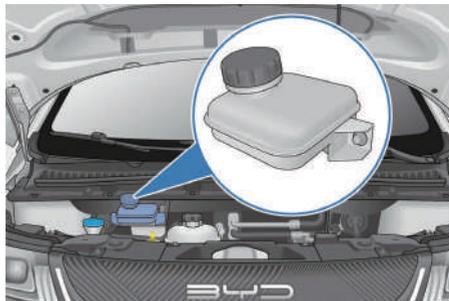
- 冷却システム内に防錆剤や他の添加物を絶対に追加しないでください。添加物は、冷却水やモーターの部品と相性が悪い可能性があります。
- リザーバタンクの蓋を開ける前に、モーター、集積型高電圧電気制御モジュール、リザーバタンクおよびラジエーターがすべて冷えていることを確認してください。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場ではバッテリー専用の冷却水を注入してください。

ℹ アドバイス

- 冷却水は、直射日光などの紫外線が強い環境にさらされると色落ちするおそれがあります。車両の使用やメンテナンスなどでボンネットを開ける必要があるときは、直射日光を避けるようにしてください。

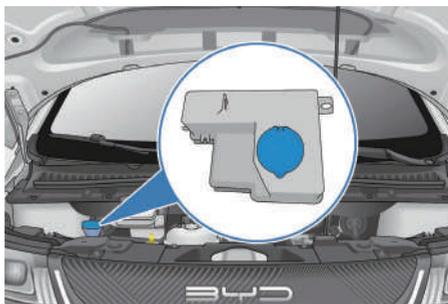
ブレーキシステム

- 毎月 1 回、ブレーキフルードリザーバタンク内のフルードレベルを点検してください。また、定期メンテナンス表に記載された走行時間と走行距離に従い、ブレーキフルードを交換してください。
- 純正品と同じブレーキフルードを使用してください。また、規格外のブレーキフルードを混ぜ合わせて使用しないでください。
- フルードレベルがリザーバタンクの最大値 (MAX) と最小値 (MIN) の間にあれば正常です。
- コンビネーションメーターにブレーキフルードレベルが低下していると表示された場合は、ブレーキシステムからの液漏れやブレーキパッドの摩耗がないかを点検してください。



ウォッシャ

- 毎月1回以上、ウォッシャ液タンクのレベルを点検してください。
- 悪天候でウォッシャをよく使う場合は、ウォッシャ液タンクのレベルを確認する頻度を増やしてください。
- 高品質のウォッシャ液を使用することで、汚れをよく落として凍結を防ぐことができます。
- ウォッシャ液補充時にこぼれた場合は、清潔な布で拭き取ってください。拭き取った布でワイパーブレードのゴム刃を清掃すると、ゴム刃を良好な状態に保つことができます。



⚠ 警告

- 出火するおそれがあるため、ウォッシャ液を高温部にかけないでください。

⚠ 注意

- ウォッシャ液タンクに、酢水溶剤や酸性溶液を注入しないでください。
- pH値が6.5～10のウォッシャ液を使用してください。

空調システム

- 空調システムはクローズドシステムです。大事なメンテナンス作業のすべては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。
- 空調システムを正常に機能させるため、下記の内容を確認してください。
 - ラジエーターおよびエアコンコンデンサーを定期的に点検します。
 - 異物が詰まると空気の流れを妨げて冷房能力が落ちるため、前側の表面に詰まっている落ち葉や虫、ほこりを取り除きます。
 - 冷媒に含まれている潤滑油を循環させるため、寒い季節は毎週 1 回以上、毎回 10 分以上エアコンをつけてください。
- 空調システムの冷房能力が通常より落ちている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

注意

- 空調システムの点検は、冷媒の再循環装置を確実に使用してください。この装置は、冷媒をリサイクルすることができ、冷媒を大気に出すことで発生する環境汚染を防ぎます。

ワイパーブレード

ワイパーブレードの材質は合成ゴムで消耗品のため、使用環境やドライバーの使用習慣により、ワイパーブレードが破損するおそれがあります。ワイパーブレードの寿命と安全を確保するため、下記の内容に注意してください。

- フロントガラスの表面に付いている氷はワイパーブレードでは拭き取らずに、車両専用のアイス・スクレーパーを取り除いてください。
- 汚れや油、ワックスが付着しているフロントガラスの表面をブラシでこすらないでください。
- ガラスの表面をきれいに保ってください。また、ガラスの表面に付着しているほこりや砂、虫、異物などを取る時は、ガラスの表面をこすらないでください。
- 洗車やボディー塗装のメンテナンス時は、フロントガラスに車用ワックスを吹き付けしないでください。夜間走行時にワックス層が光を反射して視界が悪くなり、安全な走行に影響を与えます。また、洗車後は水でワイパーブレードを洗い、専用のワックス除去剤でフロントガラスに付着したワックスを落としてください。
- ワイパーブレードの破損を防ぐため、洗車時は高圧洗浄機をワイパーブレードに直接吹き付けしないでください。

メンテナンス細則

- 定期的にフロントガラスとワイパーブレードを洗浄します（1～2週間毎に1回を推奨）。
 - 定期的にワイパーを作動させます（1～2日毎に1回を推奨）。作動時はフロントガラスを濡らしてください（雨が降っていないときはウォッシュ液を使用します）。
 - フロントガラスは専用の洗剤で洗浄します。
 - フロントガラスに付着している泥や虫の死骸は、早めに布できれいに拭き取ってください。
 - フロントガラスに飛び石などの傷が付いている場合は、早めに修理してください（フロントガラス修復用樹脂製品の使用を推奨。傷が多く大きいときは交換を推奨）。
 - ワイパーブレードは定期的（半年に1回）に交換することをおすすめします。
 - フロントガラスを洗浄する場合は、事前にワイパーアームを立ててください。操作方法は次の通りです。
1. 作業者は、 → **車両状況** → **リペアー** の設定画面から **Fr. ワイパーチェック** を **ON** すると、ワイパーアームが立てられる位置に移動します。
 2. ワイパーアームの上側を持ち、ワイパーアームとブレードアセンブリをしっかり引き上げます。

タイヤ

安全運転のために、本車に適合する型番やサイズのタイヤを選定してください。また、トレッドパターンが良好で、空気圧を適正にする必要があります。

▲ 警告

- 過度な摩耗、空気圧の不足、または空気圧が高すぎるタイヤを使うと、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 本マニュアルに記載されている空気圧調整およびメンテナンスに関する内容に従ってください。
- 著しく摩耗に差のあるタイヤや、空気圧が規定値と著しく異なるタイヤは装着しないでください。車両の性能を発揮できず、安全性を損なって故障の原因となるおそれがあります。

空気を入れる

- タイヤ空気圧の適切な調整は、操縦性、タイヤトレッドの寿命および運転快適性の最適な組み合わせを実現します。
- 空気圧不足のタイヤを使用すると、タイヤの偏摩耗が起こったり操縦性やエネルギー消費に影響を与えるだけでなく、過熱による空気漏れにつながるおそれがあります。
- 空気圧が高すぎるタイヤは車両の快適性の悪化や凹凸路面によるタイヤ損傷につながり、最悪の場合はバーストを引き起こすおそれがあります。また、タイヤの偏摩耗が起こりタイヤの寿命が短くなります。
- 冷間時（タイヤ空気圧モニタリングシステム装備車）、コンビネーションメーターに表示されたそれぞれのタイヤ空気圧により、空気補充の必要性を判断することができます。
- タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。冷間時とは、少なくとも停車してから3時間後に測定することを意味します。タイヤ空気圧を測定する前に走行する必要があるときは、走行距離が1.6kmを超えなければ冷間時と考えて問題ありません。
- 温間時（数kmほど走った後）のタイヤ空気圧を点検する場合は、圧力計の指示値が冷間時より30～40kPa（0.3～0.4bar）高くなりますが、異常ではありません。また、空気圧不足につながるため、指示値が推奨の冷間時空気圧になるまで空気を抜かないでください。

i アドバイス

- 推奨するタイヤ空気圧のラベル（運転席側ドア開口部に貼ってあります）には、推奨の冷間時空気圧が明記されています。
- チューブレスタイヤはパンク時に一気に空気が抜けにくく、少しずつ空気が漏れていきます。タイヤ空気圧が下がり出したら、空気漏れの位置を特定してください。

タイヤの点検

- タイヤ空気圧を点検する場合は、タイヤの傷や摩耗状態、異物などが刺さっていないかも合わせて点検してください。
 - タイヤトレッドや側面の傷および膨らみのいずれかがあったときは、タイヤを交換してください。
 - タイヤ側面の擦り傷や割れ、切れ、カーカスおよびビードワイヤーが見えたときは、タイヤを交換してください。
 - タイヤトレッドの過度な摩耗。
- タイヤトレッド内部にはスリップサインがあります。タイヤトレッドの摩耗によりスリップサインが見えた場合、溝の深さが 1.6mm 以下であることを意味します。摩耗が進んだタイヤは、滑りやすい路面を走るときのグリップ力が悪くなります。
- タイヤトレッドにスリップサインが見えるまで摩耗した場合は、タイヤ性能が著しく落ちるため、タイヤを交換してください。



メンテナンス

- 適切な空気補充以外に、正確なホイールアライメントもタイヤトレッドの摩耗を効果的に軽減します。
- タイヤの偏摩耗が起きた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのホイールアライメントの点検を行ってください。
- 工場出荷前にホイールアライメント調整が行われていますが、一定時間走行後に、ホイールアライメント調整を新たに行う必要があります。
- 比較的速い速度（80km/h）では継続的に振動を感じるが、低速時では振動を感じない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのタイヤを点検してください。
- 補修したタイヤが1つでもある場合は、必ずホイールアライメント調整を新たに行ってください。
- 新しいタイヤを装着する、または新しいホイールに交換した場合は、必ずホイールアライメント調整を行ってください。

⚠ 注意

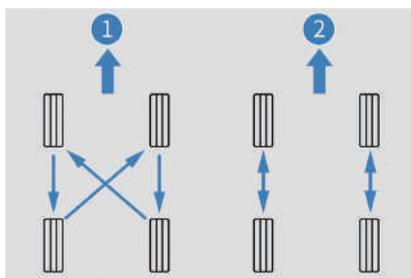
- バランスウェイトの取り付けを誤るとウェイトが脱落し、走行時に本車や周囲のものを破損させるおそれがあります。
- バランスウェイトの取り付けを誤ると、アルミホイールを破損させるおそれがあります。バランスを確実に取るため、オリジナルバランスウェイトの使用をおすすめします。

タイヤローテーション

- タイヤの摩耗を均等にして耐用年数を伸ばすため、定期的（10000km以内）にタイヤの内側と外側のパターンの磨耗を確認し、必要に応じてタイヤローテーションとホイールアライメント、調整を行うことをおすすめします。
- 一時的にスペアタイヤまたはテンパータイヤを利用する場合は、タイヤローテーションをしないでください。
- 「方向性」が決まっているタイヤを購入した場合は、同じ回転方向でローテーションする必要があります。また、「方向性」が決まっているタイヤのタイヤローテーションをするときは、フロントタイヤ、リアタイヤの入れ替えしかできません。

タイヤローテーション例：

- ① 「方向性」が決まっていないタイヤおよびホイール。
- ② 「方向性」が決まっているタイヤおよびホイール。



- タイヤを交換した後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でのタイヤ空気圧に対するキャリブレーションを行ってください。

タイヤとホイールの交換

- 本車のオリジナルタイヤは、車両性能を最大限に引き出すために選定されたものであり、同時に操縦性や乗り心地の良さ、使用寿命の最適な組み合わせとなっています。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にて指定タイヤに交換してください。
- ABS (アンチロックブレーキシステム) は、タイヤの回転数を比較することで機能するものです。タイヤを交換する場合は、オリジナルタイヤと同じサイズのものを使用してください。タイヤのサイズおよび構造は、ホイールの回転数に影響を与え、システム動作の不一致につながるおそれがあります。
- ホイールを交換する必要がある場合は、オリジナルホイールの仕様と同じホイールを選定してください (ホイールハブナットのトルク: 120N.m)。新品ホイールは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から購入することができます。交換する前に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

⚠ 警告

- サイズ、負荷範囲、定格回転数および最大の冷間時空気圧 (タイヤの側面に表示) が異なるラジアルタイヤに交換したり、ラジアルタイヤとダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用したりすると、車両の制動能力、駆動力 (グリップ力) および操舵精度の低下につながるため、安全性が損なわれて思わぬ事故につながるおそれがあります。
- タイヤを誤って装着すると、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 車両の操縦性に著しい影響を与えるため、タイヤは 4 本とも同時に交換し、1 本だけの交換はしないでください。

i アドバイス

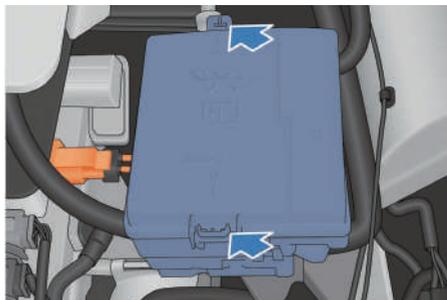
下記の内容を守ってください。運転中の代表的な危険を引き起こして、車両が制御できなくなるおそれがあります。

- ラジアルタイヤ、バイアスタイヤやダイアゴナル構造のテンパータイヤを混用しないでください。
- メーカーの推奨サイズ以外のタイヤを使わないでください。

フューズ

ショートや過負荷を防ぐため、回路毎にフューズを設置しています。フューズは、モータールームのフューズボックスとインストルメントパネルのフューズボックスに格納されています。フューズボックスの中にはフューズのラベルが貼ってあり、ラベルでフューズと電気部品との関係を特定できます。

- モータールームのフューズボックスは、モータールームの左側後部にあります。開けるには、モータールームの化粧板を取り外して図のようにクリップを押すと、フューズボックスが開きます。



- 車内のインストルメントパネルのフューズボックスは、運転席側インストルメントパネルの下右側にあります。インストルメントパネル下側を取り外すと、フューズの点検ができます。

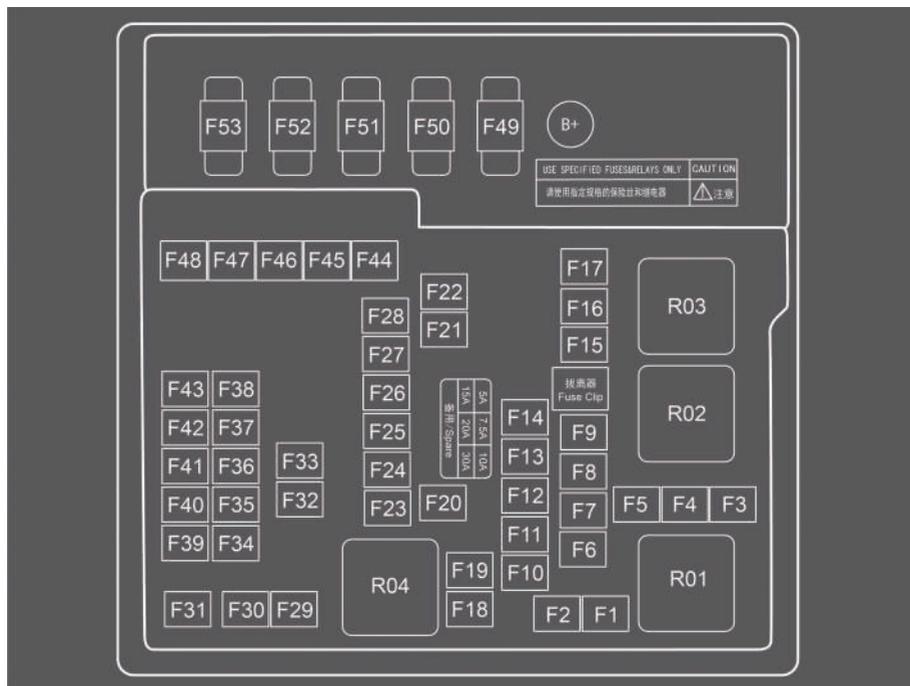


- アンペア数が高いフューズで、切れたフューズを入れ替える場合は、対象電気システムを破損させる可能性が極めて大きくなります。
- 回路に適合するアンペア数の代替フューズがない場合は、代替品としてアンペア数が比較的小さいフューズを使ってください。

i アドバイス

- 定格アンペア数より高いフューズを使わないでください。また、著しい破損を引き起こす、または火災を招くおそれがあるため、フューズの代わりに他のものを使わないでください。
- フューズが切れたら、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場点検や交換をしてください。

モータールームのフューズボックスラベル



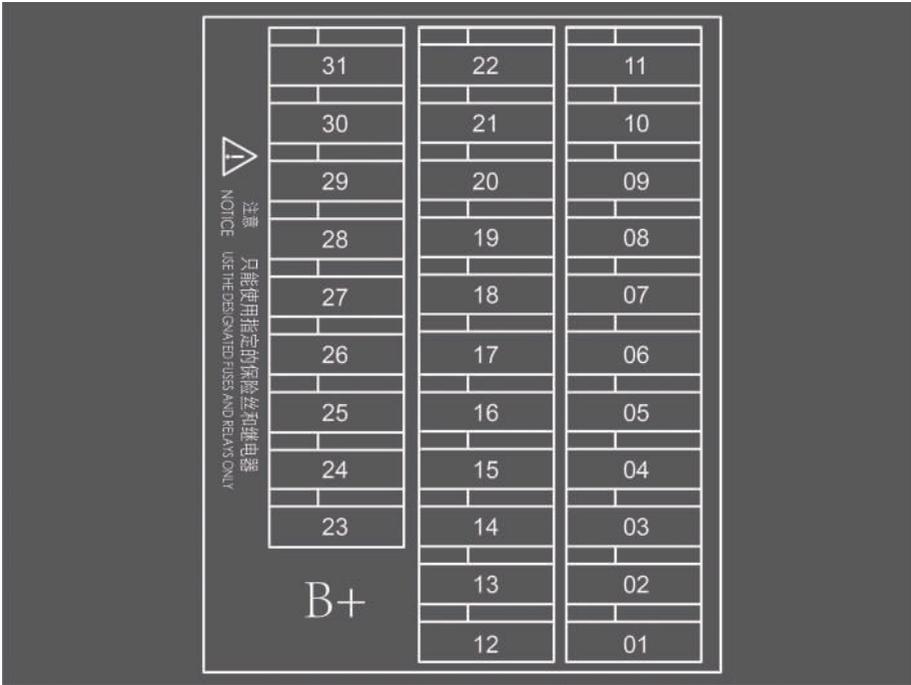
番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F1	60	PTC3
F2	-	-
F3	-	-
F4	-	-
F5	-	-
F6	-	-
F7	-	-
F8	-	-
F9	15	高電圧一体化
F10	15	左フロントコンビネーションランプ
F11	15	右フロントコンビネーションランプ
F12	7.5	コンプレッサー
F13	10	電子制御冷却水ポンプ
F14	10	モーターコントローラー
F15	7.5	サーマルマネジメント用統合モジュール
F16	60	PTC2

6

お手入れとメンテナンス

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
F17	-	-
F18	30	PTC1
F19	-	-
F20	7.5	右側デイトタイムランニングライト
F21	30	フロントワイパー
F22	30	リアデフロスター
F23	15	12V アクセサリー電源
F24	15	USB
F25	10	USB
F26	-	-
F27	15	12V アクセサリー電源
F28	15	USB
F29	-	-
F30	60	ESC
F31	20	トレーラー用電源
F32	-	-
F33	15	高電圧一体化
F34	15	ステアリングホイールヒーター
F35	5	リアボディーコントローラー
F36	5	コンビネーションメーター
F37	7.5	ETC
F38	10	SRS
F39	5	ADAS
F40	-	-
F41	5	EPS
F42	5	ESC
F43	-	-
F44	60	ESC
F45	40	ブローワー
F46	-	-
F47	-	-
F48	10	リアワイパー
F49	200	バッテリー
F50	70	CEPS
F51	-	-
F52	60	電子制御ファン
F53	-	-

インストルメントパネルのフューズボックスラベル



番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
01	30	汎用型コントローラー
02	30	トレーラー用電源
03	5	ブレーキランプスイッチ
04	10	診断用ポート
05	5	コンビネーションメーター
06	10	アルコールロック
07	5	シフトレバーパネル
08	20	マルチメディア
09	15	外付けアンプ
10	10	ADAS
11	7.5	コンビネーションスイッチ
12	30	リアボディーコントロールモジュール
13	30	リアボディーコントロールモジュール
14	10	CCS
15	20	左側フロントウィンドウ
16	20	右側フロントウィンドウ

6

お
手
入
れ
と
メ
ン
テ
ナ
ン
ス

番号	アンペア (A)	保護対象のユニットまたは回路
17	20	左側リアウィンドウ
18	20	右側リアウィンドウ
19	5	E-Call
20	7.5	ワイヤレス充電
21	30	左フロントパワーシート
22	30	右フロントパワーシート
23	-	-
24	-	-
25	-	-
26	-	-
27	-	-
28	-	-
29	-	-
30	-	-
31	-	-

アドバイス

- 車種仕様によっては、一部のフューズ（マルチメディア）のアンペア数が異なるため、修理や交換時は現物に準じてください。

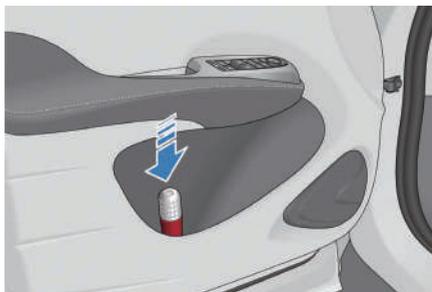
7-1 故障が発生したとき……	302
非常信号灯……………	302
反射ベスト……………	302
リモートキーのバッテリーが 切れたら……………	303
緊急時シャットダウン システム……………	304
車両火災の救助……………	305
バッテリーの液漏れが 発生したら……………	306
レッカー移動が必要なとき…	308
タイヤの空気漏れが 発生したら……………	311

非常信号灯

高速道路や踏切などで故障・事故により緊急停車したときに使用します。

使い方

1. 非常信号灯を助手席側ドアポケットのホルダーから取り出します。
2. 本体のスイッチを入れ、点滅を確認します。
3. 底部のマグネットで車体に設置して、後続車に危険を知らせます。



⚠ 注意

- 強い衝撃を与えないでください。
- 底部のマグネットで車体を傷付けないようご注意ください。
- 取り付けのまま走行せず、元の保管場所に戻してください。
- 非常時に使用できるように、動作確認を定期的に行ってください。

反射ベスト

反射ベストは車載工具に入っています。運転中に突発的な事故が発生し、事故の確認や対処のために降車する必要がある場合は、自分の命を守るために反射ベストを速やかに正しく着用してから降車し、故障の確認や対処をしてください。

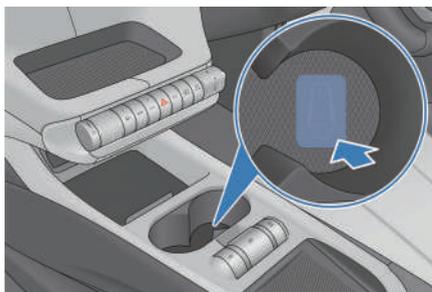
リモートキーのバッテリーが切れたら

リモートキー表示灯が点滅せず、「スタート/ストップ」ボタンを押しても車両が始動できない場合は、バッテリーが切れていることが考えられます。早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場でバッテリーを交換してください。このようなときは、電池レスモードで車両を始動することができます。

⚠ 注意

- 温度が高い場所にリモートキーを置かないでください。
- 固いものでリモートキーを叩いたり、投げたりしないでください。
- ラジオ局や変電所、航空無線発信機などから発生する磁界がリモートキーと干渉すると、電池レスモードでの車両始動時に影響を与えることがあります。
- イモビライザーが作動している状態で車両を使わない場合は、リモートキーを車両から遠ざけてください。車両がリモートキーに電波を自動的に送信し続けるため、起動バッテリーの電気エネルギーが消費されます。

1. メカニカルキーで解錠します。
2. リモートキーをセンターコンソールの無線マークに置きます。
3. ブレーキペダルを踏み込んでから「スタート/ストップ」ボタンを押し、車両を始動します。



緊急時シャットダウンシステム

- 次の条件を満たした場合、緊急時シャットダウンシステムが ON になり、高電圧システムが自動的に OFF になります。
 - 前方衝突後、エアバッグが作動しなかった。
 - 後方衝突。
 - 車両システム故障。
- 上記の衝突や車両システム故障が発生すると、走行可能表示灯（「OK」表示灯）が OFF になります。
- 上記の衝突で緊急時シャットダウンシステムが作動することにより、傷害または思わぬ事件の発生リスクを最小限に低減することができます。
- 一度、緊急時シャットダウンシステムが ON になると、システムは走行可能状態に戻りません。そのため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで救援を依頼してください。また、電源ポジションを「OK」にしても、システムが作動してすぐに OFF になるため、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

車両火災の救助

車両火災が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にし、車両から離れてください。
2. 火勢が弱い場合、身の安全を確保してから乾燥粉末消火器で鎮火し、すぐに119番に通報してください。
3. 火勢が強く勢いよく燃え広がる場合はただちに車両から遠く離れ、消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。

注意

- 車両を解体する場合は、絶縁手袋を着用してください。また、水での消化や消火器の使い方を誤ると、感電につながるおそれがあるため、指定された消火器で火を消してください。
- 特別な状況により、部品（内装部品、ガラス）などが飛ばされるおそれがある場合は、車両から離れてください。また、早めにBYD正規ディーラーまたはBYD指定サービス工場に現場対応を依頼してください。

バッテリーの液漏れが発生したら

衝突後にバッテリーの液漏れが発生し、車内に酸性の臭いがする、または酸性の液体が明らかに流出してバッテリーパック内部から煙が出ている場合は、以下の方法で車両を操作してください。

1. 電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば、起動バッテリー（12V）を切り離します。
2. ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、消防や救援者に対しては、パワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えて救援をお待ちください。

衝突事故が発生したら

衝突事故が発生した場合は、実際の状況に応じて以下の方法で車両を操作してください。

1. 車両の電源ポジションを「OFF」にします。可能であれば起動バッテリー（12V）を切り離します。
 2. ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡して、救援を要請してください。
 3. 状況に応じて、簡単な点検を行ってください。たとえば、パワーバッテリートレイの縁に割れがないか、明らかな液体の流出がないかなど。
- 高電圧部品の破損がすべて識別できるわけではないため、破損した部品やアクセサリ、他の金属品を部品に触れさせないでください。
 - 漏れた液体が身体に付着した場合は、ただちに大量の水で 10～15 分ほど洗い流してください。痛みを感じたときは、2.5% のグルコン酸カルシウムジェルを塗り付ける、または 2～2.5% のグルコン酸カルシウム溶液に浸けて痛みを止めます。効果がなく気分が悪いときは、すぐに医師の手当てを受けてください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルや他の高電圧部品に対して勝手に作業をしないでください。高電圧システム作業の資格を取得している BYD 指定サービス工場、高電圧システムに対する作業を依頼してください。
 - 絶対にオレンジ色の高電圧ケーブルの破損、変更、取り外し、または高電圧配線網から切り離さないでください。
 - 消防や救援者に対してパワーバッテリーパックが搭載されていることを伝えてください。

⚠ 警告

- 漏れ出した液体には触らず、液漏れした場所やパワーバッテリーから遠く離れてください。
- 漏れ出した液体を水や土壌などへみだりに流さないでください。
- 本車のシステムは高電圧の直流電源を使用します。車両を始動する前後および電源ポジションを「OFF」にすると、システムには大量の熱が発生するため、高電圧や高温に注意してください。
- 高電圧のバッテリー部品および接続ケーブルに対して、解体や移設、変更をしないでください。コネクタによっては、重度の火傷や感電が発生して怪我や死亡につながるおそれがあります。また、オレンジ色の接続ケーブルである高電圧ワイヤーハーネスを自ら修理しないでください。修理が必要なときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。
- リモートキーや高電圧部品は、身体に医療機器が付いている方に影響を与えるため、傷害を負わせるおそれがあります。
- 高電圧部品および高電圧ケーブルが露出しているときは絶対に触れないでください。
- 走行中に床下に強い衝撃を受けたときは、安全な場所に停車し、損傷がないか点検してください。床下に損傷が見られる場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 事故により車両が損傷した場合は、車両から離れて BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 事故により車両が損傷し、板金・塗装による修理が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

レッカー移動が必要なとき

レッカー車でけん引して移動する必要がある場合は、BYD 指定サービス工場またはけん引サービス専門業者、もしくはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。

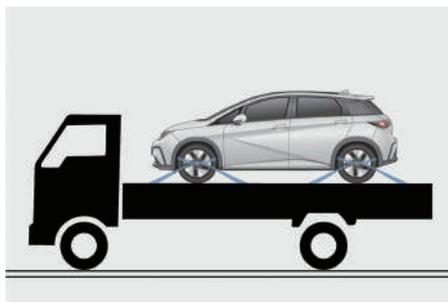
警告

■ ロープやチェーンだけでのけん引はしないでください。

おすすめのけん引方法：

■ 積載車

- 車両故障で救援が必要な場合は、積載車を利用してください。片側の前輪または後輪が路面に付いている状態で移動すると、回転により高電圧部品が破損するおそれがあるため、移動するときは4輪とも地面から離してください。



注意

- 積載車で移動する場合は、車両が後退しないようにしっかりと固定してください。
- 専門のタイヤ結束バンドと締め具の使用を推奨します。また、移動対象となる車を固定するには、ストレート結束方法を使用することをおすすめします。
- 車両の損傷を避けるため、車両を固定する場合は、結束バンドやロープなどの固定具を車輪に通したり、シャーシやサスペンションなどの車体に結びつけたりしないでください。
- 車両の損傷を避けるため、車両を移動する場合は、対象車両の車輪が回転しないようにしてください。

けん引フック

車両のけん引フックカバーの取り付け位置は、図のようにフロントグリルの右上にあります。

1. けん引フック差し込み口の蓋を押し開けます。
2. けん引フックを差し込み口に取り付けます。



- 救援が必要な場合は、救援サービス専門業者に連絡する、またはカスタマーサービスホットラインに電話してください。
- 緊急時にレッカー移動が必要な場合は、車両の破損や怪我を防止するため、次の注意事項を遵守してください。
 - レッカー移動時は急発進しないでください。
 - レッカー移動する車両は、ドライバー以外乗車しないでください。
 - レッカー車とレッカー移動する車両は、ハザードランプを点けてください。
 - 車両が破損するおそれがあるため、車載工具に入っているけん引フックを使用してください。
 - レッカー車とレッカー移動する車両の距離は 4m 以上 10m 未満にしてください。
 - レッカー移動する車両の幅および重量は、レッカー車の幅および重量を超えないようにしてください。
 - レッカー移動する場合は、周囲が広くて障害物がなく、けん引装置の近くに人がいないことを確認してください。
 - スタックから脱出する場合は、車両の進行方向とけん引力の掛かる方向が合うように制御してください。側面や垂直方向からはけん引しないでください。
 - レッカー移動する車両のドライバーは、車両に乗車してステアリングシステムとブレーキシステムが正常な状態になるよう制御してください。

⚠ 警告

- 乗り上げなどのスタックの場合は、けん引フックを使用して脱出しないでください。このようなときは、救援サービス専門業者に連絡する、またはカスタマーサービスホットラインに電話してください。
- レッカー移動する車両のステアリングシステム、またはブレーキシステムが機能しない場合は、レッカー移動を直接行わずに救援サービス専門業者に連絡する、またはカスタマーサービスホットラインに電話してください。

i アドバイス

- けん引フックを使用した車両の搬送はおすすめしません。可能な限り、けん引サービス専門業者、またはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、車載工具に入っているけん引フックのみ使用してください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、4輪接地で後部からけん引しないでください。

タイヤの空気漏れが発生したら

1. 直線走行を保ちながらゆっくりと速度を落とし、交通量の多い場所を離れて安全な場所に移動します。
2. 高速道路の中央分離帯などは避け、堅固で平坦な地面に駐車します。
3. 電動パーキングブレーキスイッチを引き、「P」レンジにします。
4. 車両の電源ポジションを「OFF」にしてハザードランプを点滅させます。
5. 乗員全員が車両から降りて、ガードレール外などの安全な場所に避難します。
6. 自然発車を防ぐために車両を確実に固定します。空気漏れしているタイヤの対角線上にあるタイヤに輪留めを設置してください。



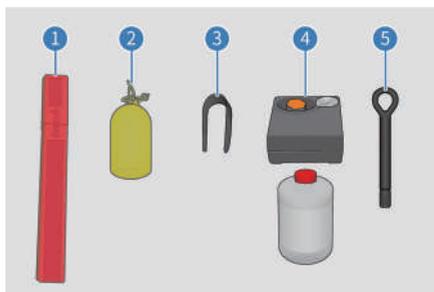
⚠ 注意

- タイヤから空気が漏れている状態で運転を続けしないでください。短距離走行でも、修復できないほどタイヤが破損するおそれがあります。

車載工具*

車載工具*は、三角表示板、反射ベスト、ホイールナットキャップ取り外しクリップ、パンク修理剤、けん引フックなどがあります。反射ベストはトランクルームのポケットに入っています。その他の車載工具は、テールゲート下の工具箱にあります。

- ① 三角表示板
- ② 反射ベスト
- ③ ホイールナットキャップの取り外しクリップ
- ④ タイヤ補修キット
- ⑤ けん引フック



三角表示板の設置

📌 アドバイス

- 故障や電気でやむなく道路上に駐停車する場合は、後方車両に危険を知らせるため、三角表示板の赤い反射部を後方車両進行方向に向け、車両後部から 50m 以上離れた場所に設置してください。移動の準備ができたなら、三角表示板を回収してください。
- 故障で緊急停車する場合は、車載工具に入っている反射ベストを早めに着用してください。

三角表示板は後方から近づく車両に危険を知らせることで、早めに速度を落とさなかったことで停止中や修理中の車両に衝突することを避けるためのものです。

三角表示板の使い方：

1. ケースから三角表示板を取り出します。
2. 正三角形となるように三角表示板を組み立てます。
3. 三角表示板の足を広げ、設置後の状態にします (図を参照)。



パンク修理剤

- パンク修理剤は、小さいパンク穴、特にトレッドパターン内の穴を塞ぐことができます。パンク修理剤での補修は、最寄りのサービス工場まで自走できるようにするための応急処置にすぎません。タイヤから空気が漏れていないとしても、緊急時の短距離走行にしか対応できません。

⚠ 警告

- パンク修理剤は、トレッドパターン内に開いた直径 6mm までの穴を補修することができます。直径が 6mm より大きい穴、またはタイヤの他の位置に開いた穴は、パンク修理剤を使わずにロードサービスを依頼してください。
- パンク修理剤は引火性が高く健康に影響を与えるため、蒸気を吸い込まないでください。また、修理中は裸火の使用や喫煙を禁止し、皮膚や服、目に付着することを避けてください。保管時は、お子様の手が届かないところに保管してください。

パンク修理剤に触れた場合

- パンク修理剤が皮膚や目に付着したときは、ただちに大量の水で付着部位を洗い流してください。
- ただちに汚れた服を脱いでください。
- アレルギー症状が出たときは、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤ってパンク修理剤を飲み込んだときは、ただちにうがいで口の中をきれいに洗い、大量の水を飲んでください。その後、吐かせずに速やかに医師の手当てを受けてください。

パンク修理剤の使い方について

- パンク修理剤の詳しい使用方法については、コンプレッサーおよびパンク修理剤容器の本体に貼り付けてあるラベルの記載を参照してください。
- コンプレッサーに電源を接続する必要がある場合は、車内の 12V ソケットに電源プラグを挿し込み、車両を始動してコンプレッサーのスイッチを ON にします。コンプレッサーのホースを通して空気と共にパンク修理剤をタイヤ内に注入します。

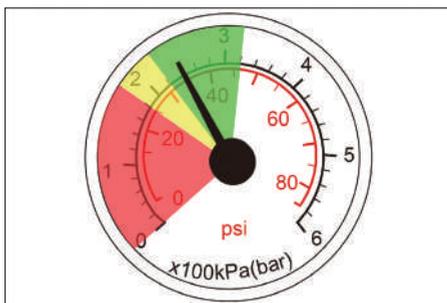
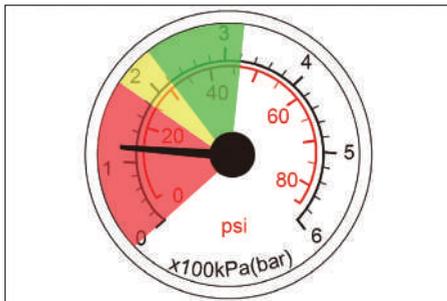
① アドバイス

- 電源プラグを車内の 12V ソケットに挿し込む場合は、コンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。
- コンプレッサーは、最大 10 分まで稼働することができます。

- コンプレッサーに付属している空気圧計を使用し、空気圧を確認します。

- タイヤ空気圧が 10 分以内に 180kPa にならない場合（図中の赤色のエリア）は、コンプレッサーを OFF にして BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- タイヤ空気圧が 180 ~ 320kPa の範囲内にある場合（図中の緑色エリアと黄色のエリア）は、できるだけ早くパンク修理剤を取り外し、1 分以内に 80km/h 以下の速度で最大 10km まで走行して、タイヤ全体にパンク修理剤を広げてください。



- 車両を止めて、コンプレッサーの空気圧計を再度確認します。

- タイヤ空気圧が 220kPa を超えている場合は、80km/h 以下の速度で最寄りのサービス工場へお越しください。
- タイヤ空気圧が 130 ~ 220kPa の範囲内にある場合は、パンク修理剤を注入して空気圧計を確認する作業を繰り返してください。
- タイヤ空気圧が 130kPa にならない場合は、BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- パンク修理剤の使い方の詳細については、コンプレッサーおよびパンク修理剤容器の本体に貼り付いているラベルの記載を参照してください。

i アドバイス

- パンク修理剤で破損したタイヤを補修するのは応急処置のみです。可能な限りお早めに専門のサービス工場でタイヤを交換し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。その際、タイヤの中にパンク修理剤が入っていることを整備士に伝えてください。
- タイヤパンク修理剤で補修した場合は、急発進や高速でカーブを曲がらないでください。
- 80km/h の最高制限速度を守ってください。走行中に激しい振動や走行性能が不安定になったり騒音が聞こえたりした場合は、運転を止めてください。
- パンク修理剤の有効期限が切れた場合は（有効期限はパンク修理剤の容器に付いているラベルを参照）、新品のパンク修理剤に入れ替えてください。
- パンク修理剤を使用した後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場での新品のパンク修理剤を購入してください。

8-1 データ情報	318
車両諸元.....	318
8-2 指示メッセージ	322
車両の表示.....	322
警告ラベル.....	324
マイクロ波通信用 ウィンドウ.....	326
8-3 適合宣言書	327
リモートキー.....	327
8-4 BYD 先進運転支援 システムについて	328
BYD 先進運転支援システムを 安全にお使い頂く上での 重要事項確認書.....	328

車両諸元

車両寸法

項目	パラメータ
全長 (mm)	4290
全幅 (mm) (ドアミラーを含まない)	1770
全高 (mm)	1550
ホイールベース (mm)	2700
フロントトレッド (mm)	1530
リアトレッド (mm)	1530
フロントオーバーハング (mm)	830
リアオーバーハング (mm)	760
アプローチアングル (°)	16
デパーチャーアングル (°)	23

車両重量

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
車両重量 (kg)	1506	1658
前軸荷重 (kg)	855	894
後軸荷重 (kg)	651	764
車両総重量 (kg)	1916	2068
車両総重量前軸荷重 (kg)	977	1021
車両総重量後軸荷重 (kg)	939	1047
乗車定員 (人)	5	

駆動モーターの諸元

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
型式	TZ180XSF	TZ200XSQ
種類	永久磁石同期モーター	
駆動方式	二輪駆動	
定格出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/N・m)	35/4775/70	65/4433/140
最高出力 / 回転数 / トルク (kW/rpm/N・m)	70/15000/180	150/16000/310

車両の経済性および動力性能データ

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
環境条件での 100km 毎の電気 使用量 (kW・h/100km)	12.9 (WLTC モード)	13.8 (WLTC モード)
最高設計速度 (km/h)	150	160
最大登坂角度 (%)	30	

 **注意**

消費電力量の実績は、車の状況、道路条件、運転習慣などにかかっています。

ホイールとタイヤの諸元

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
タイヤの呼び	205/55R16	
タイヤ空気圧 (kPa)	250	
ホイールバランス (g)	≤ 10	

ホイールアライメント調整値 (車両重量時)

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
フロントタイヤキャンバー角 (°)	-0.82 ± 0.75	
フロントタイヤトーイン (mm)	1.3 ± 1.82	
キングピン角 (°)	11.3 ± 0.75	
カスター角 (°)	3.16 ± 0.75	
リアタイヤキャンバー角 (°)	-1.38 ± 0.5 (トーションビーム式)	-1.07 ± 0.5 (4 リンク式)
リアタイヤトーイン (mm)	1.1 ± 3 (トーションビーム式)	1.56 ± 3.56 (4 リンク式)

ブレーキシステム技術諸元

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
ブレーキペダルの遊び (mm)	1 ~ 5	
フロントディスクローターの厚み (mm)	23 ~ 25	
リアディスクローターの厚み (mm)	9 ~ 11 (トーションビーム式)	10 ~ 12 (4 リンク式)
フロントディスクパッドの厚み (mm)	2.5 ~ 8	
リアディスクパッドの厚み (mm)	2 ~ 6.5	

パワーバッテリー諸元

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
パワーバッテリータイプ	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー	
パワーバッテリー定格容量 (Ah)	135	150

シート諸元

シート	項目	パラメータ
フロントシート	(シートクッション座面の深さを測定時) シートの前後位置	レールストロークの末端位置から先へ 70mm
	(シートクッション座面の深さを測定時) シートバックの角度位置	25°
	シートバックの通常使用状態	前方へ 24°、後方へ 50°、スライドレールが前方へ 190mm、後方へ 70mm、レール角度 4.5°
リアシート	(シートクッション座面の深さを測定時) シートの前後位置	スライドレールなし
	(シートクッション座面の深さを測定時) シートバックの角度位置	27°
	シートバックの通常使用状態	リアシートバック 27°、固定、調整不可

油脂類諸元

項目	パラメータ	
	仕様 1	仕様 2
製品型番		
トランスミッション オイルの型番	Castrol BOT384	
トランスミッション オイルの注入量 (mL)	450 ± 50	600 ± 50
ブレーキフルードの 型番と規格	Brake Fluid_Class6-T (HZY 6)、BASF HYDRAULAN®404 (DOT 4)	
ブレーキフルード 注入量 (mL)	1100 ± 100	
モーター冷却水の規格	エチレングリコール系有機酸冷却液：不凍液 - 氷点 -40℃	
モーター冷却水の 注入量 (L)	3.1 ± 0.2	3.3 ± 0.2
エアコン冷媒	R1234yf	
エアコン冷媒注入量 (g)	1000 ± 20	

 注意

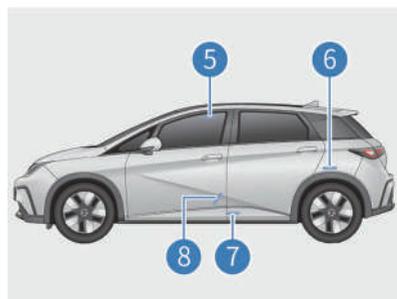
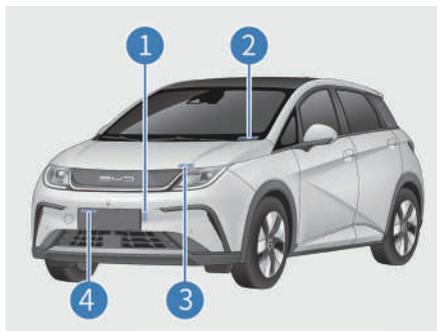
- 推奨されるオイルのタイプは BYD によってテストされ、認定されています。これ以外のタイプのオイルを使用すると、車両の性能に影響を与えたり、車両の故障や部品の破損につながる可能性があります。

車両の表示

車両識別番号 (VIN コード)

VIN コードの貼り付け位置：

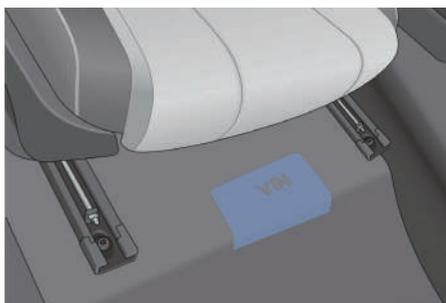
- ① トランスミッションの本体に貼ってあります。
- ② フロントガラスのクロスシル、アップパーパネルのVINコード溝に貼ってあります。
- ③ ボンネット内の板金表面に貼ってあります。
- ④ フロントクロスメンバー上側端部の板金表面に貼ってあります。
- ⑤ テールゲートの上の中央板金面に貼ってあります。
- ⑥ 左リアタイヤのフェンダー表面に貼ってあります。
- ⑦ 左リアドアのサイドシル内側板金の表面に貼ってあります。
- ⑧ 左フロントドア左下のドア内側に貼ってあります。



VIN コードの刻印位置：

VIN コードは運転席側シート下のクロスメンバーに刻印されています。

車両 VDS の接続を通じて車種を選定してから、右上で車両識別番号 (VIN) を読み出します。詳細は VDS 取扱説明書を参照してください。



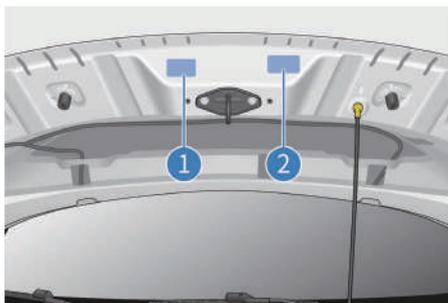
駆動モーターの型式および番号

- 1 駆動モーターの型式および番号は、駆動モーターケースに刻印されています。



警告ラベル

- ① 空調システム、冷却ファンラベル
- ② バッテリー搭載位置ラベル



サイドエアバッグ警告ラベルは、左右 B ピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



エアバッグ警告ラベルは、助手席側サンバイザーに表示しています。



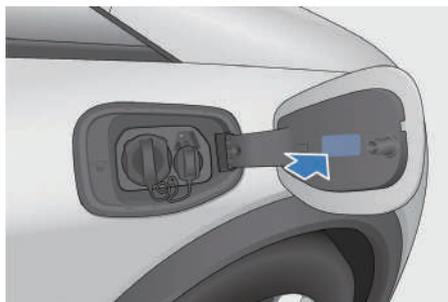
⚠ 警告

- 絶対に前側にエアバッグが装備されているシートで後向きにチャイルドシートを使わないでください。お子様の死亡や重傷につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧ラベルは右側 B ピラーのドアロックストライカーの下側に貼ってあります。



充電コネクタの警告ラベルは、充電ポートフラップ裏側の表面に貼ってあります。



チャイルドロックのマークは、左右リアドア板金の表面に刻印してあります。



マイクロ波通信用ウィンドウ

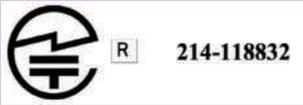
マイクロ波通信用ウィンドウは、ウィンドウガラスの左上にあります。



⚠ 注意

- 車検検査標章を貼り付ける場合は、ガラスのプリント部や他の物体に重ならないようにしてください。

リモートキー

	ウズベキスタン 型番：D0-92
	EU 諸国 型番：D0-92
	ブラジル 型番：D0-92 本デバイスは、有害な妨害から保護する対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。
FCC ID : 2A5DH-DAEA-92	アメリカ 型番：D0-315
	日本 型番：D0-315

BYD 先進運転支援システムを安全にお使い頂く上での重要事項確認書

先進運転支援システムを正しくご理解いただき、安全にお使いいただくための重要事項についてご説明いたします。

ご使用になる際のお客様へのお願い

- 運転者には安全運転の義務があります。運転者は各システムを過信せず、常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ご自身の操作で安全を確保してください。
- 各システムに頼ったり、安全を委ねたりする運転をすると思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 車両姿勢が変化する架装・改造や、各種のカメラ・センサーを遮るような架装・改造を行うと、各機能が正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ご使用前には、あらかじめ各システムの特徴や操作方法、動作条件などを必ずご確認ください。

先進運転支援各システム共通

- 各システムは、運転者の安全運転を前提とし、衝突回避の支援、あるいは衝突被害の軽減を目的としています。その効果はさまざまな環境条件により変わります。そのため、常に同じ性能が発揮できるものではありません。また、各機能には限界がありますので、システムを過信せず、安全運転を心がけてください。
- 天候状況・道路状況・周辺環境・検知対象物の状態などによっては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動すること、あるいは衝突の可能性があってもシステムが作動しない、または作動状態が意図しないタイミングにて終了することがあります。
- フロントガラス、フロントバンパー、リアバンパー、ドアミラーに設置したカメラやセンサーで対象物を検知しています。センサー周辺は常に汚れがないように保ってください。センサー周辺が傷ついたり、汚れ・水滴・油膜・ステッカー・異物などが付着したりしている、またはそれらの除去が不十分な場合、対象物を検知できない・誤検知する場合があります。
- 故意に車や壁などに向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

アダプティブクルーズコントロールシステム / 予測緊急ブレーキシステム / レーンサポートシステム / ナビゲーションパイロット

- 自動運転システムではありません。運転者は常にハンドルを把持し、道路交通法に基づいて適切な運転操作をしてください。
- 対象物（レーダー波を反射しにくい形状の車両など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い・起伏が激しいなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。また、前方車が急ブレーキをかけたときや、他車が割り込んだときなどは十分な減速ができず、前方車に接近するなどして思わぬ事故につながるおそれがあります。常に前方車や後続車との車間距離を確認し、必要に応じてブレーキやアクセルを操作してください。
- 高速道路や自動車専用道路以外の一般道での使用はお控えください。急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路、頻繁に加減速を繰り返すような道路で使用すると意図しない挙動や事故につながるおそれがあるためお控えください。
- ACCの初期設定速度は30km/hになっています。初期設定のまま走行中にRES + ボタンを押すと30km/hに急減速します。ACCを使用する場合は、SET - ボタンで速度設定を行ってください。

アダプティブクルーズコントロールシステム / 予測緊急ブレーキシステム / リアクロストラフィックブレーキ

- あくまで衝突時の被害を軽減するシステムです。日常のブレーキ操作の代わりには絶対にしないでください。
- 対象物（レーダー波を反射しにくい形状の車両など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い・起伏が激しいなど）などの条件によっては適切に作動しない場合があります。常に前方車や後続車との車間距離を確認し、必要に応じてブレーキを操作してください。
- 運転者がアクセルやハンドルを強く操作した場合は、運転者の意思による回避操作と判断され、システムが作動しない場合があります。
- 隣接車線の走行車両や道路状況（マンホールカバー、鉄板や道路標識など）、周辺環境などにより、衝突の可能性がなくてもシステムが作動することがあります。

交通標識認識システム

- 交通標識認識システムは、安全運転を支援するシステムです。走行中はドライバーの責任で実際の標識を確認してください。
- 認識機能には限界があり、状況によっては交通標識を認識できなかったり、実際とは異なる標識を表示したりする場合があります。

レーンサポートシステム / ナビゲーションパイロット / 緊急時車線維持支援

- 自動運転システムではありません。常にハンドル操作で進路を修正してください。
- 天候状況（雨・雪・霧など）・道路状況（急カーブ・車線幅が極端に狭い・車線の白線（黄線）が見えにくいなど）の条件によっては、適切に作動しない場合があります。
- 対象物が見えにくいとき（縁石が低い、路内と路外に明暗さが無い、前方車で隠れるなど）、対象物と紛らわしい線が見えるとき（道路補修の消し残り線、影、残雪、水の溜まったわだちなど）には、レーンサポート機能が正常に作動しないことがあります。

ブラインドスポットインフォメーション

- 天候状況（雨・雪・霧など）、接近車両の状況（接近してこない・並走しているなど）、道路状況（車線幅が極端に広い / 狭いなど）、隣接する壁や駐車車両の状況などの条件によっては適切に作動しない場合があります。必ず、周辺の安全をミラーや目視で直接確認してください。
- レーダーセンサー（バンパーコーナー部など）付近に氷や雪などが多量に付着したときは、システムの作動を停止することがあります。氷、雪や泥が付着しているときにはこれらを取り除いてください。
- 本車はトレーラーをけん引する設計がされていません。トレーラーをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着した場合には、レーダーの電波が遮られるためシステムが正常に作動しない場合があります。

BYD アラウンドビューシステム / 駐車支援システム

■ カメラの撮影範囲やセンサーの検出範囲には限界があります。また、モニターの映し出す映像は、実際の状況と異なることがあります。必ず、周辺の安全をミラーや目視で直接確認してください。

ハイビームアシストシステム

■ 周囲に光源があるとき（街灯・信号機など）、天候状況（雨・雪・霧など）、道路状況（カーブが多い・起伏が激しいなど）、パンクなどによりタイヤの空気圧が低下して傾いている場合などの条件によっては適切に作動しない場合があります。状況に応じて手動でライトを操作してください。

自動緊急通報システム E-Call

■ 事故自動緊急通報装置は、標準装備ではなくオプション扱いの場合があります。仕様の確認をしてください。

■ 携帯電話用の通信設備を利用するため、電波の届く範囲で利用できます。そのため、事故発生場所によっては自動通報されないことがあります。

■ 軽微な衝突事故では、自動緊急通報システム E-Call が自動的に開始されない場合があります。

車両データ取扱いに関する確認

■ BYD Auto Japan 株式会社（以下「BYD」といいます。）およびBYDの委託先は、イベントデータレコーダー、車両データ、ドライブレコーダーの画像などを記録したデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。なお、取得するデータは、次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リースは貸借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力がある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなどの使用者や車両が特定されないように加工されたデータを研究機関などに適用する場合

- 当社が収集した個人データは原則として日本国内に保存いたします。なお、シンガポールの通信キャリア Singtel の通信サービス及び AWS のクラウドサービスを受ける場合は、日本またはシンガポールにデータが保管されます。お客様の同意を得た場合に限り、個人データを当社に送信頂くことにより、お客様の情報を日本以外の国の BYD に転送することに同意するものとします。BYD は、その所在地を問わず、各国間の個人データの転送に適用される法律を遵守いたします。ご不明な点は弊社プライバシーポリシーをご確認頂きますようお願いいたします。

免責事項

運転者が本書面記載の遵守事項を遵守せずに生命、身体、財産に対する損害を被った又は第三者に損害を与えた場合のほか、運転者が道路交通法等の各種法規に定められる義務を怠ったことを主たる原因とする損害については、BYD はそれらの損害を賠償する義務を含むあらゆる責任を負いません。

数字

12V アクセサリー電源254

A

AC 充電スタンドでの充電122

B

Bluetooth 電話234

BYD APP について243

BYD アラウンドビューシステム207

BYD インテリジェント

音声制御機能233

D

DC 急速充電123

E

EPB 解除に失敗したとき161

EPB 作動音162

EPB システム表示灯162

N

NFC カードキー 67

NFC カードでの施錠 / 解錠 72

O

OTA アップグレード232

S

SD カードスロット253

U

USB ポート252

かな

あ

アカウント登録243

アシストグリップ251

アダプティブクルーズコントロール
(ACC) システム168

アダプティブクルーズコントロール
システムの作動条件169

安全運転支援システム214

安全運転上のご注意141

アンチロックブレーキシステム
(ABS)219

い

一般充電故障の診断116

イモビライザー 41

飲酒運転厳禁141

インストールメントパネル

センターボックス246

インストールメントパネルの

フューズボックスラベル299

インテリジェントスピード

リミットコントロール (ISLC)188

インテリジェントハイビーム

(IHBC)190

インテリジェントパワーブレーキ
システム214

う

ウィンドウロックキー 99

ウォッシュャ287

運転席および助手席エアバッグ 24

運転前の準備について155

運転前の点検154

運転要領166

え

エアコン操作画面237
 エアコンパネル236
 エアコンパネル、カーオーディオ、
 インstrumentパネル、
 コントロールパネルとスイッチ275
 エアバッグが作動しないとき 29
 エアバッグが作動するとき 28
 エアバッグ作動条件 28
 エアバッグについて 22
 エアバッグの作動条件および
 注意事項 28

お

オートビークルホールド (AVH)163
 オートビークルホールド (AVH) 機能の
 作動に必要な条件165
 オートビークルホールド (AVH) 機能の
 待機に必要な条件165

か

カーペット 258,274
 外部給電方法 130,132
 火災の予防148
 カップホルダー248
 家庭用 AC 普通充電117
 可倒式ドアミラー222
 ガラスを割る方法について259
 冠水路の走行146

き

キー 64
 起動バッテリー (12V)137
 起動バッテリーの電圧不足時の
 スリープ解除機能138
 機能定義238
 機能ボタンの操作199

機能を ON にする場合 75
 客室に荷物を積み込む場合144
 距離表示ブザー210
 緊急時車線維持支援 (ELKA)196
 緊急時シャットダウンシステム304
 緊急脱出ハンマー259
 緊急脱出ハンマーの使い方について260

く

空気を入れる291
 空調システム288
 駆動モーターの型式および番号323
 車の運転154
 車の始動152
 車の第三者への譲渡、および
 オフラインモード 46
 車を始動する場合 75
 グローブボックス246

け

警告灯 / 表示灯について 52
 警告ラベル324
 けん引フック309

こ

交通標識認識システム (TSR)186
 後方レーダーの電源スイッチ209
 交流充電ポートの非常解錠129
 ご注意 172,177,181,184,187
 189,191,194,197
 個別センターおよび車両管理244
 ご利用要領241
 コンビネーションメーターイメーじ 50
 コンビネーションランプ280

さ

サイドカーテンエアバッグ	27
作動状況説明	168,175,190
作動するセンサーおよび その検知範囲	211
サングラスホルダー	249
サンシェードスイッチ	107
サンバイザー	250
サンルーフのメンテナンス	281

し

シートサイドエアバッグ	25
シートについて	78
シートバックポケット	249
シートベルトについて	16
シートベルトの緊急ロック機能	17
シートベルトの清掃	274
シートベルトのプリテンショナー / ロードリミット機能	17
シートベルトリマインダー	20
シートベルトを着用するとき	18
ジェスチャーおよび応答	231
システムの限界	171,180,193 196,200
システムの応答方法	202
自動緊急通報システム E-Call	105
自動緊急ブレーキの作動条件	180
自動洗車をするとき	273
自動で EPB が掛かる	158
シフト機構	156
車載工具	312
車線逸脱警告 (LDW)	192
車線逸脱防止 (LDP)	192
車内からのテールゲートの 緊急時解錠	73
車内の人工皮革部分	276
車内の清掃	274

車両火災の救助	305
車両識別番号 (VIN コード)	322
車両状態および車両制御システム	244
車両諸元	318
車両接近通報装置 (AVAS)	206
車両データの処理	44
車両の表示	322
車両の防食について	270
車両の保管	282
車両メンテナンス計画	262
車両を安全運転可能な状態に保つ	141
集中ドアロック	100
集中ドアロックの施錠 / 解錠	73
充電上のご注意	113
充電方法	117
充電ポート盗難防止ロック機能	128
充電予約	126
充電について	111
手動で EPB を解除する	159
手動で EPB を掛ける	158
手動防眩機能	221
衝突事故が発生したら	306
衝突予測警告 (PCW) および 自動緊急ブレーキ (AEB)	179
衝突予測警告の作動条件	179
初期化方法	107
助手席側ウィンドウスイッチ	100
助手席側エアバッグスイッチ	103

す

ステアリングホイール コンビネーションスイッチ	84
ステアリングホイールの調節	89
スマートエントリー & スタートシステム	75
スマート充電機能	125

せ

セキュリティ表示灯 42
 セルフメンテナンス277
 セルフメンテナンス上のご注意277
 センサータイプ210
 洗車272
 センターコンソールボックス247

そ

走行距離切替スイッチ100
 速度の抑制141

た

タイヤ291
 タイヤ空気圧モニタリング204
 タイヤチェーン225
 タイヤとホイールの交換295
 タイヤの空気漏れが発生したら311
 タイヤの点検292
 タイヤローテーション294

ち

チャイルドロック 77
 駐車券収納ボックス245
 駐車支援システム209
 直接式タイヤ空気圧モニタリング204

つ

使い方 ... 169,176,179,184,186,188
 190,193,196,201,202,206

て

手洗い洗車をするとき272
 定期メンテナンス269
 データの収集および処理 43

電気の省エネで車を
 長持ちさせる方法について150
 点検279
 電動ドアミラー222
 電動パーキングブレーキ (EPB)158
 電動パーキングブレーキスイッチ158

と

ドアおよびウィンドウガラス275
 ドアの施錠 / 解錠 68
 ドアポケット245
 ドアミラー調整222
 冬期の運転について167
 当局への個人情報開示 46
 塗装メンテナンスのお願い271
 ドライバー眠気注意力警告
 (DAW)201
 トランクルームに
 荷物を積み込む場合145
 トレーラーのけん引140

な

ナビゲーションバー231
 ナビゲーションパイロット (ICC)175
 ナビゲーションパイロットの
 作動条件176
 慣らし運転期間140

に

荷物の積み込み144

の

ノブ操作でドアを開けるとき 68

は

ハザードランプスイッチ	106
発車時に自動的に EPB を解除する	160
バッテリー特性	133
バッテリーの液漏れが発生したら	306
バッテリーの使い方について	134
パワーウィンドウスイッチ	97
パワーステアリングモードの設定	89
パワーバッテリー	133
パワーバッテリーの回収	136
パンク修理剤	313
反射ベスト	302

ひ

ヒーターシステム	81
非常信号灯	302

ふ

ファイル管理	235
吹き出し口	242
フック	258
フットブレーキが利かない場合の 緊急ブレーキ機能	161
フューズ	296
ブラインドスポットアシストシステム (BSA)	198
ブレーキシステム	286
フロントカップホルダー	248
フロントクロスストラフィックアラート (FCTA) およびフロントクロス トラフィックオートブレーキ (FCTB)	184
フロントシートの調節	80
フロントワイパーとウォッシャー	95

へ

ペダル踏み間違い時加速抑制装置	213
ヘッドライトの高さ調節	94
ヘッドレスト	83
ヘッドレストの調節	83

ほ

ボンネット	283
ボンネットの開け方	283
ボンネットの閉め方	283

ま

マイクロスイッチ操作での 施錠 / 解錠	70
マイクロスイッチ操作での テールゲート解錠	71
マイクロ波通信用ウィンドウ	326
マルチメディアコントロールパネル PAD	229

め

メーターのその他故障について	61
メーター表示灯	51
メカニカルキー	66
メカニカルキーでの施錠 / 解錠	68
メカニカルキーでの全ドア緊急施錠	74
メンテナンス	293
メンテナンス計画について	262
メンテナンス細則	290
メンテナンス周期および メンテナンス内容	262
メンテナンス周期表	263

も

モータールームの
 フューズボックスラベル ……………297
 モードスイッチユニット ……………101

ゆ

ユーザーのデータ保護の権利 ……… 47

よ

幼児置き去り検知 (CPD) ……………202
 幼児用補助装置アンカー …………… 35
 幼児用補助装置 (チャイルドシート) … 34
 幼児用補助装置の取り付けについて … 38

ら

ライトスイッチ …………… 90

り

リアカップホルダー ……………248
 リアシートの収納 …………… 82
 リアシェルフ ……………257
 リモートキー …………… 64,327
 リモートキー操作での施錠 / 解錠 … 69
 リモートキーの
 バッテリーが切れたら ……………303
 リモートスタート機能 ……………153
 利用時についてのアドバイス ………142

る

ルームミラー ……………221
 ルームミラーの手動調節 ……………221
 ルームランプスイッチ ……………108

れ

冷却システム ……………285
 レーンサポートシステム (LDA) ……192
 レッカー移動が必要なとき ………308

わ

ワイパー ……………223
 ワイパースイッチ …………… 95
 ワイパーブレード ……………289
 ワイヤレス充電エリア ……………255

略語			
略語	名称	略語	名称
ECO	エコモード	NORMAL	ノーマルモード
SPORT	スポーツモード	AVH	オートビークルホールド
ACC	アダプティブクルーズ コントロール*	PCW	衝突予測警告
AEB	自動緊急ブレーキ	AVAS	車両接近通報装置
ABS	アンチロック ブレーキシステム	ESC	横滑り防止装置
VDC	ビークルダイナミクス コントロール	TCS	トラクション コントロールシステム
HHC	ヒルスタートホールド コントロール	HBA	ハイドロリック ブレーキアシスト
CDP	減速度制御	TPMS	タイヤ空気圧 モニタリングシステム
ECU	エレクトロニック コントロールユニット	VIN	車両識別番号

